舘矢間小学校体育館長寿命化工事

図面リスト							
図面番号	意匠図	図面番号	意匠図	図面番号	電気設備図	図面番号	機械設備図
A － 1	建築改修工事特記仕様書1	A － 24	【既存・改修】建具表1	E － 1	電気設備改修工事特記仕様書	M － 1	機械設備改修工事特記仕様書
A － 2	建築改修工事特記仕様書2	A － 25	【既存・改修】建具表2	E － 2	案内図・配置図	M － 2	【既存・改修】機器表・器具表
A － 3	建築改修工事特記仕様書3	A － 26	【改修】ｶﾊﾞｰ工法詳細図	E － 3	【既存・改修】照明器具姿図・分電盤結線図	M － 3	【既存・改修】換気設備1階平面図
A － 4	建築改修工事特記仕様書4	A － 27	【既存・改修】ｽﾃｰｼﾞ詳細図	E － 4	【既存・改修】電灯設備1階平面図	M － 4	【既存・改修】吹抜け部換気設備平面図
A － 5	建築改修工事特記仕様書5	A － 28	【改修】収納台車詳細図	E － 5	【既存・改修】電灯設備吹抜け部平面図	M － 5	【既存・改修】給排水衛生設備便所周り詳細図
A － 6	建築改修工事特記仕様書6	A － 29	【改修】鋼製床下地詳細図	E － 6	【改修】音響・呼出設備機器参考姿図		
A － 7	建築改修工事特記仕様書7	A － 30	【既存・改修】体育器具等詳細図	E － 7	【既存・改修】通信設備1階平面図		
A － 8	建築改修工事特記仕様書8	A － 31	【改修】ｺｰﾄﾗｲﾝ配置図・体育器具詳細図1	E － 8	【改修】通信設備校舎1階平面図		
A － 9	建築改修工事特記仕様書9	A － 32	【既存・改修】舞台吊物詳細図	E － 9	【既存・改修】自動火災報知設備1階平面図		
A － 10	建築改修工事特記仕様書10	A － 33	【改修】ｱﾘｰﾅ天井断熱材詳細図	E － 10	【既存・改修】自動火災報知設備吹抜け部平面図		
A － 11	案内図、配置図兼仮設計画図	A － 34	【既存・改修】家具図				
A － 12	仕上表	A － 35	雑詳細図1				
A － 13	【既存・改修】床伏図、1階平面図	A － 36	雑詳細図2				
A － 14	【既存・改修】中2階小屋伏図、中2階平面図						
A － 15	【既存・改修】天井伏図、小屋伏図、屋根伏図						
A － 16	【既存・改修】立面図						
A － 17	【既存・改修】矩計図						
A － 18	【既存・改修】便所廻り平面詳細図						
A － 19	【既存】便所廻り展開図、天井伏図						
A － 20	【改修】便所廻り展開図、天井伏図						
A － 21	【既存・改修】ｱﾘｰﾅ1　展開図						
A － 22	【既存・改修】ｱﾘｰﾅ2　展開図						
A － 23	【既存・改修】ｽﾃｰｼﾞ・物置・控室　展開図						

株式会社 桂設計

建築改修工事特記仕様書 【令和８年４月版】

Ⅰ 工事概要

1 工事番号・名称　８教委第　号　館矢間小学校体育館長寿命化工事
2 工事場所　丸森町館矢間館山字玉川地内
3 用途地域等
　都市計画区域（⊙ 内 ・ 外）　用途地域（　用途地域指定なし　）
　防火地域等（・ 防火 ・ 準防火 ・ 指定なし ⊙ ２２条 ）
　その他の地域・地区（ 特になし　）
4 主要用途　体育館
5 敷地面積　14,944.12㎡
6 工事の概要
　□建築
　・長寿命化改修における外部劣化改修
　・長寿命化改修における内部劣化改修
　・ﾌﾘｰﾅ床沈下に対する改修
　・建具改修
　・鉄骨塗装塗替
　・体育器具改修
　・家具改修
　・ﾄｲﾚﾚｲｱｳﾄ改修、多目的ﾄｲﾚ新設
　□電気
　・長寿命化改修における電気設備更新
　・多目的ﾄｲﾚ新設における電気設備新設
　□機械
　・長寿命化改修における機械設備更新
　・多目的ﾄｲﾚ新設における機械設備新設
7 別途工事
8 その他
9 特記仕様書の範囲
　特記仕様書は、本特記仕様書のほか以下の○印もので構成する。
　・ 構造特記仕様書　・ 外構工事特記仕様書　・ 植栽工事特記仕様書
　・ 解体工事特記仕様書　⊙ 電気設備工事特記仕様書　⊙ 機械設備工事特記仕様書

Ⅱ 建築工事仕様

1．共通仕様
　図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築改修工事標準仕様書(令和7年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）による。ただし、「改修標準仕様書」に記載されていない事項は、「公共建築工事標準仕様書（令和7年版）」(以下「標準仕様書」という。）及び「建築物解体工事共通仕様書(令和4年版）」（以下「解体共通仕様書」という。）による。
　なお、施工条件明示書は特記仕様書に含める。
2．特記仕様
　1）項目は、番号に○印のついたものを適用する。
　2）特記事項は、⊙印のついたものを適用する。⊙印のつかない場合は※印のついたものを適用する。⊙印と※印のついた場合は、共に適用する。
　3）特記事項に記載の＜ ＞、（ ）及び［ ］内の表示番号は、それぞれ「改修標準仕様書」、「標準仕様書」及び「解体共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	① 一般事項	⊙ 工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合には、監督職員に報告の上、指示に従うこと。 ⊙ 受注者は、監督職員と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。 ⊙ 施工体系図を現場に掲示すること。 ・ 工事着手前及び完成時に、以下に示す調査範囲の近隣家屋等の内外の状況（地盤、擁壁、内外壁、床、建具等）を調査・記録し、報告書を監督職員に提出すること。 ※工事に伴う環境調査要領 平成28年4月（東京都建設局編集）による ※調査に先立って調査計画書を作成し監督職員の確認を受けること 調査範囲　※ 図示
	② 適用基準等	⊙ 建設工事執行規則(昭和39年3月宮城県規則第9号） ⊙ 宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱 ⊙ 建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和4年版） ⊙ 営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部　令和5年版）及び工事写真撮影ガイドブック（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和5年版）
	3．概成工期	工事工期より　日前　＜1.2.1＞
	④ 工事実績情報 ｼｽﾃﾑ(ｺﾘﾝｽﾞ)への登録	※ 適用する（請負精算額が500万円以上の場合）　＜1.1.4＞ 受注時、登録内容の変更時及び工事完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け、契約締結後、配置技術者の変更後、変更契約締結後及び工事完成後の10日以内に登録手続きを行い、工事カルテの受領書を、監督職員に提出すること。 ・ 適用しない
	⑤ 発生材の処理等	発生材の処理　＜1.3.12＞ ・ 引渡しを要するもの（　） ・ 特別管理産業廃棄物（　） 受入れ施設名・所在地(km) ・ 現場において再利用を図るもの（　） ・ 再生資源化を図るもの

種類	受入施設名	所在地(Km)	備考
⊙ ｺﾝｸﾘｰﾄ類	(株)杉沢工務店	伊具郡丸森町館矢間田字市子沢82-11(3.2km)	
・ ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ類			
⊙ 木類	(株)県南ｴｺﾃｯｸ宮城県ｳｯﾄﾞﾘｻｲｸﾙｾﾝﾀｰ	刈田郡蔵王町大字円田字一戦場20(34.0km)	

・その他の廃棄物（安定型）

種類	受入施設名	所在地(Km)	備考
⊙ 磁器・ｶﾞﾗｽ類	仙建砕石(株)	柴田郡柴田町大字富沢猪倉23-5(32.7km)	
⊙ ﾎﾞｰﾄﾞ類	(株)ｼﾞｬﾊﾟﾝｸﾘｰﾝ	仙台市青葉区芋沢字青野木109-1(63.1km)	

・その他の廃棄物（管理型）

種類	受入施設名	所在地(Km)	備考
⊙ ｱｽﾍﾞｽﾄ類	(株)ｼﾞｬﾊﾟﾝｸﾘｰﾝ	仙台市青葉区芋沢字青野木109-1(63.1km)	

　上記の処理、処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、上記によらない場合は、監督職員と協議すること。
　また、処理、処分に先立ち処分場等の受入の可否を確認すること

PCB（ポリ塩化ビフェニール）含有機器　・ 有（数量は図示）　・ 無　[5.4.1]
PCB含有シーリング材　・ 有（施工範囲は図示）　・ 無　[5.4.1]

　PCBを含有する機器等については、飛散、流失等がないように適切な容器に納め、適切な場所に保管し、工事完了後、監督職員に引き渡す。

アスベストの処理
吹き付けアスベスト除去工事　・有（図示　）　・無
　受け入れ施設名・所在地(km)
アスベスト含有保温材除去工事　・有（図示　）　・無
　受け入れ施設名・所在地(km)
アスベスト成形板除去工事　⊙有（図示：仕上表）　・無
　受け入れ施設名・所在地(km)　施設名：(株)ｼﾞｬﾊﾟﾝｸﾘｰﾝ　所在地(km)：仙台市青葉区芋沢字青野木109-1(63.1km)

ヒ素又はカドミウム含有石膏ボードの処理
ヒ素又はカドミウムボード　・有（図示　）　・無
次に該当する場合は、指定する場所に処分すること。
＜対象となる石膏ボード＞
小名浜吉野石膏（株）　いわき工場　昭和48年10月～平成9年4月の間に製造されたもの
日東石膏ボード（株）　八戸工場　平成4年10月～平成9年4月の間に製造されたもの
指定する処分場
【名称：　所在地(km)　】

⑥ 電気保安技術者
・ 適用する　※ 適用しない　＜1.3.3＞

⑦ 事故報告　＜1.3.10＞
　工事の施工中に事故が発生した場合は、直ちに監督職員に通報するとともに、監督職員から指示があった場合は「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出する。（宮城県HP「事故発生報告」参照）

⑧ 建築材料等
材料の品質等　＜1.4.2＞
※ 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとし、その材料にJIS又はJASのマークの表示のある場合を除いて監督職員の承諾を受ける。
　特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
環境への配慮　＜1.4.1＞
※ 使用する材料は、揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮し、かつ石綿を含有しないものとする。

※ ホルムアルデヒド仕様
使用する材料のホルムアルデヒド仕様は以下のとおりとする。
ホルムアルデヒド放散量　規制対象外　の場合の建築材料
1）ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆品
2）建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品
3）次の表示のあるＪＡＳ適合品
　a．非ホルムアルデヒド系接着剤使用
　b．接着剤等不使用
　c．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用
　d．ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
　e．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用

⑨ 室内の空気中の化学物質濃度の測定
※ ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定　(1.5.10)＜1.7.10＞
　試料採取及び測定は、厚生労働省の「室内空気中化学物質の測定マニュアル（統合版）」の最大濃度推定法による。
　測定対象物質
　※ ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ（濃度指針値　100μg/m3 ・ 0.08ppm）
　※ ｽﾁﾚﾝ（濃度指針値　220μg/m3 ・ 0.05ppm）
　※ ﾄﾙｴﾝ（濃度指針値　260μg/m3 ・ 0.07ppm）
　※ ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ（濃度指針値　370μg/m3 ・ 0.085ppm）
　※ ｷｼﾚﾝ（濃度指針値　200μg/m3 ・ 0.05ppm）
　測定する室等：（　ﾌﾘｰﾅ　）
　※対照としての外部測定も行うこと

　測定結果等報告書の提出
　次の事項を記載した報告書を１部提出する。
　a 測定結果
　b 試料採取時の状況（気温・湿度（室外・室内）、天候、風の状況、日射進入状況、測定年月日・時間、窓の開閉状況、機械換気量、工事完成時から測定日までの日数）
　c 試料採取方法、測定方法、使用した測定機器
　測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合は、引渡は受けない。
※ 室内ＶＯＣ濃度の測定結果に関する書面の当該施設への提示については、施設管理者に依頼する。
総揮発性有機化合物の測定は「11章 総揮発性有機化合物（TVOC）測定」参照

⑩ 特別な材料の工法
「改修標準仕様書」及び「標準仕様書」に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。

① 建築基準法による風圧力等の指定　＜3.5.4＞＜3.9.3＞＜5.11～13.2＞＜5.14.5＞(13.2.3)(13.3.3)

適用工事	建築基準法の指定	
・ 合成高分子系ルーフィングシート	風速(V0)　※３０	
・ アルミニウム笠木　・ 金属板屋根葺	地表面粗度区分	・Ⅱ　・Ⅲ
・ 折板屋根葺　・ ガラスブロック	多雪地域の指定	・有　・無
・ 重量シャッター　・ 軽量シャッター		
・ オーバーヘッドドア　・ 屋上緑化		

12．設計ＧＬ
※ 図示　・ 現状平均地盤高

③ 施工調査　＜1.6.2＞
施工数量調査

調査項目	調査範囲	調査方法	成果品
外壁劣化部	外壁	目視、打診	

・ 既存部分の破壊を行った場合の補修方法は、図示による。　＜1.6.3＞

④ 技能士
・ 下表で技能士を適用することとした職種に、１級又は単一級技能士を配置する。　＜1.7.2＞
※ 下表で技能士を適用することとした職種に、１級、２級又は単一級技能士を配置する。
※ 下表で技能士を適用しないとした職種でも、技能士の配置に努めること。

工事種目	技能検定職種（技能検定作業）
以下の該当工事	⊙該当する作業がある以下の職種（作業）の全て
仮設工事	⊙とび（とび作業）
防水改修工事	⊙防水施工　・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ⊙シーリング防水工事作業 ・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄﾄｰﾁ防水工事作業 ・ＦＲＰ防水工事作業
外壁改修工事	⊙左官（左官作業）　・タイル張り（タイル張り作業） ⊙樹脂接着剤注入施工（樹脂接着剤注入工事作業） ⊙塗装（建築塗装作業）
建具改修工事	⊙サッシ施工（ビル用サッシ施工作業） ⊙ガラス施工（ガラス工事作業） ・自動ドア施工（自動ドア施工作業）
内装改修工事	⊙内装仕上施工　⊙プラスチック系床仕上工事作業 ⊙木質系床仕上工事作業 ⊙ボード仕上工事作業 ⊙鋼製下地工事作業 ・表装（壁装作業）　・建築大工（大工工事作業）
塗装改修工事	⊙塗装（建築塗装作業）
耐震改修工事	・鉄筋施工（鉄筋組立作業） ・型枠施工（型枠工事作業）　・とび（とび作業） ⊙コンクリート圧送施工（コンクリート圧送工事作業）
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ・ALCﾊﾟﾈﾙ・押出成形セメント板工事	・ＡＬＣパネル施工（ＡＬＣパネル工事作業）
石工事	・石材施工（石張り作業）
排水工事	・配管（建築配管作業）
舗装工事	・路面標示施工　・溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業 ・加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ作業
植栽工事	・造園（造園工事作業）
屋根及びとい工事	⊙建築板金（内外装板金作業）

⑤ 完成図等
　営繕工事完成引渡要領（令和7年4月1日宮城県土木部営繕課・設備課）により作成する。
※ 白焼縮小（Ａ３版）２つ折製本　２部
※ 完成図面　JWW形式又はDXF形式のCADデータ及びPDFデータ　DVD-R等２部

⑥ 完成写真
※ 作成する　・ 作成しない
　営繕工事写真撮影要領により、完成届に添付する完成写真とは別に次のものを原本（電子媒体）とともに監督職員に提出する。
　なお、原本は、DVD-R等で提出すること。

分類	サイズ	撮影箇所数	部数	提出様式
※カラー ・白黒	※Ｌ ・２Ｌ ・六切り	※営繕工事写真撮影要領の完成写真程度 ・ 箇所　枚	※１部 ・ 部	※工事用アルバムA4版ポケット式程度 ・フリーアルバム（台紙寸法323×270程度）

　アルバムは、監督職員との協議により紙媒体又は電子媒体とする。

⑦ 設備工事との取合い
施工範囲　各工事の区分表による。
施工図　設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して監督職員の承諾を受ける。

⑧ 火災保険等
工事目的物及び工事材料等について、次により保険に付す。
保険の種類　※ 火災保険　※ 建設工事保険
保険期間　※ 工事着手から工事目的物引き渡しまで

2 仮設工事

① 仮囲い
※ 設ける　・ 設けない
仮囲いの位置及び延長は図示による。
⊙キャスターゲート（H=1,800、W=6,000）× 3 箇所
・シートゲート（H=　、W=　）×　箇所

② 交通誘導員
⊙ 配置する（ 41日 × 1人 ＝ 41人日）　・ 配置しない

3．揚重機械器具
・ トラッククレーン（ t吊り）×　日
・ （ t吊り）×　日

3 防水改修工事

④ 工事表示板
※ 設置する　・設置しない
　営繕工事における工事及びコスト表示要領（令和6年4月1日宮城県土木部営繕課・設備課制定）による。

⑤ 足場等
外部足場　⊙設置する（設置範囲 ⊙工事に必要な範囲 ・　）　＜2.2.1＞＜表2.2.1＞
　・設置しない
防護シート　⊙設置する（設置範囲 ⊙工事に必要な範囲 ・　）
　・設置しない
内部足場　⊙設置する（⊙棚足場　）
　・設置しない
・材料、撤去材等の運搬方法
　種別（・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 ・Ｄ種 ・Ｅ種）
　Ｃ種：利用可能なエレベーター（　）
　Ｄ種：利用可能な階段（　）
　足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省令和5年12月改定）」によるものとし、設置については「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」及び「働きやすい安心感のある足場に関する基準」によること。

⑥ 養生
家具及び設備の移動　・ 行う(図示)　⊙ 行わない　＜2.3.1＞
既存ブラインド・カーテン等の養生及び保管
　・ 行う　⊙ 行わない
　養生の方法
　保管場所

7．仮設間仕切り
・ 設ける(図示)　＜2.3.2＞＜表2.3.1＞
　・ Ａ種　・ Ｂ種　※ Ｃ種

8．監督職員事務所
※ 設けない（請負者事務所に打合せ会議室を確保する）　＜2.4.1＞
・ 設ける（規模　㎡程度　請負者事務所と同棟　・可　・否）
　備品（

⑨ 工事用水　構内既存の施設 ⊙ 利用できる（※有償　・無償）　※ 利用できない

⑩ 工事用電力　構内既存の施設 ⊙ 利用できる（※有償　・無償）　※ 利用できない
　※ 溶接などの消費電力の大きな機器を除く

11．工事用通路
※ 指定しない　・ 指定する（図示）

1．降雨等に対する養生(とい共)
※改修標準仕様書3.1.3(5)(7)～(ｳ)による　＜3.1.3＞
・

2．既存防水の処理
既存保護層の撤去　＜3.2.3～4＞＜3.2.6＞
・行う（範囲　・図示による　・　）
・行わない
既存防水層の撤去
・行う（範囲　・図示による　・　）
・行わない
露出防水層表面の仕上げ塗装除去
・行う（ ・M4AS ・M4ASI ・M4C ・M4DI ・L4X ）
・行わない

3．既存下地の処理
補修箇所の形状、長さ、数量等　＜3.2.6＞
※図示による　・

POS工法及びPOSI工法（機械的固定方法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処置
※改修標準仕様書3.2.6(4)(ｳ)(g)①～③による

設備機器架台、配管受部、パラペット、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付け部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理
※監督職員と協議する
・図示による

4．アスファルト防水　＜3.1.4＞＜3.3.2～5＞＜表3.1.1＞＜表3.3.3～10＞
新設防水層（屋根保護絶縁工法）の種別

改修工法	新設種別	施工箇所	絶縁用シート	断熱材
・P2A	・A-1		※ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ厚さ0.15mm以上又はﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ70g/㎡程度	
	・A-2			
	・A-3			
・P1B	・B-1			
	・B-2			
・P2AI	・AI-1		※ﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ70g/㎡程度	※JIS9521に基づく押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材3種bA（ｽｷﾝ層付き）厚さ ・
	・AI-2			
	・AI-3			
・P1BI	・BI-1			
	・BI-2			

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.3～表3.3.6による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　用途による区分　・
　材料による区分　※R種
　厚さ（　）mm以上
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.3及び表3.3.4による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
　用途による区分　・
　材料による区分　※R種
　厚さ（　）mm以上
平場の保護コンクリートの厚さ
こて仕上げ　※水下 80mm以上　・
床タイル張り　※水下 60mm以上　・

立上り部の保護方法
・乾式保護材（品質・性能、試験方法は別表による）
　窯業系パネルⅠ類（厚さ　(mm)　幅　(mm)）
・れんが押え（※JIS R 1250　・　）
・コンクリート押え
・モルタル押え（屋内）

特記事項

設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

工事名　館矢間小学校体育館長寿命化工事
図面名　建築改修工事特記仕様書1
縮尺　A1: NS　A3: NS
株式会社 桂設計　一級建築士登録 第324846号 長南 京子
図面番号　A － 1

3 防水改修工事

新設防水層（屋根露出防水工法）の種別

改修工法	新設種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	断熱材	備考
・M4C	・C-1 ・C-2 ・C-3 ・C-4		・製造所の仕様	※製造所の仕様		
・M3D ・P0D	・D-1 ・D-2		・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有　・無 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・有　・無
・P0DI ・M3DI ・M4DI	・DI-1 ・DI-2		・製造所の仕様	※製造所の仕様	※3.3.2(9) 種類 厚さ	脱気装置 ・有　・無 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・有　・無

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.7～表3.3.9による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・
材料による区分　※R種
厚さ（　　）mm以上
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.8及び表3.3.9による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・
材料による区分　※R種
厚さ（　　）mm以上
絶縁断熱工法のルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
※図示による　・
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類　※アスファルトルーフィング類の製造所の指定
・
設置数量　※アスファルトルーフィング類の製造所の指定
・　（個）

屋内防水
防水層の種別

改修工法	種別	施工箇所
・P1E ・P2E	・E-1 ・E-2	

保護層　・設け（※図示による　・　）
・設けない
E-1の工程3を行う部位
※貯水槽、浴室等常時水に接する部位

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度

・屋上排水溝
※図示による　・

5. 改質アスファルトシート防水

新設防水層（屋根露出防水）の種別　<3.4.2、3>

改修工法	新設種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	断熱材	備考
・M4AS	・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2		・製造所の仕様	※製造所の仕様		
・M3AS	・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1		・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有　・無 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・有　・無
・P0AS	・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS-J3		・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有　・無 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・有　・無
・M3ASI ・M4ASI ・P0ASI	・ASI-TI ・ASI-JI		・製造所の仕様	※製造所の仕様	3.4.2(3)ｳ 種類 厚さ	脱気装置 ・有　・無 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・有　・無 防湿層 ・有　・無

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・
材料による区分　※R種
厚さ（　　）mm以上
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・
材料による区分　※R種
厚さ（　　）mm以上
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分　・
材料による区分　※R種
厚さ（　　）mm以上
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度
・
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類　※改質アスファルトシート類の製造所の指定
設置数量　※改質アスファルトシート類の製造所の指定
・　（個）
絶縁断熱工法の防湿用シート
・設置する　・設置しない

6. 合成高分子系ルーフィングシート防水

新設防水層の種別　<3.5.2～4><表3.5.1～3>

改修工法	新設種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	断熱材	備考
・P0S ・S4S	・S-F1		・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有　・無 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・有　・無
	・S-F2					
	・S-M1		・製造所の仕様	※製造所の仕様		
	・S-M2					
・S3S	・S-F1	・ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ下地・	・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有　・無
	・S-F2	・ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ下地・				
・M4S	・S-M1		・製造所の仕様	※製造所の仕様		脱気装置 ・有　・無
	・S-M2					
・P0SI ・S3SI ・S4SI ・M4SI	・S-F1	・ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ下地・	・製造所の仕様	※製造所の仕様	3.5.2(3)(I)(b) 種類 ・ 厚さ(mm) ・25　・50 ・	脱気装置 ・有　・無 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・有　・無 防湿層 ・有　・無
	・S-F2	・ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ下地・				
	・S-M1		・製造所の仕様	※製造所の仕様	3.5.2(3)(I)(a) 種類 ・ 厚さ(mm) ・25　・50 ・	
	・S-M2					

S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様
※非歩行仕様　・軽歩行仕様
SI-M1及びSI-M2における防湿用フィルム
・設置する　・設置しない

屋内防水
防水層の種別

種別	種別	施工箇所	保護層 平場の保護モルタル塗厚	保護層 立上り部の保護モルタル塗厚
・P1S	・S-C1			※7mm以下

平場の保護モルタル床塗りにおける目地の目地割及び種類
目地割
※目地割2㎡程度、最大目地間隔3m程度

目地の種類
※押し目地　・

合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.5.1から表3.5.3による
・JIS A 6008に基づく種類及び厚さ
種類　・
厚さ　・　mm以上
絶縁用シート及び可塑剤移行防止用シートの材質
※発泡ポリエチレンシート

固定金具の材質、形状及び寸法
※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもの

接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類
※ルーフィングシートの製造所の仕様

設置数量
※ルーフィングシートの製造所の仕様
・（　　）個
接着工法の場合のプレキャストコンクリート部材下地の目地処理
・行う（・図示による　・　）
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り（種別S-F1、SI-F1の場合）
・行う（・図示による　・　）
・行わない

7. 塗膜防水

新設防水層（ウレタンゴム系塗膜防水）の種別　<3.6.2、3>

改修工法	新設種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	備考
・P0X	※X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H ・		・主材料の製造所の仕様	※主材料の製造所の仕様	脱気装置 ・有　・無 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・有　・無
・L4X	・X-1 ※X-2 ・X-1H ・X-2H ・		・主材料の製造所の仕様	※主材料の製造所の仕様	脱気装置 ・有　・無

ウレタンゴム系塗膜防水工法X-1の脱気装置の種類及び設置数量
種類　※主材料の製造所の仕様　・
設置数量　※主材料の製造所の仕様　・　（個）

新設防水層（ゴムアスファルト系塗膜防水）の種別

改修工法	新設種別	施工箇所	工程数及び各工程の使用量	保護層
・P1Y	※Y-2 ・		※主材料の製造所の仕様	・保護ﾓﾙﾀﾙ ・保護ｺﾝｸﾘｰﾄ 厚さ（　mm）
・P2Y	※Y-2 ・		※主材料の製造所の仕様	・保護ﾓﾙﾀﾙ ・保護ｺﾝｸﾘｰﾄ 厚さ（　mm）

8. シーリング

シーリング改修工法の種類　<3.1.4><3.7.2、3、7、8>
・シーリング充填工法
⊙シーリング再充填工法
・拡幅シーリング再充填工法
・ブリッジ工法
ボンドブレーカー張り
・適用する　・適用しない
エッジング材張り
・適用する　・適用しない

シーリング材の種類、施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による。

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
⊙外壁化粧目地	PU-2　20×10
⊙外部ｻｯｼ廻り、水切り	MS-2　15×15

仕上げを行わない施工箇所
・図示による　・
シーリング材の目地寸法
※改修標準仕様書3.7.3(1)による
・図示による

接着性試験
※簡易接着性試験
・引張接着性試験

9. とい

といその他の材種　<3.8.2、3>
・配管用鋼管
⊙硬質ポリ塩化ビニル管
・ルーフドレン
・表面処理鋼板

とい受金物
材種
※改修標準仕様書3.8.2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）

形状
※市販品（とい径100以下）
※25×4.5以上（とい径100を超えるもの）

取付け間隔
※改修標準仕様書3.8.2による

足金物
材種
※改修標準仕様書3.8.2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）

形状
※市販品

取付け間隔
※改修標準仕様書3.8.2による

多雪地域
・適用する　⊙適用しない
防露材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法
・図示による　・
鋼管製といの防露巻き
※改修標準仕様書表3.8.4による
・

ルーフドレンの種類及び呼び

種別		呼び	施工箇所
・ろく屋根用たて形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80　・100　・125　・150	
・ろく屋根用横形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80　・100　・125　・150	
・バルコニー中継用	※ねじ込み式	・50　・80　・100	
	・差し込み式	・50　・75　・100	
・バルコニー用	※ねじ込み式	・50　・80　・100	
	・差し込み式	・50　・75　・100	

たてどい受金物の取付け
※図示による
ルーフドレンの取付け
※水はけよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する
・

10. アルミニウム製笠木

種類　<3.9.2、3>
・押出形材形（・押出250形　・押出300形　・押出350形）
・板材折曲げ形（・オーブン形式　・シール形式）
本体幅（　　）mm　板厚（※2.0mm　・　mm）
表面処理
種別（　　）種
色合等　・標準色（　　）　・特注色（　　）
既存笠木等の撤去
・行う（範囲　・図示による　・　）
・行わない
下地補修の工法
※図示による　・
板材折曲げ形の笠木の取付方法
※図示による　・

11. 防水保証

アスファルト防水、改質アスファルトシート防水及び合成高分子系ルーフィングシート防水の保証期間は、引渡しの日から10年間とし、メーカー・施工業者との連名の上、保証書を提出する。
塗膜防水及びケイ酸質系塗布防水については、メーカー・施工業者が通常定めている期間とし、保証書を作成し提出する。

4-1 外壁改修工事　コンクリート打放し仕上げ外壁

1 ひび割れ部改修工法

・樹脂注入工法　<4.1.4><4.2.4～7>

工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	延べ長さ(m)
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300 ・	・130 ・	図示による
・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	・50～100	・40	
	0.3以上～0.5未満	・100～200	・70	
	0.5以上～1.0未満	・150～250	・130	

注入状況の確認方法
※コアの抜取りを行う
抜取り個数
※長さ500mごと及びその端数につき1個

抜取り部の補修方法
※図示による　・

⊙Uカットシール材充填工法

工法の種類	ひび割れ幅(mm)	延べ長さ(m)
⊙可とう性エポキシ樹脂	0.2以上～0.3 未満	図示による
	0.3以上～0.5 未満	
	0.5以上～1.0 未満	
	1.0 超過	
・シーリング材	1.0超過～1.5 未満	
	1.5以上～2.0 未満	
	以上～未満	

・シーリング材
充填材料の種類
※1成分形又は2成分形ポリウレタン系

シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填
・行う　・行わない
シーリング材の試験は改修標準仕様書3章　防水改修工事による。
・可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

工法の種類	ひび割れ幅(mm)	延べ長さ(m)
・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂	0.2未満	図示による

2 欠損部改修工法

・充填工法　<4.1.4><4.2.4,8>

材料	平均深さ(mm)	平均広さ(㎡)	延べ箇所数
・ポリマーセメントモルタル	5～10未満		図示による
	10～15未満		
	15～20未満		
	20～25未満		
	25～30未満		
・エポキシ樹脂モルタル	30～35未満		
	35～40未満		

4-2 外壁改修工事　モルタル塗り仕上げ外壁

1 ひび割れ部改修工法

・樹脂注入工法　<4.1.4><4.3.5、6、7、8>

工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	延べ長さ(m)
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0 未満	※200～300	・130	図示による
・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3 未満	・50～100	・40	
	0.3以上～0.5 未満	・100～200	・70	
	0.5以上～1.0 未満	・150～250	・130	

注入状況の確認方法
※コアの抜取りを行う
抜取り個数
※長さ500mごと及びその端数につき1個

抜取り部の補修方法
※図示による　・

⊙Uカットシール材充填工法

工法の種類	ひび割れ幅(mm)	延べ長さ(m)
⊙可とう性エポキシ樹脂	0.2以上～0.3 未満	図示による
	0.3以上～0.5 未満	
	0.5以上～1.0 未満	
	1.0 超過	
・シーリング材	1.0超過～1.5 未満	
	1.5以上～2.0 未満	

・シーリング材
充填材料の種類
※1成分形又は2成分形ポリウレタン系

シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填
・行う　・行わない
シーリング材の試験は改修標準仕様書3章　防水改修工事による。
・可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

工法の種類	ひび割れ幅(mm)	延べ長さ(m)
・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂	0.2未満	図示による

特記事項

設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

工事名　館矢間小学校体育館長寿命化工事
図面名　建築改修工事特記仕様書2
縮尺　A1:　NS　A3:　NS
株式会社 桂設計　一級建築士登録 第324846号 長南 京子
図面番号　A－2

4-2 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁

② 欠損部改修工法

⊙充填工法 <4.1.4><4.3.9、10>

材料	平均深さ(mm)	平均広さ(㎡)	延べ箇所数
⊙ポリマーセメントモルタル	5～10未満		図示による
	10～15未満		
	15～20未満		
	20～25未満		
	25～30未満		
・エポキシ樹脂モルタル	30～35未満		
	35～40未満		

・モルタル塗替え工法

材料	平均深さ(mm)	平均広さ(㎡)	延べ箇所数
・現場調合材料			図示による
・既調合材料			

・現場調合材料
（セメントは改修特記仕様書8-2　コンクリート工事による）
・既調合材料（　　）

既製目地材
・使用する（形状　・図示による　・　　）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置
※図示による　・

③ 浮き部改修工法

<4.1.4><4.3.11～16>

工法の種類	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ本数(本/㎡) 一般部	指定部	注入口箇所数(箇所/㎡) 一般部	指定部	注入量(mL/箇所)	延べ広さ(㎡) 一般部	指定部
⊙アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	—	—	※25	図示による	
・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25		
・アンカーピンニング 全面ポリマーセメント スラリー注入工法	※13	※20	※12	※20	※50		
・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	—	—	※25		
・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25		
・注入口付アンカー ピンニング全面ポリマー セメントスラリー注入工法	※9	※16	※9	※16	※50		
・充填工法	—	—	—	—	—		
・モルタル塗替え工法	—	—	—	—	—		

アンカーピンの材質
※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの

注入口付アンカーピンの材質
※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径外径6mm程度

注入工法用材料
・ポリマーセメントスラリー

広がり速度(cm/s)	長さ変化量(収縮)(%)	引張接着性(材齢28日)(N/mm2)	曲げ性能(材齢28日)(N/mm2)	吸水性(72時間)(%)	耐久性(劣化曲げ強さ)(N/mm2)
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以下	5.0以上

保水係数　0.35～0.55
粘調係数　0.50～1.00

充填工法用材料
・エポキシ樹脂モルタル
・ポリマーセメントモルタル
モルタル塗替え工法用材料
・現場調合材料
（セメントは改修特記仕様書8章8-2　コンクリート工事による）
・既調合材料（　　）
既製目地材
・使用する（形状　・図示による　・　　）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置
※図示による　・

4-3 外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁

1. タイルの形状寸法等

タイルの形状、寸法等 <4.4.5、8>

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	耐滑り性

標準的な曲がりの役物は一体成形とする。
見本焼き
・行う(施工箇所：　　)　・行わない
試験張り
・行う(範囲、仕様等は図示による)　・行わない

2. ひび割れ部改修工法

・樹脂注入工法 <4.1.4><4.4.5、6>

工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	延べ長さ(m)
※自動式低圧 エポキシ樹脂 注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300 ・	・130 ・	図示による
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	・50～100	・40	
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	・100～200	・70	
	0.5以上～1.0未満	・150～250	・130	

注入状況の確認方法
※コアの抜取りを行う
抜取り個数
※長さ500mごと及びその端数につき1個

抜取り部の補修方法
※図示による　・

3. 欠損部改修工法

・タイル部分張替え工法 <4.1.4><4.4.5、7、8>
接着剤の種類
・ポリマーセメントモルタル
・JIS A 5557に基づく一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系
施工数量：　平均広さ（　　）㎡　延べ箇所数（　　）箇所

・タイル張替え工法
張替え用材料
・接着剤JIS A 5557に基づく一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系
・張付けモルタル　（・現場調合材料　・既調合モルタル）
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置
※改修標準仕様書表4.4.2による
・図示による
外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整剤塗りの接着力試験
・行う　・行わない
施工数量：　平均広さ（　　）㎡　延べ箇所数（　　）箇所
・セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
・目荒し工法（改修標準仕様書4.3.10(3)による）

タイル張りの工法
・外装タイル
・密着張り　・改良圧着張り
・ユニットタイル
・マスク張り　・モザイクタイル張り

シーリング　改修特記仕様書3章　防水改修工事による。

・有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り
モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
・目荒し工法（改修標準仕様書4.3.10(3)による）

シーリング材の種類
打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地
※ポリウレタン系シーリング材

伸縮調整目地その他の目地
※変成シリコーン系シーリング材

シーリングのその他事項は、改修特記仕様書3章　防水改修工事による。

目地詰め　※行う　・行わない

4. 浮き部改修工法

<4.1.4><4.4.5、9～15><4.5.9～15>

工法の種類	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ本数(本/㎡) 一般部	指定部	注入口箇所数(箇所/㎡) 一般部	指定部	注入量(mL/箇所)	延べ広さ(㎡) 一般部	指定部
・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	—	—	※25	図示による	
・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25		
・アンカーピンニング 全面ポリマーセメント スラリー注入工法	※13	※20	※12	※20	※50		
・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	—	—	※25		
・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25		
・注入口付アンカー ピンニング全面ポリマー セメントスラリー注入工法	※9	※16	※9	※16	※50		
・注入口付アンカーピンニング エポキシ樹脂注入タイル 固定工法			—	—	※25 ・		
・タイル部分張り替え工法	—	—	—	—	—		
・タイル張り替え工法	—	—	—	—	—		

アンカーピンの材質
※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの

注入口付アンカーピンの材質
※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径外径6mm程度
・

・タイル部分張替え工法
接着剤の種類
・ポリマーセメントモルタル
・JIS A 5557に基づく一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系
施工数量：　平均広さ（　　）㎡　延べ箇所数（　　）箇所

・タイル張替え工法
張替え用材料
・接着剤JIS A 5557に基づく一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系
・張付けモルタル　（・現場調合材料　・既調合モルタル）
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置
※改修標準仕様書表4.5.1による
・図示による
外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整剤塗りの接着力試験
・行う　・行わない
施工数量：　平均広さ（　　）㎡　延べ箇所数（　　）箇所

・セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の下地処理
・目荒し工法（改修標準仕様書4.3.10(3)による）

タイル張りの工法
・外装タイル
・密着張り　・改良圧着張り
・ユニットタイル
・マスク張り　・モザイクタイル張り
シーリング　改修特記仕様書3章　防水改修工事による。

・有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り
モルタル塗りを行うコンクリート素地面の下地処理
・目荒し工法（改修標準仕様書4.4.9(3)による）

シーリング材の種類
打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地
※ポリウレタン系シーリング材

伸縮調整目地その他の目地
※変成シリコーン系シーリング材

シーリングのその他事項は、改修特記仕様書3章　防水改修工事による。

目地詰め　※行う　・行わない

5. 目地改修工法 <4.1.4><4.4.5、16>
・目地ひび割れ部改修工法
・伸縮調整目地改修工法
伸縮調整目地の位置及び寸法
・図示による　・
シーリングは、改修特記仕様書第3章　防水改修工事による。

4-4 外壁改修工事 塗り仕上げ外壁

① 既存塗膜等の除去・下地処理及び下地調整

<4.5.4>

工法	処理範囲	下地面の補修
⊙サンダー工法	※外壁劣化部 ・図示による	・ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法 ・欠損部改修工法
・高圧水洗工法	※既存仕上げ面全体 ・図示による	
・塗膜はく離剤工法	※既存仕上げ面全体 ・図示による	
⊙水洗い工法	※サンダー工法、高圧水洗工法、塗膜はく離剤工法の処理範囲以外の既存仕上面全面 ・図示による	

② 下地調整塗材 <4.5.2>
※下地調整塗材
・ポリマーセメントモルタル

③ 仕上塗材仕上げ <4.1.5><4.5.2><表4.5.1>
新規仕上塗材の種類
・薄付け仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	防火材料
・外装薄塗材Si	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け	
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り	
・可とう形外装塗材Si	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け	
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り	
・外装薄塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け	
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り	
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り	
	・着色骨材砂壁状	・吹付け ・こて塗り	
・可とう形外装塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け	
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り	
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り	
・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り	
	・凹凸状	・吹付け	
・外装薄塗材S	・砂壁状	・吹付け	

・厚付け仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	上塗り	防火材料
・外装厚塗材C	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り		
・外装厚塗材Si ・外装厚塗材E	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・こて塗り ・ローラー塗り		

・複層仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料
・複層塗材CE ・複層塗材RE ・複層塗材Si ※複層塗材E	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・ 外観 溶媒	・耐候形1種 ・耐候形2種 ※耐候形3種	
	・ゆず肌状	・ローラー塗り			
・可とう形 複層塗材CE	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・ 外観 溶媒	・耐候形1種 ・耐候形2種 ※耐候形3種	
	・ゆず肌状	・ローラー塗り			
・防水形 複層塗材CE ・防水形 複層塗材RE ・防水形 複層塗材E	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・ 外観 溶媒	・耐候形1種 ・耐候形2種 ※耐候形3種	
	・ゆず肌状	・ローラー塗り			

⊙可とう形改修用仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料
⊙可とう形 改修塗材E	・平たん状 ⊙砂壁状	・吹付け	樹脂	⊙耐候形1種	
・可とう形 改修塗材RE	・さざ波状	・ローラー塗り	外観	・耐候形2種	
・可とう形 改修塗材CE	・ゆず肌状	⊙吹付け	溶媒	・耐候形3種	

4. マスチック塗材塗り

改修標準仕様書4.6.2による <4.1.5><4.6.2><表4.6.1>

5. 外壁用塗膜防水材塗り

仕上げの形状 <4.1.5><4.7.2、3><表4.7.1>

工法

仕上塗料の耐候性

下地挙動緩衝材の適用
・適用する
・適用しない
コンクリート面のひび割れ部及び欠損部の処理は、改修特記仕様書4章外壁改修工事（コンクリート打ち放し仕上げ外壁改修）による。
モルタル面のひび割れ部、欠損部及び浮き部の処理は、改修特記仕様書4章　外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）による。
吹付け工法の模様材の種類
・　　（・所要量　　(kg/㎡)）
外壁用仕上塗料の種類
・　　（・所要量　　(kg/㎡)）
既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整は、改修特記仕様書4章　外壁改修工事（塗仕上げ外壁等改修）による。

5 建具改修工事

① 改修工法

<5.1.3、6>

建具の種類		かぶせ工法	撤去工法	適用箇所
・アルミニウム製建具				・建具表による　・
・樹脂製建具		—		・建具表による　・
⊙鋼製建具	・外部	◯	◯	⊙建具表による　・
	・内部			・建具表による　・
⊙鋼製軽量建具				⊙建具表による　・
・ステンレス製建具				・建具表による　・
⊙木製建具			◯	⊙建具表による　・

新規に建具を設ける場合
壁部分の開口の開け方
※図示による　・
新規建具周囲の補修工法及び範囲
※図示による　・
建具周囲のシーリングは、改修特記仕様書3章　防水改修工事による。
・再使用（・ブラインドボックス　・　　）

2. 防火戸

・指定する　適用箇所（・建具表による　・　　）<5.1.4>
・指定しない
防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸とヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動
・連動させる　適用箇所（・建具表による　・　　）
・連動させない

3. 見本の製作等

建具見本の製作　・行う（建具符号：　　）<5.1.5>
※行わない
建具見本製作の目的等：（　　）
特殊な建具の仮組　・行う（建具符号：　　）
※行わない

4. 防犯建物部品

・適用する（・建具表による　・　　）<5.1.7>
※適用しない

特記事項

設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

工事名	館矢間小学校体育館長寿命化工事
図面名	建築改修工事特記仕様書3
縮尺	A1：NS　A3：NS
図面番号	A－3

株式会社 桂設計　一級建築士登録 第324846号 長南 京子

5 建具改修工事

⑤ アルミニウム製建具

性能値等 <5.2.2～5><表5.2.2>
耐風圧性の等級（⊙S-4 ）
（建具符号 ・建具表による ・ ）
気密性の等級 （⊙A-3 ）
（建具符号 ・建具表による ・ ）
水密性の等級 （⊙W-4 ）
（建具符号 ・建具表による ・ ）
外部に面する建具の種別
⊙A種（建具符号 ・建具表による ・ ）
・B種（建具符号 ・建具表による ・ ）
・C種（建具符号 ・建具表による ・ ）
枠の見込み寸法
（⊙建具表による ・ ）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・ ）
（建具符号：・建具表による ・ ）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（・ ）
（建具符号：・建具表による ・ ）
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI

ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL ・
形状及び仕上げ
表面処理
外部に面する建具
種別（改修標準仕様書表5.2.2）
※BB-1
・BB-2 （着色：・標準色 ・特注色）
屋内の建具
種別（改修標準仕様書表5.2.2）
※BC-1
・BC-2 （着色：・標準色 ・特注色）
結露水の処理方法
・水貯め式 ・排水式
工法
水切り板、ぜん板
※図示による ・

⑥ 網戸等 <5.2.3、5.3.3>

種類	材質	線径	網目
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上	※16～18メッシュ
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

7. 樹脂製建具

性能値等 <5.2.2><5.3.2～5>
耐風圧性の等級（ ）
気密性の等級 （ ）
水密性の等級 （ ）
外部に面する建具の種別
・A種（建具符号 ・建具表による ・ ）
・B種（建具符号 ・建具表による ・ ）
・C種（建具符号 ・建具表による ・ ）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・T-1 ・T-2 ）
（建具符号：・建具表による ・ ）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（・H-4 ・H-5 ・H-6 ・H-7 ・H-8）
（建具符号：・建具表による ・ ）
外部に面する建具の日射熱取得性の等級

枠の見込み寸法
・建具表による ・
材料
ガラス
※複層ガラス（組合せは建具表による）

ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL ・
形状及び仕上げ
表面色
・標準色 ・特注色
工法
水切り板、ぜん板
※図示による ・

⑧ 鋼製建具

性能値等 <5.2.2><5.4.2～4><表5.4.2>
簡易気密型ドアセット
※適用する（建具符号：・建具表による ・ ）
⊙適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級（⊙S-4 ）
（建具符号：・建具表による ・ ）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（⊙T-1 ）
（建具符号：・建具表による ・ ）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（⊙H-3 ）
（建具符号：・建具表による ・ ）
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI

ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL ・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ
※改修標準仕様書表5.4.2による
・ mm 使用箇所（ ）

標準型鋼製建具の形式及び寸法
・建具表による ・

⑨ 鋼製軽量建具

性能値等 <5.2.2><5.5.2～4>
簡易気密型ドアセット
※適用する（建具符号：・建具表による ・ ）
⊙適用しない

防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・ ）
（建具符号：・建具表による ・ ）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（・ ）
（建具符号：・建具表による ・ ）
材料
鋼板
・亜鉛めっき鋼板
・ビニル被覆鋼板
・カラー鋼板
・ステンレス鋼板
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI

召合わせ、縦小口包み板の性質
※鋼板 ・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL ・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ
※改修標準仕様書表5.5.1による
・ mm 使用箇所（ ）
・防音性能を求める戸（建具表による）
防音充填材（グラスウール又はロックウール）
標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法
※建具表による ・

10. ステンレス製建具

材料 <5.2.2><5.4.2><5.6.2～5>
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI

ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL ・
形状及び仕上げ
表面仕上げ
※HL ・鏡面仕上げ ・
工法
ステンレス鋼板の曲げ加工
※普通曲げ ・角出し曲げ

⑪ 木製建具

建具材の加工、組立時の含水率
※A種 ・ <5.7.2～4>
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・

・フラッシュ戸
表面材のホルムアルデヒド放散量等
※改修標準仕様書5.7.2(2)(イ)(a)による
・
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板	表面の樹種 板面の品質（※広葉樹1等 ・ ） 接着の程度（・1類 ・2類 ）	
・天然木化粧合板	樹種名（ ） 接着の程度（・1類 ・2類 ）	
・特殊加工化粧合板	化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板 接着の程度（・1類 ・2類 ）	
・MDF	表裏面の状態による区分（ ） 曲げ強さによる区分 （ ） 耐水性による区分 （ ） 難燃性による区分 （ ）	

表面板の厚さ
※改修標準仕様書表5.7.6による

引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用
・適用しない ・適用する

・かまち戸
かまち樹種（ ） 鏡板樹種（ ）
見込み寸法
※36mm ・建具表による ・
・ふすま
張りの種別（・Ⅰ型 ・Ⅱ型）
上張り（押入等の裏側以外）
・鳥の子 ※新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ
・塗り縁 ・生地縁（素地） ・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法
※19.5mm ・建具表による ・
・戸ぶすま
表面板の仕上 ・建具表による ・
見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・
・紙張り障子
見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・
枠、くつずりの材料 ・建具表による ・

② 建具用金物

金物の種類及び見え掛り部の材質等 <5.8.1～3>
※改修標準仕様書表5.8.1により適用は建具表による

金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※改修標準仕様書表5.8.2による ・建具表による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※改修標準仕様書表5.8.3による ・建具表による
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※改修標準仕様書表5.8.4による ・建具表による
木製建具に使用する戸車及びレール
※改修標準仕様書表5.8.5による ・建具表による
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置
・建具表による ・

③ 鍵

マスターキー <5.8.4>
⊙製作する ・製作しない ・既存のマスターキーに合わせる
その他の鍵の製作本数
※各室3本1組（室名札付き） ・
鍵箱
⊙なし ・あり

14. 自動ドア開閉装置

戸の開閉方式 <5.9.2、3>
・建具表による ・
・引き戸用駆動装置
性能値
※改修標準仕様書表5.9.1
（防錆 ・適用する ・適用しない）
・以下による
種類・開閉方式 （ ）
耐電圧 （ ）
温度上昇 （ ）
耐久性（サイクル） （ ）
防錆 （ ）
電源 （ ）
・車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置
性能値
※改修標準仕様書表5.9.2
（防錆 ・適用する ・適用しない）
・以下による
耐電圧 （ ）
温度上昇 （ ）
耐久性（サイクル） （ ）
防錆 （ ）
電源 （ ）
・引き戸用検出装置
性能値
※改修標準仕様書表5.9.3
（防錆 ・適用する ・適用しない）
・以下による
耐電圧 （ ）
防錆 （ ）
防滴 （ ）
電源 （ ）
引き戸用検出装置の種類（改修標準仕様書表5.9.4）
・建具表による ・
タッチスイッチの種類
・無線式タッチスイッチ ・光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便房用操作スイッチの種類
・大形押しボタンスイッチ ・非接触スイッチ
凍結防止措置
・行う ※行わない

15. 自閉式上吊り引戸装置

性能値等 <5.10.3>
※改修標準仕様書表5.10.1
・以下による
手動開き力 （ ）
手動閉じ力 （ ）
閉じ速度の調整 （ ）
制動区間 （ ）
開閉繰返し （ ）
耐衝撃性 （ ）

16. 重量シャッター

シャッターの種類 <5.11.2、3>
・管理用シャッター
・外壁用防火シャッター
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター
外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度 （ ）Pa
開閉方式の種類
※電動式（手動併用） ・手動式
安全装置
電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置
（設置箇所 ・建具表による ・ ）
電動式シャッターの障害物感知装置
（設置箇所 ・建具表による ・ ）
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止装置
（設置箇所 ・建具表による ・ ）
管理用シャッターのシャッターケース
※設ける ・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類
※JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板鋼帯）
めっきの付着量
※Z12又はF12 ・
ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI

17. 軽量シャッター

開閉方式の種類 <5.12.2～4>
※手動式 ・電動式（手動併用）
耐風圧強度 （ ）Pa
安全装置（電動シャッター）
・急降下停止装置
（設置場所 ・建具表による ・ ）
※障害物感知装置
（設置箇所 ・建具表による ・ ）
スラットの材質の種類
※JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量（※Z06又はF06 ・ ）
・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量（※AZ90 ・ ）
スラットの形状
・インターロッキング形
・オーバーラッピング形

18. オーバーヘッドドア

<5.13.2、3>

セクション材料による区分	耐風圧性能区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
※ｽﾁｰﾙﾀｲﾌﾟ ・ｱﾙﾐﾆｳﾑﾀｲﾌﾟ ・ﾌｧｲﾊﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟ	・50 ・75 ・100 ・125	※ﾊﾟﾗﾝｽ式 ・ﾁｪｰﾝ式 ・電動式	※ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ形 ・ﾛｰﾍｯﾄﾞ形 ・ﾊｲﾘﾌﾄ形 ・ﾊﾟｰﾁｶﾙ形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板

電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置
（設置箇所 ※建具表による ・ ）

⑨ ガラス

⊙フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類 <3.7><5.14.2～4>
※建具表による ・
⊙型板ガラスの厚さによる種類
※建具表による ・
・網入板ガラス及び線入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
※建具表による ・
・合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ及び特性による種類
※建具表による ・
落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類 ・Ⅱ-1類 ・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類
・強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類、厚さの呼びによる種類及び特性による種類
※建具表による ・
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類 ・Ⅲ類
・熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類
※建具表による ・
性能による種類
・1種 ・2種
⊙複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
⊙建具表による ・
断熱性による区分
⊙T1 ・T2 ・T3 ・T4 ・T5 ・T6
日射取得性及び日射遮蔽性による区分
⊙G ・S
封入気体の種類
⊙空気 ・アルゴン ・
・熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類、厚さによる種類
・建具表による ・
日射熱遮蔽性による区分
・1種 ・2種 ・3種
耐久性による区分（日射熱遮蔽性による区分が2種の場合）
・A類 ・B類
・倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの呼びによる種類
・建具表による ・

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	・シーリング材 ・グレイジングチャンネル	※建具製造所の仕様による ・図示による
鋼製及び鋼製軽量	・シーリング材	※建具製造所の仕様による ・図示による
ステンレス製	・シーリング材	※建具製造所の仕様による ・図示による
樹脂製	・グレイジングガスケット	※建具製造所の仕様による ・図示による

・ガラス端部の小口加工
対象箇所 ・建具表による ・図示による
仕上げの程度（・ ）

特記事項

設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

工事名 館矢間小学校体育館長寿命化工事
図面名 建築改修工事特記仕様書4
縮尺 A1: NS A3: NS
図面番号 A－4
株式会社 桂設計 一級建築士登録 第324846号 長南 京子

5 建具改修工事

20. ガラスブロック積み

<5.14.5>

呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色調	目地幅（mm）	伸縮調整目地位置（mm）	防火性能
・160×160	・95				
・200×200	・95				

壁用金属枠及び補強材
※図示による　・
力骨
材質
※ステンレス鋼(SUS304)

寸法
※径5.5mm　・
形状
※はしご形状複筋及び単筋

化粧目地モルタルの色（・白　・グレー）
シーリングの種類　（・SR-1　・PS-1）
金属製化粧カバー
材質
・ステンレス製
・アルミニウム製
寸法
※図示による　・
形状
※図示による　・
目地部の横力骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による
・図示による

21. ガラス用フィルム

種類	記号 内貼り用	記号 外貼り用	その他性能等
・日射調整フィルム	・SC-1	・SC-2	
・低放射フィルム	・LE		
・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・GI-1	・GI-2	
・相関変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・GD-1	・GD-1	
・ガラス貫通防止フィルム	・SF		

品質は、JIS A 5759による。

6 内装改修工事

① 改修範囲

<6.1.3>

既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲
※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
⊙図示による
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲
※壁面より両側 600mm 程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・図示による
既存天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修
※既存のまま
・図示による

② 既存床の撤去及び下地補修

<6.2.2>

ビニル床シート等の除去
※仕上材のみ（接着剤とも）
・下地モルタルとも（・図示による　・除去範囲全て）
合成樹脂塗床材の除去工法
・機械的除去工法
・目荒し工法
既存のコンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、改修標準仕様書4章外壁改修工事による。

改修後の床の清掃範囲
※図示による　・

③ 既存壁の撤去及び下地補修

<6.3.2>

間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修
※改修標準仕様書4.3.10によるモルタル塗り
（全塗厚が25mmを超える場合の処置　※図示による）

4. 木下地等の表面仕上げ

<6.5.1>

見え掛り面の表面仕上げの程度
※ブレーナー加工仕上げ
適用部材（部位）（　　）
・超自動機械かんな掛け仕上げ
適用部材（部位）（　　）
・サンダー掛け仕上げ
適用部材（部位）（　　）

⑤ 木材の施工一般

<6.5.2>

材料のホルムアルデヒド放散量
※改修標準仕様書6.5.2(1)(ｳ)による

⑥ 製材

<6.5.1><6.5.6～9>

・JAS 1083-5に基づく下地用製材

施工箇所	樹種名	等級（材面の品質）	寸法（mm）	含水率	保存処理
		※2級		※A種　・B種	・
		※2級		※A種　・B種	・

・JAS 1083-2に基づく造作用製材

施工箇所	樹種名	等級（材面の品質）	寸法（mm）	含水率	保存処理
見え掛り面		※上小節		※A種　・B種	・
見え掛り面以外		※小節以上		※A種　・B種	・

6 内装改修工事

・JAS 1083-6に基づく広葉樹製材

施工箇所	樹種名	等級（材面の品質）	寸法（mm）	含水率	保存処理
		※1等		※10%以下 ・A種　・B種	・
		※1等		※10%以下 ・A種　・B種	・

・JAS 1083（製材）以外の製材

施工箇所	寸法（mm）	材面の品質	防虫処理の適用	含水率
		（　　） 造作材の場合 （※A種　・B種）	・適用する ・適用しない	※A種　・B種
		（　　） 造作材の場合 （※A種　・B種）	・適用する ・適用しない	※A種　・B種

⑦ 造作用集成材

・JAS 1152に基づく造作用集成材

<6.5.2>

施工箇所	品名	樹種名	見付け材面	寸法（mm）	見付け材面の品質
巾木	木製巾木	ﾗﾜﾝ材	150.100.75		※1等　・2等
壁下地	木下地組	杉	45x45		※1等　・2等

・JAS 1152に基づく化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	材種名	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面	寸法（mm）	見付け材面の品質
		化粧薄板： 芯材：				※1等　・2等
		化粧薄板： 芯材：				※1等　・2等

・JAS 1152以外の造作用集成材

施工箇所	材種名	寸法（mm）	見付け材面の品質	含水率
				※15%以下
				※15%以下

・JAS 1152以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	材種名	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面の品質	含水率
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下

⑧ 造作用単板積層材

・JAS 0701 に基づく造作用単板積層材

<6.5.2>

施工箇所	品名	寸法（mm）	表面の品質	防虫処理
ｷｬｯﾄｳｫｰｸ	ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	t-15.0	・無（・1等　・2等　・3等） ⊙有（・天然木化粧加工 ⊙塗装加工　　）	⊙適用する ・適用しない
			・無（・1等　・2等　・3等） ・有（・天然木化粧加工 ・塗装加工　　）	・適用する ・適用しない

・JAS 0701 以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法（mm）	表面の品質	含水率	防虫処理
		・無（　　） ・有（・天然木化粧加工 ・塗装加工　　）	※14%以下	・適用する ・適用しない
		・無（　　） ・有（・天然木化粧加工 ・塗装加工　　）	※14%以下	・適用する ・適用しない

・JAS 3079 に基づく直交集成板

施工箇所	品名	樹種名	強度等級（曲げ性能）	種別	接着性能（使用環境）	寸法（mm）
	・異等級構成 直交集成板 ・同一等級構成 直交集成板					

⑨ 合板等

・JAS 0233に基づく普通合板

<6.5.2>

施工箇所	厚さ（mm）	接着の程度	板面の品質	単板の樹種名	防虫処理
壁	※6.0 ※6.0 ※12.0	ｼﾅ合板 有孔ｼﾅ合板 杉板	広葉樹　※2等以上 ・ 針葉樹　※C-D以上 ・		⊙適用する ・適用しない
	※5.5	※1類 ・2類	広葉樹　※2等以上 ・ 針葉樹　※C-D以上 ・		・適用する ・適用しない

・JAS 0233に基づく構造用合板

施工箇所	厚さ（mm）	接着の程度	等級	板面の品質	曲げ強度（強度等級）	防虫処理	単板の樹種名
	※12	・特類 ※1類	・1級 ※2級以上	※C-D以上		・適用する ・適用しない	
	※12	・特類 ※1類	・1級 ※2級以上	※C-D以上		・適用する ・適用しない	

屋外又は常時湿潤状態となる場所に使用する場合は、接着の程度を特類とする。

・JAS 0233に基づく化粧ばり構造用合板

施工箇所	厚さ（mm）	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理
			・特類　・1類	・適用する ・適用しない
			・特類　・1類	・適用する ・適用しない

屋外又は常時湿潤状態となる場所に使用する場合は、接着の程度を特類とする。

・JAS 0233に基づく天然木化粧合板

施工箇所	厚さ（mm）	接着の程度	化粧板に使用する単板の樹種名	防虫処理
		・1類　・2類		・適用する ・適用しない
		・1類　・2類		・適用する ・適用しない

・JAS 0233に基づく特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ（mm）	接着の程度	表面性能	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
		・1類 ・2類	・F ・FW ・W ・SW		・オーバーレイ ・プリント ・塗装	・適用する ・適用しない

・JIS A 5908に基づくパーティクルボード

施工箇所	種類	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	厚さ（mm）
			※13タイプ	・Mタイプ ・Pタイプ	※15
			※13タイプ	・Mタイプ ・Pタイプ	※15

・JAS 0360に基づく構造用パネル

施工箇所	寸法（mm）	曲げ性能（等級）（・常態曲げ試験　・湿潤曲げ試験）
		・1級　・2級　・3級　・4級
		・1級　・2級　・3級　・4級

・JIS A 5905に基づくMDF

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ（mm）

⓪ 接合具等

造作材の化粧面の釘打ち

<6.5.3>

※隠し釘打ち
・釘頭埋め木
・つぶし頭釘打ち
・釘頭現し
諸金物の形状、寸法及び材質
かすがい
※改修標準仕様書表6.5.3に示す程度の市販品
・
座金
※改修標準仕様書表6.5.4に示す程度の市販品
・
箱金物及び短冊金物
※改修標準仕様書表6.5.5に示す程度の市販品
・

① 接着剤

接着剤のホルムアルデヒド放散量

<6.5.3、4>

※F☆☆☆☆

12. 防腐・防蟻・防虫処理等

<6.5.5>

・工場における薬剤の加圧注入等
・改修標準仕様書6.5.5(1)(a)①による加圧注入

適用部材	保存処理性能区分
	・K2　・K3　・K4
	・K2　・K3　・K4
	・K2　・K3　・K4

・改修標準仕様書6.5.5(1)(a)②による加圧式保存処理
保存処理の性能（　　）
インサイジング　・適用する　・適用しない
・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理
薬剤の種類
※改修標準仕様書6.5.5(1)(b)①による
・付属書A（規定）に基づく表面処理用木材保存剤による
・
適用部材（部位）　・図示による
処理方法
※改修標準仕様書6.5.5(1)(b)②による
・薬剤の接着材への混入による防腐、防蟻処理
適用部材（部位）　・図示による
・合板、集成材、単板積層材の薬剤の加圧注入等によるK3防腐・防蟻処理
適用部材（部位）　・図示による
・不燃処理木材等
不燃材料
適用部材（部位）　・図示による
準不燃材料
適用部材（部位）　・図示による
難燃材料
適用部材（部位）　・図示による

13. 内部間仕切軸組及び床組み

<6.5.6>

・間仕切軸組に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※杉又は松　・
・床組みに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※杉又は松　・
・土間スラブの類の場合の土台、転ばし大引き及び転ばし根太
※ひのき又は保存処理木材　・

④ 窓、出入口その他

<6.5.7>

・窓、出入口その他に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合)
※吊元枠、水掛りの下枠及び敷居はひのき、その他は松又は杉

15. 床板張り

<6.5.8>

・縁甲板及び上がりかまちに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※ひのき　・

⑥ 壁及び天井下地

<6.5.9>

・壁胴縁、野縁受桟、野縁及び吊木に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※杉又は松　・

⑦ 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類

<6.6.2～4>

屋外
※25形　・19形
屋内
※19形　・25形
屋外の形式及び寸法
野縁受、つりボルト及びインサートの間隔
・図示による　・
周辺部の端からの間隔
・図示による　・
野縁の間隔
・図示による　・
既存の埋込みインサート
・使用する　・使用しない
あと施工アンカーの施工後の確認試験
・行う
試験箇所数　※屋内の場合、当該階において3箇所　・（　）箇所
引張試験にて確認する強度
※吊りボルト受け等の間隔が900mm程度以下かつ天井面積構成部材等の単位面積あたりの重量が20kg/㎡以内の天井の場合は400N程度
・（　）N
※行わない
・つりボルトの間隔が900mmを超える場合
（補強方法　※図示による　・　）
・天井のふところが3.0mを超える場合
（補強方法　※図示による　・　）
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
（補強箇所　※図示による　・　）
（補強方法　※図示による　・　）
・屋外の天井における耐震性を考慮した補強
（補強箇所　※図示による　・　）
（補強方法　※図示による　・　）

⑱ 軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナーの種類

<6.7.3、4><表6.7.1>

※改修標準仕様書表6.7.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
・図示による
・
スタッドの高さが5.0mを超える場合
※図示による　・
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
※改修標準仕様書6.7.4(5)による　・

19. ビニル床シート

<6.8.2、3>

種類の記号	色柄	厚さ（mm）	備考
※FS(複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ)	※無地 ・マーブル柄 ・柄物	※2.0	

接合部の処理
※熱溶接工法　・

20. ビニル床タイル

<6.8.2>

種類の記号	色柄	寸法（mm）	厚さ（mm）	備考
※KT（ｺﾝﾎﾟｼｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）	・無地 ・柄物	※300×300 ・450×450	※2.0 ・2.5 ・3.0	
・TT（単層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	・2.0	
・FT（複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	・2.0 ・2.5 ・3.0	
・FOA（置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）	・無地 ・柄物	・500×500	・4.0	
・FOB（薄型置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）	・無地 ・柄物			

㉑ 特殊機能床材

<6.8.2>

⊙床シート（超防汚仕様）
種類　（ トイレ用床FS ）
性能　（ JIS K3920準拠 ）
厚さ(mm)（ 2mm ）

・帯電防止床シート
種類　（　）
性能　（　）
厚さ(mm)（　）
・帯電防止床タイル
種類　（　）
性能　（　）
寸法(mm)（　）×（　）
厚さ(mm)（　）
・視覚障害者用床タイル
ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による。
種類　（　）
形状　（　）
・耐動荷重性床シート
種類　（　）
厚さ(mm)（　）
・防滑性床シート
種類　（　）
厚さ(mm)（　）
・防滑性床タイル
種類　（　）
寸法(mm)（　）×（　）
厚さ(mm)（　）

特記事項

設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

工事名　館矢間小学校体育館長寿命化工事
図面名　建築改修工事特記仕様書5
縮尺　A1: NS　A3: NS
図面番号　A－5
株式会社 桂設計　一級建築士登録 第324846号 長南 京子

6 内装改修工事

㉒ 接着剤 <6.8.2>

ビニル床シート、ビニル床タイル、ゴム床タイル等接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
・図示による　・

㉓ ビニル幅木 <6.8.2>

材質の種類
※軟質　・硬質
高さ(mm)
※60　・75　⊙100　⊙300
厚さ(mm)
※1.5以上　・

24. ゴム床タイル <6.8.2>

種類
・単層品　・積層品
色柄　(　　)
厚さ(mm)　(　　mm)
寸法(mm)　(　　)×(　　)

<6.8.3>

25. 下地の工法 改修標準仕様書6.8.3(1)(ｱ)～(ｳ)以外の下地の工法
・図示による　・

26. カーペット敷き ・織じゅうたん <6.9.2、3><表6.9.1>

織り方	パイル形状	備考
・ウィルトンカーペット	・カットパイル	
・フェイスツゥフェイスカーペット	・ループパイル	
・アキスミンスターカーペット	・カット/ループパイル	

色柄
※模様のない無地

パイル糸の種類等
※無地の織りじゅうたんの種別（・A種　・B種　・C種）

帯電性
・適用する　・適用しない
織じゅうたんの接合方法
※ヒートボンド工法
・つづり縫い
下敷き材
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm

・タフテッドカーペット

パイル形状	ﾊﾟｲﾙ長さ(mm)	工法	帯電性	備考
・カットパイル	・5～7　・	※全面接着工法	・適用	
・ループパイル	・4～6　・	・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法	・非適用	
・カット、ループ併用				

下敷き材(グリッパー工法の場合)
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm

タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

・タイルカーペット

パイルの形状	種類	施工箇所	寸法(mm)	総厚さ(mm)	備考
※ループパイル	※第一種 ・第二種		※500×500	※6.5	
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500×500	※6.5	
・カット・ループ併用	・第一種 ・第二種		※500×500	※6.5	

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
タイルカーペットの敷き方
平場
※市松敷き
・模様流し

階段部分
※模様流し
・市松敷き

見切り、押え金物
材質（　　）
種類（　　）
形状等
※図示による　・

24. 合成樹脂塗床 <6.10.2、3>

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床		・薄膜流しのべ工法 ・厚膜流しのべ工法 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			※平滑仕上げ

塗床材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

25. フローリング張り フローリングのホルムアルデヒドの放散量等 <6.11.2～6>
※改修標準仕様書6.11.2(2)による

各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆　・

・単層フローリング　(フローリングボード1等)
工法
・釘留め工法（・根太張り　・直張り　）
・接着工法
樹種
※なら　・
・単層フローリング　(フローリングブロック1等)
樹種

厚さ（mm）

大きさ

・複合フローリング
工法
・釘留め工法（・根太張り　・直張り　）
・接着工法
樹種
※なら　・
種別
・A種　・B種　・C種
接着工法の場合の不陸緩和材
※合成樹脂発泡シート

・現場塗装仕上げ
※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインの上、ワックス塗り
・生地のままワックス塗り

26. 畳敷き 種別 <6.12.2>
・A種（畳表：・JS　・J1））
・B種
・C種（畳床：・PS-C20　・PS-C25　・PS-C30）
・D種（畳床：・KT-Ⅰ　・KT-Ⅱ　・KT-Ⅲ　・KT-K　・KT-N）
下地の種類
・標準仕様書表12.6.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン　）

畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
衝撃緩和型畳（畳表：・C1　・C2）

㉗ せっこうﾎﾞｰﾄﾞその他のﾎﾞｰﾄﾞ及び合板張り MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 <6.13.2、3>
※F☆☆☆☆　・
合板のホルムアルデヒド放散量
※改修標準仕様書6.13.2(3)(ｲ)の(a)～(d)のいずれか

合板の防虫処理の適用
・行う　・行わない
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

種類等	厚さ(mm)、規格等
木質系セメント板	
・木毛セメント板 ・硬質(HW)　・中質(MW)　・普通(NW)	※図示による ・15　・20　・25
・木片セメント板 ・硬質(HF)　・普通(NF)	※図示による ・12　・15　・18　・21　・30
繊維強化セメント板	
・けい酸カルシウム板(タイプ2) 普通ボード 0.8FK	※図示による　・6　・8
火山性ガラス質複層板（VSボード）	
・火山性ガラス質複層板 種類　※図示による　・	※図示による　・
繊維板	
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ(MDF)	※図示による ・3　・7　・9　・12　・
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（無処理） ・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・未研磨板（RN） ・研磨板（RS） ・内装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（DI） ・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（処理） ・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・未研磨板（RN） ・研磨板（RS） ・外装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（DE）	※図示による ・2.5　・3.5　・5　・7　・
・ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ ・A級ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ（A-IB） ・天井仕上げ材 ・内装仕上げ材	※図示による ・9　・12　・15　・18
ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ	
・単板張りﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ ・無研磨板（VN） ・研磨板（VS）	※図示による ・10　・12　・15　・18　・
・化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ ・単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ（DV） ・ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ（DO） ・塗装（DC）	※図示による ・10（難燃）　・12（難燃） ・
吸音材料	
・ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板（DR） ・ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ ・凹凸ﾀｲﾌﾟ	・9　(不燃)　・12（不燃） ・12（不燃）　・15（不燃）
・ﾛｯｸｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ（1号）	※図示による　・25　・
・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ（32K）	・25（ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包み）　・
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	
⊙せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-R）	※12.5(不燃)　・15(不燃)　・
⊙ｼｰｼﾞﾝｸﾞせっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-S）	⊙12.5　⊙不燃　・準不燃）
・強化せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-F）	・12.5(不燃)　・15(不燃)
・化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-D）	・ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様　・9.5（準不燃）
・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ（GB-L）	・9.5
⊙不燃積層せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-NC） ・化粧なし（下地張り用） ⊙化粧あり（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様）	⊙9.5（不燃）
合板類	
・普通合板 表板の樹種名： 板面品質：	※5.5 ・図示による
・天然木化粧合板 化粧板の単板の樹種名：	※図示による
・特殊加工化粧合板 接着の程度 単板の樹種名 化粧加工の方法 ・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ﾌﾟﾘﾝﾄ　・塗装　・	※図示による

㉘ 壁紙張り

天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合
※図示による　・
合板類の張付け
・A種　・B種　・
せっこうボードの目地工法等
目地工法の種類
※仕上表による
突付け工法及び目透し工法のエッジの種類
・ベベルエッジ　・スクェアエッジ
化粧加工の方法（・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ﾌﾟﾘﾝﾄ　・塗装　・　　）

ホルムアルデヒド放散量 <6.14.2、3><表6.14.1～表6.14.3>
※F☆☆☆☆　・

施工箇所	壁紙の種類								備考
	紙	繊維	塩化ﾋﾞﾆﾙ	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	無機質	その他	防火性能		
ｽﾃｰｼﾞ枠			◯				・不燃	⊙準不燃	
							・不燃	・準不燃	
							・不燃	・準不燃	
							・不燃	・準不燃	

接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
モルタル及びせっこうプラスター面の素地ごしらえの種別
※B種　・A種
コンクリート面の素地ごしらえの種別
※B種　・A種
せっこうボード面及びけい酸カルシウム板面の素地ごしらえの種別
※B種　・A種

㉙ モルタル塗り モルタル <6.15.3、5、6>
・現場調合材料
・既調合材料
既製目地材
・設ける
施工箇所（　　）　形状（※図示による　・　　）
・設けない
床の目地
・設ける
目地割り
※2㎡程度（最大目地間隔3m程度）　・
目地の種類
※押し目地　・
・設けない
壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の下地処理
・図示による　・

30. タイル張り 伸縮目地の位置 <6.16.2～4>
床タイル
※縦、横とも4m以内ごと
※図示による　・
床タイル以外
※図示による　・
伸縮調整目地のシーリング材、目地寸法は改修特記仕様書第3章による
見本焼き
・行う（施工箇所：　　）　・行わない
試験張り
・行う（範囲、仕様等は図示による）　・行わない

・セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り
タイルの形状、寸法等

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	再生材料の適用	吸水率			うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性
				Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注	有	無	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

既調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

既調合目地材

壁タイル張りの工法
内外装タイル
・密着張り　・改良圧着張り

内装タイル以外のユニットタイル
・マスク張り　・モザイクタイル張り

下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
・

・有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り
タイルの形状、寸法等

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	再生材料の適用	吸水率			うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性
				Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注	有	無	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

内装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
・

31. ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材塗り 塗厚（mm） <6.17.2、3>

7 塗装改修工事

① 材料 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 <7.1.3>
※F☆☆☆☆　・
防火材料
※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・次の箇所を除き防火材料とする。（箇所：　　）

② 下地調整 塗替えRB種の場合の既存塗膜の除去範囲 <7.2.1～7>
※劣化部分は除去し、活膜部分は残す
・図示による

既存錆止め塗料の鉛含有量調査
・行う（　　箇所）
⊙行わない

下地調整

下地面の種類	下地調整の種別 塗替え	ひび割れ部の補修
木部	※不透明塗料塗りの場合はRB種	—
鉄鋼面	※RB種　・	—
亜鉛めっき鋼面	※RB種　・	—
亜鉛めっき鋼面 （鋼製建具等）	※RB種　・RA種	—
モルタル面及び せっこうプラスター面	※RB種　・	・行う ・行わない
コンクリート面(DP以外) ALCパネル面	※RB種　・	・行う ・行わない
押出成形セメント板面	・RA種　・RB種 ・RC種	・行う ・行わない
コンクリート面（DP）	・RB種　・RC種	・行う ・行わない
せっこうボード面及び その他ボード面	※RB種　・	—

③ 素地ごしらえ <7.3.2～7>

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗料塗りの場合	※B種　・A種
鉄鋼面（DP以外）		※C種　・A種　・B種
鉄鋼面（DPのみ）		※B種　・A種　・C種
亜鉛めっき鋼面	（鋼製建具等以外）	・A種　・B種
	（鋼製建具等）	※B種
モルタル面及びせっこうプラスター面		※B種　・A種
コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		※B種　・A種
押出成形セメント板面及びコンクリート面（DP）		・A種　・B種
コンクリート面（DPのみ）		※B種　・A種
せっこうボード面及びその他ボード面		※B種　・A種

④ 錆止め塗料塗り 錆止め塗料塗りの種別 <7.4.2、3>

素地面	塗装の種類		塗料の種別	工程の種別
鉄鋼面	SOP 錆止め塗装のまま (工程の種別は表7.4.3)	塗替え	As種	※C種　・
		新規見え掛り	As種	※A種　・
		新規見え隠れ	As種	※B種　・
	EP-G (工程の種別は表7.4.3)	塗替え	※Bs種　・As種	※C種　・
		新規見え掛り	※Bs種　・As種	※A種　・
		新規見え隠れ	※Bs種　・As種	※B種　・
	DP (工程の種別は表7.4.4)	塗替え	7.4.2(1)(ｲ)(b)による。	・B種 (下地調整RB種) ・C種 (下地調整RC種)
		新規	7.4.2(1)(ｲ)(a)による。	・A種
亜鉛めっき鋼面	SOP (工程の種別は表7.4.5)	塗替え	※Az種　・Bz種	※C種　・
		新規 鋼製建具等	※Az種　・Bz種	※A種　・
		新規 その他	※Bz種　・	※B種　・
	EP-G (工程の種別は表7.4.5)	塗替え	Cz種	※C種　・
		新規 鋼製建具等	Cz種	※A種　・
		新規 その他	Cz種	※B種　・
	DP (工程の種別は表7.4.6)	塗替え	Bz種	—
		新規	Bz種	—

特記事項

設計年月日	年　月　日	工事名	鎧矢間小学校体育館長寿命化工事	図面番号
管理技術者 / 担当者 / 作図		図面名	建築改修工事特記仕様書6	縮尺 A1: NS A3: NS
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子	A－6

7 塗装改修工事

⑤ 塗装 〈7.5.2～7.12.2〉

塗装の種類	塗装面	工程 塗替え	工程 新規
⊙合成樹脂調合ペイント塗り(SOP) 種類 ※1種 ・2種	木部屋外	※B種 ・	※A種 ・
	木部屋内	※B種 ・	※B種 ・
	鉄鋼面	※B種 ・	※B種 ・A種
	亜鉛めっき鋼面(鋼製建具)	※A種 ・	※B種 ・
	亜鉛ﾒｯｷ鋼面(鋼製建具以外)	※B種 ・	※B種 ・
⊙クリヤラッカー塗り(CL)		※B種 ・A種 種類：	※B種 ・A種 種類：
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)		※B種 ・A種	※B種 ・A種
⊙耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面 上塗り等級（　）級		
	亜鉛めっき鋼面 上塗り等級（　）級		
	コンクリート面及び押出成形セメント板面		・A-1種 ・ ・B-1種 ・ ・C-1種 ・
・つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP-G)	コンクリート面等	※B種 ・	※B種 ・A種
	屋内の木部	※B種 ・	※A種 ・
	屋内の鉄鋼面	※B種 ・	※B種 ・A種
	屋内の亜鉛めっき面	※A種 ・	※A種 ・B種
・合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP)		※B種 ・	※B種 ・A種
・合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝ模様塗料塗り(EP-T)		※B種 ・	・A種 ・B種
⊙ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※B種 ・	※B種 ・A種
・ピグメントステイン塗り			
⊙オイルステイン塗り			
・木材保護塗料塗り(WP)		※B種 ・A種	※B種 ・A種

つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾓﾙﾀﾙ面、せっこうﾌﾞﾗｽﾀｰ面、せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面、その他ﾎﾞｰﾄﾞ面）の塗替えの場合のしみ止め
※B種又はC種の場合は、改修標準仕様書表7.9.1の工程1の下塗りをしみ止めｼｰﾗｰとする

合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のしみ止め
※B種又はC種の場合は、改修標準仕様書表7.10.1の工程1の下塗りをしみ止めｼｰﾗｰとする

クリヤラッカー塗りＡ種の工程2の適用
・適用しない
・適用する(着色剤：・溶剤系着色剤　・油性染料着色剤)
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用
・適用する
・適用しない

8 耐震改修工事 共通事項

1．適用範囲
・改修標準仕様書　８章　耐震改修工事
・改修標準仕様書において８章耐震改修工事以外の改修工事で８章を引用している部分

工事内容
・現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事
・鉄骨ブレースの設置工事
・柱補強工事　(溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法)
・柱補強工事　(鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法)
・連続繊維補強工事
・耐震スリット新設工事
・免震改修工事
・制振改修工事
・土工事及び地業工事

2．既存部分の処理等 〈8.21.2、3〉〈8.22.2、3〉〈8.23.2、3〉〈8.24.4〉〈8.25.2〉〈8.28.2〉
既存構造体の撤去
撤去範囲
・図示による（　）　・
はつり出した鉄筋及び鉄骨の処置
・図示による（　）　・
既存構造体コンクリート面の目荒らしの程度
・既存柱、梁面
・打継ぎ面等の15～30%程度に、平均深さ 2～5mm（最大7mm）程度の凹凸を、全体にわたってつける。

・既存壁
・打継ぎ面の10～15%程度に、平均深さ 2～5mm（最大7mm）程度の凹凸を、全体にわたってつける。

既存杭の撤去等
・撤去範囲及び撤去方法
・図示による(　)　・

① 鉄筋
鉄筋の種類等 〈8.2.1〉

種類の記号	呼び径（mm）	備考
※SD295	D10	
※SD345		

2．溶接金網
鉄線の形状等 〈8.2.2〉

種類	種類の記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径（mm）	使用部位
・溶接金網			

8-1 鉄筋工事

⑤ 鉄筋の継手
鉄筋の継手の方法等 〈8.3.4〉〈8.4.2、3〉

部位	継手方法	呼び径（mm）
柱、梁の主筋	※ガス圧接　・機械式継手 ・溶接継手　・重ね継手	
耐力壁の鉄筋	・重ね継手　・	
その他の鉄筋(　)	・重ね継手　・	

継手位置
・図示による

柱及び梁主筋の重ね継手の長さ
・図示による　・
耐力壁の重ね継手の長さ
・図示による　・

④ 鉄筋の定着 〈8.3.4〉
鉄筋の定着長さ
⊙10ｄ以上　・
機械式定着工法
・適用する
適用箇所
・図示による（　）
・
種類
・摩擦圧接接合　・螺合グラウト固定
・嵌合グラウト固定　・
工法
※第三者機関の評定等を取得している工法とする
必要定着長さ
※評定等の評価内容による
補強筋形状
※評定等の評価内容による
かぶり厚さ
※評定等の評価内容による
品質確認
※評定等の評価内容による
検査
※評定等の評価内容による

⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網を含含む） 〈8.3.5〉
最小かぶり厚さ
⊙20mm　・
軽量コンクリートを適用する場合
・あり　適用箇所(　)
・最小かぶり厚さに加える厚さ　(　)mm　・
耐久性上不利な箇所がある場合(塩害等を受けるおそれのある部分等)
・あり　適用箇所(　)
・最小かぶり厚さに加える厚さ　(　)mm　・

6．圧接完了後の試験 〈8.3.8〉
超音波探傷試験
※行う（全圧接部）

7．機械式継手 〈8.4.2〉
適用箇所
※図示による(　)
・
H12建告第1463号に適合する性能
・A級　・
種類
・ねじ節鉄筋継手
充填方式
・無機グラウト方式　・有機グラウト方式　・
・端部ねじ加工継手
・モルタル充填式継手

工法
※第三者機関の評定等を取得している工法
鉄筋相互のあき
※評定等の評価内容による
品質の確認
※評定等の評価内容による
検査
※評定等の評価内容による
施工完了後の継手部の試験
・外観試験
試験対象
※全数
試験項目及び合否判定
※改修標準仕様書表8.4.1～表8.4.3による
・評定等の評価内容による
・
不合格となった場合の措置
※改修標準仕様書8.4.2(5)(7)(a)～(c)
・図示による（　）
・
・超音波測定試験
試験対象
・抜取り
ロット
・1組の作業班が1日に行った継手箇所で、最大200箇所程度にする。

試験の箇所数
1ロットに対して（　）箇所
・全数
試験項目
※挿入長さ
不合格となった場合の措置
・図示による（　）
・

8．溶接継手 〈8.4.3〉
適用箇所
・図示による(　)　・
H12建告第1463号に適合する性能
・A級　・
溶接継手の工法
・図示による(　)
鉄筋相互のあき
・改修標準仕様書8.3.5(4)による
・評定等の評価内容による
・図示による(　)
施工完了後の継手部の試験
・外観試験
試験対象
※全数
試験項目
・評定等の評価内容による　・
試験方法
・評定等の評価内容による　・
・超音波探傷試験
試験対象
※全数

9．割裂補強筋 〈8.21.6〉〈8.22.7〉
形状
・スパイラル筋　・
種類の記号
・SR235またはSWM-P　・
呼び径、曲げ直径、ピッチ
・図示による　・

8-2 コンクリート工事

① コンクリートの種類
コンクリートの類別 〈8.1.3〉
※Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
・Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート）

② コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度
⊙普通コンクリート 〈8.1.3〉〈8.1.4〉〈8.2.5〉〈8.9.2〉

設計基準強度（N/mm²）	スランプ（cm）	気乾単位容積質量（t/m³）	適用箇所
⊙21	⊙18	⊙2.3程度	⊙土間
⊙24	⊙18	⊙2.3程度	⊙ﾄｲﾚ床

構造体強度補正値　※改修標準仕様書表8.2.4による　・

・軽量コンクリート

設計基準強度（N/mm²）	スランプ（cm）	気乾単位容積質量（t/m³）	種類	適用箇所
	※21　・		・1種　・2種	

構造体強度補正値　※改修標準仕様書表8.2.4による　・

3．セメント 〈8.2.5〉
種類
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種(普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された)規定の他、水和熱が7日目で352Ｊ／ｇ 以下、かつ28日目402Ｊ／ｇ 以下のものとする)
適用箇所(　)
・高炉セメントB種　適用箇所(　)
・フライアッシュセメントB種　適用箇所(　)
・

4．骨材 〈8.2.5〉
アルカリシリカ反応性による区分
※A　・B

5．混和材料 〈8.2.5〉
・混和剤
混和剤の種類
※改修標準仕様書 8.2.5(4)(a)による　・
・混和材
混和材の種類
※改修標準仕様書 8.2.5(4)(b)による　・

6．構造体用モルタル 〈8.2.6〉
構造体用モルタル
圧縮強度(　)
フロー値(　)

7．暑中コンクリート 〈8.10.2〉
スランプ
※21cm　・
構造体強度補正値
※改修標準仕様書表8.10.1による

8．マスコンクリート (6.13.1)(6.13.2)
適用箇所
・図示による(　)　・
セメントの種類
・普通ポルトランドセメント
・中庸熱ポルトランドセメント
・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
・シリカセメント

混和材料
・混和剤
混和剤の種類
※標準仕様書6.13.2(2)(ｱ)による　・
・混和材
混和材の種類
※標準仕様書6.13.2(2)(ｲ)による　・
スランプ
※15cm　・
構造体強度補正値
※標準仕様書表6.13.1による　・

9．無筋コンクリート
コンクリートの種類 〈8.11.1〉
※普通コンクリート　・
設計基準強度
※18N/mm2　・
スランプ
※15cm又は18cm　・
セメントの種類
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
適用箇所
・図示による(　)　・

10．流動化コンクリート (6.15.1)
適用箇所
・図示による(　)　・
空気量
※4.5%　・

11．高流動コンクリート
適用箇所
・図示による(　)　・
材料及び調合
スランプフロー
・図示による　・
空気量
※4.5%　・
単位粗骨材かさ容積
※0.500m3/m3以上　・

12．打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)〈3.7.3〉
打継ぎの位置
・図示による(　)　・
目地寸法
・標準仕様書 9.7.3(1)(ｱ)による　・図示による(　)
ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法
・図示による(　)　・

13．構造体コンクリートの仕上り 〈8.1.4〉
合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ

種別	適用箇所
・A種	
・B種	
・C種	

コンクリートの仕上りの平たんさ（柱・梁・壁）

種別	適用箇所
・a種	化粧打ち放しコンクリート、塗装仕上げ、壁紙張り、接着剤による陶磁器質タイル張り
・b種	仕上塗材塗り
・c種	セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り、モルタル塗り 胴縁下地

コンクリートの仕上りの平たんさ（床）

種別	適用箇所
・a種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア（置敷式）
・b種	カーペット張り、防水下地、セルフレベリング材塗り
・c種	タイル張り、モルタル塗り、二重床

14．打増し厚さ（打放し仕上部） 〈8.7.8〉
・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)
・20mm　・
・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
・10mm　・20mm　・

15．型枠 〈8.2.7〉
せき板の材料及び厚さ
・合板(※12mm　・　)　・
・断熱材を兼用した型枠材
使用箇所
・図示による(　)　・
スリーブの材種・規格等
・図示による(　)　・

16．型枠の加工及び組立 〈8.7.8〉
シアコネクタをセパレーターとして使用
使用箇所
・図示による（　）　・

17．コンクリートの打込み工法等
コンクリートの打設工法の種類 〈8.21.8〉〈8.23.5～7〉

補強工法	打設工法	部位
・現場打ちコンクリート壁の増設工事	・工法指定なし	・全ての増設壁 ・図示による(　)
	・流込み工法 8.21.8(1)(ｱ),(2)	・全ての増設壁 ・図示による(　)
	・圧入工法　8.21.8(1)(ｲ),(3)	・全ての増設壁 ・図示による(　)
		・図示による(　) ・
・柱補強工事（溶接金網巻き及び溶接封鎖閉鎖フープ巻き工法）	・工法指定なし	・全ての柱補強部分 ・図示による(　)
	・流込み工法 8.21.8(1)(ｱ),(2)	・全ての柱補強部分 ・図示による(　)
	・圧入工法　8.21.8(1)(ｲ),(3)	・全ての柱補強部分 ・図示による(　)
		・図示による(　) ・
	・工法指定なし	
	・流込み工法 8.21.8(1)(ｱ),(2)	
	・圧入工法　8.21.8(1)(ｲ),(3)	

特記事項

設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

工事名　館矢間小学校体育館長寿命化工事
図面名　建築改修工事特記仕様書7
縮尺　A1：NS　A3：NS
図面番号　A－7
株式会社 桂設計　一級建築士登録 第324846号 長南 京子

8-2 コンクリート工事

鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法での型枠等
柱頭及び柱脚の隙間の寸法
・図示による(　　)　・
柱頭及び柱脚の隙間部間の型枠
・発泡プラスチック保温材等を埋込む

既存柱外周部あと打ちコンクリート又は構造体用モルタルの厚さ
・図示による(　　)　・
補強後の仕上げ
・図示による(　　)　・

8-3 鉄骨工事

1．鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力 <8.1.5>
※建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場
(　　)グレード以上
・監督職員の承諾する工場

2．鉄骨製作工場における施工管理技術者

・配置する　　・配置しない <8.1.6>

3．鋼材

種類等 <8.2.8、14>

種類の記号	適用箇所（主要な部分）	規　格
		・JISによる　・
		・JISによる　・
		・JISによる　・
		・JISによる　・
		・JISによる　・
		・JISによる　・

「板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験」
・行う　適用箇所：(　　)　・行わない

4．高力ボルト

高力ボルトの種類 <8.2.9><8.13.2><8.14.2>
※トルシア形高力ボルト
・JIS形高力ボルト

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示による（　　）　・
摩擦面の処理方法
・改修標準仕様書8.14.2(1)による。

・すべり試験の実施
・すべり係数試験　　・すべり耐力試験
すべり試験を実施する場合、改修標準仕様書8.14.2(1)(ｲ)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。

JIS形高力ボルトの締付け（本締め）
ナット回転法の場合で、ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量
・図示による(　　)　・

⑤ 普通ボルト

ボルト及びナットの材料 <8.13.2>(7.2.3)
・標準仕様書表7.2.3による
・JIS B 1180（六角ボルト）及びJIS B 1181（六角ナット）による
・JIS B 1180（六角ボルト）附属書JA（規定）及びJIS B 1181（六角ナット）附属書JA（規定）による
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示による(　　)　・
母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径
※ねじの呼び径+1.0mm　・

6．溶融亜鉛めっき高力ボルト

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 <8.13.2><8.14.2><8.20.5>
・図示による(　　)　・
摩擦面の処理方法
・ブラスト処理(表面粗度50μmRz以上)
・りん酸塩処理

・すべり試験の実施
・すべり係数試験　　・すべり耐力試験
すべり試験を実施する場合、改修標準仕様書8.20.5(1)(ｱ)又は(ｲ)による摩擦面の確認は、同一の作業条件のもとで作成した対比試験片により行うこと。

⑦ アンカーボルト

・構造用アンカーボルト (7.2.4)(7.3.2)
種類
・ABR400　・ABR490　・
・建方用アンカーボルト
種類
・SS400　・
アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
※標準仕様書 表7.2.3による　・
・標準仕様書7.2.4以外のアンカーボルト
適用箇所
・図示による（　　）　・
種類
・SS400　・
アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
※標準仕様書 表7.2.3による　・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示による（　　）　・

⑧ 溶接材料

溶接材料 <8.2.10>
・改修標準仕様書 8.2.10(1)(2)による

9．スタッド

種類等 <8.2.11>

呼 び 名	呼び長さ (mm)	適 用 箇 所
・16		
・19		
・22		

10．製作精度

<8.13.3>
鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6［鉄骨精度検査基準］に加えて、次による
通しダイアフラムの突合せ継手の食い違いの寸法
※H12建告第1464号第二号イ(2)による

アンダーカットの寸法
※H12建告第1464号第二号イ(3)による

食い違い仕口のずれの検査方法及び補強方法
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による

11．仮組

仮組を行う範囲 <8.13.10>
・図示による(　　)　・

12．溶接作業を行う技能資格者技量付加試験

試験の要領 <8.15.3>
・図示による(　　)　・

13．溶接接合

開先の形状 <8.15.4><8.15.7>
・図示による(　　)　・
・鋼製エンドタブを切断する部分
切断する箇所
・図示による(　　)　・
切断範囲
・鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線状に切断する。
なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。

切断面の仕上げ
・改修標準仕様書8.15.7(1)(ｶ)(b)②による

スカラップの形状
・図示による(　　)　・

14．入熱、パス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 <8.15.7><8.15.10>
・図示による(　　)　・
適用箇所
・図示による(　　)
・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部

15．溶接部の試験

平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 <8.15.12>
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2
受入検査による
・抜き取り検査①
※抜き取り検査②
JASS 6 付則 6［鉄骨精度検査基準］の付表3「溶接」に関する試験方法等
・JASS 6 10.4［受入検査］e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。
完全溶込み溶接部の超音波探傷試験
・工場溶接の場合
※全数
・工場現場溶接の場合
※全数

16．錆止め塗装

塗料の範囲 <7.4.3><8.17.2、4>
耐火被覆材の接着する面の塗装範囲
・図示による(　　)　・
耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲
※改修標準仕様書8.17.2(1)(ｱ)～(ｵ)による部分以外
・図示による(　　)　・
塗料の種別
・下記以外の鉄鋼面は、7章［塗装改修工事］による
・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別
※As種　・
・耐火被覆材が接着する面の塗料の種別

17．耐火被覆

種類、材料、工法等 <8.18.2>～<8.18.8>

種　類	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール		
	・半乾式吹付けロックウール		
	・湿式ロックウール		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板		
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール		
・ラス張りモルタル塗り	—		
・耐火塗料	・		

18．アンカーボルト等の設置等

構造用アンカーボルトの形状及び寸法 (7.10.3)
・図示による(　　)　・
構造用アンカーボルトの保持及び埋込み
※適切な鋼製アンカーフレーム等を設置して固定する方法
・図示による(　　)　・
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法
種別
・A種　・B種
柱底均しモルタル厚さ及び工法の種別
厚さ

種別
※A種　・B種

19．鉄骨ブレース設置後の仕上げ

・図示による(　　)　・ <8.22.9>

8-4 あと施工アンカー工事

① あと施工アンカー

材料等 <8.2.4>
・金属系アンカー
・引張耐力　・　kN　・図示による(　　)
・せん断耐力　・　kN　・図示による(　　)
アンカー本体の径及び埋込み長さ
・図示による(　　)　・
セット方式　※本体打込み式改良型　・
接合筋の種類、径、長さ
・図示による(　　)　・
・性能確認試験
試験方法及び試験数
・図示による(　　)　・

※接着系アンカー
・引張耐力　・　8356N以上　・図示による(　　)
・せん断耐力　・　8261N以上　・図示による(　　)
アンカーの種類　※カプセル方式回転打撃式　・
接着剤の品質
※有機系　・無機系
アンカー筋の径及び埋込み長さ
・図示による(　　)　・
アンカー筋の種類

アンカー筋の新設壁内への定着の長さ
・図示による(　　)　・
・性能確認試験
試験方法及び試験数
・図示による(　　)　・

2．穿孔

埋込み配管等の探査方法 <8.12.4>
・鉄筋探知器(金属探知器)より探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しする。
・はつり出しによる

3．施工確認試験

試験方法 <8.12.7>
※引張試験機による引張試験
確認強度
・図示による(耐震補強共通図)　・

4．あと施工アンカー穿孔工法

※改修標準仕様書8.12.1（2）による。 <8.12.1>
・耐震改修部位に使用するD13以上のあと施工アンカーは、ケーシング又はダイヤモンドビット等を用いた低騒音工法を採用する。

8-5 グラウト工事

1．柱底均しモルタル及びグラウト材

・柱底均しモルタル <8.2.12>
※無収縮モルタル

・グラウト材
無収縮グラウト材の材質等

混和材	セメント系（酸化カルシウム及びカルシウム・サルフォ・アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。
セメント	JIS R 5210「ポルトランドセメント」に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする。
砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態は、規定しない。

無収縮グラウト材の品質及び試験方法

コンシステンシー	Ｊロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値　：　8±2秒
ブリージング	練り混ぜ2時間後のブリージング率　：　2.0%以下
凝結時間	凝結開始時間　：　1時間以上 終結時間　：　10時間以内
膨張収縮	材齢　7日　収縮しない
圧縮強度	材齢　3日　20.0 N/mm^{2}以上 材齢　28日　40.0 N/mm^{2}以上
塩化物量	0.30kg/m^3 以下
試験方法	1)NEXCO試験方法　試験法312-2024「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。 2)塩化物量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。

8-6 連続繊維補強工事

1．連続繊維シート

連続繊維の材料 <8.2.13><8.24.6>
・炭素繊維
・アラミド繊維

引張強度（含浸硬化後）
・(　　)N/mm^2　・
ヤング係数（含浸硬化後）
・(　　)N/mm^2　・
・下地処理
・ひび割れ部改修
範囲
・図示による（　　）　・
工法の種類

・柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ
・図示による（　　）　・

連続繊維補強材の強度試験
・引張強度試験
※JIS A 1191（コンクリート補強用FRPシートの引張試験方法）による

試験数量
・図示による（　　）　・
・付着強度試験
※JIS A 6909（建築用仕上塗材）による

試験数量
・図示による（　　）　・

2．仕上げ

補強工事後の仕上げ <8.24.7>
・図示による（　　）　・

8-7 耐震スリット新設工事

1．耐震スリットの方式、幅及び深さ

方式 <8.25.2>
・完全スリット　・部分スリット
幅及び深さ
・図示による(　　)　・
設置箇所
・図示による(　　)　・

2．耐震スリットの施工前の埋込み配管等の探査

既存撤去部の埋込み配管等の探査方法 <8.12.4>
・鉄筋探査機(金属探知機)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しする
・はつりだしによる

3．耐震スリット充填材の挿入及び周囲補修等

・耐火材 <8.25.2>
使用箇所及び仕様
・図示による(　　)　・
・遮音材
使用箇所及び仕様
・図示による(　　)　・
撤去部の補修
※撤去材と同一材で補修

8-8 土工事及び地業工事

1．埋戻し及び盛土

材料及び工法 <8.28.3>
・材料(　　)　工法(　　)
※改修標準仕様書表8.28.1による
・A種　適用場所(　　)
・B種　適用場所(　　)
・C種　適用場所(　　)
土質(　　)　受渡場所(　　)
・D種　適用場所(　　)
(品質　細粒分(75μm以下)の含有率(重量百分率)の上限を50%未満とする)

2．杭地業

<8.2.15><8.28.4>(4.3.8)
支持層の位置及び土質（基礎ぐいの先端位置含む）
・図示による(　　)　・
杭の材料、工法、寸法、施工方法等
・図示による(　　)　・
・試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法
・図示による(　　)　・
・杭の継手の箇所数、材料、工法等
・図示による(　　)　・
・杭の溶接継手
技能資格者の技量　・図示による(　　)　・
溶接部の確認　・図示による(　　)　・
・杭頭の処理
・処理しない
・処理する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
・図示による(　　)　・
・杭頭の中詰め材料
・基礎のコンクリートと同調合のもの　・
杭の精度
水平方法の位置ずれ
・杭径の1/4かつ100mm以下　・評定等の評価内容による

建て込み時の杭の鉛直度
・1/100以内　・評定等の評価内容による

記録する施工状況等
・図示による(　　)　・

特記事項	設計年月日　年　月　日	工 事 名	館矢間小学校体育館長寿命化工事	図 面 番 号
	管理技術者 / 担 当 者 / 作 図	図 面 名	建築改修工事特記仕様書8	縮 尺 A1: NS A3: NS
		株式会社 桂 設 計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子	A － 8

8-8 土工事及び地業工事

③ 砂利地業

材料 〈8.2.15〉〈8.28.4〉
㊟再生クラッシャラン　・切込砂利又は切込砕石
砂利厚さ

厚さ	適用箇所
※60mm	⊙土間スラブ下

4．捨コンクリート地業

捨コンクリートの厚さ 〈8.2.15〉〈8.28.4〉

厚さ	適用箇所
※50mm	・基礎下、基礎梁下、土間スラブ下　・

コンクリートの種別
・Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
・Ⅱ類（Ⅰ類以外でJIS A 5308に適合したコンクリート）
・
コンクリートの種類
・　※普通コンクリート
設計基準強度
※18N/mm2　・
スランプ
※15cm又は18cm　・

9 環境配慮改修工事

① 石綿含有建材の除去工事

施工調査 〈9.1.1、3～6〉
※石綿含有建材の事前調査
工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等によって石綿を含有している吹き付け材、成形板、建築材料等の使用の有無を調査する。
調査範囲（・　・図示　）
貸与資料（　）

・石綿粉じん濃度測定
測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定箇所数（各施工箇所ごと）
	測定 1	処理作業前	処理作業室内	・計　点
	測定 2		調査対象室外部の付近	・計　点
	測定 3	処理作業中	処理作業室内	・計　点
	測定 4		セキュリティーゾーン入口	・計　点
	測定 5		集じん・排気装置の排出口（処理作業室外の場合）	出口吹出し風速1m/sec以下の位置 ・計　点
	測定 6		処理作業室外 ・施工区画周辺 ・敷地境界	・計　点
	測定 7	処理作業後（シート養生中）	処理作業室内	・計　点
	測定 8	処理作業後（シート撤去後1週間以降）	処理作業室内	・計　点
	測定 9		調査対象室外部の付近	・計　点

測定方法
・自動測定器による測定

測定名称	測定方法
・測定 4 ・測定 5	粉じん相対濃度計（デジタル粉じん計）、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器（リアルタイムファイバーモニター）等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定

・JIS K 3850-1に基づいた測定

測定名称	メンブレンフィルタ直径(mm)	試料の吸引流量(L/min)	試料の吸引時間(min)
・測定 4 ・測定 5	25	5	30
・測定	25	10	120
・測定	47	10	240
・測定			

石綿含有建材の処理
・石綿含有吹付け材（石綿含有保温材等を切断又は破砕して除去する場合を含む）の除去
除去対象範囲
・図示による　・
除去工法
※改修標準仕様書9.1.3（2）(7)による

除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置
※湿潤化　・固形化
除去した石綿含有吹付け材等の処分
・埋立処分(管理型最終処分場)
・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

・石綿含有保温材等（石綿含有けい酸カルシウム板第二種含む）の除去
除去対象範囲
・図示による　・
除去工法
※手ばらし
除去した石綿含有保温材等の飛散防止
※湿潤化　・固形化
除去した石綿含有保温材等の処分
・埋立処分(管理型最終処分場)
・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

・石綿含有けい酸カルシウム板第一種の切断、破砕等による除去
除去対象範囲
・図示による　・
隔離養生（負圧不要）方法
・図示による　・
足場
・図示による　・
除去した石綿含有けい酸カルシウム板第一種の処分
・埋立処分(安定型最終処分場)
・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

⊙石綿含有成形板の除去（石綿含有けい酸カルシウム板第一種の手ばらしによる除去を含む。）
除去対象範囲
⊙図示による(仕上表)　・
除去した石綿含有成形板の処分
・石綿含有せっこうボード
※埋立処分(管理型最終処分場)
⊙石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板
・埋立処分(安定型最終処分場)
⊙中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
・

・石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板（下地調整材）の除去
除去対象範囲
・図示による　・
除去工法

養生方法

除去した石綿含有仕上塗材の処分
・埋立処分(安定型最終処分場)
・埋立処分(管理型最終処分場)
・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）

石綿含有建材除去後の仕上げ工事
・図示による　・

② 外断熱改修工事

断熱材 〈9.2.1～4〉
断熱材の種類

断熱材の厚さ(mm)

施工箇所
・図示による　・
ホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
外装材

種類	防火性能	備考

鋼材
改修特記仕様書第8章　8-3　鉄骨工事　・鋼材による
笠木
改修特記仕様書第3章　・アルミニウム製笠木による
既存外壁の処置
既存外壁仕上材の撤去
・行う　・行わない
下地面の清掃
・行う　・行わない
欠損部の改修工法
・改修特記仕様書第4章　外壁改修工事による

不陸等の下地調整

断熱材の施工
・断熱材製造所の仕様による
外装材の施工
・外装材製造所の仕様による
通気層の有無
・有（　mm）　・無
外装材の外壁への取付け
・図示による　・
笠木の施工
・改修特記仕様書第3章　アルミニウム製笠木による

③ 断熱・防露改修工事

〈9.3.2～4〉
フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
工法
⊙断熱材打込み工法
断熱材　JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材
種類　⊙3種b
厚さ(mm)　⊙t40
施工場所　⊙図示による
⊙断熱材現場発泡工法
断熱材の種類
・A種1　・A種1H　・
吹付け厚さ（mm）
・25　・30　⊙t50
施工箇所
⊙図示による　・

・断熱材後張り工法
断熱材　JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材
種類　・
厚さ(mm)　・
・断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル
材質　・
厚さ　・　(mm)
・張り付け工法
断熱材の張り付け工法　・
断熱材へのボードの張付け工法　・

4．屋上緑化改修工事

植栽基盤及び材料 〈9.4.2～4〉
・屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の種類等
※図示による　・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等
※図示による　・
かん水装置
・設置する（種類　・　）
既存保護層の撤去
・行う　・行わない
新植した芝及び地被類の枯補償の期間
※引渡しの日から1年

5．透水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装改修工事

適用範囲：歩道 〈9.5.2～5、9〉
既存舗装の撤去及び再利用
※図示による　・
路床
路床の材料

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種　※B種　・C種　・D種 ・建設汚泥から再生した処理土	・図示による
・凍上抑制層	※再生クラッシャラン ・クラッシャラン ・切込み砂利 ・砂	・図示による
・フィルター層	※砂	・図示による

（凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験）
・行う　※行わない
・路床安定処理
・適用する　・適用しない
安定処理の方法
・置き換え工法
・安定処理工法
路床安定処理用添加材料
種類
※普通ポルトランドセメント
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
・生石灰（・特号　・1号）
・消石灰（・特号　・1号）
添加量
・　kg/m3　（目標CBR　・3以上　・　）
目標CBRを満足する添加量の確認方法
・安定処理土のCBR試験

・ジオテキスタイル
単位面積質量
・60g/㎡以上　・
厚さ(mm)
・0.5～1.0　・
引張強さ
・98N/5cm（10kgf/5cm）以上　・
透水係数
・1.5×10^{-1} cm/sec以上　・
試験
路床土の支持力比（CBR）試験
・行う　※行わない
路床締固め度の試験
※行う　・行わない
現場CBR試験
・行う　・行わない
路盤
路盤の厚さ
・図示による　・
路盤材料（改修標準仕様書表9.7.3による種別）
・クラッシャラン
・粒度調整砕石
※再生クラッシャラン
・再生粒度調整砕石
・クラッシャラン鉄鋼スラグ
・粒度調整鉄鋼スラグ
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ
舗装の構成
※図示による　・
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験
・行う　※行わない
舗装の平たん性
※著しい不陸がないもの

10 ユニット及びその他の工事

1．フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構法	寸法（mm）	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重	表面仕上材
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500		・1.0G ※0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ

寸法精度
※標準仕様書20.2.2(2)(オ)(a)～(c)による
・以下による
パネルの長さの寸法精度
（　）
パネルの平面形状（精度）の寸法精度
（　）
フリーアクセスフロアの高さの寸法精度
（　）
帯電防止性能
・評価値（U）≧0.6以上
・評価値（U）≧1.2以上

2．可動間仕切

(20.2.3)

構造形式による種類	構成基材の種類 スﾀｯﾄﾞ	構成基材の種類 ﾊﾟﾈﾙ	パネル表面仕上げ	遮音性(dB/500Hz)	防火性能
・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式			・ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付又はｱｸﾘﾙ樹脂焼付 ・壁紙張り	・0 ・12 ・20 ・28 ※36	※不燃

パネル内に取付ける建具
・あり（※図示による　・　）
・なし
パネル内に取り付ける建具のドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。

表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。

パネル材料のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

3．移動間仕切

(20.2.4)

走行方向	操作方法による種類	パネル圧接装置の操作方法	総厚さ(mm)	パネル表面材 材質	パネル表面材 仕上げ	遮音性(dB/500Hz)
・平行方向移動式 ・二方向移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・ﾌﾟｯｼｭ式 ・ﾊﾝﾄﾞﾙ式		・鋼板	・焼付塗装 ・壁紙張り	・36未満 ※36以上

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能は標準仕様書19章による。

ハンガーレールの取付け下地の補強
※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する
・図示による

パネルをランナに取り付ける部品
※ランナに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの

ハンガーレール及びランナ
※パネル重量の5倍の荷重を、パネル１枚に使用するランナ数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの

④ トイレブース

(20.2.5)

表面材の材料	脚部種類	ドアエッジ材質	非常時外開き
㊟メラミン樹脂系化粧板（標準色） ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ	※製造所の仕様による ・アルミニウム製 ・ステンレス製	※適用する ・適用しない

⑤ 手すり

(20.2.6)
材料の種類及び仕上げ
⊙SUS304　表面処理　※HL程度
・鋼製　表面処理　溶融亜鉛めっき
（※標準仕様書表14.2.2による種別（　）種）
・アルミニウム　表面処理
（※標準仕様書表14.2.1による種別（　）種）
色合い　・標準色（　）　・特注色（　）

手すりの握り部分

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
・集成材（材種：　）	・クリアラッカー	・35程度 ・45程度		
⊙ビニル製		⊙35程度 ・45程度		

便所手すり
・L型手すり（樹脂被覆タイプ　700×700×120）
・可動手すり（樹脂被覆タイプ、はね上げタイプ（ロック付き）　L=700）
・固定手すり（樹脂被覆タイプ　800×800×230）

特記事項

設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

工事名	館矢間小学校体育館長寿命化工事
図面名	建築改修工事特記仕様書9
縮尺	A1: NS　A3: NS
株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子
図面番号	A － 9

10 ユニット及びその他の工事

⑥ 階段滑り止め

材種 (20.2.7)
※ステンレス製
・黄銅製押出型材
・アルミニウム製押出型材
⊙磁器質ﾀｲﾙ
形状
※タイヤ型(タイヤの材質：ゴム又は合成樹脂合等)
・タイヤレス型
寸法(幅)
・35mm程度　・40mm程度　⊙60mm程度
取付け工法
※接着工法
・埋込み工法

7. 黒板及び ホワイトボード

・黒板 (20.2.9)
区分
※焼き付け　・
種類
※鋼製黒板
・ほうろう黒板

色
※緑　・
・ホワイトボード

⑧ 鏡

取付け箇所（ ｱﾘｰﾅ、便所 ） (20.2.10)
寸法（mm）
⊙図示による　・
厚さ（mm）
※5　・

⑨ 表示

衝突防止表示 (20.2.11)
・設置する （設置場所：※図示による　・　）
形状・寸法（※30φ　・　）
材質　（※ステンレス製　・　）
⊙設置しない

誘導標識、非常用進入口等の表示
※消防法に適合する市販品　・

室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
(案内用図記号はJIS Z 8210による)
※図示による

10. タラップ

材質及び仕上げ (20.2.12)
・SUS304（スリップ止め加工　※あり　・なし　）
・鋼製　表面処理　溶融亜鉛めっき
（※標準仕様書表14.2.2による種別（※C種　・　種））

11. 煙突ライニング

適用安全使用温度 (20.2.13)

工法
※鋼製ユニット煙突(煙突用成形ライニング材)

12. ブラインド

(20.2.14)

形式	操作方法	操作方法の種類	ｽﾗｯﾄの種類	ｽﾗｯﾄ幅	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙの材種	幅・高さ取付箇所
・横形	・手動	※ギヤ式 ・ｺｰﾄﾞ式 ・操作棒式	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	※25	※鋼製	・図示による
	・電動	―				
・縦形	・手動	※2本操作ｺｰﾄﾞ式 ・1本操作ｺｰﾄﾞ式	・ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ ・ｸﾛｽｽﾗｯﾄ	・80 ・100	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	・図示による
	・電動	―				

縦型ブラインドのスラットの材質
・アルミスラット　焼付け塗装仕上げ
・クロススラット　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工

13. ロール スクリーン

(20.2.15)

操作方法	スクリーンの材種	その他の材料	幅・高さ取付箇所	品質等
・スプリング式 ・コード式 ・電動式	・ガラス繊維製 ・合成・天然繊維製 ・木製	※製造所の仕様	・図示による	

スクリーンの仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの

14. カーテン

(20.2.16)

形式		開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付け箇所
・ｼﾝｸﾞﾙ ・ﾀﾞﾌﾞﾙ	・片引き ・引分け	※手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ・ﾌﾟﾚｰﾝひだ		・図示による

生地の仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの
暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重なり
※300mm以上

15. カーテンレール

材料による区分 (20.2.16)
・アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材
※ステンレス製
強さによる区分
※10-90　・
仕上げ
※アルマイト　・
形状
※角形　・

16. ブラインドボックス及びカーテンボックス

材種
・集成材（仕上げ：　）
※アルミニウム製　押出し型材（市販品）
標準仕様書表14.2.1による種別
※BC-1種　・BC-2種
色合い
・標準色（　）　・特注色（　）
・鋼製（仕上げ：　）

⑦ 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※アルミニウム製	※450×450 ・600×600	・一般形	・屋内外用 ⊙屋内用	・額縁タイプ ※目地タイプ	・額縁タイプ ※目地タイプ
		・気密形			

⑱ 床点検口

材種	寸法	形式		備考
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ※600×600	※一般形 ・密閉形	・屋内外用 ⊙屋内用	⊙鍵付き

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。

19. 耐震スリット

方向	幅(mm)	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直	・25	・完全（全貫通型）	・耐火型 ・非耐火型	・あり ・なし	
・水平	・25				

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・シーリング材(見え掛かり部のみ)	・シーリング材(見え掛かり部のみ) ・シーリング材（内外とも）
目地寸法（mm）	・スリット幅×深さ10	・スリット幅×深さ10

目地材の材質は標準仕様書表9.7.1による

20. 止水材

形式
・据置式（水膨張製ゴム、膨張遅延型、W20×t10）
・差込式　・壁張り式
施工箇所
・図示による　・

21. くつふきマット

材種	受け枠	備考
※塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼（SUS304）製	※ステンレス鋼（SUS304） ・硬質アルミニウム合金	

22. 流し台ユニット

材種	寸法（mm） W	D	H	備考
・流し台	・1,200 ・1,500 ・1,800	・550 ・600 ・650	・800 ・850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
・コンロ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 バックガードあり 天板ステンレス製
・つり戸棚	・1,200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1,200 ・900 ・600	―	―	市販品 ステンレス製 ※1段式　・

形状
・図示による　・

23. 旗竿

材種	形式	高さ(m)	操作方法	固定方法	備考
※アルミニウム合金製	※テーパー式 ・同一断面式		※ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式	

24. 旗竿受金物

材種
※ステンレス製（SUS304）

25. 車止めさく

形式		材種	柱径、肉厚(mm)	高さ(mm)
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製		

26. フェンス

フェンスの種類
・ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス
・アルミフェンス
高さ
・図示による　・

27. プレキャストコンクリート

コンクリートの設計基準強度 (20.3.3、4)
※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m2を満足する調合強度
・図示による
配筋
※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する
・図示による
取付け方法
※図示による　・

28. 間知石及びコンクリート間知ブロック積み

(20.4.2、3)

	材種	種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	―	―	
・コンクリート間知ブロック	―		・A ・B	

積み方
※谷積み　・布積み
目塗り
・図示による　・
伸縮調整目地
材種
・図示による　・
厚さ
・図示による　・

29. 鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	JISによる種類
・鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・1種　・2種　・3種
・鋼製物品棚		・4種　・5種　・6種

30. 屋内掲示板

枠の材質
※アルミニウム製

表面の材質
※塩ビ発泡シート張り

㉛ 洗面カウンター

材種
⊙メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）
・人工大理石
奥行き(mm)
・約450　・約600　⊙図示による

32. 防煙垂れ壁

・固定式

材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考
※ 網入り磨き板ガラス ・ 線入り磨き板ガラス	※6.8	※500	アルミ製枠付き

・可動式

種類	材質	高さ(mm)	備考
・垂直降下式（巻取り型）	※不燃布 （不燃認定品）	※500 ・800	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800	表面仕上げ ※天井材張り

降下機構
煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

33. 屋外掲示板

照明器具
・あり　・なし
施錠
・あり　・なし
製造所

㉞ 収納家具

合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆　・
材質、形状、寸法
※図示による　・

㉟ 掃除用具掛け

⊙SUS製(Sｶﾝﾌｯｸ5個付き)

㊱ 既存家具補強

⊙既存木製家具一つに対してL型金具ﾋﾞｽ固定4か所

排水工事

11 総揮発性有機化合物（TVOC）測定

1. 一般事項

試料採取および測定は、厚生労働省の「室内空気中化学物質の測定マニュアル（統合版）」の最大濃度測定法による。

2. 測定対象化学物質

測定対象化学物質は、下記４ 1)，2)の区分に従い、表の①から⑭の１４物質及びＴＶＯＣ又は表の①から⑨の９物質及びＴＶＯＣとする。

3. 測定方法

1） クロマトグラム上で「n-ヘキサン」から「n-ヘキサデカン」までの部分に検出される物質のピーク値を「トルエン」に換算した値をＴＶＯＣ濃度とする。
2） トルエン換算で 2.0μg/m3未満のピークは測定の対象としない。
3） 上位１０ピークについて物質を特定して濃度の測定を行う。

表　測定対象化学物質及び室内濃度指針値

化学物質名	室内濃度指針値			
① ホルムアルデヒド	100	μg/m3	0.08	ppm
② トルエン	260	μg/m3	0.07	ppm
③ キシレン	200	μg/m3	0.05	ppm
④ エチルベンゼン	370	μg/m3	0.085	ppm
⑤ スチレン	220	μg/m3	0.05	ppm
⑥ パラジクロロベンゼン	240	μg/m3	0.04	ppm
⑦ テトラデカン	330	μg/m3	0.04	ppm
⑧ アセトアルデヒド	48	μg/m3	0.03	ppm
⑨ ノナナール	（暫定）41	μg/m3	0.007	ppm
⑩ フタル酸ジ-n-ブチル	17	μg/m3	0.0015	ppm
⑪ フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	100	μg/m3	0.0063	ppm
⑫ クロルピリホス	1	μg/m3	0.00007	ppm
⑬ ダイアジノン	0.29	μg/m3	0.00002	ppm
⑭ フェノブカルブ	33	μg/m3	0.0038	ppm
⑮ 総揮発性有機化合物（ＴＶＯＣ）	400	μg/m3	（暫定目標値）	

4. 測定する室

1） １４物質及びＴＶＯＣ濃度を測定する室等
・　室名：

2） ９物質及びＴＶＯＣ濃度を測定する室
・　室名：

・　屋外(周囲の建物から離れた場所１か所)

5. 測定結果等報告書の提出

次の事項を記載した報告書を２部提出する。
1） 測定結果（25℃換算値）
2） 試料採取時の状況（気温・湿度(屋外、室内)、天候、風の状況、日射進入状況、採取年月日・時間、窓の開閉状況、機械換気量、工事完成から試料採取までの日数）
3） 試料採取方法、測定方法、使用した測定機器
4） ＴＶＯＣ濃度の算出に使用したクロマトグラムの写し

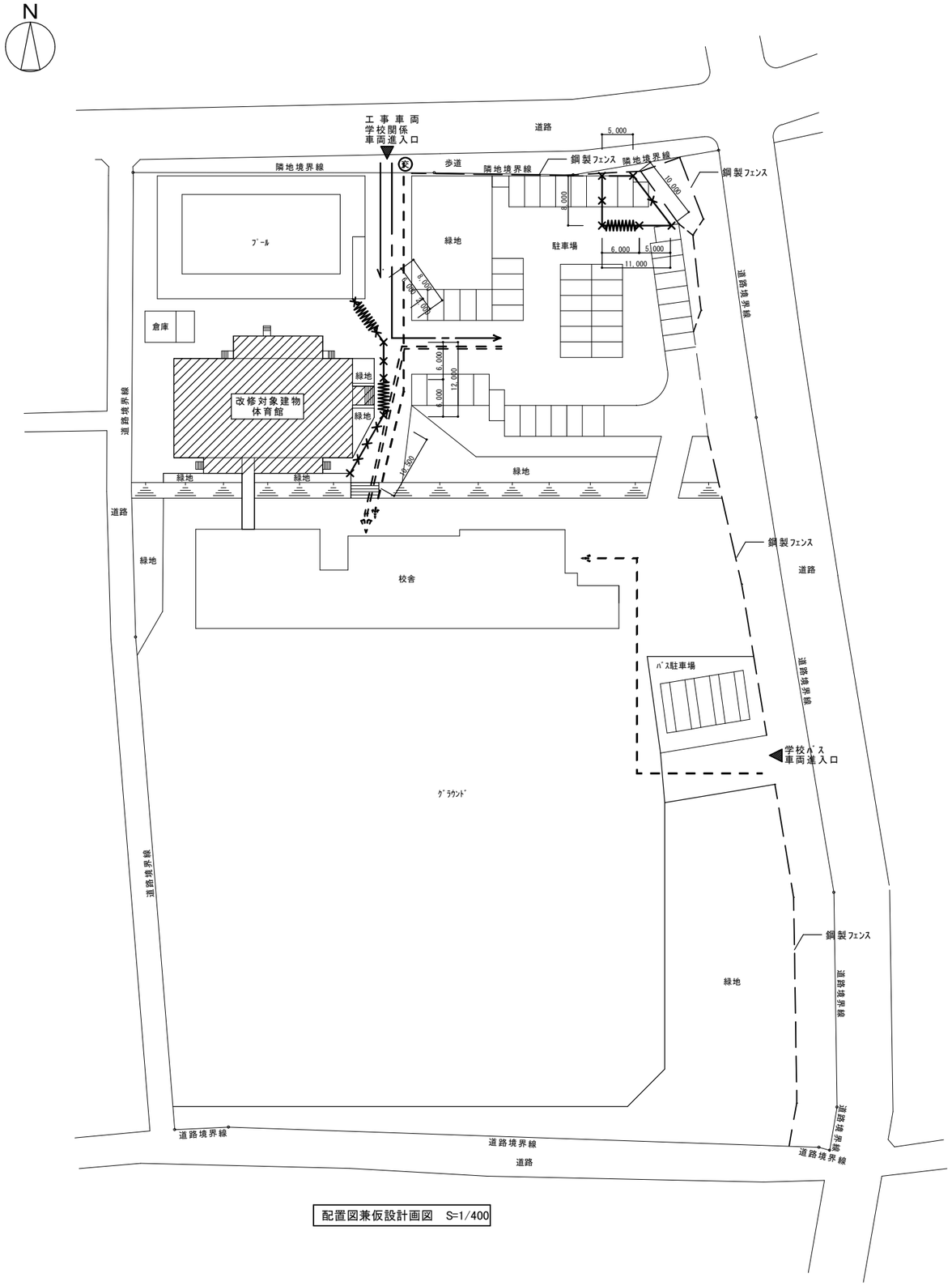
6. その他

表の化学物質①から⑤のうち、いずれかの物質の濃度が室内濃度指針値を超える場合は、工事目的物の引渡しを受けない。
ＴＶＯＣの測定の結果、暫定目標値を超える場合は、発生原因の究明及び汚染物質の発生を低減するための対策について、協議を行うこと。

特記事項

設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事
図面名	建築改修工事特記仕様書10
縮尺	A1: NS　A3: NS
株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子
図面番号	A－10



配置図兼仮設計画図　S=1/400

工事場所：丸森町舘矢間舘山字玉川地内

案内図　S=Non

図面凡例	
記号	内容
	工事車両動線を示す
	児童動線を示す
	職員車両動線を示す
	職員動線を示す

外部仮設凡例		
記号	内容	数量
	ｷｬｽﾀｰｹﾞｰﾄ　W6,000xH1,800を示す	3か所
	仮囲いﾒｯｼｭｼｰﾄ張り　H2,000を示す	46.5m
交	交通誘導員を示す(大型車両搬入時)	41日

特記事項

設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事	縮尺	図面番号
図面名	案内図・配置図兼仮設計画図	A1:　1/400 A3:　1/800	A － 11
株式会社 桂設計	一級建築士登録　第324846号　長南　京子		

外部仕上表　【屋内運動場】

区　分		仕　上
屋根	既存	屋根：長尺ｶﾗｰ鉄板瓦棒葺の上、ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t-0.4瓦棒葺(ｶﾊﾞｰ工法) 下地：ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ22kg　木毛ｾﾒﾝﾄ板t-25 その他：雪止め金物
	改修	既存のまま
下屋	既存	屋根：塩ﾋﾞｼｰﾄ防水(S-F2工法) 下地：ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ22kg　木毛ｾﾒﾝﾄ板t-20
	改修	既存のまま
庇	既存	塩ﾋﾞｼｰﾄ防水(S-F2工法)
	改修	既存のまま
外壁	既存	ｱﾝｸﾞﾙﾗｽ下地ﾓﾙﾀﾙ刷毛引きの上、複層塗材E
	改修	水洗いの上、可とう型改修塗材E 外壁劣化部：既存塗膜撤去の上、可とう型改修塗材E
巾木	既存	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押え 床下換気口：格子9φ　@100　W1,000xH250
	改修	水洗いの上、ﾓﾙﾀﾙ薄塗 床下換気口：既存撤去の上、無収縮ﾓﾙﾀﾙ開口閉塞　W1,000xH250

区　分		仕　上
軒天	既存	ｱｽﾍﾞﾆﾔt-5.0 VP(ｱｽﾍﾞｽﾄ含有)
	改修	下地調整(RB種)の上、EP塗替え 軒天破損部：既存仕上撤去の上、FKt-6.0　EP新設
樋	既存	屋内運動場屋根 軒樋：W150塩ﾋﾞ製樋、落葉除けﾈｯﾄ付 竪樋：VP100φ、SUS支持金物@900
		下屋・庇 軒樋：W120塩ﾋﾞ製樋 竪樋：VP100φ、SUS支持金物@900
	改修	屋内運動場屋根 軒樋：既存のまま 竪樋：既存のまま
		下屋・庇 軒樋：既存のまま 軒樋破損部：既存撤去の上、W120塩ﾋﾞ製樋新設 竪樋：既存のまま 竪樋破損部：既存撤去の上、VP100新設(SUS指示金物共)
通路鉄骨架台	既存	柱・桁：H200x100x5.5x8 OP、梁：2C-100x50x3.2 OP、架台：ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄt-1.6 OP
	改修	下地調整(RB種)の上、DP塗替え

区　分		仕　上
通路床	既存	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押え
	改修	水洗い清掃 通路床劣化部：既存仕上撤去の上、ﾓﾙﾀﾙ塗刷毛引きt-20
ﾎﾟｰﾁ・階段	既存	床：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押え 踏み面・蹴上：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押え 段鼻：磁器質ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟﾀｲﾙ貼
	改修	床：既存撤去の上、ﾓﾙﾀﾙ塗刷毛引きt-20 踏み面：既存撤去の上、ﾓﾙﾀﾙ塗刷毛引きt-20 蹴上：既存撤去の上、ﾓﾙﾀﾙ塗金ｺﾞﾃt-20 段鼻：既存撤去の上、磁器質ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟﾀｲﾙ貼新設
ｼｰﾘﾝｸﾞ	既存	外壁：化粧目地 20x10 ｻｯｼ廻り：外部ｻｯｼ廻り、水切り 15x15
	改修	外壁：既存ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去後 PU-2 20x10新設 ｻｯｼ廻り：既存ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去後、MS-2 15x15新設
その他	既存	花壇壁：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押えの上、複層塗材E 靴洗い場：人造石研ぎ出し 下足箱：木製W2,000xD300xH1,375
	改修	花壇：水洗いの上、可とう型改修塗材E 靴洗い場：水洗い清掃 下足箱：既存撤去の上、W2,000xD400xH1,395新設(耐水PVC製)

外部仕上表　【渡り廊下】

区　分		仕　上
屋根	既存	屋根：ｶﾗｰﾙｰﾌﾃﾞｯｷt-0.5 OP塗装 一部増設部分：ｶﾗｰﾙｰﾌﾃﾞｯｷt-0.5(既存屋根材にﾋﾞｽ止め) 梁、桁：2C-100x50x20 t-3.2
柱	既存	柱：2C-100x50x20x3.2　柱RC基礎立上り：180x250xH100
腰壁	既存	壁：耐水合板t-12.0 H=900 VP 胴縁：C-100x50x20 t-3.2
床	既存	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押え
その他	既存	手摺：半硬質製樹脂手摺　H=900

内部仕上表

階	室名		床 下地	床 高さ	床 仕上	幅木 仕上	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 高さ	天井 仕上	廻り縁 仕上	備考
	ｱﾘｰﾅ	既存	木製床	±0	耐水ﾍﾞﾆﾔ板t-5.5 ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｪﾙﾄ 17kg品敷き ﾌﾞﾅﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt-15 ｳﾚﾀﾝ系塗装	ﾗﾜﾝ材t-25 H=150 OP	S C	腰壁：FL+2,500まで 木下地組の上、 (ﾀﾃ胴縁75x45@900 ﾖｺ胴縁36x36@450) 有孔ﾗﾜﾝﾍﾞﾆﾔt-9.0 OP 壁：FL+2,500から 木下地組の上、 有孔ﾗﾜﾝﾍﾞﾆﾔt-5.5 OP ｽﾃｰｼﾞ枠：ﾗﾜﾝﾍﾞﾆﾔt-4.0の上、 ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張り ｽﾃｰｼﾞ下部： ｺﾍﾟﾝﾊｰｹﾞﾝﾘﾌﾞt-16.0 OSCL	S W S	— 2,500 —	木毛ｾﾒﾝﾄ板t-25表し 一部有孔ﾗﾜﾝﾍﾞﾆﾔt-5.0　OP 鉄骨部：梁・母屋表し　OP	— 木製　OP —	床下点検口600×600 2か所 ﾁｪｰﾝ可動ﾊﾞｽｹｯﾄｺﾞｰﾙ 1か所 壁面固定ﾊﾞｽｹｯﾄｺﾞｰﾙ 1か所 床金具：ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ2か所 ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ2か所 低鉄棒4か所 ｺｰﾄﾗｲﾝ：ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ用,ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ用 大型鏡：W1,800×H1,800 防球ﾈｯﾄ：ｽﾃｰｼﾞ前1か所 ｷｬｯﾄｳｫｰｸ前2か所 校歌・絵画：4か所
		改修	既存撤去の上、土間ｽﾗﾌﾞ打設後鋼製床新設	±0	既存撤去の上、 下地合板t-12.0+12.0 長尺弾性ｽﾎﾟｰﾂｼｰﾄｔ-6.2新設	既存仕上撤去の上、 木製 H=150 OSCL新設	S C 一部撤去の上、LGS新設	腰壁： 既存仕上撤去(木下地共)後、 硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付t-50、 木下地組の上、 GB-Rt-12.5下張り、 杉板材t-12.0 OSCL新設 壁： 既存仕上撤去(木下地共)の上、 硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付t-50、 木下地組の上、 有孔ｼﾅ合板t-9.0 OSCL新設 ｽﾃｰｼﾞ枠： 既存仕上撤去(ｸﾛｽのみ)の上、 ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ新設 ｽﾃｰｼﾞ下部： 下地調整(RB種)の上、OSCL塗替え	S W S	— 2,500 —	既存仕上の上、 断熱天井材t-25.0 (鉄骨母屋止め) 下地調整(RB種)の上、SOP塗替え 鉄骨部(梁のみ)： 下地調整(RB種)の上、 結露防止塗料塗 鉄骨ﾌﾞﾚｰｽ破損部：既存撤去後、ﾌﾞﾚｰｽ　DP新設	溶融亜鉛ﾒｯｷ鋼板廻り縁新設 下地調整(RB種)の上,OSCL塗替え —	床下点検口600×600 撤去・新設 2か所 ﾁｪｰﾝ可動ﾊﾞｽｹｯﾄｺﾞｰﾙ撤去1か所 壁面固定ﾊﾞｽｹｯﾄｺﾞｰﾙ撤去1か所 床金具：ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ撤去・新設2か所 ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ撤去・新設2か所 低鉄棒撤去4か所 ｺｰﾄﾗｲﾝ：ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ用,ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ用 ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ用新設 大型鏡：撤去・新設 防球ﾈｯﾄ：ｽﾃｰｼﾞ前1か所交換 ｷｬｯﾄｳｫｰｸ前2か所交換 校歌・絵画：取外し再取付4か所
	ｷｬｯﾄｳｫｰｸ	既存	W	±0	ﾌﾞﾅﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt-15	—	S	木下地組の上、 (ﾀﾃ胴縁75x45@900 ﾖｺ胴縁36x36@450) 有孔ﾗﾜﾝﾍﾞﾆﾔt-5.5 OP 鉄骨部：柱・ﾌﾞﾚｰｽ表し　OP	—	—	—	—	鋼製手摺　OP塗装 木製暗幕ﾎﾞｯｸｽ　OS塗装 ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ 手摺固定ﾊﾞｽｹｯﾄｺﾞｰﾙ 2か所
		改修	W	±0	既存仕上撤去の上、 ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt-15 UC塗装(3回塗)	—	S	壁： 既存仕上撤去(木下地共)の上、 硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付t-50、 木下地組の上、 有孔ｼﾅ合板t-9.0 OSCL新設 鉄骨部：下地調整(RB種)の上、DP塗替え	—	—	—	—	鋼製手摺：下地調整(RB種)の上、DP塗替え ﾌﾞﾚｰｽ補強追加(床持出し) 木製暗幕ﾎﾞｯｸｽ：下地調整(RB種)の上、OSCL塗替え ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ：既存のまま 手摺固定ﾊﾞｽｹｯﾄｺﾞｰﾙ 撤去2か所　新設4か所
	ｽﾃｰｼﾞ	既存	木製床	+1,000	耐水ﾍﾞﾆﾔ板t-5.5 ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｪﾙﾄ 17kg品敷き ﾌﾞﾅﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt-15　OS	ﾗﾜﾝ材t-25 H=100 OSCL	S	木下地組の上、 (ﾀﾃ胴縁75x45@900 ﾖｺ胴縁36x36@450) 有孔ﾗﾜﾝﾍﾞﾆﾔt-5.5 OP	—	—	ﾌﾞﾄﾞｳ棚天井根太60x40@140 OS ﾌﾞﾄﾞｳ棚天井大引90x90@910 OS	—	ｽﾃｰｼﾞ下台車、台車ﾚｰﾙ、吊ﾊﾞﾄﾝ 鋼製手摺　OP塗装 木製移動式階段　OS塗装
		改修	木製床	+1,000	既存仕上研磨の上、 UC塗替え(3回塗) 床劣化部：ﾊﾟﾃ補修の上、UC塗装(3回塗)	既存仕上撤去の上、 木製 H=100 OSCL新設	S	既存仕上撤去(木下地共)の上、 硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付t-50、 木下地組の上、 有孔ｼﾅ合板t-6.0 OSCL新設 ※②通りｱﾘｰﾅ側壁は ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付無し	—	—	下地調整(RB種)の上、OSCL塗替え	—	ｽﾃｰｼﾞ下台車、台車ﾚｰﾙ：撤去・新設 吊ﾊﾞﾄﾝ：撤去・新設 鋼製手摺：下地調整(RB種)の上、DP塗替え 木製移動式階段：撤去、ｱﾙﾐ製移動階段新設

階	室名		床 下地	床 高さ	床 仕上	幅木 仕上	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 高さ	天井 仕上	廻り縁 仕上	備考
	物置	既存	木製床	±0	耐水ﾍﾞﾆﾔ板t-5.5 ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｪﾙﾄ 17kg品敷き ﾌﾞﾅﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt-15　OS	ﾗﾜﾝ材t-25 H=75 OP	S	木下地組の上、 (ﾀﾃ胴縁75x45@900 ﾖｺ胴縁36x36@450) 有孔ﾗﾜﾝﾍﾞﾆﾔt-5.5 OP	S	—	木毛ｾﾒﾝﾄ板t-25表し	—	鋼製ﾀﾗｯﾌﾟ・手摺OP塗装 木製階段：OS塗装
		改修	木製床	±0	既存仕上研磨の上、 UC塗装(3回塗)	既存仕上撤去の上、 木製 H=75 OSCL新設	S	既存仕上撤去(木下地共)の上、 硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付t-50、 木下地組の上、 有孔ｼﾅ合板t-6.0 OSCL新設 ※②通りｱﾘｰﾅ側壁は ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付無し	S	—	既存仕上の上、 耐震断熱天井材t-20.0 (鉄骨母屋止め)	—	鋼製ﾀﾗｯﾌﾟ・手摺:下地調整(RB種)の上、DP塗替え 木製階段：下地調整(RB種)の上、OSCL塗替え
	控室	既存	木製床	±0	耐水ﾍﾞﾆﾔ板t-5.5 ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｪﾙﾄ 17kg品敷き ﾌﾞﾅﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt-15　OS	ﾗﾜﾝ材t-25 H=75 OP	S	木下地組の上、 (ﾀﾃ胴縁75x45@900 ﾖｺ胴縁36x36@450) 有孔ﾗﾜﾝﾍﾞﾆﾔt-5.5 OP	S	—	木毛ｾﾒﾝﾄ板t-25表し	—	鋼製ﾀﾗｯﾌﾟ OP塗装 木製階段：OS塗装
		改修	木製床	±0	既存仕上研磨の上、 UC塗装(3回塗)	既存仕上撤去の上、 木製 H=75 OSCL新設	S	既存仕上撤去(木下地共)の上、 硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付t-50、 木下地組の上、 有孔ｼﾅ合板t-6.0 OSCL新設 ※②通りｱﾘｰﾅ側壁は ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付無し	S	—	既存仕上の上、 耐震断熱天井材t-20.0 (鉄骨母屋止め)	—	鋼製ﾀﾗｯﾌﾟ:下地調整(RB種)の上、DP塗替え 木製階段：下地調整(RB種)の上、OSCL塗替え
	更衣室(女子)	既存	C	±0	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃの上、ｶﾗｸﾘｰﾄ仕上	ﾗﾜﾝ材t-25 H=75 OP	C、S	ｼﾅﾍﾞﾆﾔt-6.0	W	2,200	有孔GB-Rt-9.0 EP	塩ﾋﾞ製	木製棚：3か所
		改修	C	±0	既存のまま	既存仕上撤去の上、 木製 H=75 OSCL新設	C、S	既存仕上撤去の上、 GB-Rｔ12.5下張り、 ｼﾅ合板t-6.0　OSCL新設	既存撤去の上、LGS新設	2,200	既存仕上撤去の上、 GB-Dt-9.5新設	既存撤去の上、 塩ﾋﾞ製新設	木製棚：耐震金具取付
	更衣室(男子)	既存	C	±0	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃの上、ｶﾗｸﾘｰﾄ仕上	ﾗﾜﾝ材t-25 H=75 OP	C、S	ｼﾅﾍﾞﾆﾔt-6.0	W	2,200	有孔GB-Rt-9.0 EP	塩ﾋﾞ製	木製棚：3か所
		改修	C	±0	既存のまま	既存仕上撤去の上、 木製 H=75 OSCL新設	C、S	既存仕上撤去の上、 GB-Rｔ12.5下張り、 ｼﾅ合板t-6.0　OSCL新設	既存撤去の上、LGS新設	2,200	既存仕上撤去の上、 GB-Dt-9.5新設	既存撤去の上、 塩ﾋﾞ製新設	木製棚：1か所耐震金具取付 木製棚：2か所撤去 木製棚：2か所新設
	便所(女子)	既存	C	-100	防水ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃの上、ｶﾗｸﾘｰﾄ仕上	ﾓﾙﾀﾙ塗金ｺﾞﾃ VP	C、CB	ﾓﾙﾀﾙ塗金ｺﾞﾃ VP	W	2,300	ｱｽﾍﾞﾆﾔt-5.0 VP(ｱｽﾍﾞｽﾄ含有)	—	
	便所(男子)	既存	C	-100	防水ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃの上、ｶﾗｸﾘｰﾄ仕上	ﾓﾙﾀﾙ塗金ｺﾞﾃ VP	C、CB	ﾓﾙﾀﾙ塗金ｺﾞﾃ VP	W	2,300	ｱｽﾍﾞﾆﾔt-5.0 VP(ｱｽﾍﾞｽﾄ含有)	—	ﾗｲﾆﾝｸﾞ撤去
	便所(女子)	改修	既存撤去の上、C新設	±0	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃの上、FSt-2.0新設 (超防汚仕様)	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100　新設	C 一部既存撤去の上、LGS新設	既存塗膜除去の上、ﾓﾙﾀﾙ薄塗、 ﾒﾗﾐﾝ化粧板t-3.0新設 GB-St-12.5の上、 ﾒﾗﾐﾝ化粧板t-3.0新設	既存撤去の上、LGS新設	2,200	既存仕上撤去の上、 GB-Dt-9.5新設	塩ﾋﾞ製新設	ﾗｲﾆﾝｸﾞ・手洗いｶｳﾝﾀｰ新設、鏡新設 L型手摺新設
	便所(多目的)	改修	既存撤去の上、C新設	±0	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃの上、FSt-2.0新設 (超防汚仕様)	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=300　新設	LGS新設	GB-St-12.5の上、 ﾒﾗﾐﾝ化粧板t-3.0新設	既存撤去の上、LGS新設	2,200	GB-Dt-9.5新設	塩ﾋﾞ製新設	ﾗｲﾆﾝｸﾞ・手洗いｶｳﾝﾀｰ新設、 SUS枠耐食鏡新設、 L型手摺新設、跳上げ手摺新設
	前室	改修	既存撤去の上、C新設	±0	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃの上、FSt-2.0新設 (超防汚仕様)	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100　新設	LGS新設	GB-St-12.5の上、 ﾒﾗﾐﾝ化粧板t-3.0新設	既存撤去の上、LGS新設	2,200	既存仕上撤去の上、 GB-Dt-9.5新設	塩ﾋﾞ製新設	SUS製掃除用具掛け34φ新設 (Sｶﾝﾌｯｸ5個付き)
	便所(男子)	改修	既存撤去の上、C新設	±0	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃの上、FSt-2.0新設 (超防汚仕様)	ﾋﾞﾆﾙ巾木 H=100　新設	C、CB 一部既存撤去の上、LGS新設	既存塗膜除去の上、ﾓﾙﾀﾙ薄塗、 ﾒﾗﾐﾝ化粧板t-3.0新設 GB-St-12.5の上、 ﾒﾗﾐﾝ化粧板t-3.0新設	既存撤去の上、LGS新設	2,200	既存仕上撤去の上、 GB-Dt-9.5新設	塩ﾋﾞ製新設	ﾗｲﾆﾝｸﾞ・手洗いｶｳﾝﾀｰ新設、鏡新設 SUS枠耐食鏡新設、L型手摺新設

□共通事項

1．下地区分
　Ｃ：コンクリート下地、ＣＢ：コンクリートブロック下地、Ｍ：モルタル下地、Ｓ：鉄骨下地、
　ＬＧＳ：軽量鉄骨下地、Ｗ：木下地、鋼製床：鋼製床下地、木製床：木製床下地+ＲＣ束石
2．壁のＧＢ－Ｒ張りは、突付け（Ｖ目地）とする。ただし、壁紙張り等の場合は継ぎ目処理工法とする。
　壁合板及びＦＫ張りは目透し張りとする。
3．天井仕上ボード張りのうち、ＧＢ－Ｄ、ＧＢ－ＮＣ、ＤＲ、ＤＲ（凸凹）は突付張りとする。
　天井合板及びＦＫ張りは目透し張りとする。
4．床仕上げが異なる場合はアルミ製床見切り又は沓摺りを設ける。
5．カーテンＢＯＸ、ブラインドＢＯＸ、カーテンレール、ブラインド、天井点検口等の位置は天井伏図による。
6．使用材料は全てＦ☆☆☆☆を使用し、クロルピリホス含有建材は使用しない。
7．天井高さは、床仕上げからの高さとする。
8．床高さはＦＬよりの高さとする。
9．有孔合板は裏面寒冷紗張りとする。
10．ｽﾃｰｼﾞ・控室・物置の改修においては足場組においてﾍﾞﾆﾔでの床養生の上、施工する

改修工事撤去範囲共通事項（特記なき限り下記共通事項による）

1．下地撤去と記載のあるものは、付属する仕上材、巾木、廻り縁等撤去範囲とする
2．床仕上材撤去範囲の壁立上り部分は、補修範囲とする。
3．天井仕上材撤去範囲の廻り縁は、補修範囲とする。
4．天井のLGS下地撤去の際はインサート金物は特記なき限りそのままとする。
5．コンクリート面及び、モルタル面撤去を行う場合はカッター入れを行う。
6．モルタル塗り部幅木は目地棒20×10とする。
※補修方法は仕上表及び図中を参照とする。

□仕様材料略号

ＧＢ－Ｒ	せっこうボード
ＧＢ－Ｄ	化粧せっこうボード（トラバーチン模様）　準不燃
ＦＫ	無石綿セメントけい酸カルシウム板
ＦＫ－Ｐ	吸音用穴あき無石綿セメントけい酸カルシウム板
ＧＢ－Ｓ	シージングせっこうボード
ＧＢ－Ｐ	吸音用穴あきせっこうボード
ＦＳ	ビニル床シート
ＤＲ	ロックウール化粧吸音板（フラット）

□防火認定番号

仕上材	厚さ	不燃認定	準不燃認定	難燃認定
ＧＢ－Ｒ	12.5、15.0	ＮＭ－８６１９		
	9.5		ＱＭ－９８２８	
ＧＢ－Ｆ	12.5、15.0	ＮＭ－８６１５		
	21.0			
ＧＢ－Ｓ	9.5、12.5		ＱＭ－９８２６	
ＧＢ－Ｓ(不)	12.5	ＮＭ－９６３９		

仕上材	厚さ	不燃認定	準不燃認定	難燃認定
ＧＢ－Ｄ	12.5	ＮＭ－０１２７		
	9.5		ＱＭ－０５２４	
ＧＢ－ＮＣ	9.5	ＮＭ－０４４１		
ＤＲ	9.0	ＮＭ－８５９９		
ＤＲ（凸凹）	12.0、15.0	ＮＭ－８５９９		
ＦＫ	－	ＮＭ－８５７８		

□塗装略号

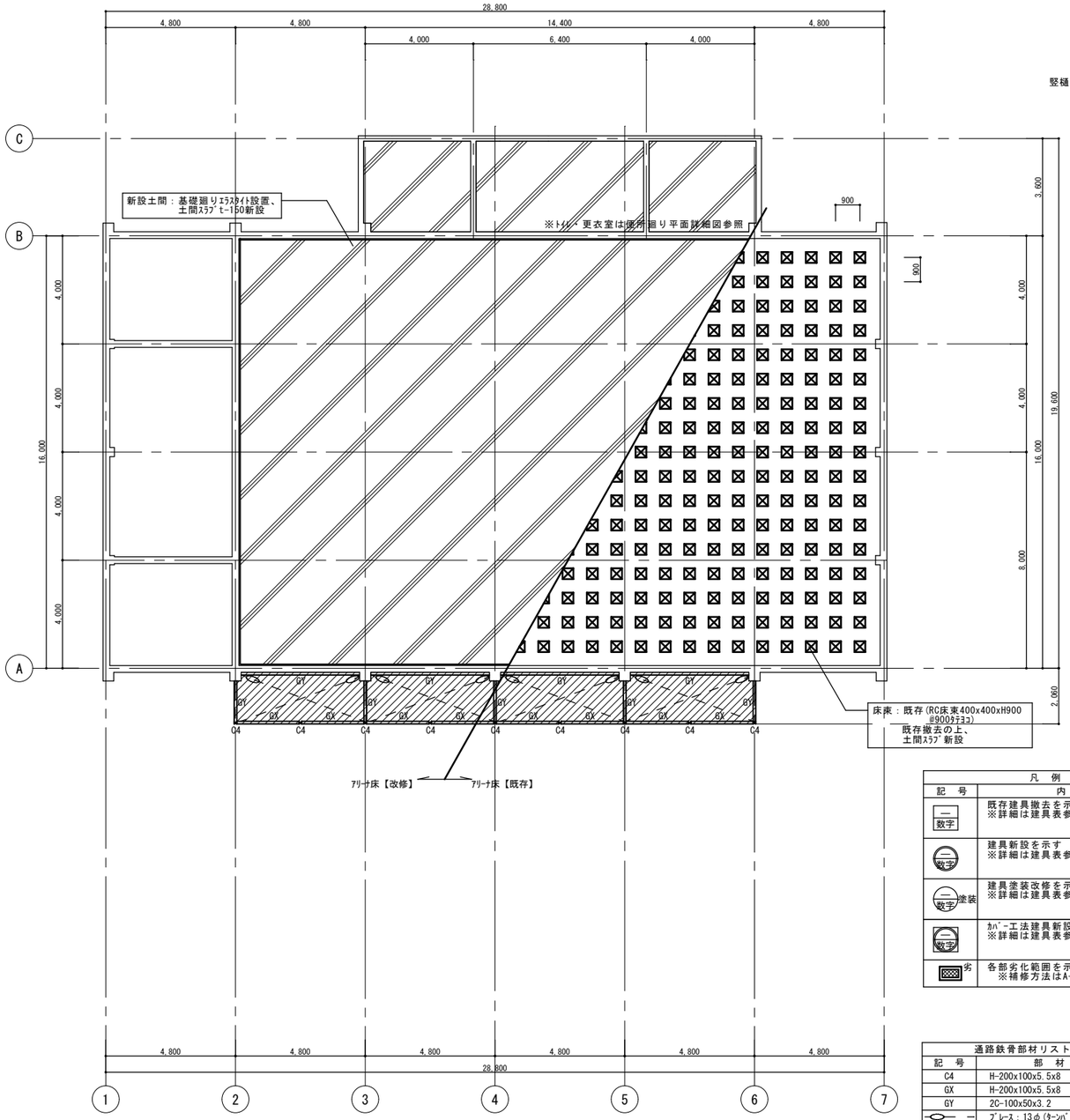
ＳＯＰ	合成調合樹脂ペイント塗り
ＤＰ	耐候性塗料塗り
ＥＰ－Ｇ	つや有り合成樹脂エマルジョンペイント塗り
ＥＰ	合成樹脂エマルジョンペイント塗り
ＡＥＰ	アクリル系エマルジョンペイント塗り
フッ素系塗料	二液形特殊フッ素樹脂屋根用塗料塗り
ＣＬ	クリアラッカー
ＵＣ	ウレタン樹脂ワニス塗り
ＶＰ	塩化ビニルエナメル樹脂塗装
ＯＳ	オイルステイン塗り
ＯＰ	オイルペイント塗り

その他

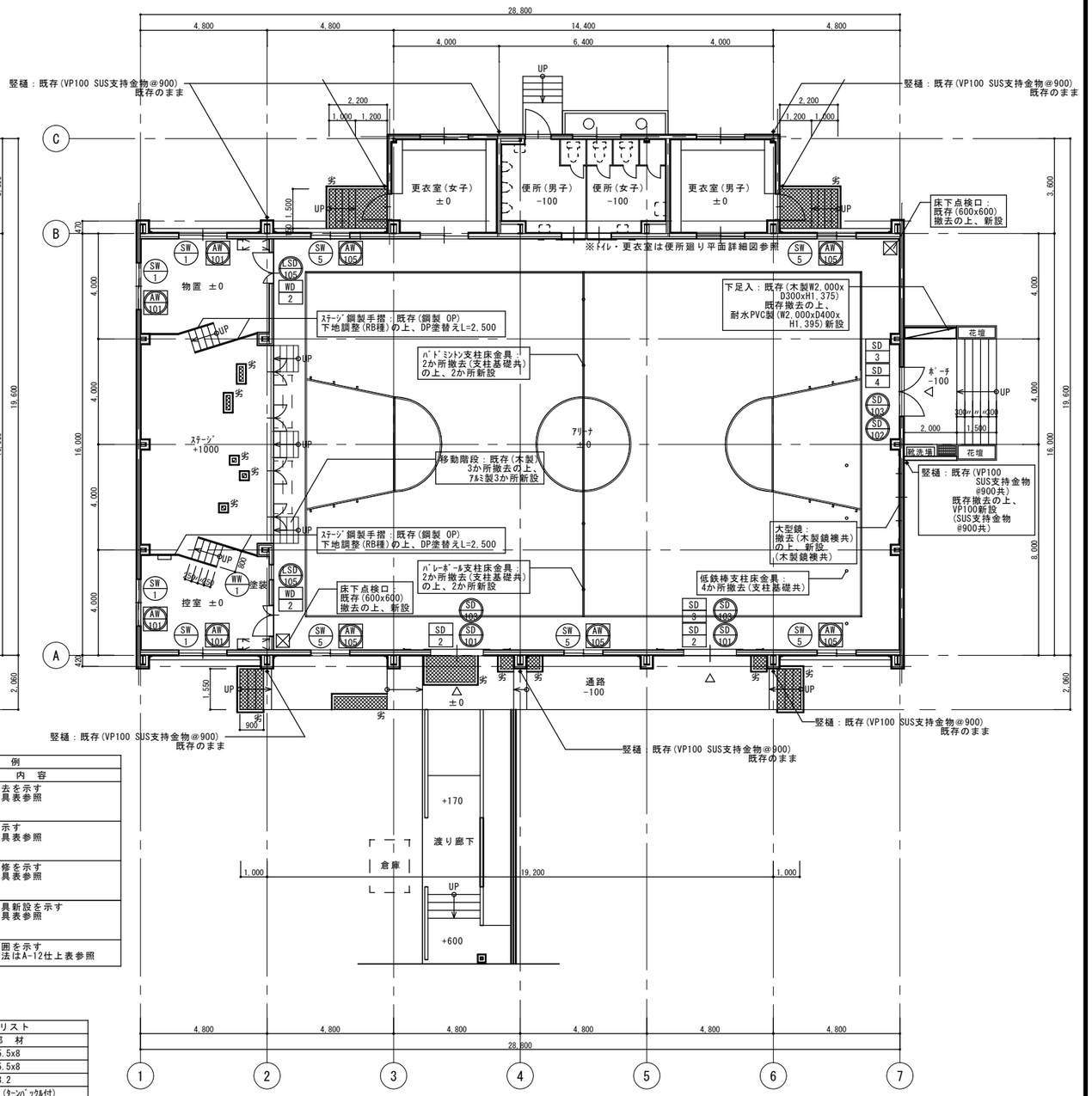
□：既存のままを示す
硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付：外壁側内壁内部全面に吹付とする

特記事項

設計年月日	年　月　日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事	図面番号
管理技術者 / 担当者 / 作図		図面名	仕上表	Ａ－１２
		縮尺	A1: NS　A3: NS	
		株式会社　桂設計	一級建築士登録　第324846号　長南　京子	



【既存・改修】床伏図 S=1/100



【既存・改修】1階平面図 S=1/100

凡　例	
記　号	内　容
一 数字	既存建具撤去を示す ※詳細は建具表参照
一 数字	建具新設を示す ※詳細は建具表参照
一 数字 塗装	建具塗装改修を示す ※詳細は建具表参照
一 数字	ｶﾊﾞｰ工法建具新設を示す ※詳細は建具表参照
劣	各部劣化範囲を示す ※補修方法はA-12仕上表参照

通路鉄骨部材リスト	
記　号	部　材
C4	H-200x100x5.5x8
GX	H-200x100x5.5x8
GY	2C-100x50x3.2
―	ﾌﾞﾚｰｽ：13φ(ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ付)
	通路床ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄt-1.6を示す
鉄骨部材は下地調整(RB種)の上、DP塗替とする	

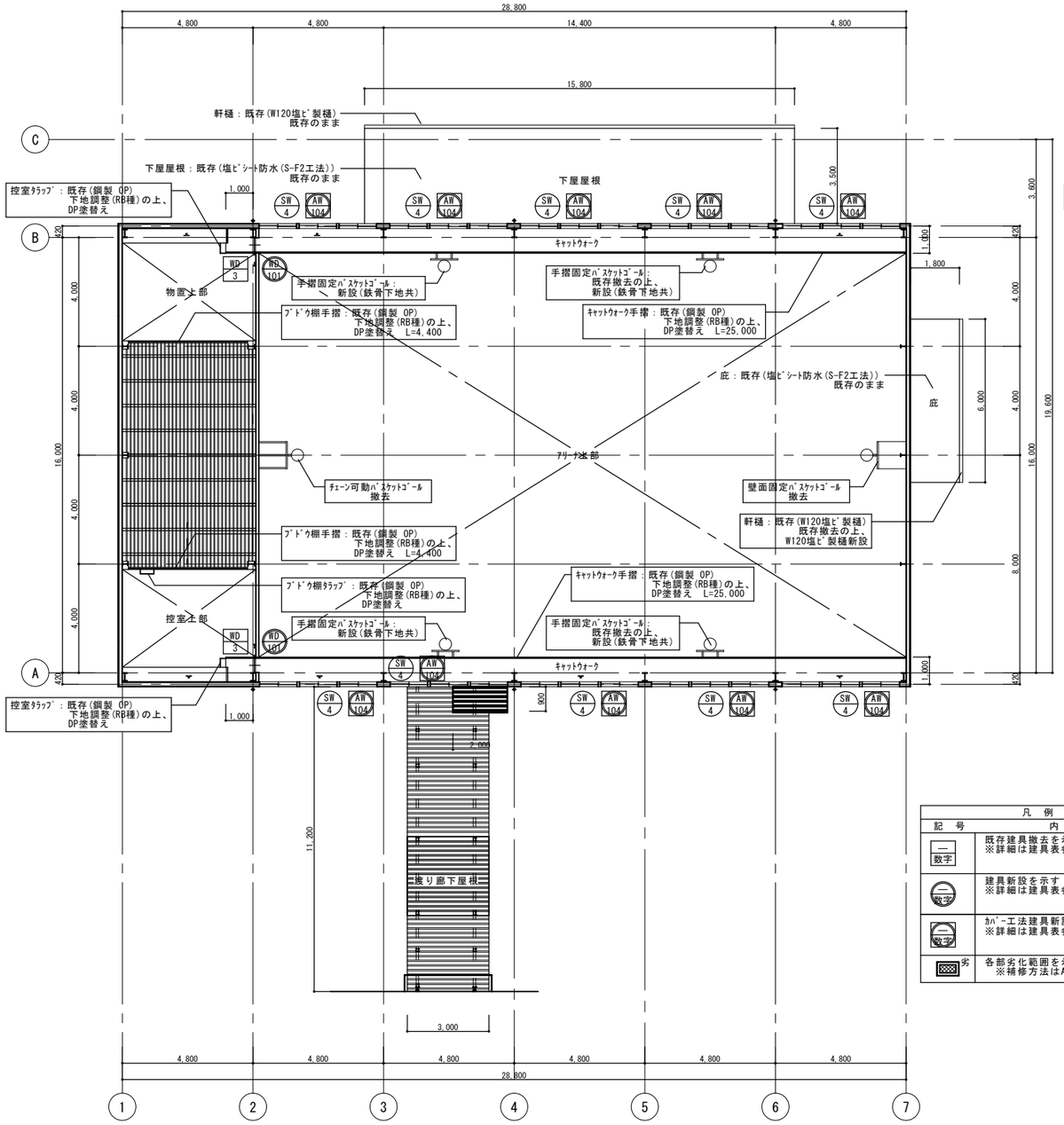
【参考】

内部仕上劣化部補修か所一覧表	
場所	部材と改修内容
ｽﾃｰｼﾞ	床：ﾌﾞﾅﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt-15 欠損
	ﾊﾟﾃ補修　W20xL=500　2ヶ所
	ﾊﾟﾃ補修　W20xL=100　3ヶ所

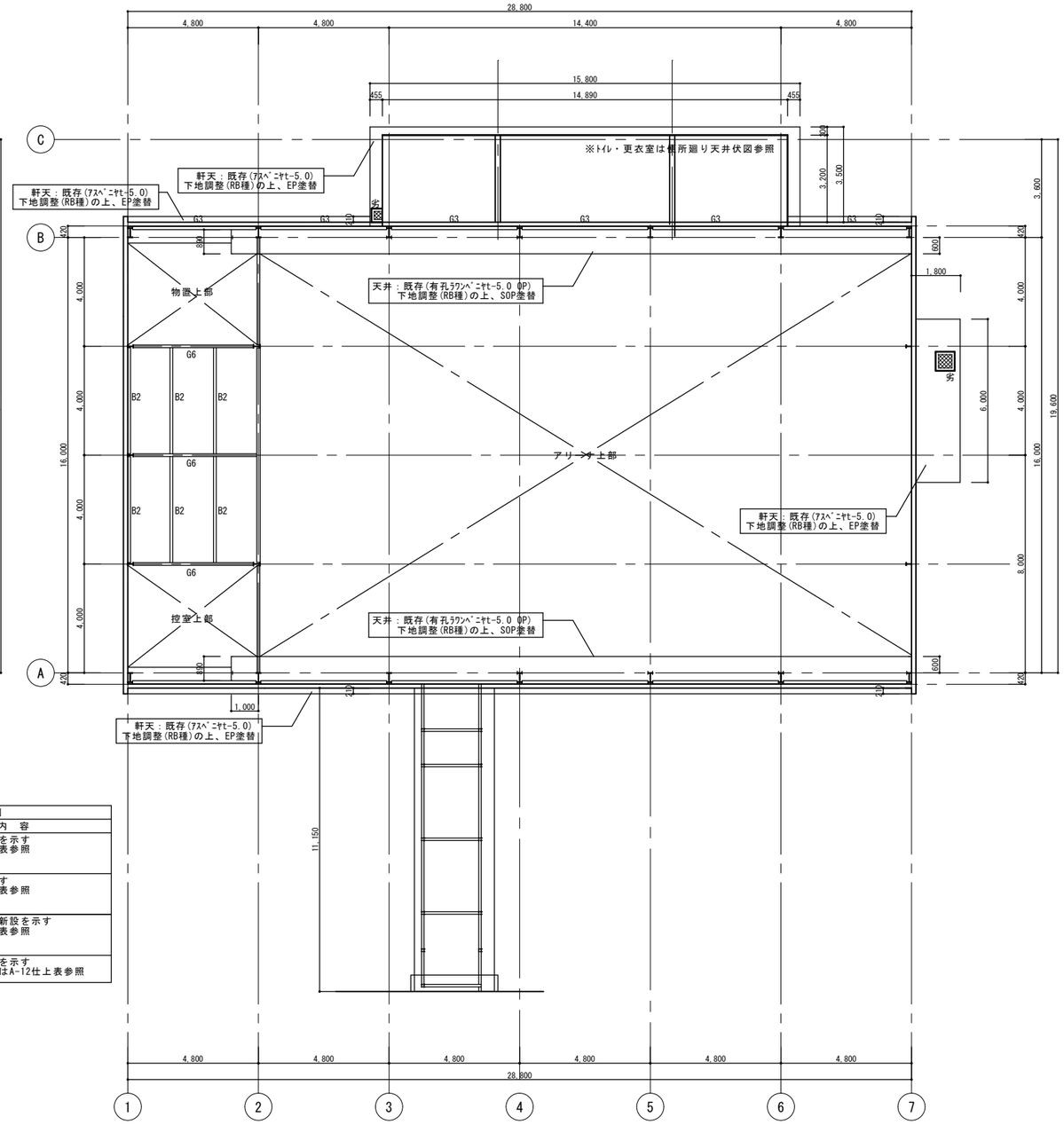
【参考】

外部仕上劣化部補修か所一覧表			
場所	部材と改修内容	場所	部材と改修内容
通路	床：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押え		
	既存仕上撤去の上、ﾓﾙﾀﾙ塗刷毛引きt-20　2,000ｘ500　1か所		
	既存仕上撤去の上、ﾓﾙﾀﾙ塗刷毛引きt-20　2,000ｘ1,000　1か所		
	既存仕上撤去の上、ﾓﾙﾀﾙ塗刷毛引きt-20　1,500ｘ2,200　2か所		
	既存仕上撤去の上、ﾓﾙﾀﾙ塗刷毛引きt-20　300ｘ300　1か所		
	既存仕上撤去の上、ﾓﾙﾀﾙ塗刷毛引きt-20　500ｘ500　3か所		
	既存仕上撤去の上、ﾓﾙﾀﾙ塗刷毛引きt-20　1,550ｘ900　3か所		

特記事項	設計年月日　年　月　日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事	図面番号
	管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【既存・改修】床伏図、1階平面図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子	A － 13



【既存・改修】中2階平面図 S=1/100



【既存・改修】中2階天井伏図、小屋伏図 S=1/100

凡　例	
記　号	内　容
一 数字	既存建具撤去を示す ※詳細は建具表参照
一 数字	建具新設を示す ※詳細は建具表参照
一 数字	ｶﾊﾞｰ工法建具新設を示す ※詳細は建具表参照
劣	各部劣化範囲を示す ※補修方法はA-12仕上表参照

体育館中2階鉄骨部材リスト	
記　号	部　材
G6	H-200x100x3.2x4.5
B2	H-200x100x3.2x4.5
鉄骨部材は下地調整(RB種)の上、DP塗替とする	

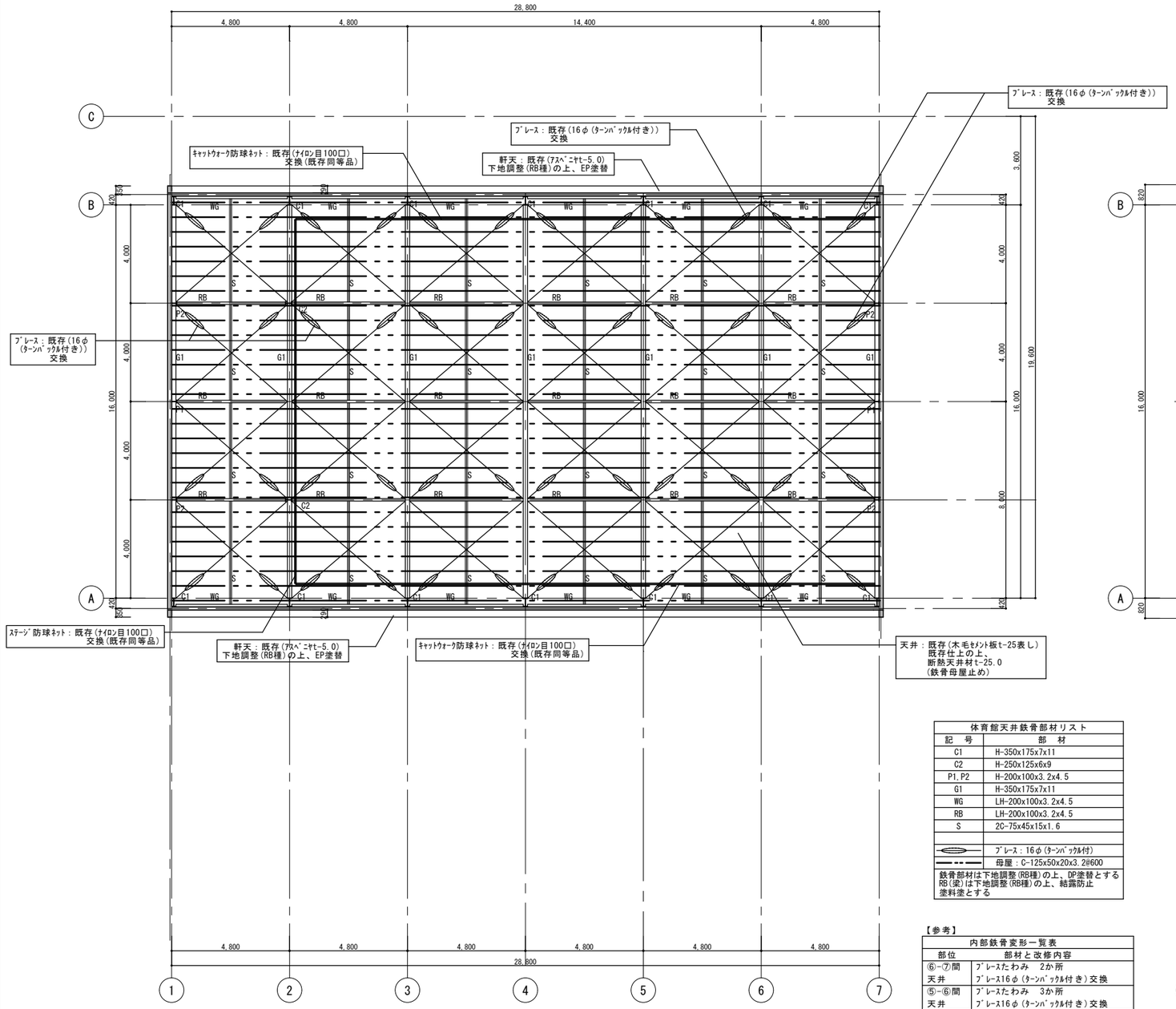
【参考】

外部仕上破損、劣化部補修か所一覧表	
場所	部材と改修内容
庇	軒天：ﾌｽﾍﾞﾆﾔﾋﾞ-5.0 VP 破損 既存仕上撤去の上、FK-t6.0 EP新設　900ｘ900　1か所
下屋	軒天：ﾌｽﾍﾞﾆﾔﾋﾞ-5.0 VP 破損 既存仕上撤去の上、FK-t6.0 EP新設　300ｘ900　1か所

特記事項

設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事		図面番号
図面名	【既存・改修】中2階小屋伏図、中2階平面図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	A － 14
株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子		

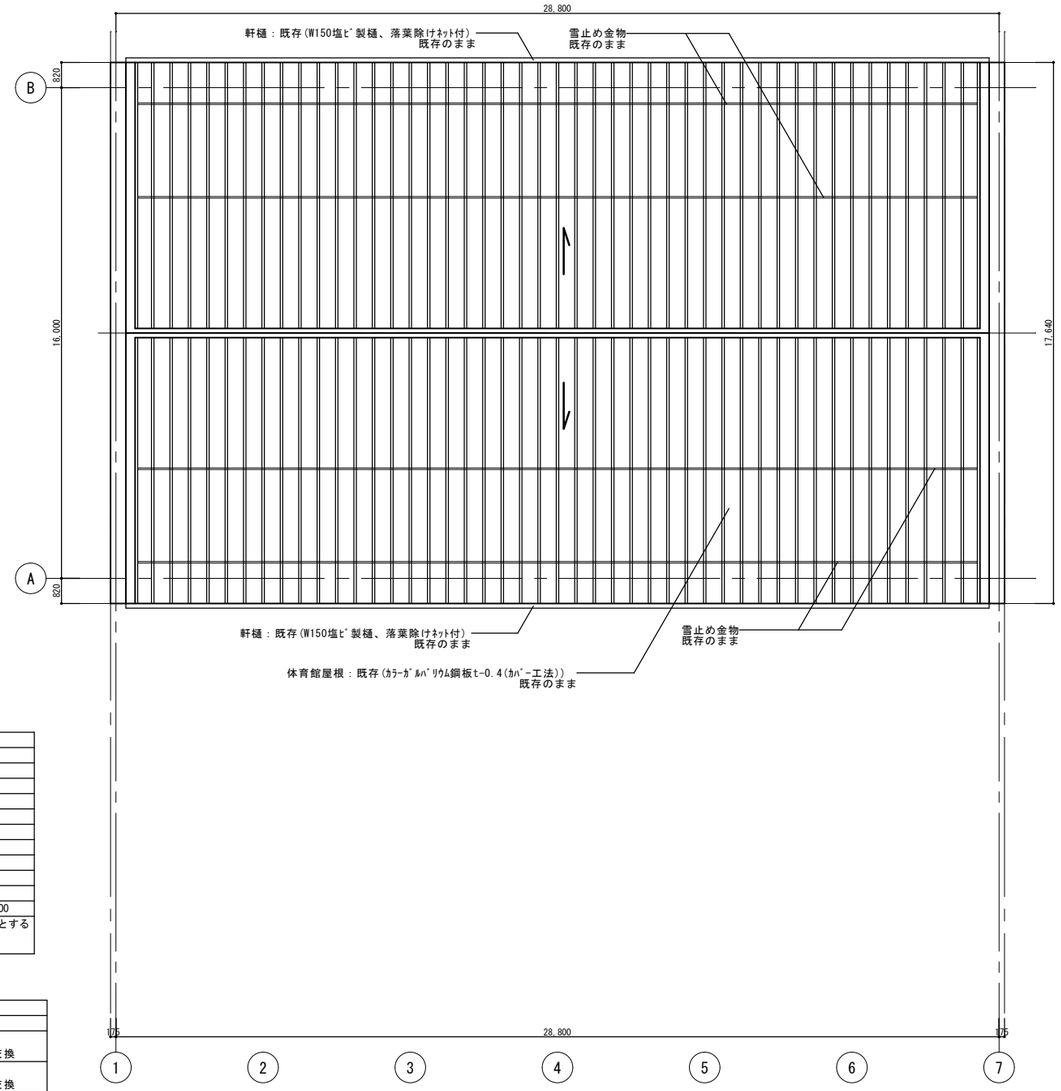


【既存・改修】天井伏図、小屋伏図 S=1/100

体育館天井鉄骨部材リスト	
記　号	部　材
C1	H-350x175x7x11
C2	H-250x125x6x9
P1,P2	H-200x100x3.2x4.5
G1	H-350x175x7x11
WG	LH-200x100x3.2x4.5
RB	LH-200x100x3.2x4.5
S	2C-75x45x15x1.6
	ﾌﾞﾚｰｽ：16φ(ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ付)
	母屋：C-125x50x20x3.2@600
鉄骨部材は下地調整(RB種)の上、DP塗替とする RB(塗)は下地調整(RB種)の上、結露防止 塗料塗とする	

【参考】

内部鉄骨変形一覧表	
部位	部材と改修内容
⑥-⑦間 天井	ﾌﾞﾚｰｽたわみ　2か所 ﾌﾞﾚｰｽ16φ(ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ付き)交換
⑤-⑥間 天井	ﾌﾞﾚｰｽたわみ　3か所 ﾌﾞﾚｰｽ16φ(ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ付き)交換
②-③間 天井	ﾌﾞﾚｰｽたわみ　1か所 ﾌﾞﾚｰｽ16φ(ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ付き)交換
①-②間 天井	ﾌﾞﾚｰｽたわみ　1か所 ﾌﾞﾚｰｽ16φ(ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ付き)交換

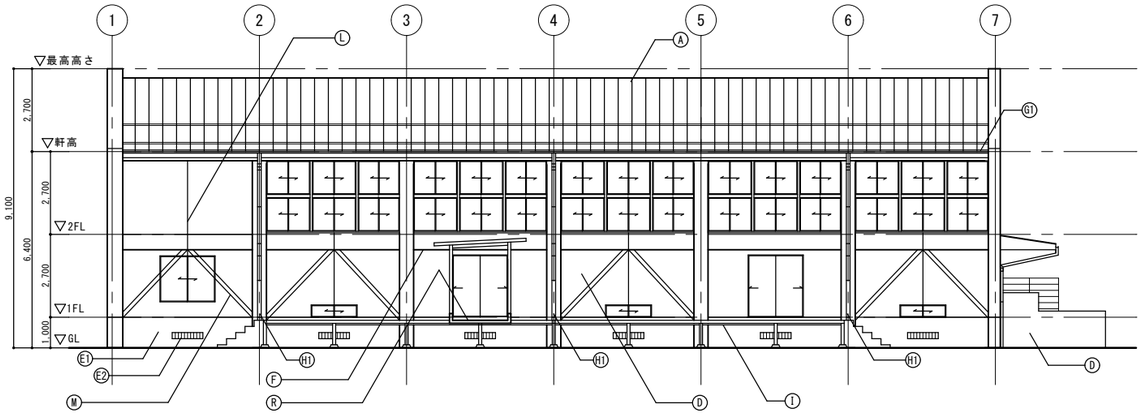


【既存・改修】屋根伏図 S=1/100

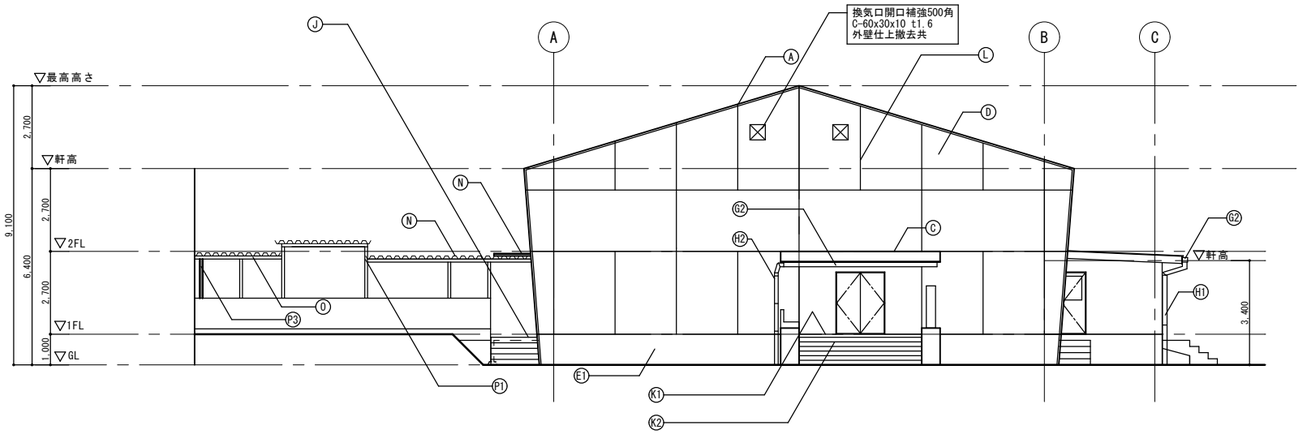
特記事項	設計年月日　年　月　日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事	図面番号
	管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【既存・改修】天井伏図、小屋伏図、屋根伏図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子	A － 15

【参考】外壁劣化数量表

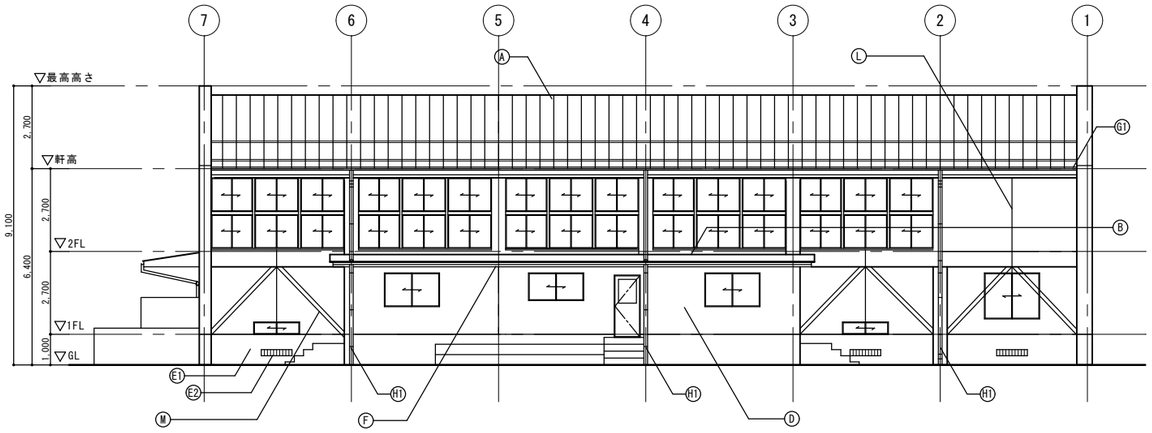
改　修　仕　様	東面	西面	南面	北面	合計	改　修　仕　様	東面	西面	南面	北面	合計
ひび割れ　幅0.20mm以上、1.0mm未満 Uｶｯﾄｼｰﾙ材充填工法　ﾗｽﾓﾙﾀﾙ部	1.35ｍ	2.91ｍ	4.1ｍ	22.7ｍ	31.1ｍ	浮き　0.1mx0.1m程度 ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ充填工法　RC部ﾓﾙﾀﾙ面	1か所	1か所	2か所	2か所	6か所
ひび割れ　幅1.0mmを超える Uｶｯﾄｼｰﾙ材充填工法　RC部	－ｍ	－ｍ	2.8ｍ	2.5ｍ	5.3ｍ	浮き　0.2mx0.2m程度 ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ充填工法　RC部ﾓﾙﾀﾙ面	1か所	－か所	2か所	－か所	3か所
欠損　0.1mx0.1m程度 ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ充填工法	－か所	－か所	－か所	－か所	－か所	浮き　0.2mx0.2mを超える ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ充填工法　RC部ﾓﾙﾀﾙ面	13.56㎡	－㎡	4.94㎡	9.86㎡	28.4㎡
欠損　0.2mx0.2m程度 ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ充填工法	－か所	－か所	－か所	－か所	－か所						
欠損　0.2mx0.2mを超える ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ充填工法	2.63㎡	－㎡	2.67㎡	4.73㎡	10.0㎡						



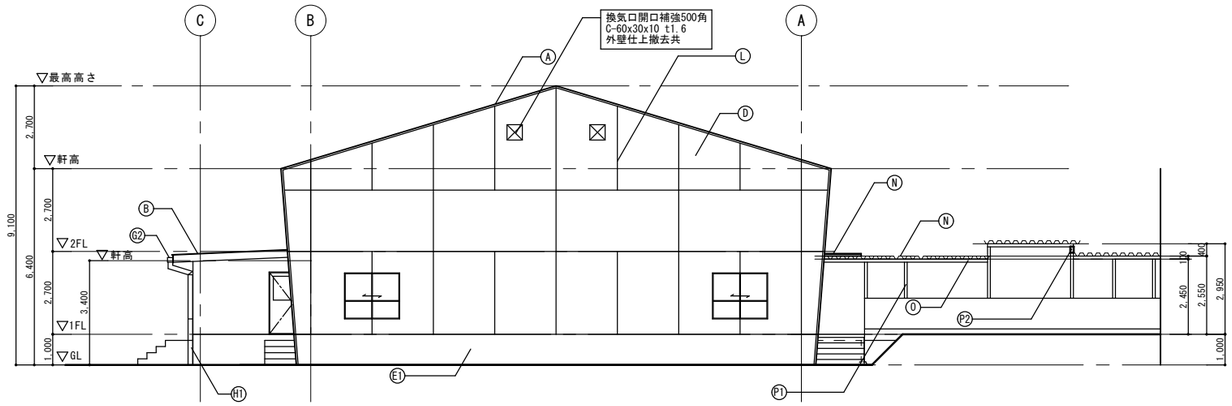
【既存・改修】南立面図 S=1/100



【既存・改修】東立面図 S=1/100



【既存・改修】北立面図 S=1/100



【既存・改修】西立面図 S=1/100

	記号	仕　様（既　存）	仕　様（改　修）
体育館	Ⓐ	体育館屋根:ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t-0.4(ｶﾊﾞｰ工法)	既存のまま
	Ⓑ	下屋屋根:塩ﾋﾞｼｰﾄ防水(S-F2工法)	既存のまま
	Ⓒ	庇:塩ﾋﾞｼｰﾄ防水(S-F2工法)	既存のまま
	Ⓓ	外壁:ｱﾝｸﾞﾙﾗｽ下地ﾓﾙﾀﾙ刷毛引きの上、複層塗材E	水洗いの上、可とう型改修塗材E 外壁劣化部:既存塗膜撤去の上、可とう型改修塗材E
	Ⓔ1	巾木:ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押え	水洗いの上、ﾓﾙﾀﾙ薄塗
	Ⓔ2	床下換気口:格子9φ　@100	既存撤去の上、無収縮ﾓﾙﾀﾙ開口閉塞W1000xH250
	Ⓕ	軒天:ｱｽﾍﾞﾆﾔt-5.0 VP	下地調整(RB種)の上、DP塗替え 軒天破損部:既存仕上撤去の上、FKt-6.0 EP新設
	Ⓖ1	軒樋:W150塩ﾋﾞ製樋、落葉除けﾈｯﾄ付	既存のまま
	Ⓖ2	軒樋:W120塩ﾋﾞ製樋	既存のまま 軒樋破損部:既存撤去の上、W120塩ﾋﾞ製樋新設
	Ⓗ1	竪樋:VPφ100　SUS支持金物@900	既存のまま
	Ⓗ2		竪樋破損部:既存撤去の上、VP100新設(SUS支持金物共)
	Ⓘ	通路鉄骨架台：梁・桁 H200x100x5.5x8 OP	下地調整(RB種)の上、DP塗替え
	Ⓙ	通路床：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押え	水洗い清掃 通路床劣化部:既存仕上撤去の上、ﾓﾙﾀﾙ薄塗刷毛引きt-20

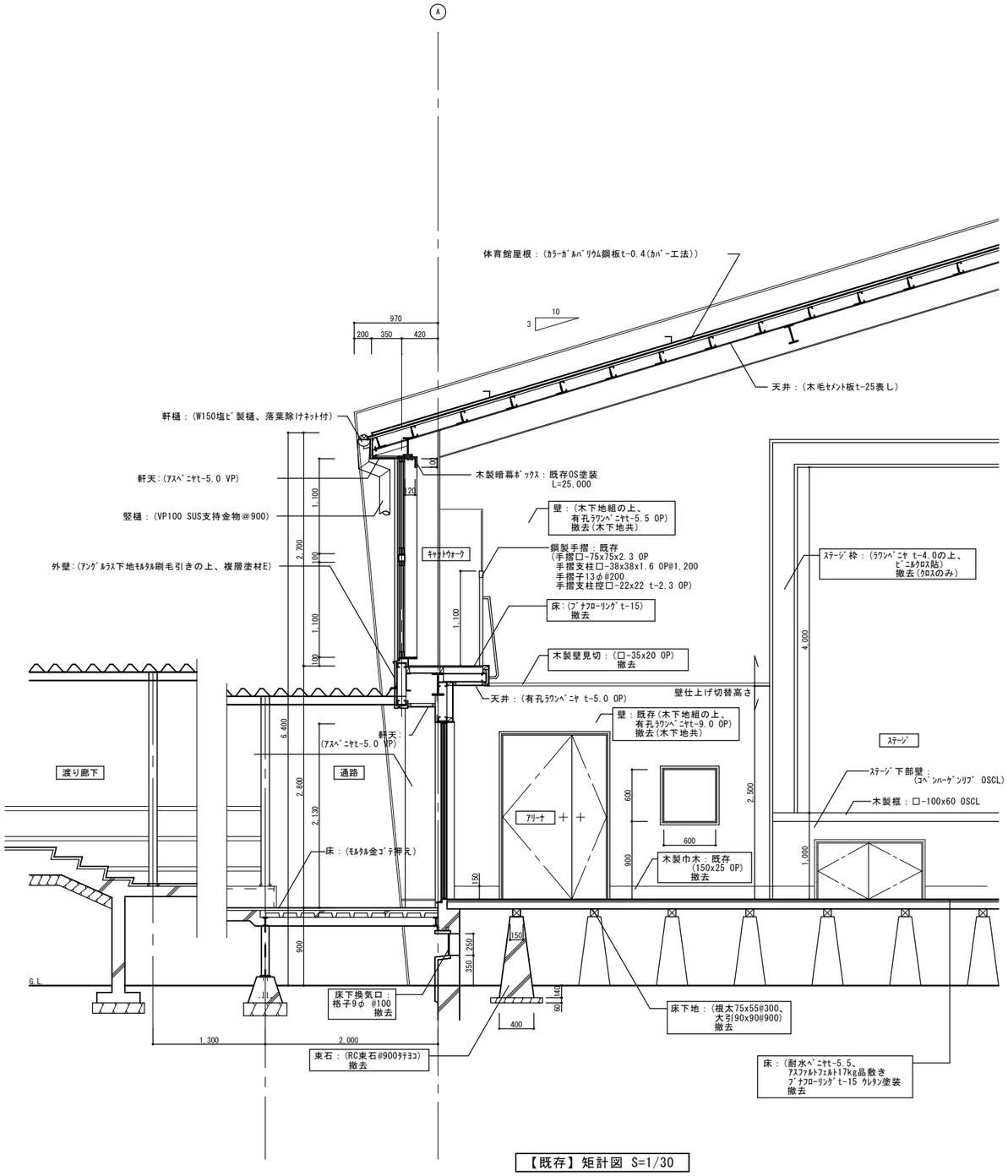
	記号	仕　様（既　存）	仕　様（改　修）
体育館	Ⓚ1	階段床：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押え	既存仕上撤去の上、ﾓﾙﾀﾙ塗刷毛引き仕上
	Ⓚ2	踏面・蹴上：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押え	既存仕上撤去の上、ﾓﾙﾀﾙ塗金ｺﾞﾃt-20
	Ⓚ3	段鼻：磁器質ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟﾀｲﾙ貼	既存仕上撤去の上、磁器質ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟﾀｲﾙ貼新設
	Ⓛ	ｼｰﾘﾝｸﾞ：化粧目地 20x10	既存ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去後PU-2 20x10新設
	Ⓜ	鉄骨：ﾌﾟﾚｰｽ L-75x75x3.2 OP	下地調整(RB種)の上、DP塗替え
渡り廊下	Ⓝ	渡り廊下屋根:ｶﾗｰﾙｰﾌﾃﾞｯｷt-0.5	
	Ⓓ	鉄骨：梁・桁 2C-100x50x20x3.2 OP	
	Ⓟ1	鉄骨：柱 2C-100x50x20x3.2 OP	
	Ⓟ2	鉄骨：柱 2C-100x50x20x3.2 OP	
	Ⓟ3	—	
	Ⓠ1	腰壁：耐水合板t-12.0 H900、下地胴縁C-100x50x20x3.2@600	
	Ⓠ2	—	
	Ⓡ	渡り廊下床：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押え	

特記事項

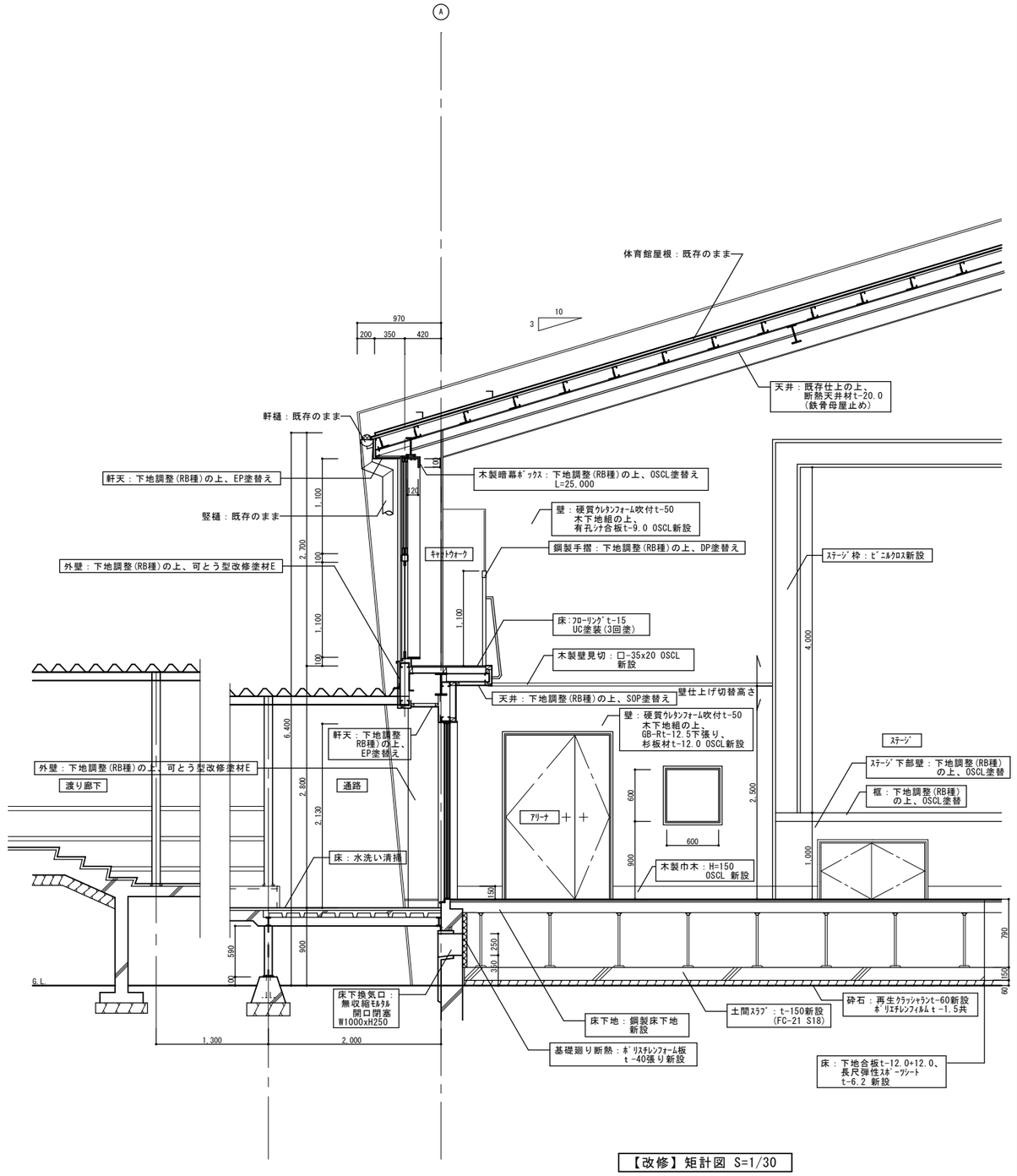
設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

工事名	館矢間小学校体育館長寿命化工事
図面名	【既存・改修】立面図
縮尺	A1: 1/100　A3: 1/200
図面番号	A － 16

株式会社 桂設計　一級建築士登録 第324846号 長南 京子

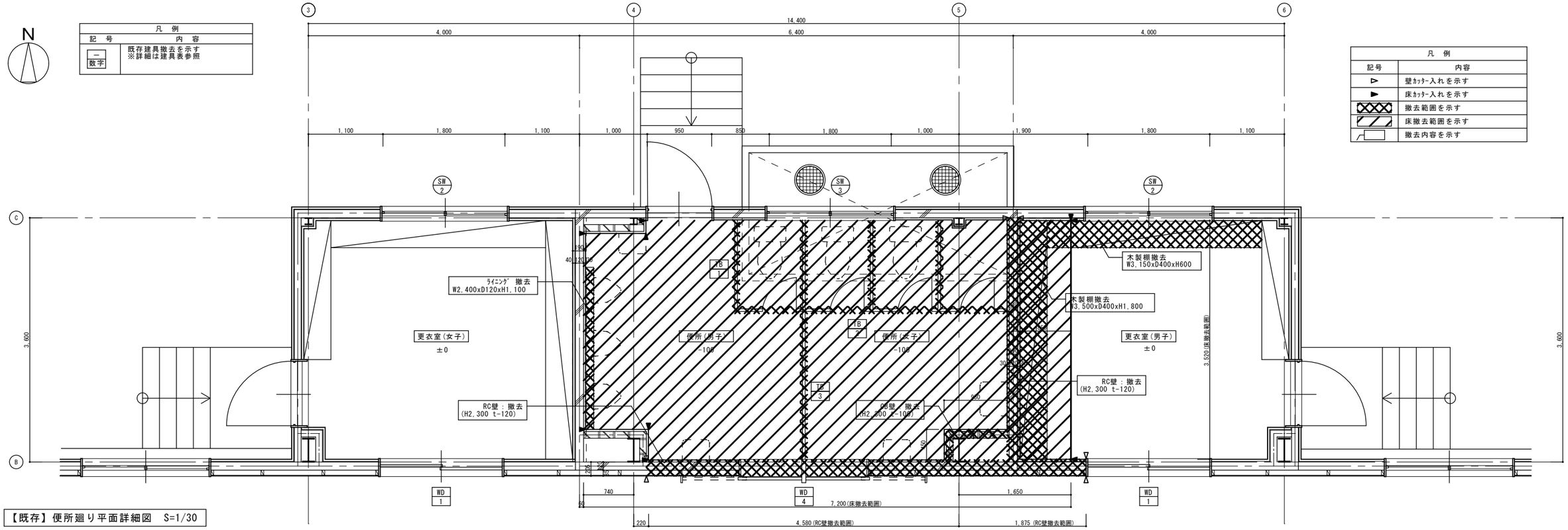


【既存】矩計図 S=1/30

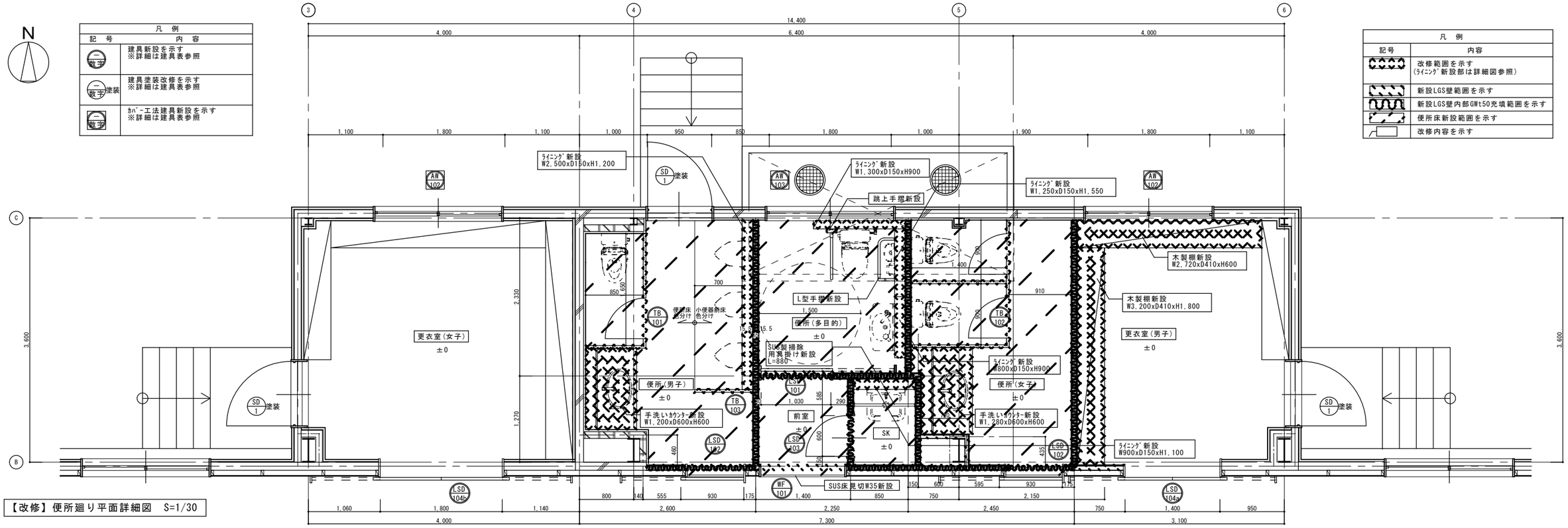


【改修】矩計図 S=1/30

特記事項		設計年月日 年 月 日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事	縮尺	図面番号
		管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【既存・改修】矩計図	A1: 1/30 A3: 1/60	A － 17
			株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子		



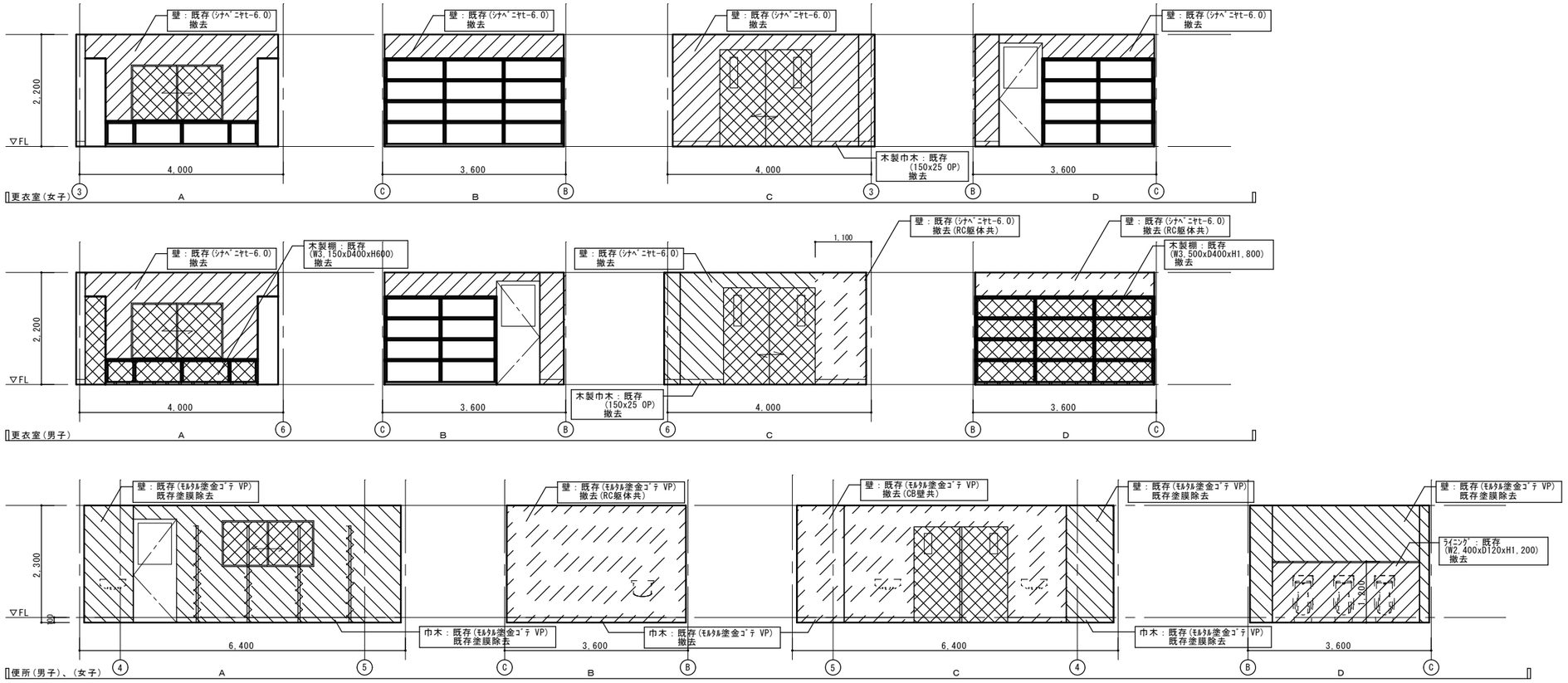
【既存】便所廻り平面詳細図 S=1/30



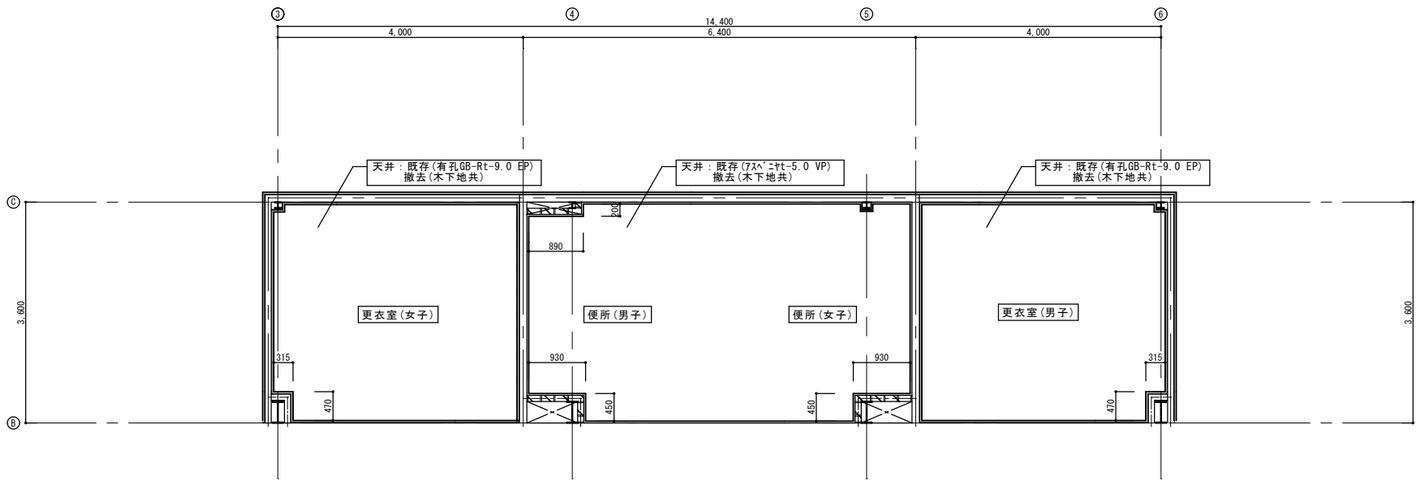
【改修】便所廻り平面詳細図 S=1/30

特記事項	設計年月日 年 月 日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事	図面番号
	管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【既存・改修】便所廻り平面詳細図	縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子	A − 18

【既存】更衣室(女子)、更衣室(男子)、便所(男子)、便所(女子)　展開図



凡　例	
記　号	内　容
	建具・家具撤去範囲を示す (建具・家具改修は 建具表、家具図参照)
	撤去範囲を示す
	撤去範囲(下地躯体共)を示す
	撤去範囲(塗装のみ)を示す
	撤去内容を示す

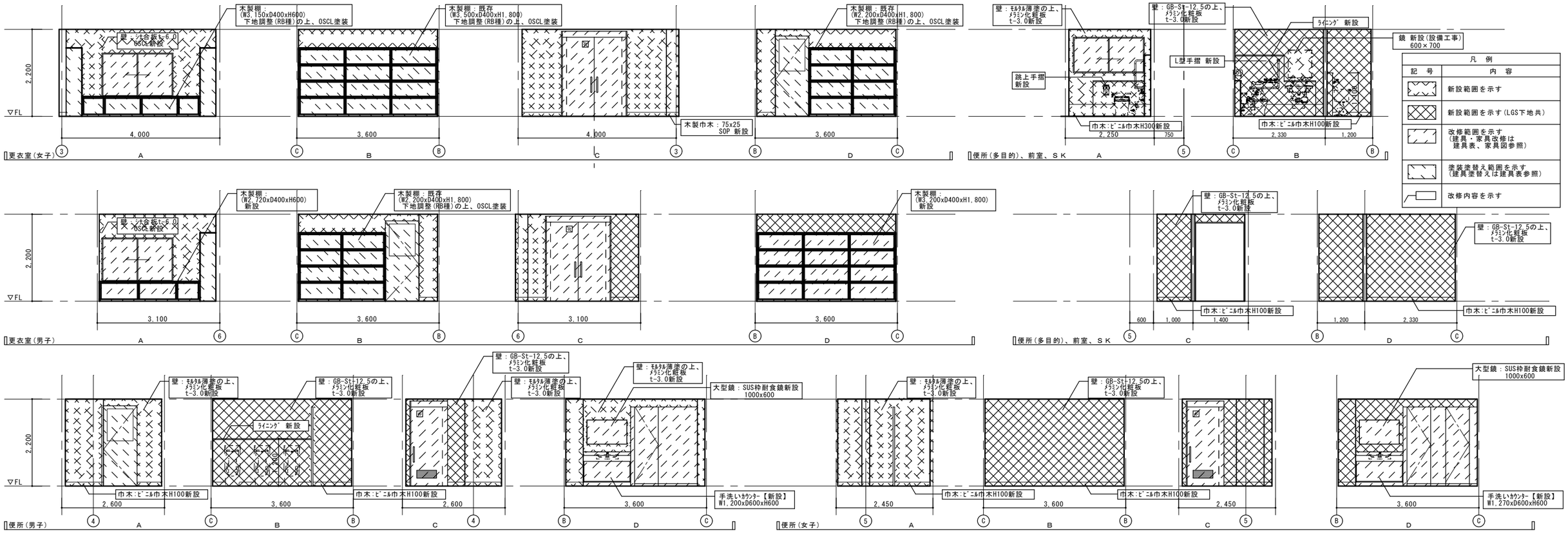


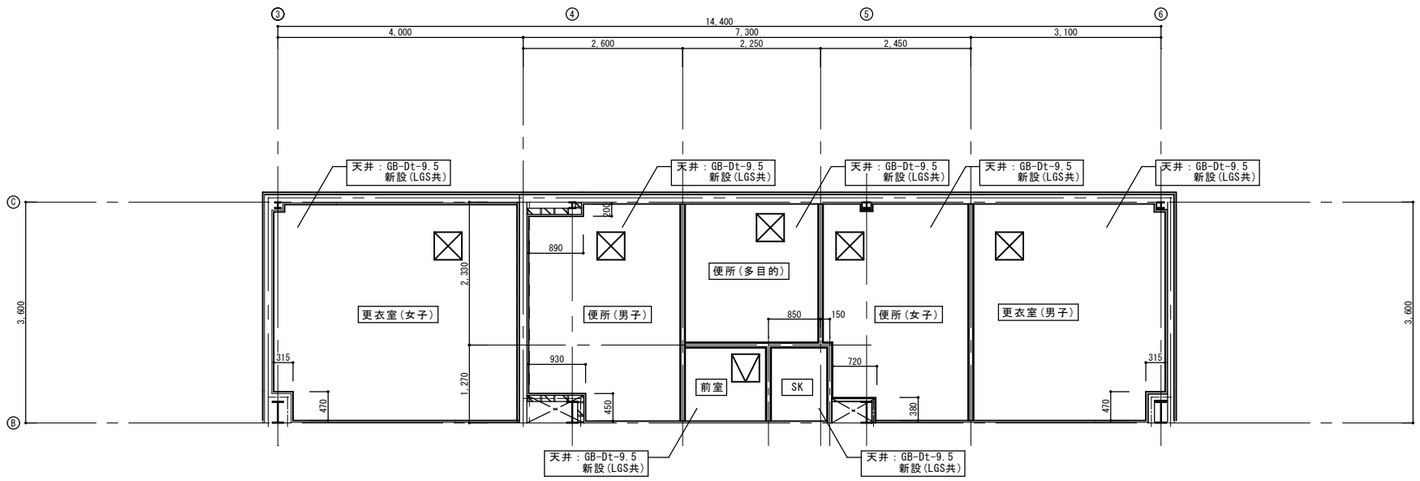
【既存】便所廻り天井伏図

凡　例	
記　号	内　容
	撤去内容を示す

特記事項	設計年月日　年　月　日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事
	管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【既存】便所周り展開図、天井伏図
		縮尺	A1: 1/50　A3: 1/100
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子
		図面番号	A－19

【改修】更衣室(女子)、更衣室(男子)、便所(男子)、便所(女子)、便所(多目的)　展開図



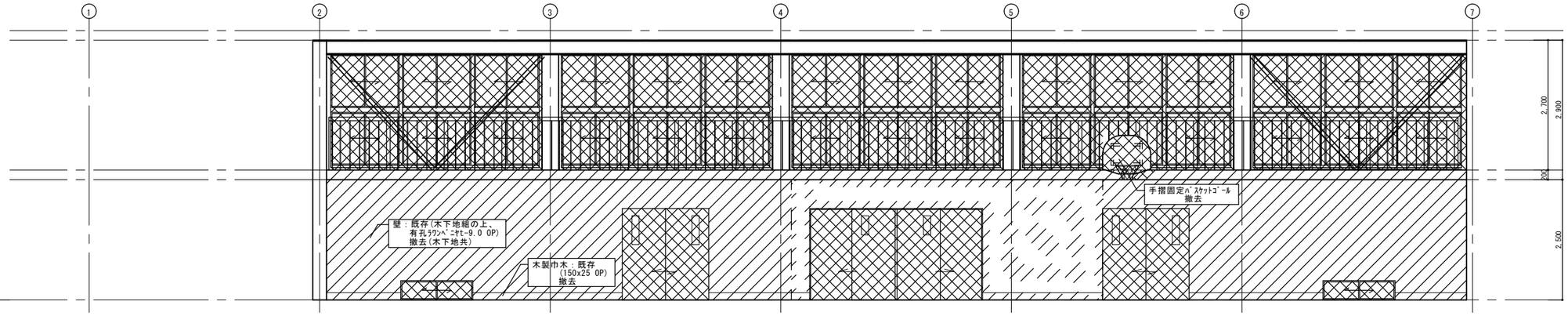


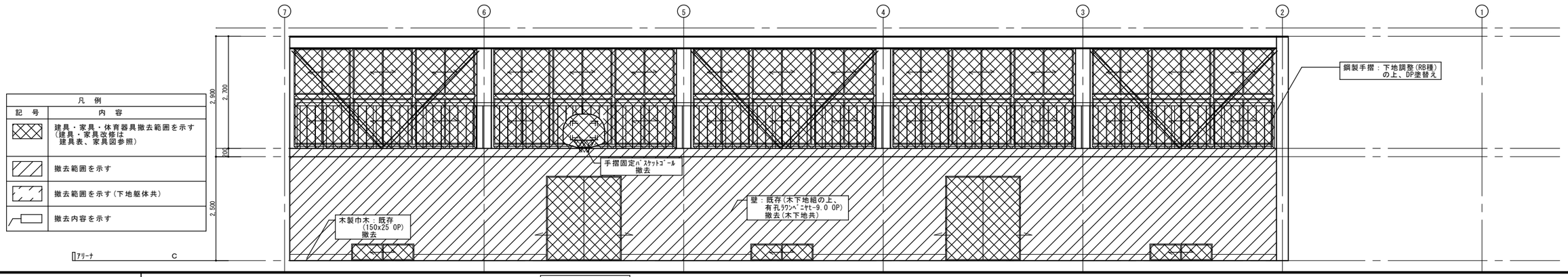
【改修】便所廻り天井伏図

凡　例	
記　号	内　容
	天井点検口450角新設を示す (ｱﾙﾐ製、目地仕様) 開口部補強450角共
	設備開口部補強350角を示す
	改修内容を示す

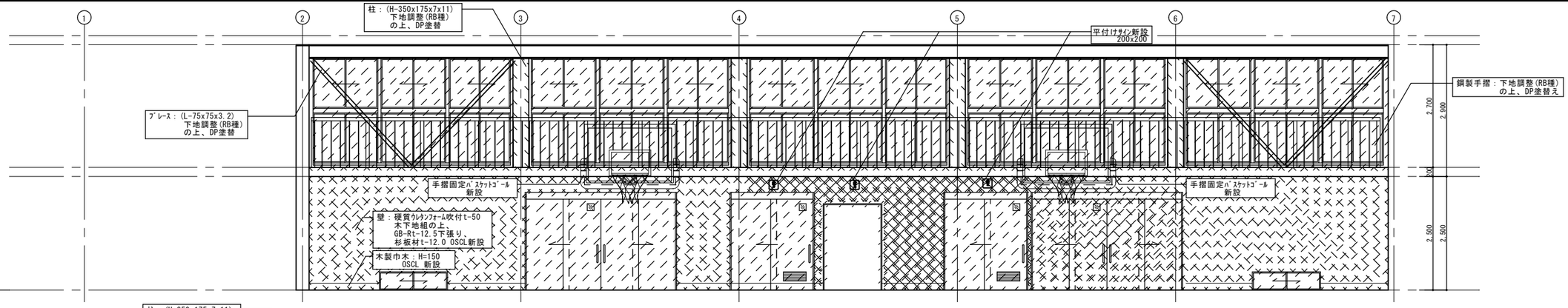
特記事項	設計年月日　年　月　日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事
	管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【改修】便所周り展開図、天井伏図
		縮尺	A1: 1/50　A3: 1/100
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子
		図面番号	A－20

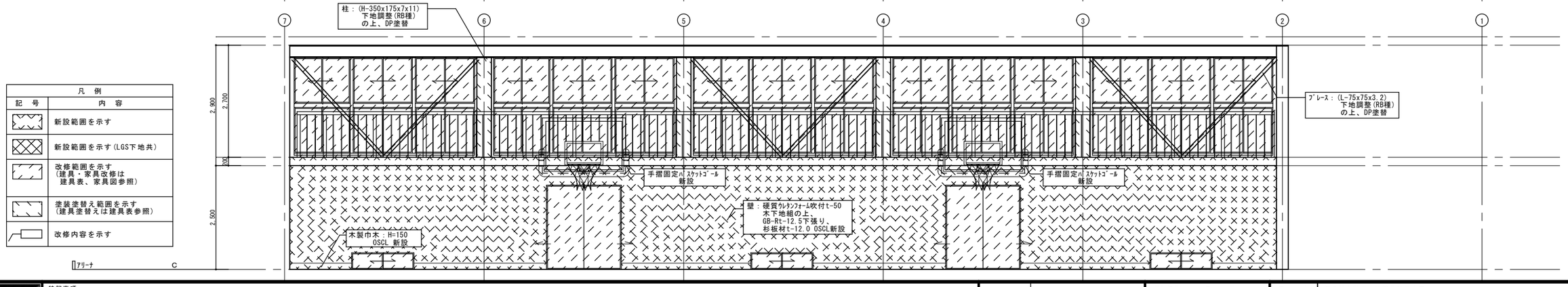
【既存】ｱﾘｰﾅ、物置、控室　展開図





【改修】ｱﾘｰﾅ、物置、控室　展開図





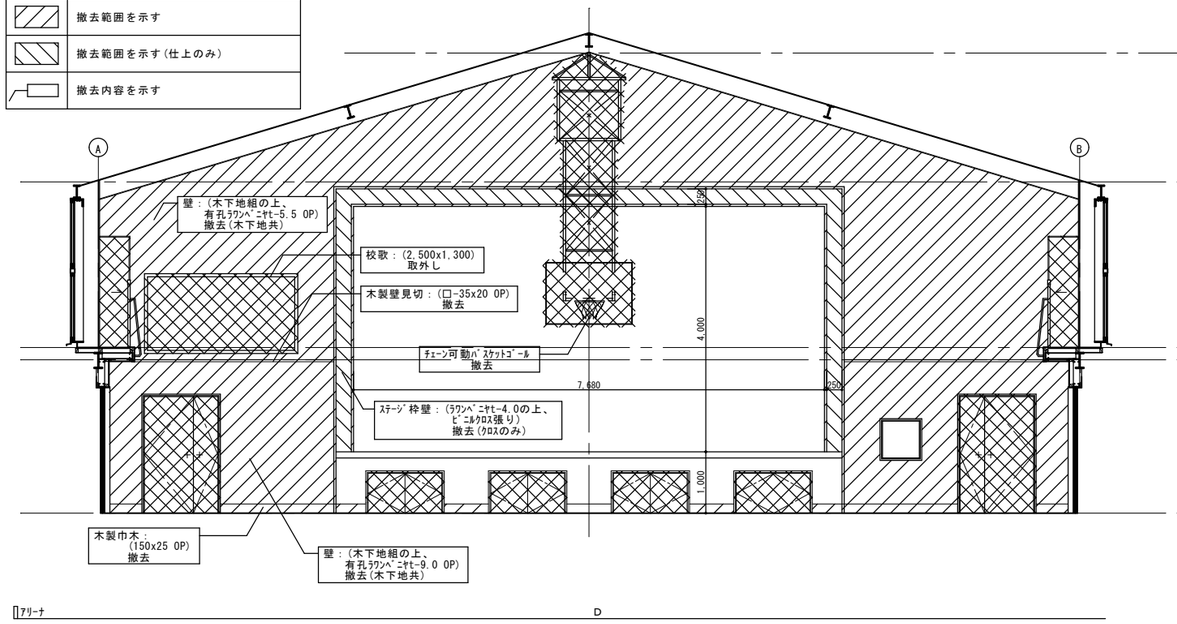
特記事項

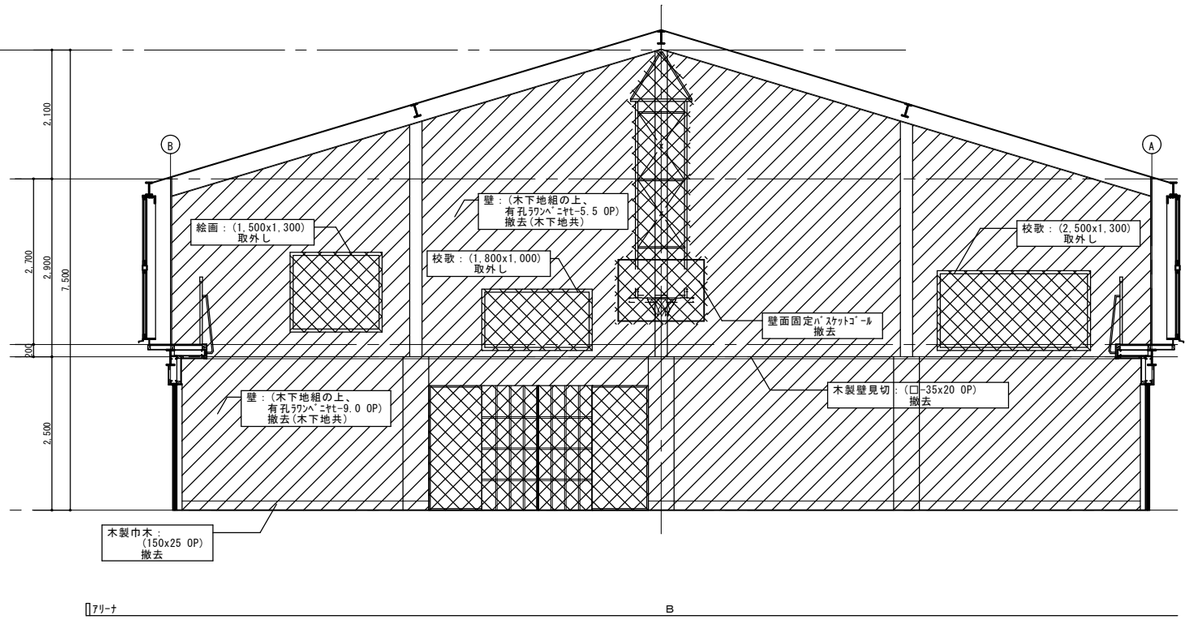
設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事
図面名	【既存・改修】ｱﾘｰﾅ1　展開図
縮尺	A1: 1/50　A3: 1/100
株式会社 桂設計	一級建築士登録　第324846号　長南　京子
図面番号	A － 21

【既存】ｱﾘｰﾅ　展開図

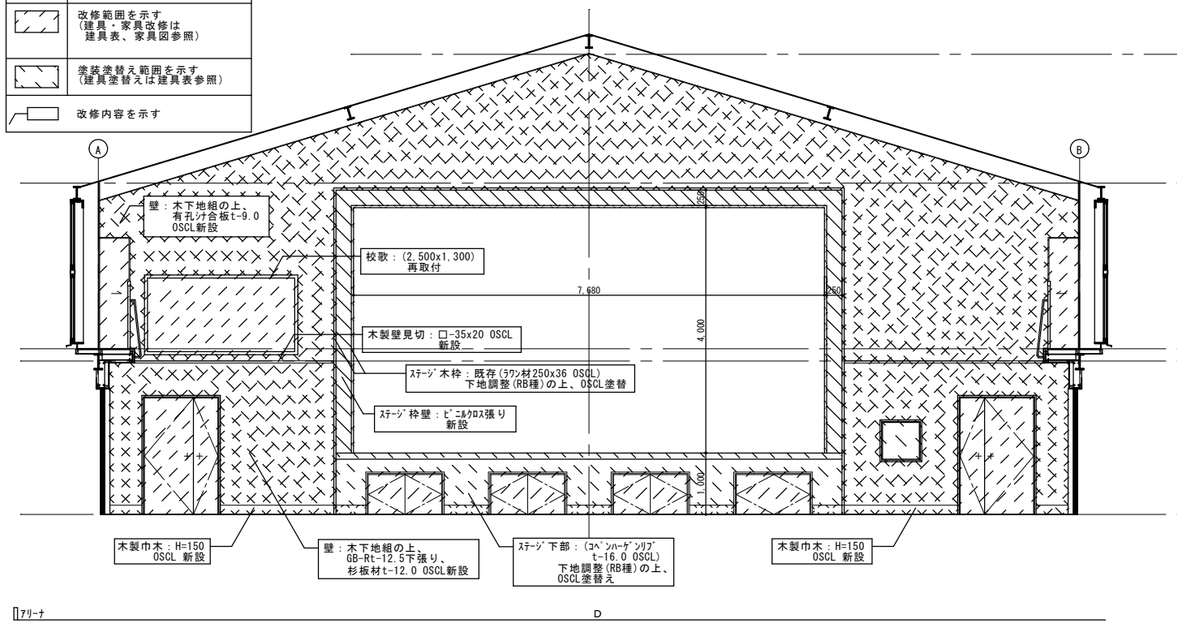
凡　例	
記　号	内　容
	建具・家具・体育器具撤去範囲を示す（建具・家具改修は建具表、家具図参照）
	撤去範囲を示す
	撤去範囲を示す(仕上のみ)
	撤去内容を示す

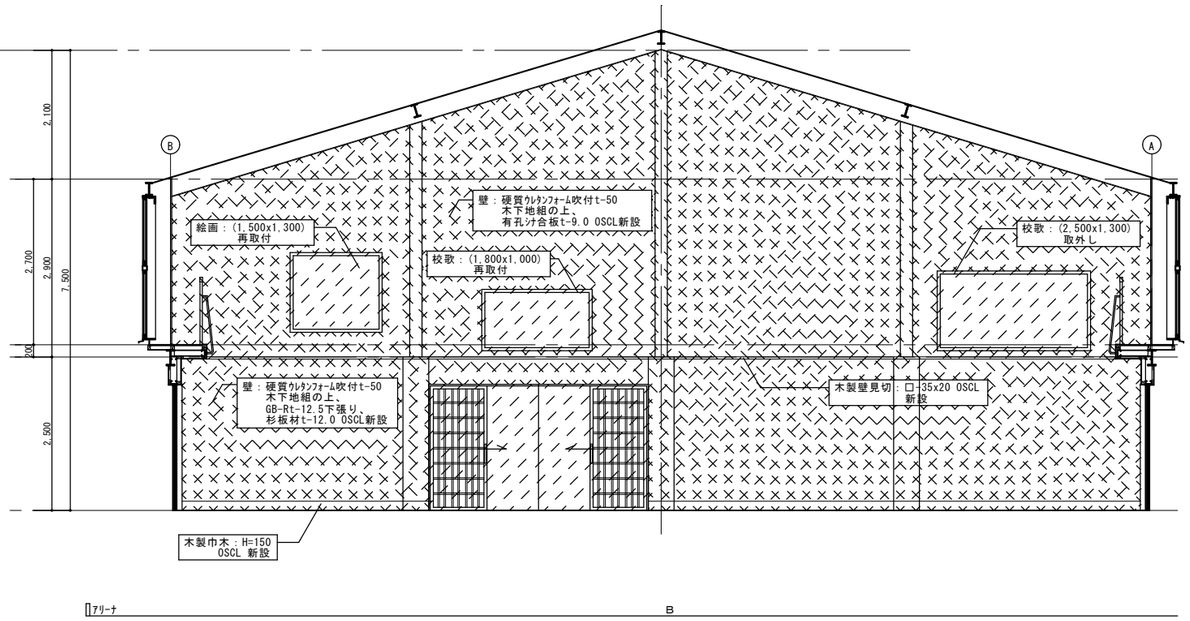




【改修】ｱﾘｰﾅ　展開図

凡　例	
記　号	内　容
	新設範囲を示す
	新設範囲を示す(仕上のみ)
	改修範囲を示す（建具・家具改修は建具表、家具図参照）
	塗装塗替え範囲を示す（建具塗替えは建具表参照）
	改修内容を示す

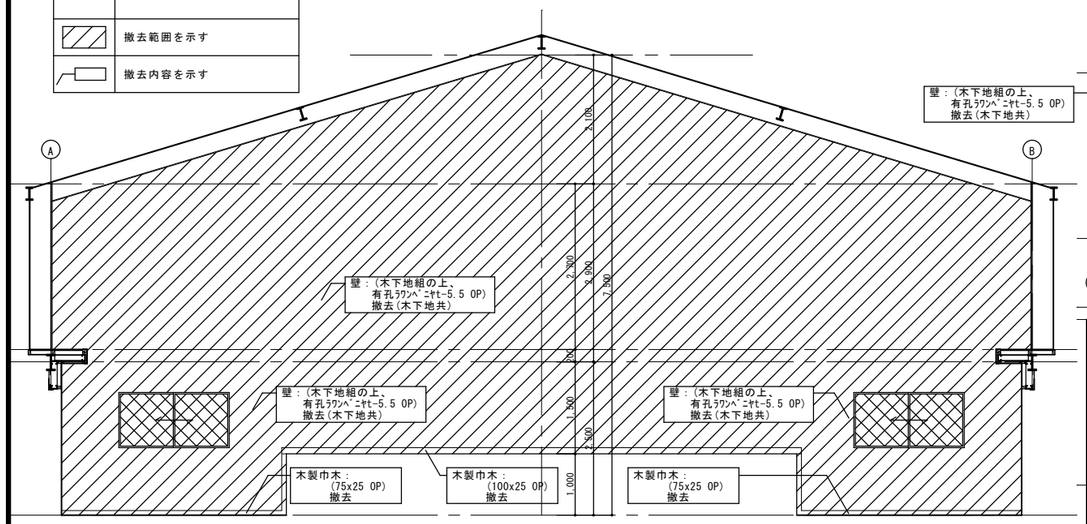




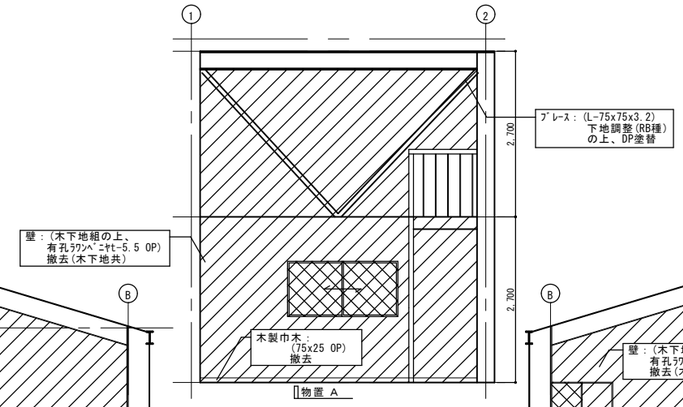
特記事項	設計年月日　年　月　日	工事名	館矢間小学校体育館長寿命化工事	図面番号
	管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【既存・改修】ｱﾘｰﾅ2　展開図	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子	A － 22

【既存】ｽﾃｰｼﾞ、物置、控室　展開図

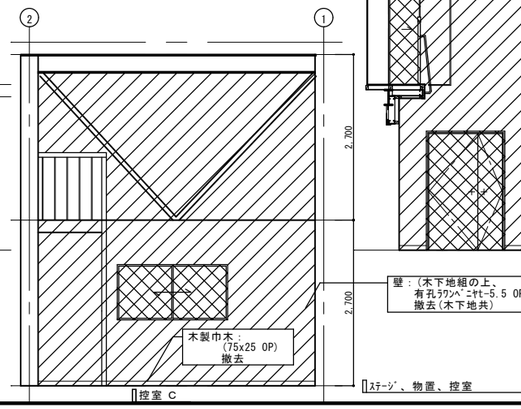
凡　例	
記　号	内　容
	建具撤去範囲を示す（建具改修は建具表参照）
	撤去範囲を示す
	撤去内容を示す



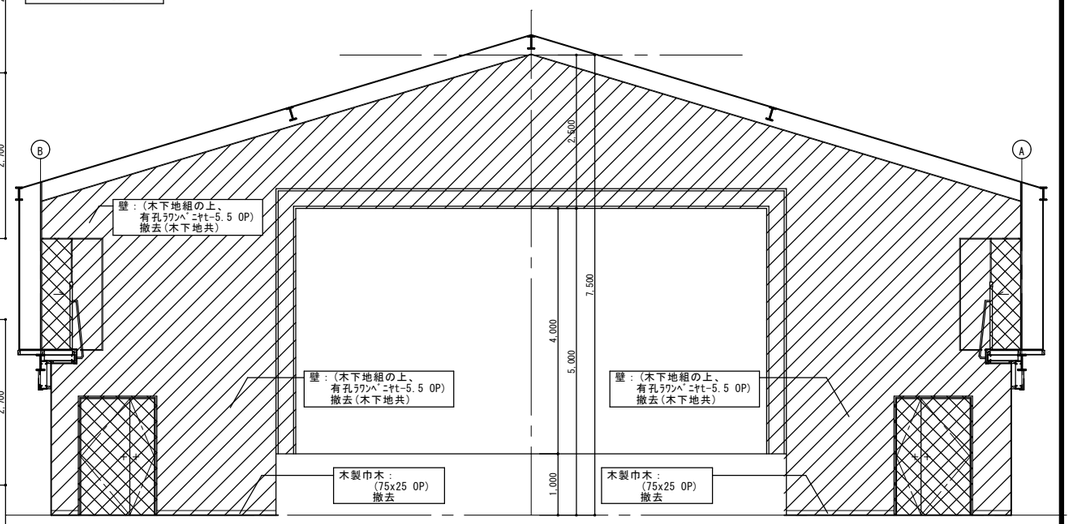
ｽﾃｰｼﾞ、物置、控室　D



物置 A



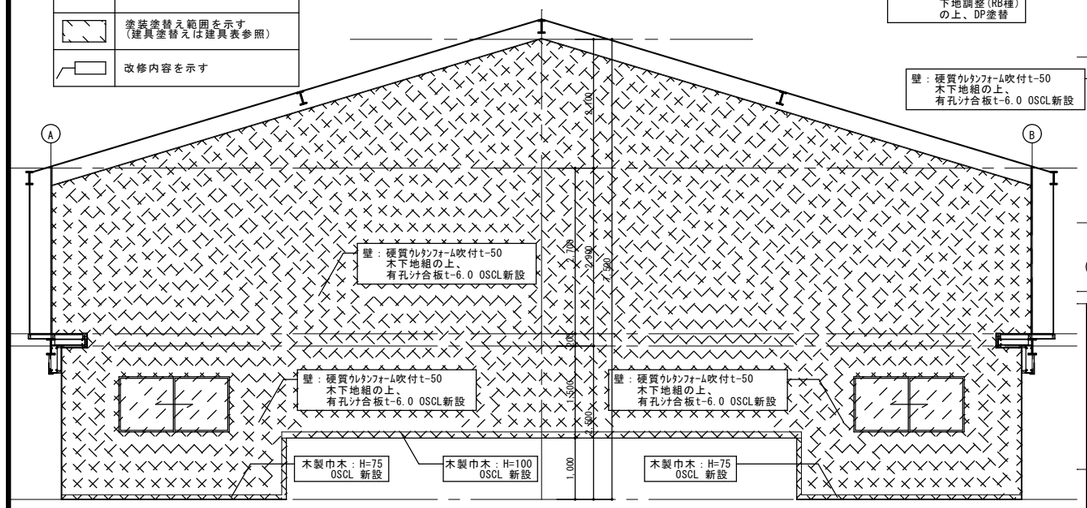
控室 C



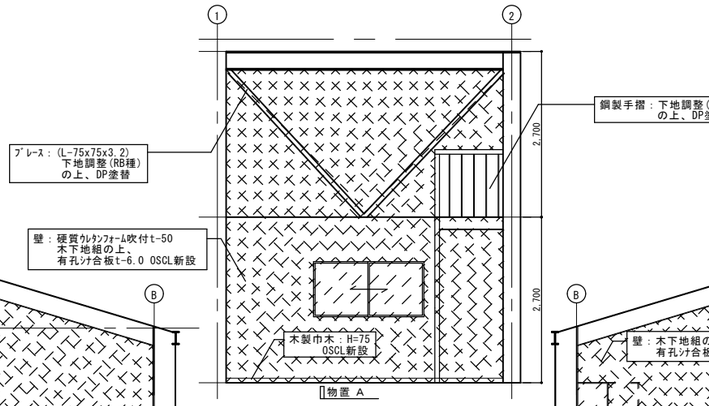
ｽﾃｰｼﾞ、物置、控室　B

【改修】ｽﾃｰｼﾞ、物置、控室　展開図

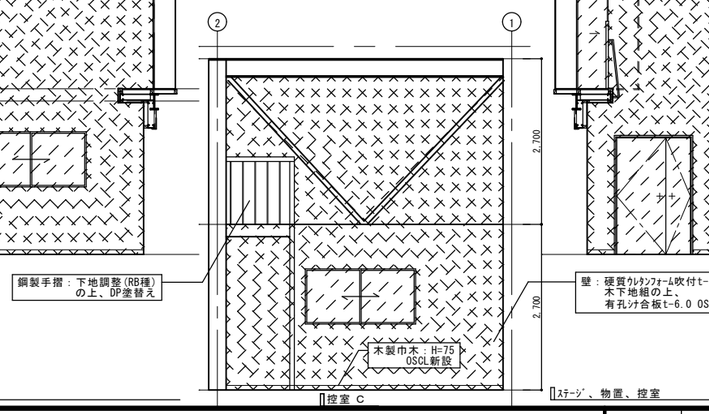
凡　例	
記　号	内　容
	新設範囲を示す
	改修範囲を示す（建具改修は建具表参照）
	塗装塗替え範囲を示す（建具塗替えは建具表参照）
	改修内容を示す



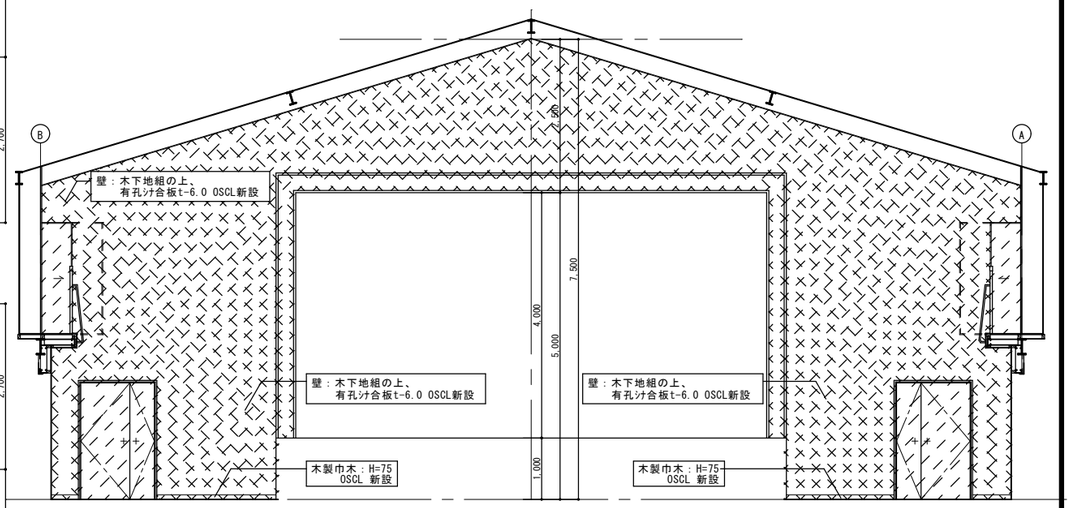
ｽﾃｰｼﾞ、物置、控室　D



物置 A



控室 C



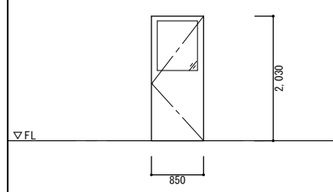
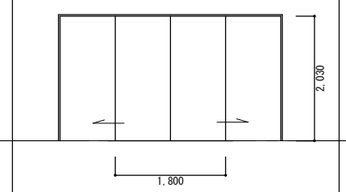
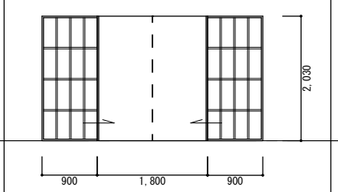
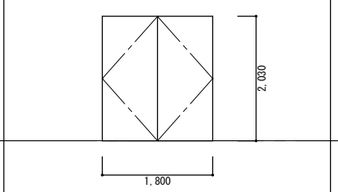
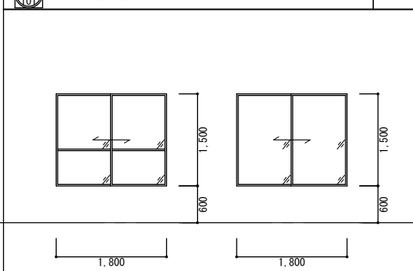
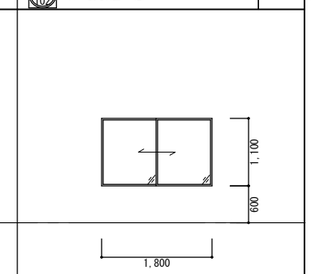
ｽﾃｰｼﾞ、物置、控室　B

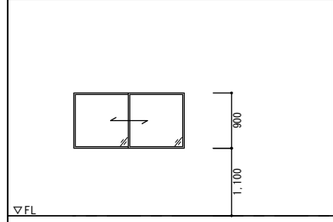
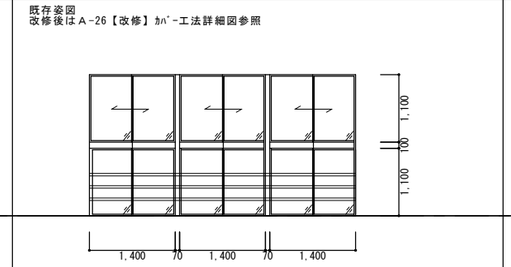
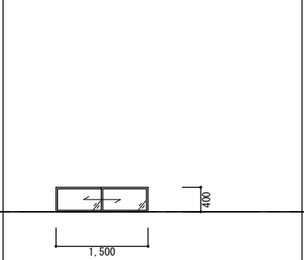
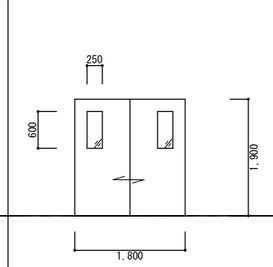
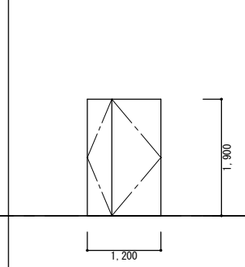
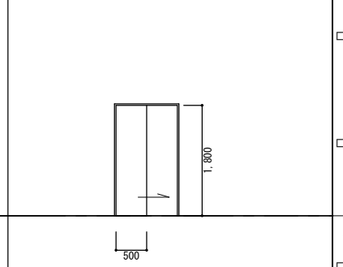
特記事項

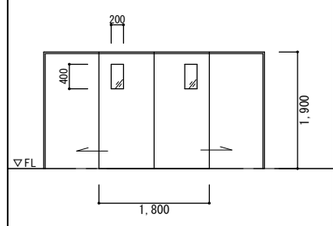
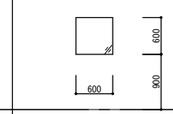
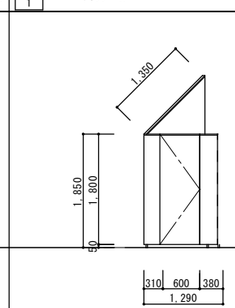
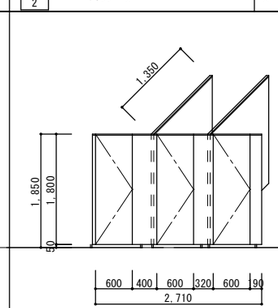
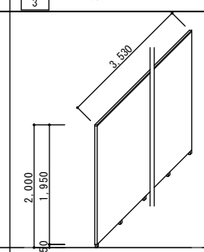
設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事
図面名	【既存・改修】ｽﾃｰｼﾞ・物置・控室　展開図
縮尺	A1: 1/50　A3: 1/100
図面番号	A － 23

株式会社 桂設計　一級建築士登録 第324846号 長南 京子

記号・形式・数量	SD 1 塗 鋼製片開き戸 × 3	SD 2 鋼製両引き戸 × 2	SD 3 鋼製金網両引き戸 × 3	SD 4 鋼製両開き戸 × 1	SW 1 鋼製引違い窓 × 4 → AW 101 ｱﾙﾐ製引違い窓 × 4	SW 2 鋼製引違い窓 × 2 → AW 102 ｱﾙﾐ製引違い窓 × 2
建具形状					 既存姿図 改修姿図	
場所	更衣室(男子・女子)、便所(男子)	ｱﾘｰﾅ	ｱﾘｰﾅ	ｱﾘｰﾅ	控室、物置	更衣室(男子・女子)
枠見込 / 扉見込	86 / —	— / —	— / —	86 / —	86 / —	86 / —
材質・仕上	ｽﾁｰﾙ(OP)	ｽﾁｰﾙ (OP)	ｽﾁｰﾙ (OP)	ｽﾁｰﾙ(OP)	改修前 ｽﾁｰﾙ (OP) / 改修後 ｱﾙﾐ焼付塗装	改修前 ｽﾁｰﾙ (OP) / 改修後 ｱﾙﾐ焼付塗装
ガラス	6.8mmﾗﾌﾜｲﾔｰ	—	—	—	6.8mmﾗﾌﾜｲﾔｰ / PW6.8+A6+F5	6.8mmﾗﾌﾜｲﾔｰ / PW6.8+A6+F5
金物	ﾓﾉﾛｯｸ、ﾄﾞｱﾁｪｯｸ	二連ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙ、ﾄﾗｯｸﾚｰﾙ、ﾛｰﾗｰ 引手掛 鎌錠	ｸﾘﾝﾌﾞ8#	ﾌﾗﾝｽ落とし、ｼﾘﾝﾀﾞｰ本締錠、ｽﾄｯﾊﾟｰ付ﾄﾞｱﾁｪｯｸ	ｸﾚｾﾝﾄ、水切り	ｸﾚｾﾝﾄ、水切り
備考						
改修内容						

記号・形式・数量	SW 3 鋼製引違い窓 × 1 → AW 103 ｱﾙﾐ製引違い窓 × 1	SW 4 3連鋼製引違い窓 × 10 → AW 104 3連ｱﾙﾐ製引違い窓 × 10	SW 5 鋼製引違い窓 × 5 → AW 105 ｱﾙﾐ製引違い窓 × 5	WD 1 木製引違い戸 × 2	WD 2 木製親子開き戸 × 2	WD 3 木製片引き戸 × 2
建具形状		既存姿図 改修後はA-26【改修】ｶﾊﾞｰ工法詳細図参照 				
場所	便所(女子)	ｷｬｯﾄｳｫｰｸ	ｱﾘｰﾅ (腰下)	更衣室(男子・女子)	控室、物置	ｷｬｯﾄｳｫｰｸ
枠見込 / 扉見込	86 / —	100 / —	86 / —	— / —	— / —	— / —
材質・仕上	改修前 ｽﾁｰﾙ (OP) / 改修後 ｱﾙﾐ焼付塗装	改修前 ｽﾁｰﾙ (OP) / 改修後 ｱﾙﾐ焼付塗装	改修前 ｽﾁｰﾙ (OP) / 改修後 ｱﾙﾐ焼付塗装	木製 (OP)	木製 (OP)	木製 (OP)
ガラス	6.8mmﾗﾌﾜｲﾔｰ / PW6.8+A6+F5	3mm透明 / PW6.8+A6+FL5	6.8mmﾗﾌﾜｲﾔｰ / PW6.8+A6+FL5	—	—	—
金物	ｸﾚｾﾝﾄ、水切り	ｸﾚｾﾝﾄ、水切り、鋼製3段手摺、 / ｸﾚｾﾝﾄ、水切り、ｱﾙﾐ製2段手摺、ｸﾚｾﾝﾄ、水切り、ｱﾙﾐ製2段手摺、ｱﾙﾐ製網戸	ｸﾚｾﾝﾄ、水切り	棒締り錠、引手、ﾚｰﾙ戸車	ﾓﾉﾛｯｸ、ﾄﾞｱﾁｪｯｸ、ﾌﾗﾝｽ落し、丁番	ﾚｰﾙ、引手、戸車
備考		ｶﾊﾞｰ工法詳細図参照	既存窓枠(防球柵付)撤去・新設：雑詳細図1参照			
改修内容						

記号・形式・数量	WD 4 木製両引き戸 × 1	WW 1 塗 木製嵌込ガラス窓 × 1	TB 1 ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ × 1	TB 2 ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ × 1	TB 3 ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ × 1
建具形状					
場所	便所(男子・女子)	放送室	便所(男子)、便所(女子)	便所(女子)	便所(男子)、便所(女子)
枠見込 / 扉見込	— / —	— / —	40 / -	40 / -	40 / -
材質・仕上	木製 (OP)	—	ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ	ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ	ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ
ガラス	6.8mmﾗﾌﾜｲﾔｰ	6.8mmﾌﾟﾚｰﾄﾜｲﾔｰ			
金物	棒締り錠、引手、ﾚｰﾙ戸車	—	ﾗﾊﾞﾄﾘｰﾋﾝｼﾞ、ﾗﾊﾞﾄﾘｰ表示錠（内鍵用）、ｽﾃﾝﾚｽ頭つなぎ、戸当り、その他付属金物一式	ﾗﾊﾞﾄﾘｰﾋﾝｼﾞ、ﾗﾊﾞﾄﾘｰ表示錠（内鍵用）、ｽﾃﾝﾚｽ頭つなぎ、戸当り、その他付属金物一式	ｽﾃﾝﾚｽ頭つなぎ その他付属金物一式
備考					
改修内容					

凡例

□建具符号

ＡＤ	アルミニウム製戸
ＳＤ	鋼製戸
ＬＳＤ	軽量鋼製戸
ＳＳＤ	ステンレス製戸
ＷＤ	木製戸
ＡＷ	アルミニウム製窓
ＳＷ	鋼製窓
ＳＳＷ	ステンレス製窓
ＡＣＷ	アルミニウム製カーテンウォール
ＷＷ	木製窓
ＳＳ	重量シャッター
ＬＳ	軽量シャッター
ＳＨＤ	オーバーヘッドドア（スチール製）
ＡＨＤ	オーバーヘッドドア（アルミ製）
ＡＧ	アルミ製ガラリ
ＳＧ	鋼製ガラリ
ＷＧ	木製ガラリ
ＬＳＤ	可動間仕切り
ＰＴ	パーティション
ＴＰ	トップライト
Ｆ	襖
Ｓ	障子
ＴＢ	トイレブース

□ガラス符号

ＦＬ	透明ガラス
Ｆ	型ガラス
ＰＷ	網入り透明ガラス
ＦＷ	網入り型ガラス
Ｔ	強化ガラス
ＧＢ	ガラスブロック
Ａ	空気層

□金物符号

ＤＣ	ドアクローザー
ＦＨ	フロアヒンジ
ＬＨ	ラバトリーヒンジ
ＰＨ	ピボットヒンジ
ＯＰ	オペレーター（FL-1,500以下設置）

□塗装符号

ＳＯＰ	合成樹脂調合ペイント塗り
ＤＰ	耐候性塗料塗り
ＣＬ	クリアラッカー塗り
ＯＳ	オイルステイン塗り
ＮＷＰ	自然素材系木材保護塗料塗り

※室内塗料は全てＦ☆☆☆☆とする。

□その他符号

※Ｐ	アルミ製断熱パネル
※Ｆ	ＦＩＸ

□特記事項

新築建具記号

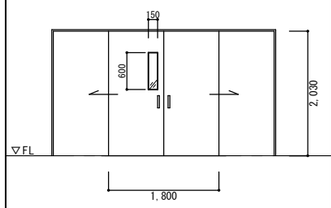
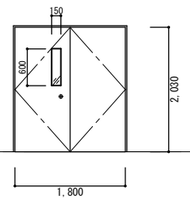
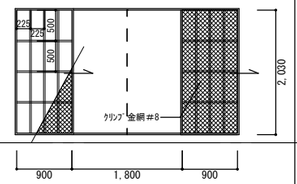
- 一般建具
- 防火設備
- 特定防火設備

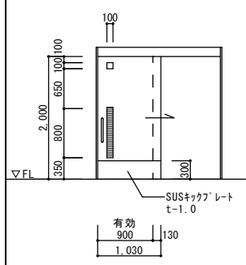
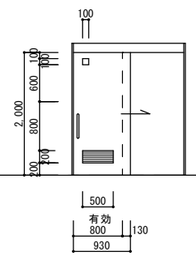
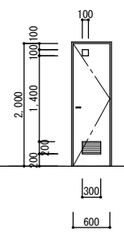
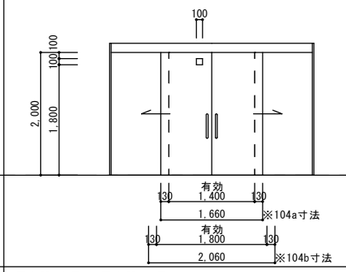
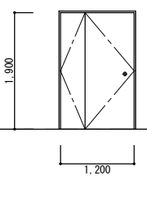
改修建具記号

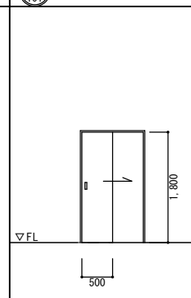
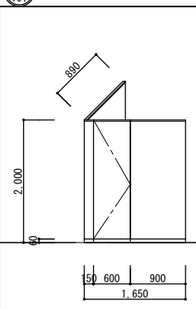
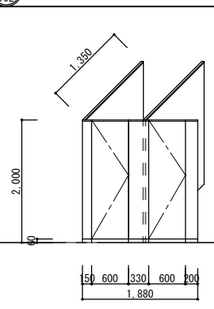
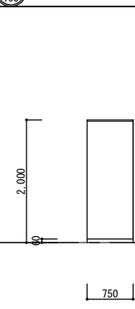
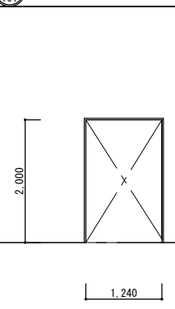
- 改修 改修建具（改修内容は備考参照）
- 塗装 塗装建具
  アルミ製建具：額縁ＯＳＣＬ塗替え
  木製建具：扉及び枠、額縁ＯＳＣＬ塗替え
  鋼製建具：扉及び枠、額縁塗替え
  外部 ＤＰ塗替え
- 新設建具
- カバー工法新設建具
- 撤去建具

特記事項

設計年月日 年 月 日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事	図面番号
管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【既存・改修】建具表1	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100
	株式会社 桂設計	一級建築士登録 第328486号 長南 京子	A－24

記号・形式・数量	SD 101 鋼製両引き戸 × 2	SD 102 鋼製両開き戸 × 1	SD 103 鋼製防球両引き戸 × 3
建具形状			
場所	ｱﾘｰﾅ	ｱﾘｰﾅ	ｱﾘｰﾅ
枠見込 / 扉見込	200 / 40	200 / 40	200 / 40
材質・仕上	焼付塗装	焼付塗装	焼付塗装
ガラス	PW t-6.8	PW t-6.8	—
金物	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、ｶﾞｲﾄﾞﾛｰﾗｰ、掘込引手、 ｻﾑﾀｰﾝｼﾘﾝﾀﾞｰ錠 その他付属金物一式	丁番、ｻﾑﾀｰﾝｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(本締錠)、戸当り、ﾌﾗﾝｽ落とし その他付属金物一式	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、ｶﾞｲﾄﾞﾛｰﾗｰ、 その他付属金物一式
備考	3方 枠W=200(枠DP塗装)	3方 枠W=200(枠DP塗装)	
改修内容			

記号・形式・数量	LSD 101 軽量鋼製片引き吊戸 × 1	LSD 102 軽量鋼製片引き吊戸 × 2	LSD 103 軽量鋼製片開き戸 × 1	LSD 104a 軽量鋼製両引き吊戸 × 1 LSD 104b 軽量鋼製両引き吊戸 × 1	LSD 105 軽量鋼製親子開き戸 × 2
建具形状					
場所	多目的ﾄｲﾚ	便所(男子)、便所(女子)	SK	更衣室(男子)、更衣室(女子)	控室、物置
枠見込 / 扉見込	200 / 40	200 / 40	200 / 40	200 / 40	200 / 40
材質・仕上	扉：化粧鋼板、枠：焼付塗装	扉：化粧鋼板、枠：焼付塗装	扉：化粧鋼板、枠：焼付塗装	扉：化粧鋼板、枠：焼付塗装	扉：化粧鋼板、枠：焼付塗装
ガラス	TF t-4.0	TF t-4.0	TF t-4.0	TF t-4.0	—
金物	ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(表示錠)、ｻﾑﾀｰﾝ、ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙ、ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、 沓摺 ｶﾞｲﾄﾞﾛｰﾗｰ、SUS製ﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙL=350、戸当、ｱﾙﾐｶﾞﾗﾘ その他付属金物一式	ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙ、ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、 沓摺 ｶﾞｲﾄﾞﾛｰﾗｰ、SUS製ﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙL=350、戸当、 ｱﾙﾐｶﾞﾗﾘ、その他付属金物一式	丁番、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、戸当り、ｱﾙﾐｶﾞﾗﾘ その他付属金物一式	ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙ、ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、、沓摺、鎌錠 ｶﾞｲﾄﾞﾛｰﾗｰ、SUS製ﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙL=350、戸当、 その他付属金物一式	丁番、戸当り、ﾌﾗﾝｽ落とし その他付属金物一式
備考	SUS製沓摺	SUS製沓摺	SUS製沓摺	SUS製沓摺	SUS製沓摺
改修内容					

記号・形式・数量	WD 101 木製片引き戸 × 2	TB 101 ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ × 1	TB 102 ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ × 1	TB 103 ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ(袖壁) × 1	WF 101 木製3方枠 × 1
建具形状					
場所	ｷｬｯﾄｳｫｰｸ	便所(男子)	便所(女子)	便所(男子)	前室
枠見込 / 扉見込	200 / 40	40 / —	40 / —	40 / —	— / —
材質・仕上	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板	木製W=200(OSCL)ﾗﾜﾝ材t-20
ガラス	—				—
金物	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、ｶﾞｲﾄﾞﾛｰﾗｰ、掘込引手 その他付属金物一式	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ、表示錠（非常開錠付）、指詰め防止、 SUS笠木、SUS巾木H=60、戸当たり、ｺｰﾅｰR処理 その他付属金物一式	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ、表示錠（非常開錠付）、指詰め防止、 SUS笠木、SUS巾木H=60、戸当たり、ｺｰﾅｰR処理 その他付属金物一式	SUS笠木、SUS巾木H=60、ｺｰﾅｰR処理 その他付属金物一式	その他付属金物一式
備考	木製3方枠t-25 W=200(枠OSCL塗装)				
改修内容					

凡例

□建具符号
- ＡＤ　アルミニウム製戸
- ＳＤ　鋼製戸
- ＬＳＤ　軽量鋼製戸
- ＳＳＤ　ステンレス製戸
- ＷＤ　木製戸
- ＡＷ　アルミニウム製窓
- ＳＷ　鋼製窓
- ＳＳＷ　ステンレス製窓
- ＡＣＷ　アルミニウム製カーテンウォール
- ＷＷ　木製窓
- ＳＳ　重量シャッター
- ＬＳ　軽量シャッター
- ＳＨＤ　オーバーヘッドドア（スチール製）
- ＡＨＤ　オーバーヘッドドア（アルミ製）
- ＡＧ　アルミ製ガラリ
- ＳＧ　鋼製ガラリ
- ＷＧ　木製ガラリ
- ＬＳＤ　可動間仕切り
- ＰＴ　パーティション
- ＴＰ　トップライト
- Ｆ　横
- Ｓ　障子
- ＴＢ　トイレブース

□ガラス符号
- ＦＬ　透明ガラス
- Ｆ　型ガラス
- ＰＷ　網入り透明ガラス
- ＦＷ　網入り型ガラス
- Ｔ　強化ガラス
- ＧＢ　ガラスブロック
- Ａ　空気層

□金物符号
- ＤＣ　ドアクローザー
- ＦＨ　フロアヒンジ
- ＬＨ　ラバトリーヒンジ
- ＰＨ　ピボットヒンジ
- ＯＰ　オペレーター（FL-1,500以下設置）

□塗装符号
- ＳＯＰ　合成樹脂調合ペイント塗り
- ＤＰ　耐候性塗料塗り
- ＣＬ　クリアラッカー塗り
- ＯＳ　オイルステイン塗り
- ＮＷＰ　自然素材系木材保護塗料塗り

※室内塗料は全てＦ☆☆☆☆とする。

□その他符号
- ※Ｐ　アルミ製断熱パネル
- ※Ｆ　ＦＩＸ

□特記事項

新築建具記号

- 一 数字　一般建具
- 一 数字 防　防火設備
- 一 数字 特　特定防火設備

改修建具記号

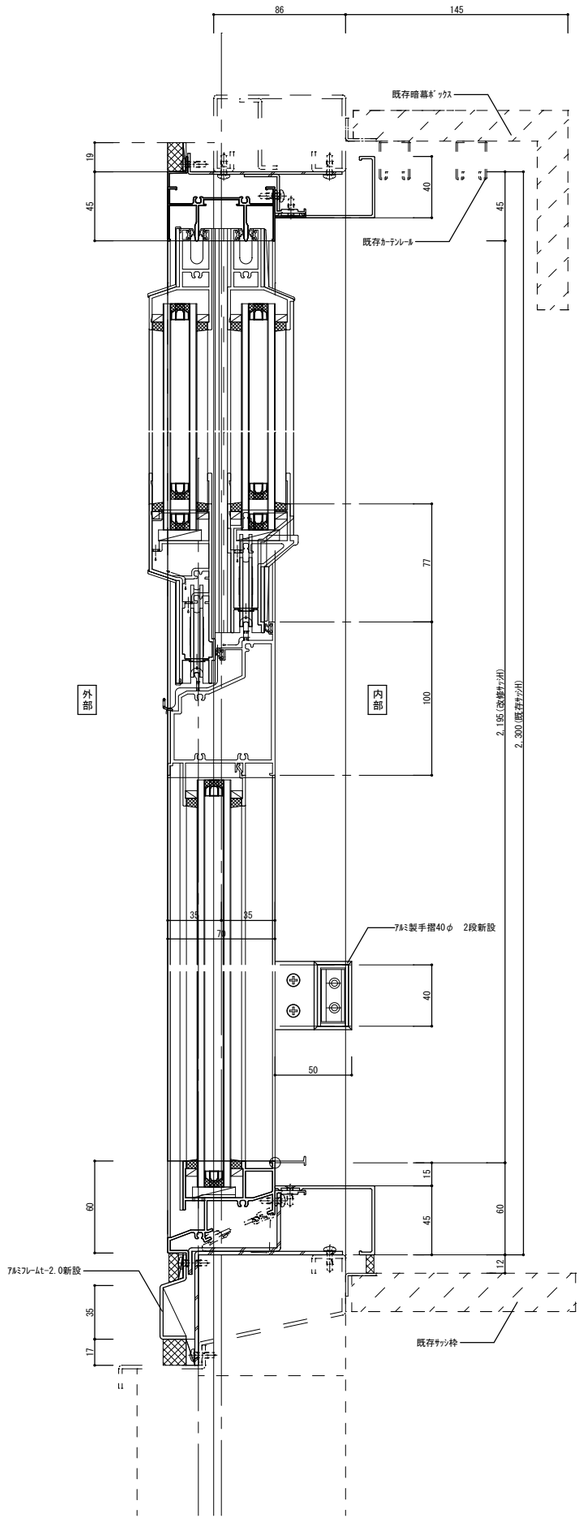
- 一 数字 改修　改修建具（改修内容は備考参照）
- 一 数字 塗装　塗装建具
  - アルミ製建具：額縁ＯＳＣＬ塗替え
  - 木製建具：扉及び枠、額縁ＯＳＣＬ塗替え
  - 鋼製建具：扉及び枠、額縁塗替え
  - 外部　ＤＰ塗替え
- 一 数字　新設建具
- 一 数字　カバー工法新設建具
- 一 数字　撤去建具

特記事項

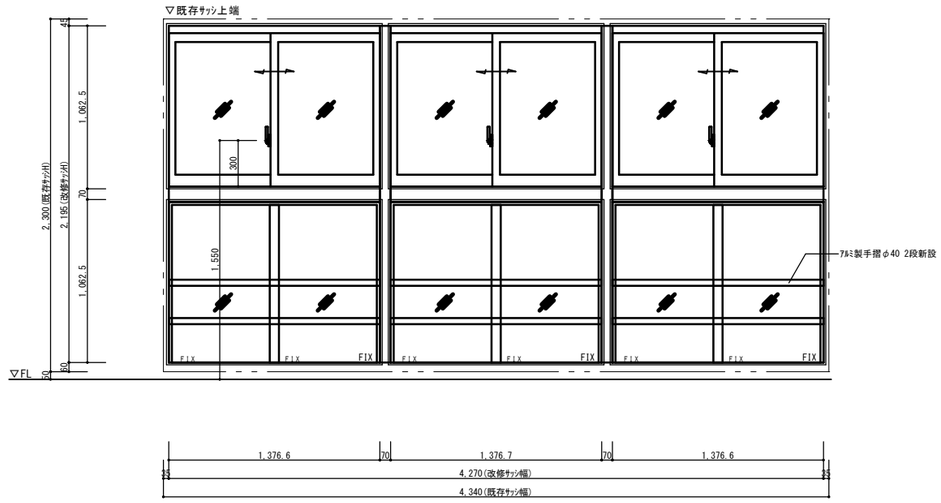
設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事
図面名	【既存・改修】建具表2
縮尺	A1: 1/50　A3: 1/100
図面番号	A － 25

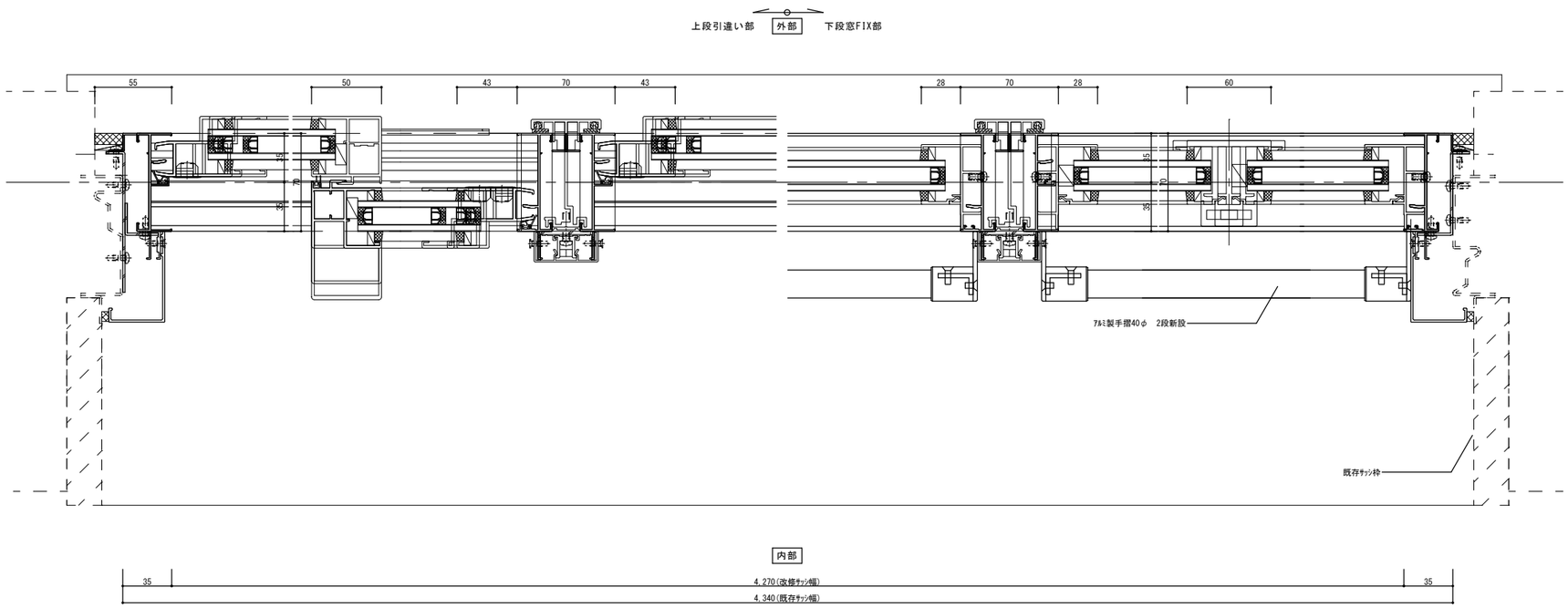
株式会社 桂設計　一級建築士登録 第328486号 長南 京子



【改修】ｶﾊﾞｰ工法断面詳細図 S=1/2

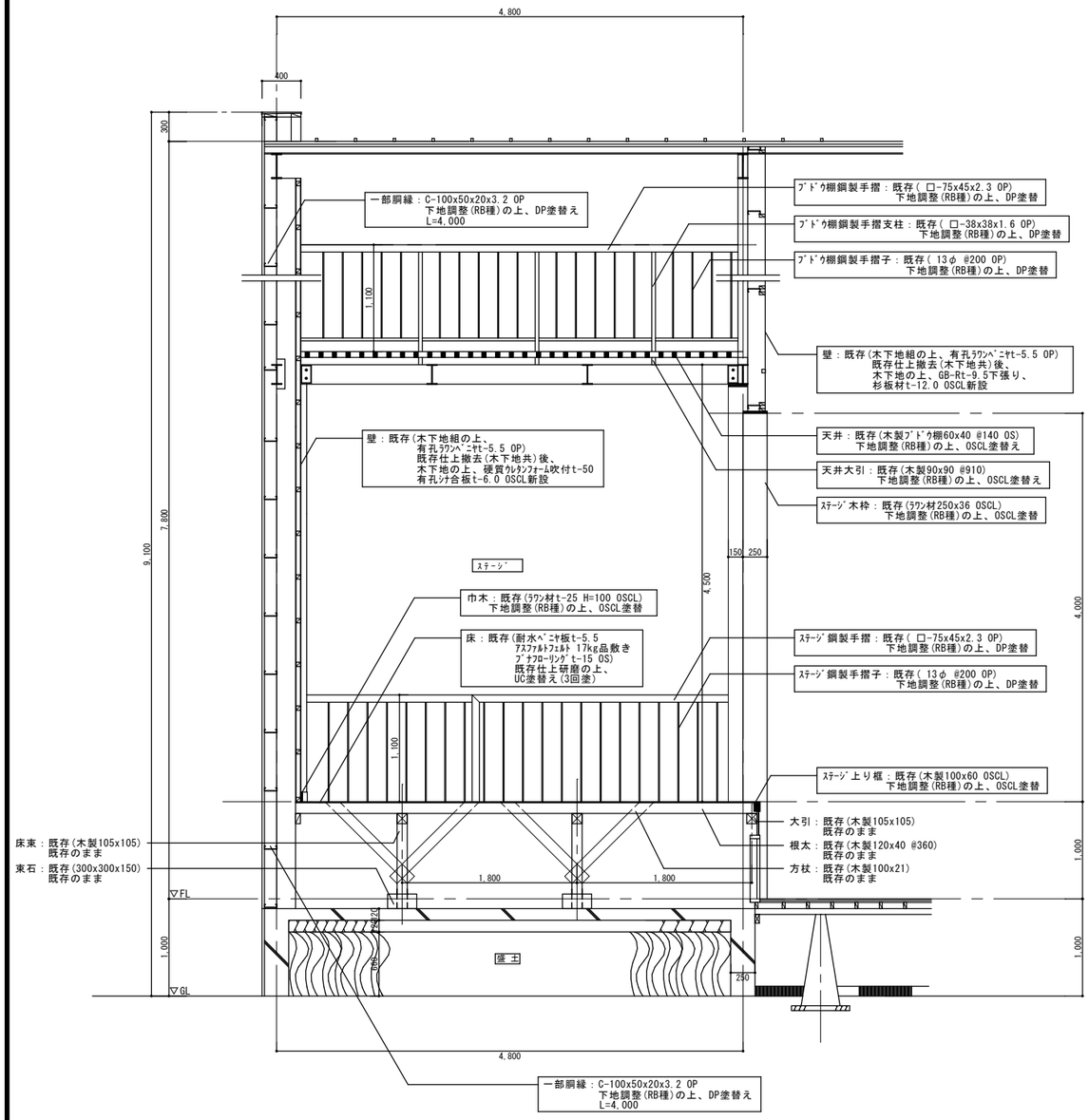


【改修】ｶﾊﾞｰ工法ｻｯｼ姿図 S=1/20

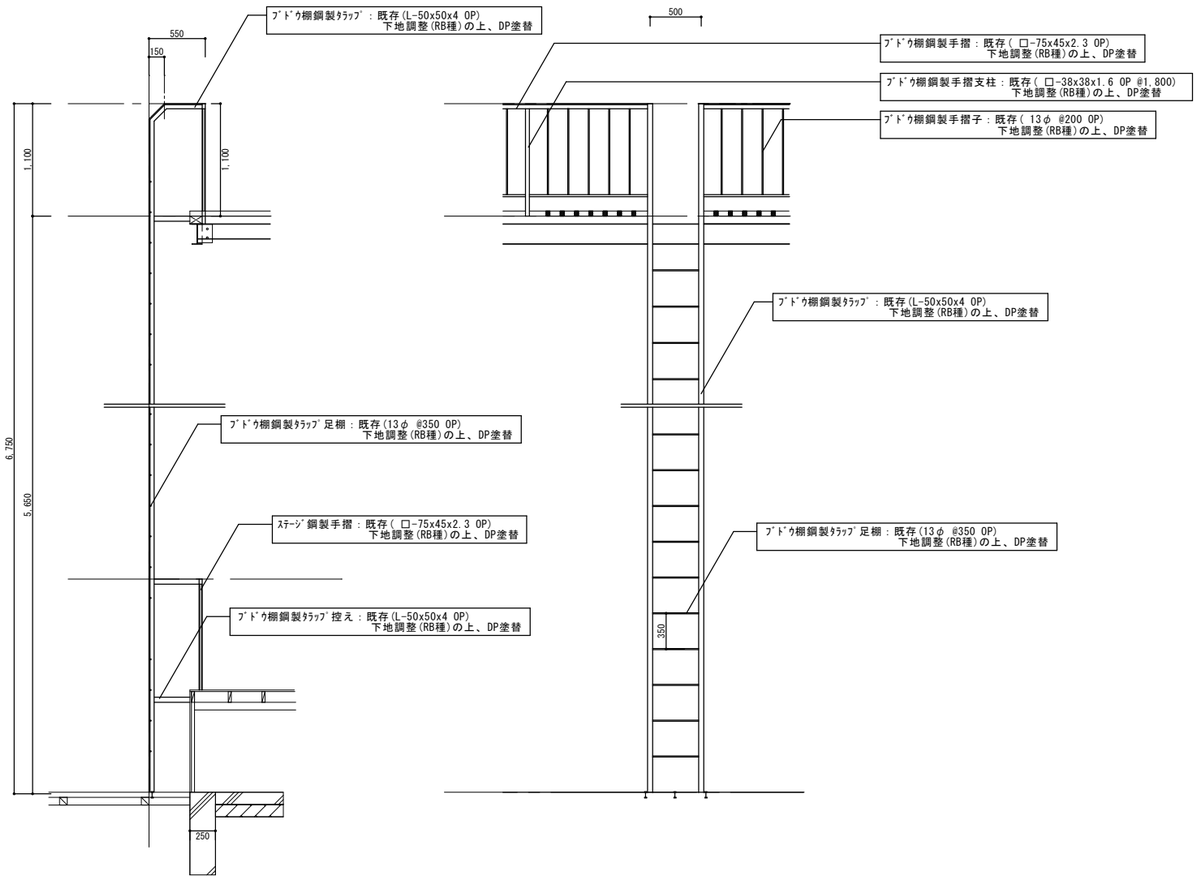


【改修】ｶﾊﾞｰ工法平面詳細図 S=1/2

特記事項		設計年月日　年　月　日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事		図面番号
		管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【改修】ｶﾊﾞｰ工法詳細図	縮尺 A1: 1/2,20 A3: 1/4,40	A － 26
			株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子		

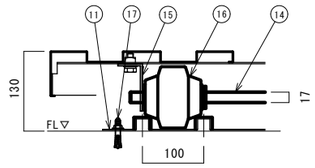


【既存・改修】ｽﾃｰｼﾞ詳細図 1/30

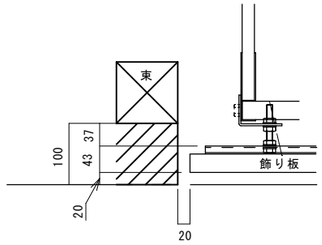


【既存・改修】ﾌﾞﾄﾞｳ棚、ﾌﾞﾄﾞｳ棚ﾀﾗｯﾌﾟ詳細図1/30

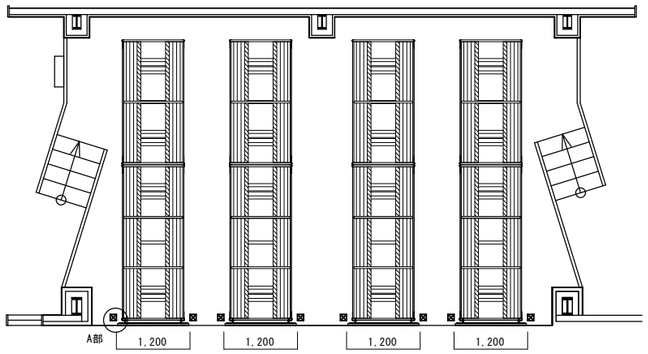
特記事項	設計年月日　年　月　日	工事名	鎧矢間小学校体育館長寿命化工事		図面番号
	管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	ｽﾃｰｼﾞ詳細図	縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60	A － 27
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子		



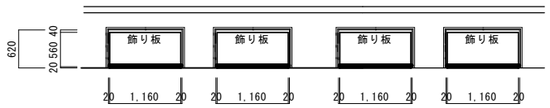
車輪部詳細図　S=1/5



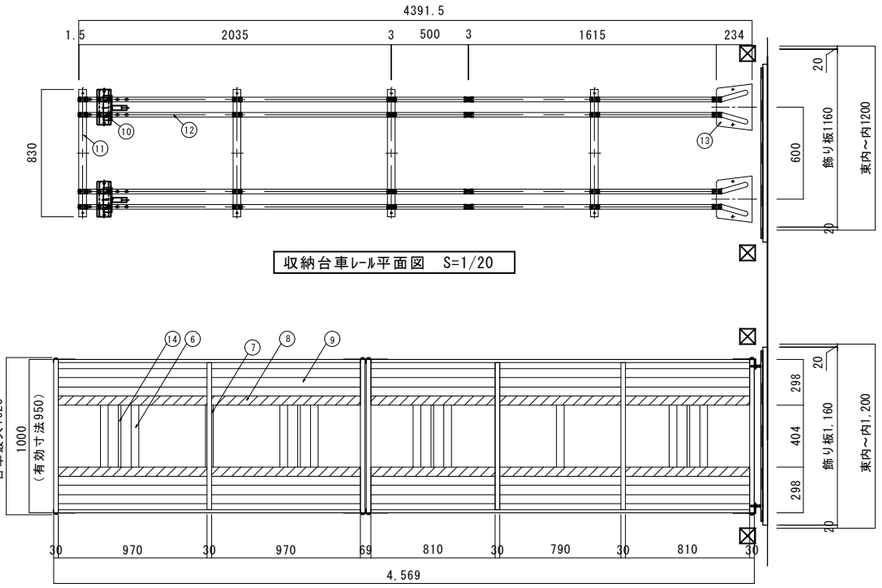
A部詳細図　S=1/5



台車収納時平面配置図　S=1/50

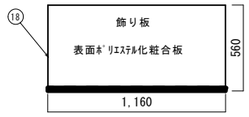


台車収納時正面配置図　S=1/50

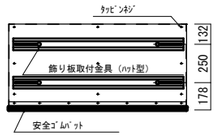


収納台車ﾚｰﾙ平面図　S=1/20

収納台車平面図　S=1/20

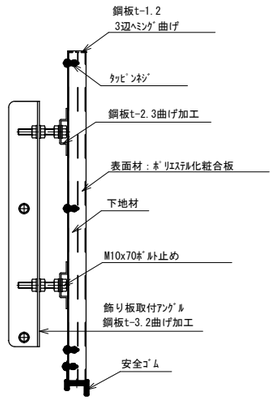


表面

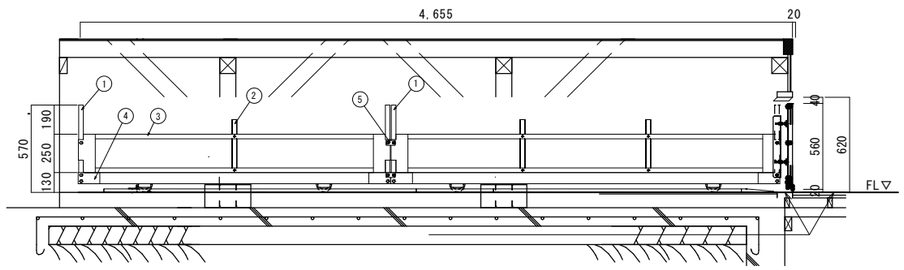


裏面

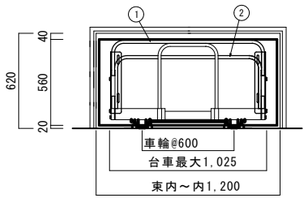
飾り板詳細図　S=1/20



飾り板断面図　S=1/5



収納台車側面図　S=1/20



収納台車正面図　S=1/20

仕　様

1.MTﾄﾗｯｸ　椅子収納台車　4ﾋﾟｯﾄ　4台

寸法:W1,000xL4,500xH570

2.飾り板　4ﾋﾟｯﾄ4枚　ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ化粧合板

寸法:W1,160xH560

3．ﾚｰﾙ下地（ﾚｰﾙ設置範囲ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ仕上げ）

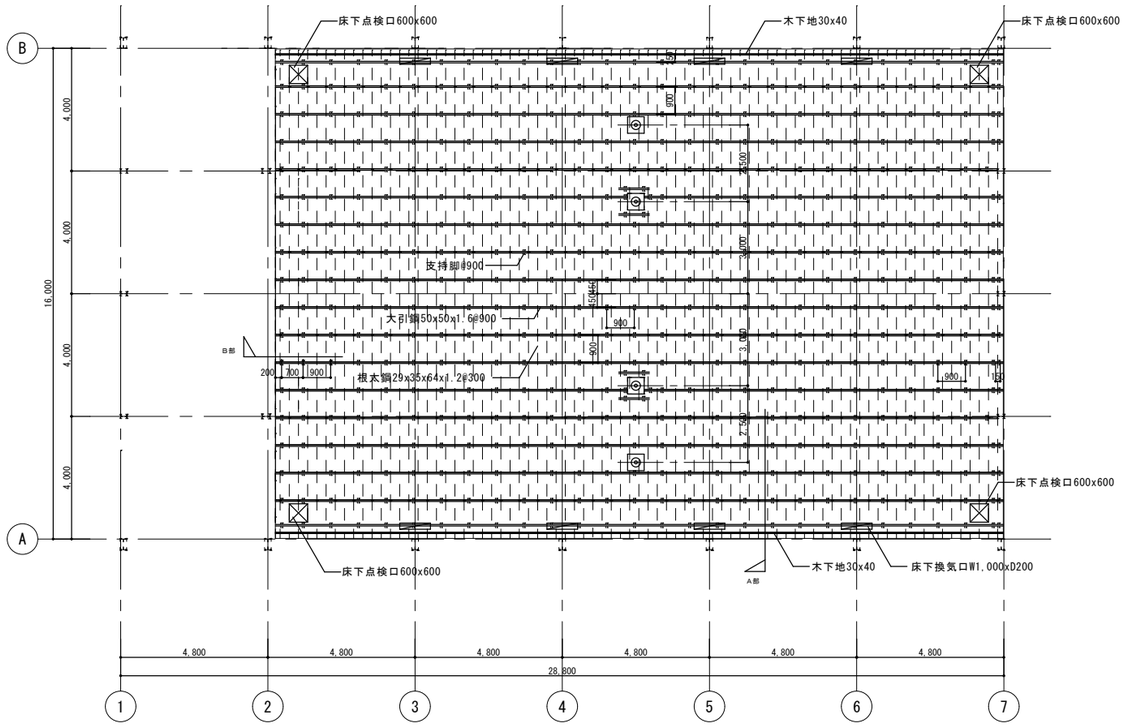
主要構成部品仕様書

品番	品名	材料・加工等	表面処理
1	押手	角鋼管 30x20xt1.2	亜鉛ﾒｯｷ
2	椅子倒れ止め	角鋼管 30x20xt1.2	亜鉛ﾒｯｷ
3	ｻｲﾄﾞ枠	角鋼管 30x20xt1.2	亜鉛ﾒｯｷ
4	ｺｰﾅｰｶﾞｾｯﾄ	鋼板 t-2.3	黒色焼付
5	連結PLT1	鋼板 t-2.3	亜鉛ﾒｯｷ
6	車輪ｻﾎﾟｰﾄ	鋼板 t-2.3	黒色焼付
7	補助ｻﾎﾟｰﾄ	鋼板 t-2.3	黒色焼付
8	椅子滑り止め	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰﾄ	
9	床板	亜鉛ﾒｯｷ鋼板 t-1.0	亜鉛ﾒｯｷ
10	ｽﾄｯﾊﾟｰ	鋼材 t-4.5	黒色焼付
11	ﾚｰﾙｻﾎﾟｰﾄ	鋼板 t-1.6	亜鉛ﾒｯｷ
12	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ	鋼板 t-1.6	亜鉛ﾒｯｷ
13	車輪ｶﾞｲﾄﾞﾍﾞｰｽ	鋼板 t-1.6	亜鉛ﾒｯｷ
14	車軸	丸棒 φ17	亜鉛ﾒｯｷ
15	軸受	鋼材 t-4.5	黒色焼付
16	車輪	車輪外径 φ100 MTﾄﾗｯｸ専用車輪	本体は 亜鉛ﾒｯｷ
17	ｵｰﾙｱﾝｶｰ	M8x40	亜鉛ﾒｯｷ
18	飾り板	表面ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ化粧合板 下地鋼板 t-1.2	黒色焼付

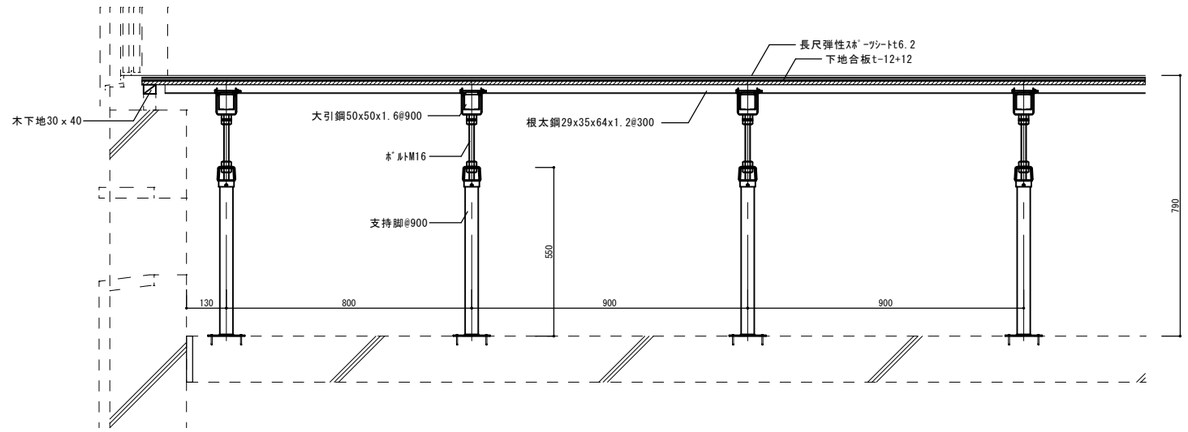
特記事項

設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

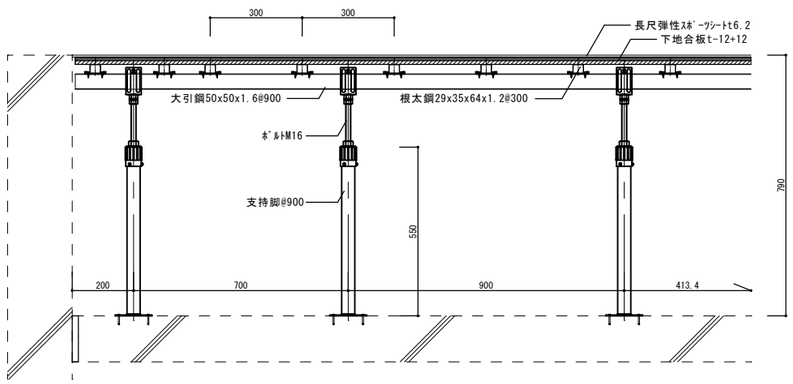
工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事		図面番号
図面名	【改修】収納台車詳細図	縮尺 A1: 1/5,20,50 A3: 1/10,40,100	A － 28
株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子		



【改修】ｱﾘｰﾅ鋼製床伏図 S=1/100

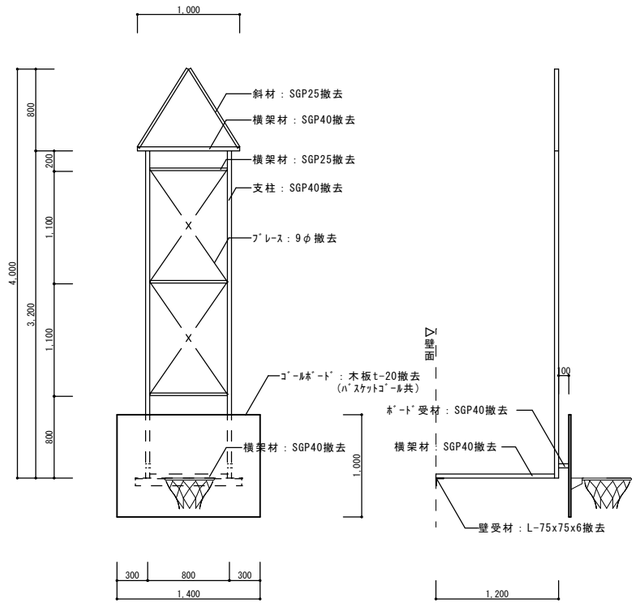


【改修】ｱﾘｰﾅ鋼製床断面図　A部 S=1/10

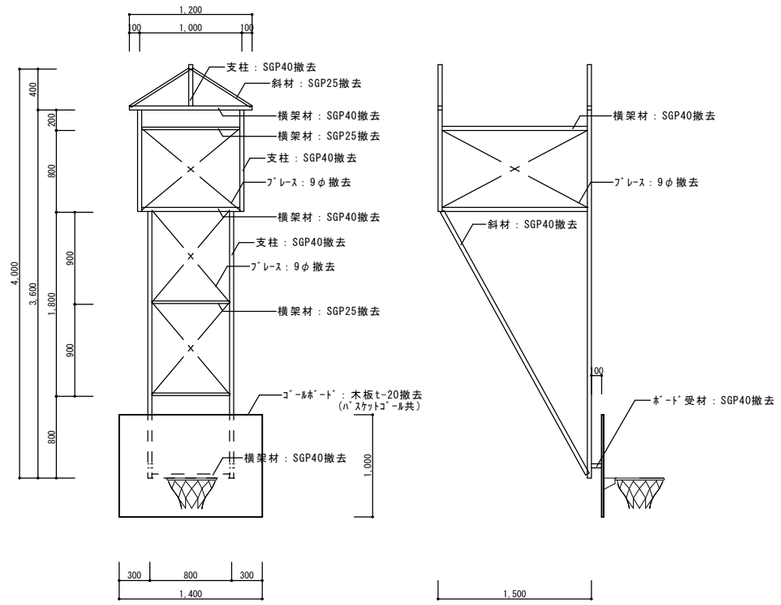


【改修】ｱﾘｰﾅ鋼製床断面図　B部 S=1/10

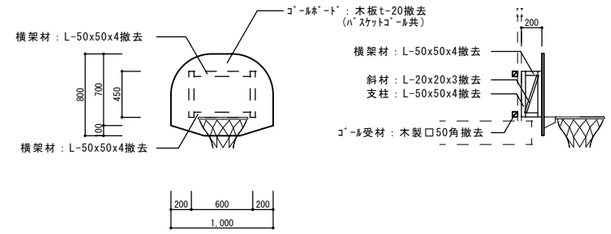
特記事項	設計年月日　年　月　日	工事名	館矢間小学校体育館長寿命化工事		図面番号
	管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【改修】鋼製床下地詳細図	縮尺 A1: 1/10,100 A3: 1/20,200	A － 29
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第3248846号 長南 京子		



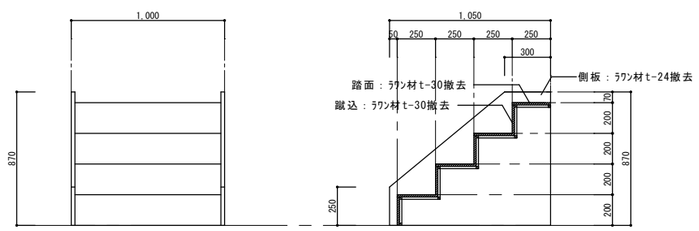
撤去壁面固定ﾊﾞｽｹｯﾄｺﾞｰﾙ詳細図 S=1/30



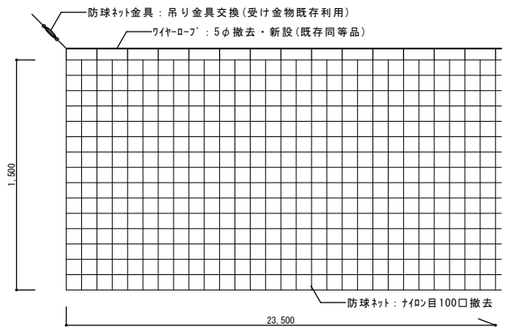
撤去ﾁｪｰﾝ可動ﾊﾞｽｹｯﾄｺﾞｰﾙ詳細図 S=1/30



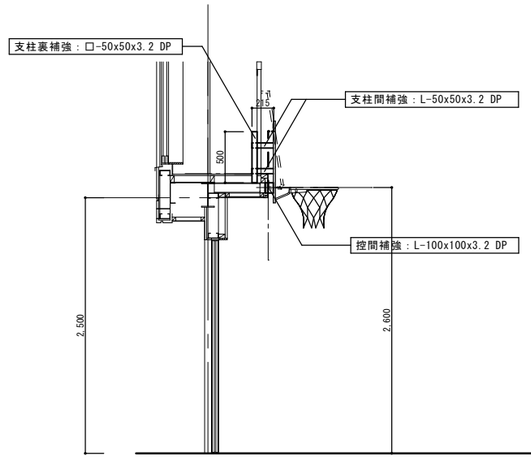
撤去手摺固定ﾊﾞｽｹｯﾄｺﾞｰﾙ詳細図 S=1/30

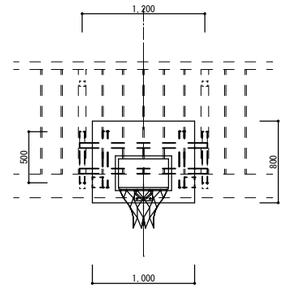


撤去移動式階段詳細図 S=1/20



撤去・新設ｷｬｯﾄｳｫｰｸ防球ﾈｯﾄ詳細図 S=1/20

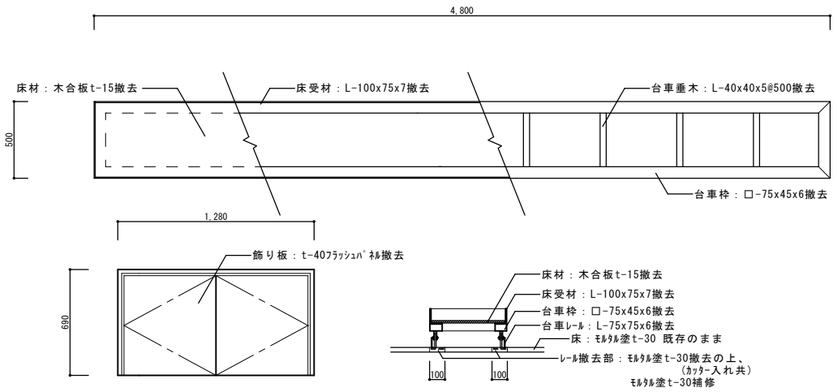




※取付について

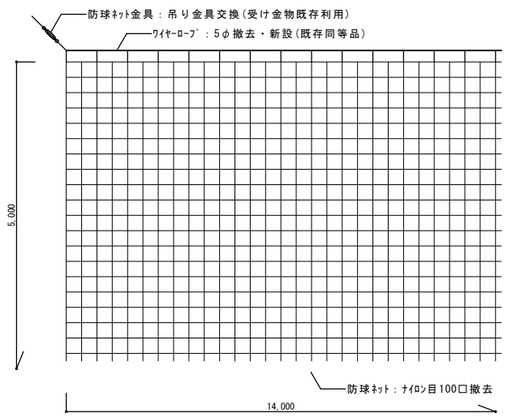
・既存手摺との補強は溶接
・補強鋼材とﾊﾞｽｹｯﾄｺﾞｰﾙ受け材とは
ﾎﾞﾙﾄ接合とする

既存手摺取付ﾊﾞｽｹｯﾄｺﾞｰﾙ新設詳細図 S=1/30

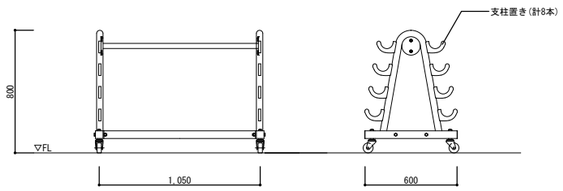


台車収納扉姿図　　台車姿図

撤去収納台車詳細図 S=1/20

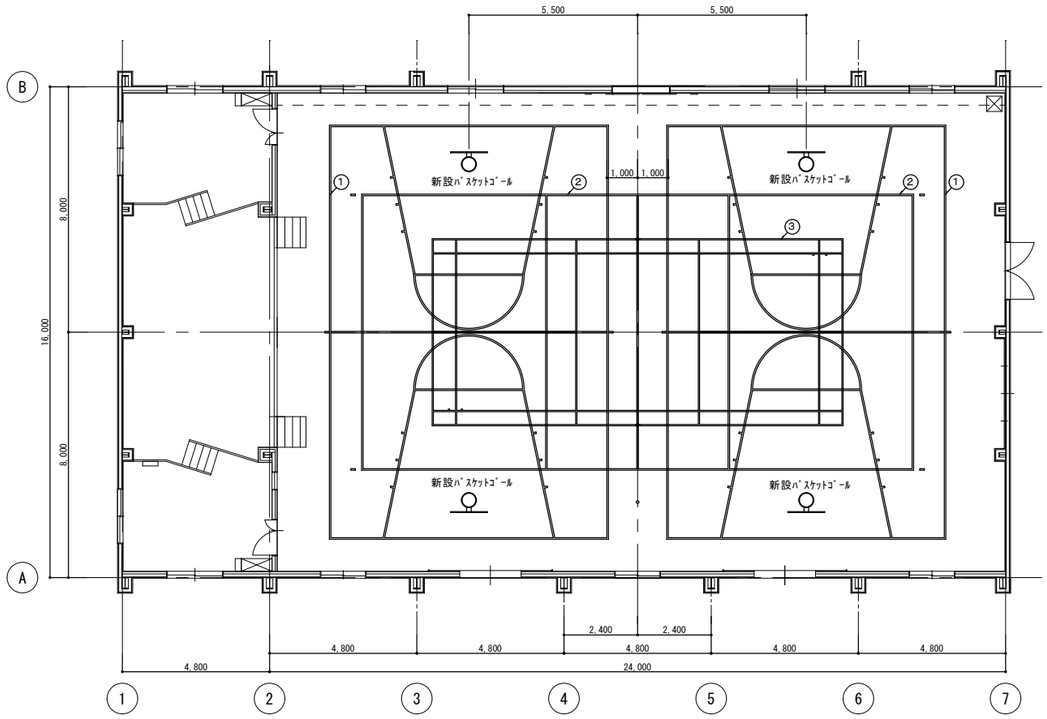


撤去・新設ｽﾃｰｼﾞ防球ﾈｯﾄ詳細図 S=1/20

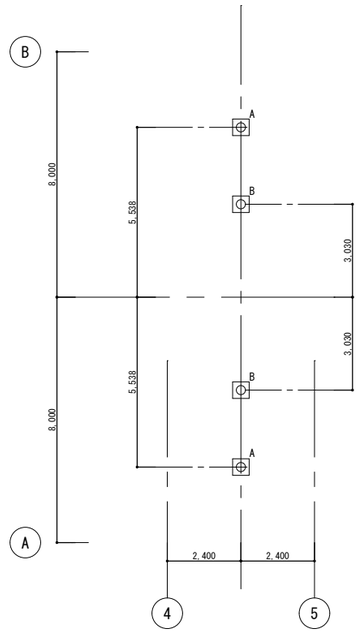


【参考】整理台姿図 S=1/20

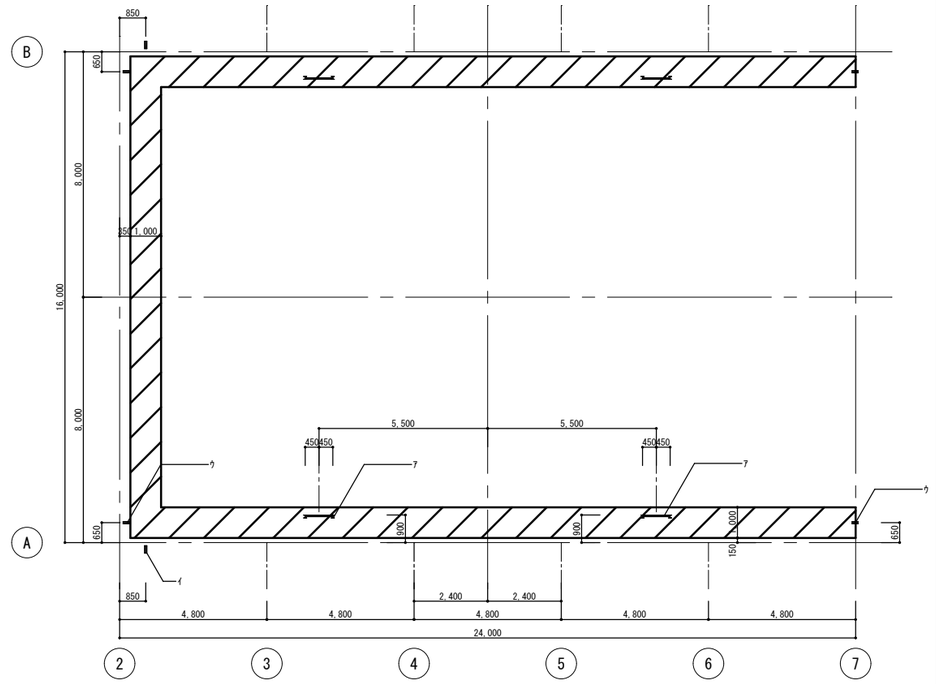
特記事項		設計年月日　年　月　日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事	図面番号
		管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【既存・改修】体育器具詳細図	縮尺 A1: 1/20,30 A3: 1/40,60	A－30
			株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子	



【改修】ｺｰﾄﾗｲﾝ配置図 S=1/100



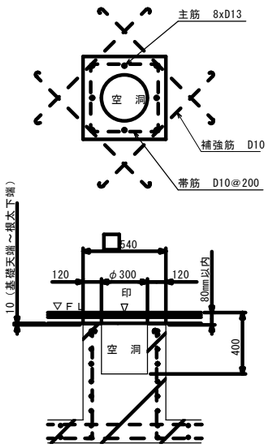
【改修】基礎配置図 S=1/100



【改修】体育器具取付用受材伏図 S=1/100

ｺｰﾄﾗｲﾝ内訳表					
記号	種　別	寸　法	面数	備　考	
1	ﾐﾆﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙｺｰﾄ	13,400 x 9,000	2面	実線	ﾗｲﾝ幅50mm
2	ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙｺｰﾄ	18,000 x 9,000	1面	実線	ﾗｲﾝ幅50mm
3	ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝｺｰﾄ	13,400 x 6,100	1面	実線	ﾗｲﾝ幅40mm

基礎内訳表		
A	ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ用基礎	2個
B	ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ用基礎	2個
合　計		4個



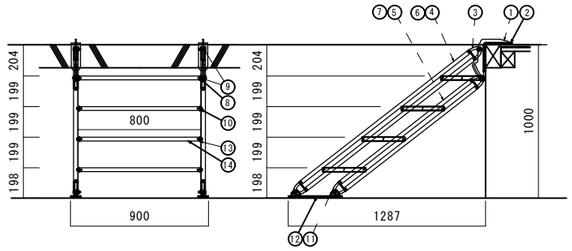
【改修】基礎詳細図 S=1/20

取付用受け材（ｱ・ｲ・ｳ）は鉄骨工事に含む

ｱ：折畳ﾊﾞｽｹｯﾄｺﾞｰﾙ用　H-100 x 100 x 6 x 8（左右）　4ヶ所
φ48.6 x t-3.5（上下）

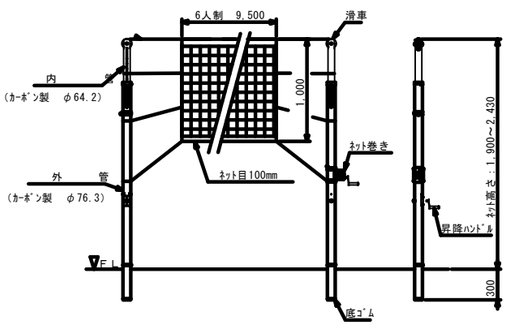
ｲ：ｽﾃｰｼﾞ前ﾈｯﾄ用　φ60.5xt-3.8　2本

ｳ：ｻｲﾄﾞﾈｯﾄ用　φ60.5 x t-3.8　4本

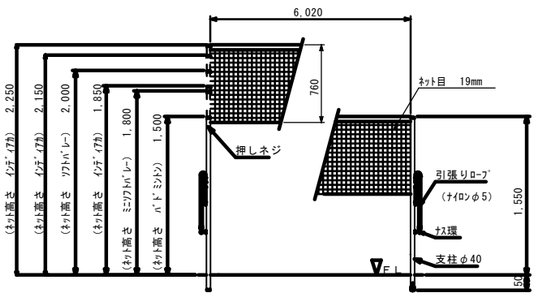


【改修】新設ｱﾙﾐ製移動階段詳細図 S=1/20

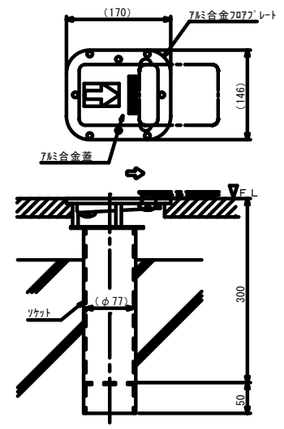
アルミ製移動階段主要構成部品仕様書			
品番	名称	材料・加工等	表面処理
1	フック	ALMダイキャスト製	粉体塗装
2	滑り止めゴム	成形品　6ミリ　差込	
3	Bkt 1	強化プラスチック製（成型）	
4	支柱材 1	ALM押し出し成形品（80×30×3t）	粉体塗装
5	支柱材 2	ALM押し出し成形品（80×30×3t）	粉体塗装
6	支柱用フタ 1	ALM押し出し成形品	粉体塗装
7	支柱用フタ 2	ALM押し出し成形品	粉体塗装
8	カラー 1	φ22×5t　穴径φ8.5	
9	カラー 2	鋼スペーサー(G0800)	
10	カラー 3	φ22×3t　穴径φ8.5	
11	Bkt 2	ALM押し出し成形品	粉体塗装
12	脚ベース	ALM押し出し成形品	粉体塗装
13	ステップカバー	ALM押し出し成形品	粉体塗装
14	ステップ材	ALM押し出し成形品	粉体塗装



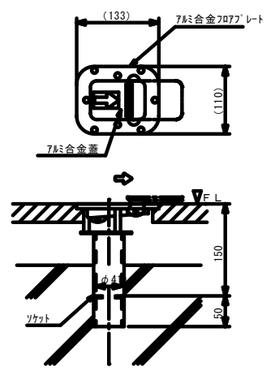
【改修】 ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙﾈｯﾄ詳細図　S=1/30



【改修】 ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝﾈｯﾄ詳細図　S=1/30



【改修】 ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ床金具詳細図　S=1/5

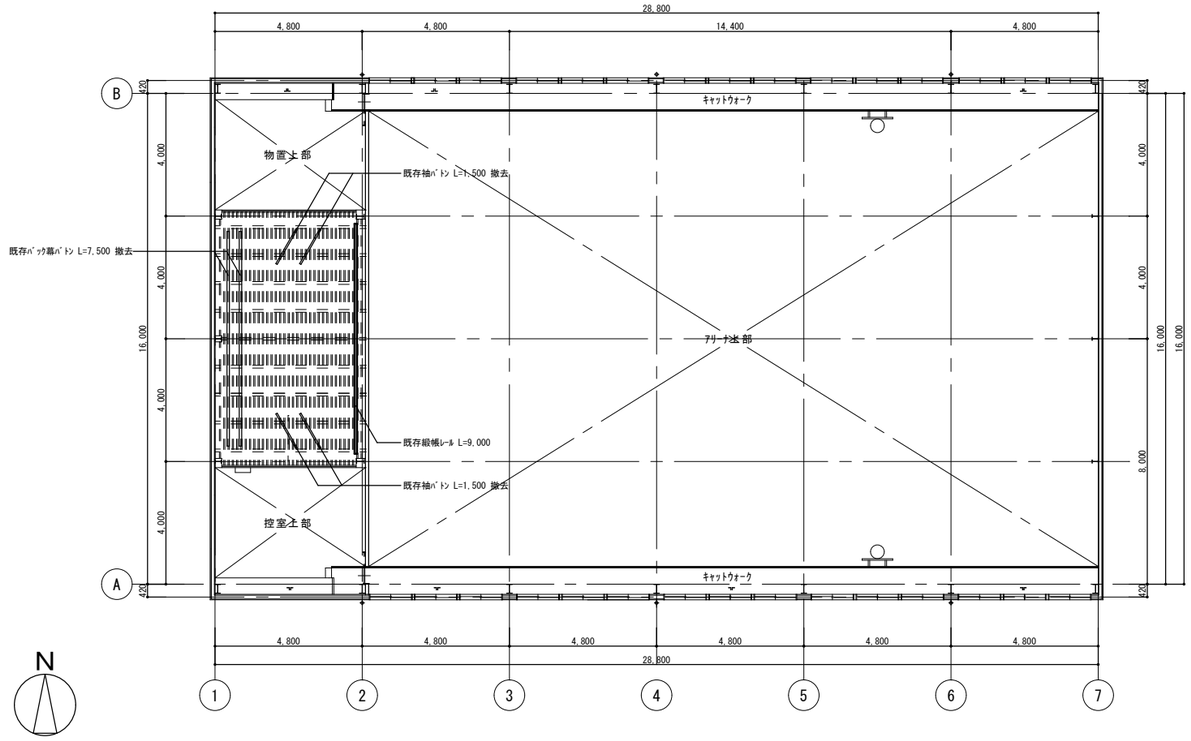


【改修】 ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ床金具詳細図　S=1/5

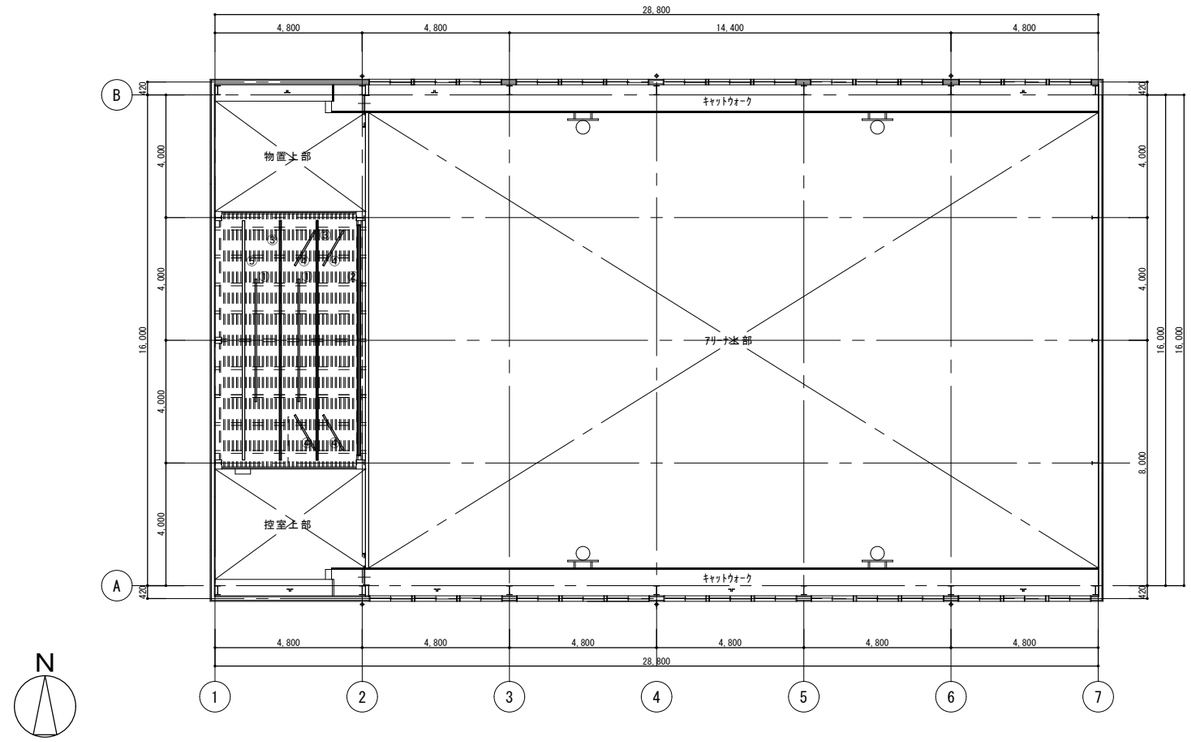
特記事項

設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

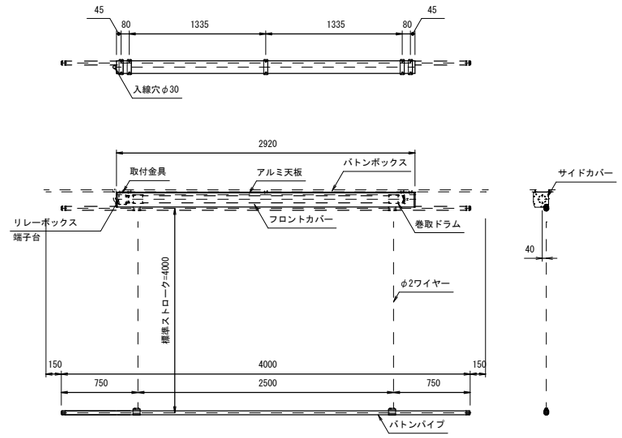
工事名	館矢間小学校体育館長寿命化工事		図面番号
図面名	【既存・改修】ｺｰﾄﾗｲﾝ配置図、体育器具詳細図1	縮尺 A1: 1/5,20,30,100 A3: 1/10,40,60,200	A － 31
株式会社 桂設計	一級建築士登録 第3248486号 長南 京子		



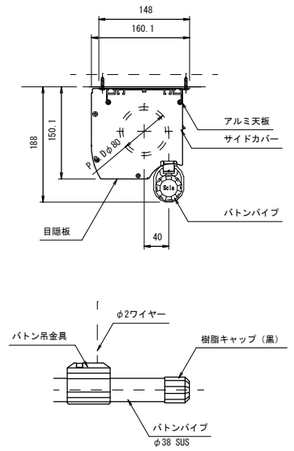
【既存】舞台幕・レール配置図 S=1/100



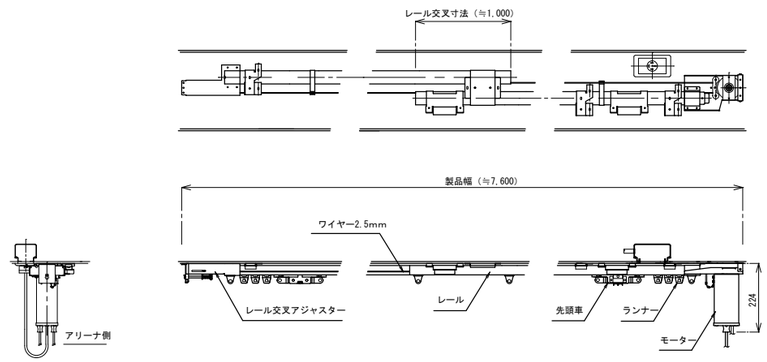
【改修】舞台幕・レール配置図 S=1/100



吊物バトン　製品図　S=1/30



吊物バトン詳細図　S=1/5



引き割緞帳　姿図　S=1/10

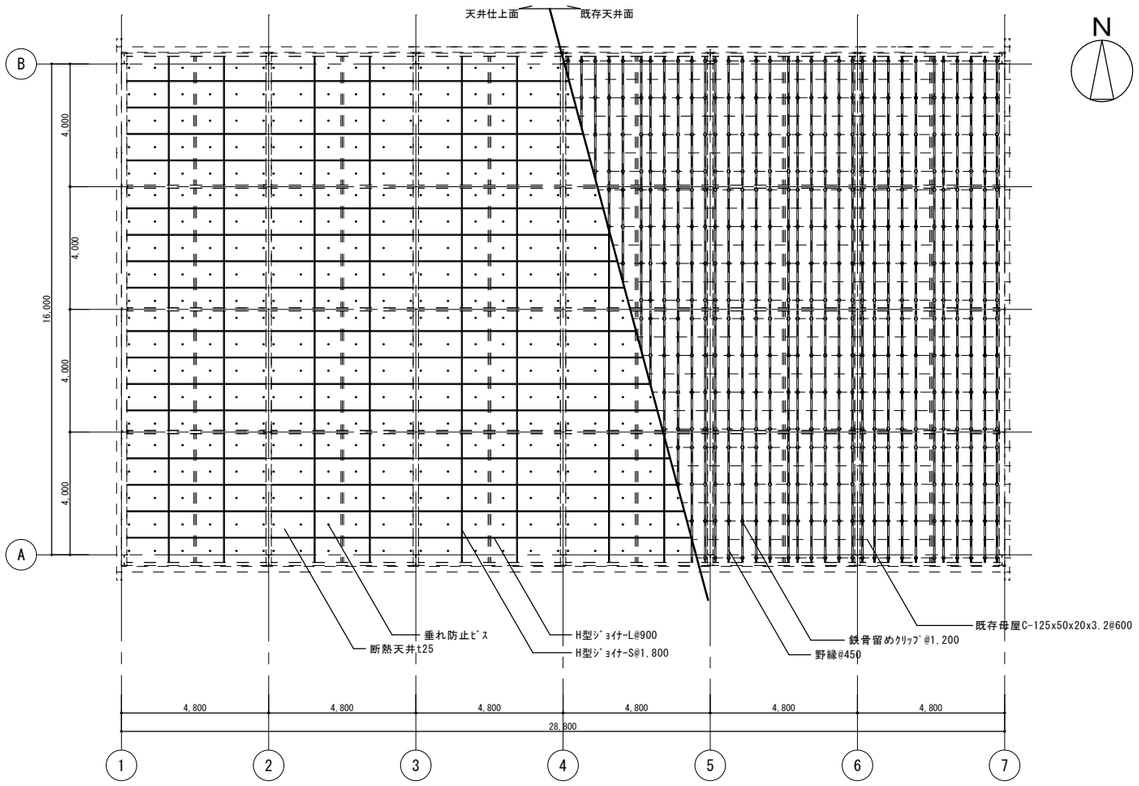
改修舞台吊物装置内訳表

番号	品　名	仕　様	数	量
①	電動昇降バトン	ﾌﾛﾝﾄｶﾊﾞｰ付 SUS38φ 許容積載荷重20kg ﾜｲﾔﾚｽﾘﾓｺﾝ付L=4000	2	吊
②	引き割緞帳用レール	天井直付 電動開閉 ｱﾙﾐﾚｰﾙ ﾚｰﾙ交叉L=5000×2	1	吊
③	カスミ幕用パイプ	スチール25φ 黒色 L=8000	2	吊
④	見切り幕用パイプ	スチール25φ 黒色 L=1500	4	吊
⑤	バック幕用レール	手動開閉(紐引き) ｱﾙﾐﾚｰﾙ L=8000	1	吊

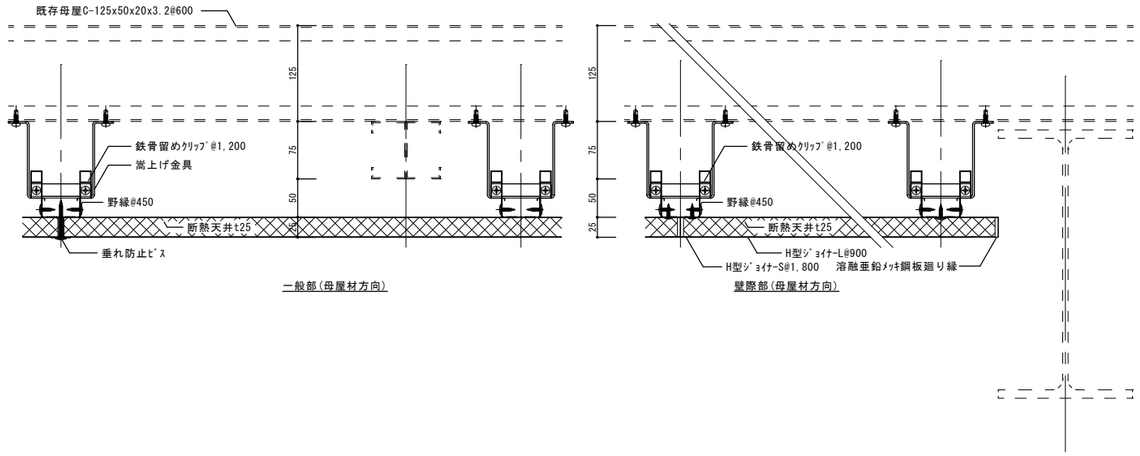
特記事項

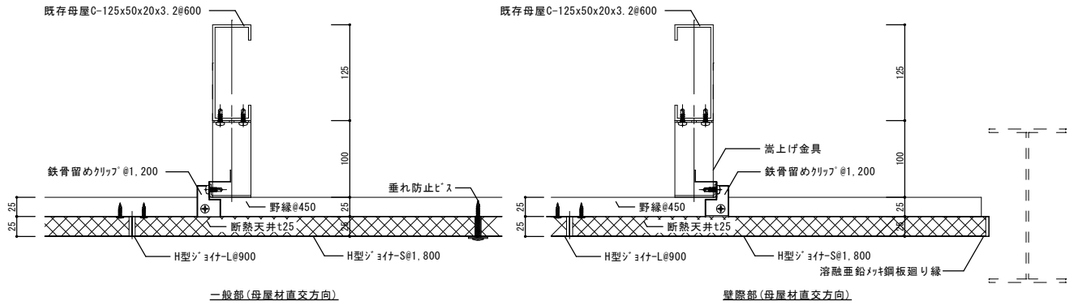
設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

工事名	館矢間小学校体育館長寿命化工事		図面番号
図面名	【既存・改修】舞台吊物詳細図	縮尺 A1: 1/5,10,30,100 A3: 1/10,20,60,200	A － 32
株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子		

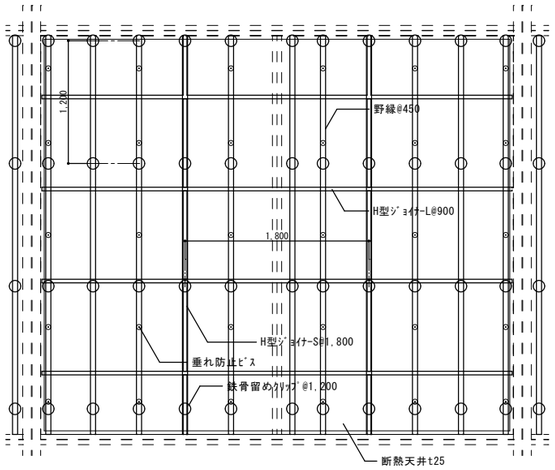


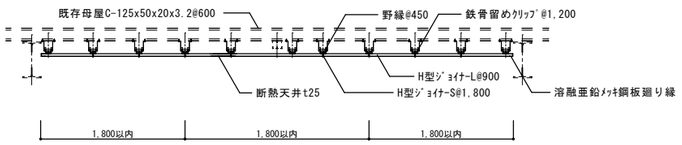
【改修】ｱﾘｰﾅ天井断熱材伏図 S=1/100





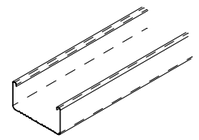
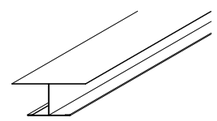
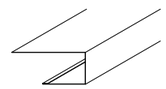
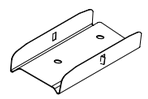
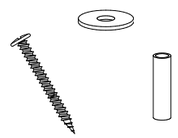
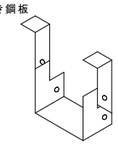
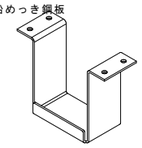
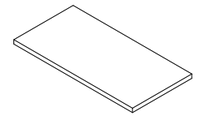
【改修】ｱﾘｰﾅ天井断熱材断面詳細図 S=1/4





【改修】ｱﾘｰﾅ天井断熱材部分平面詳細図・断面図 S=1/30

・部材一覧表　S=Non

材質：溶融亜鉛めっき鋼板  野縁　25型	材質：溶融亜鉛めっき鋼板  H型ｼﾞｮｲﾅｰS・L	材質：溶融亜鉛めっき鋼板  廻り縁　コ型
材質：溶融亜鉛めっき鋼板  野縁受けｼﾞｮｲﾝﾄ	 垂防止ﾋﾞｽ	材質：スチール（ユニクロめっき） ﾋﾞｽ
材質：溶融亜鉛めっき鋼板  鉄骨留めｸﾘｯﾌﾟ	材質：溶融亜鉛めっき鋼板  嵩上げ金具	材質：グラスウール64K  サイズ：892×1792×t25 断熱天井材

特記事項		設計年月日　年　月　日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事	図面番号
		管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【改修】ｱﾘｰﾅ天井断熱材詳細図	縮尺 A1: 1/4,30,100 A3: 1/8,60,200	A － 33
			株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子	

家具共通仕様　「 図面中に特記なき所は下記の仕様とする。」

1 本体・棚板　室内VOC（ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ等）の低減効果と抗菌機能を持った可視光増感型触媒を工業的に配合した両面ﾒﾗﾐﾝ化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ厚さ20mm、F☆☆☆☆を使用する。
上記材料は、JIS-A5908適合、18ﾀｲﾌﾟ（曲げ強さ18N／平方ﾐﾘﾒｰﾄﾙ以上）とし、JISﾏｰｸ認定の国内工場での生産品、且つｸﾞﾘｰﾝ購入法適合品とする。

2 木口処理　躯体からの水分浸入を防ぐ為に、本体は背面も含めてﾌﾗｯﾄｴｯｼﾞ（ABS製樹脂をﾎｯﾄﾒﾙﾄ練付）加工とする。
開き扉・抽斗前板はｾﾌﾃｨｰｴｯｼﾞ（ ABS製　厚さ3mm　ﾎｯﾄﾒﾙﾄ練付 ）加工とする。

3 表面処理　本体・棚板・建具等は使用時の擦り傷の発生を抑制する為に鉛筆硬度　9H　以上の表面材を使用する。
本体色については色見本帳（ 45色以上 ）を提出の上決定する。

4 裏板　ﾎﾟﾘ化粧合板　F☆☆☆☆　厚さ4mmを使用し片面ﾌﾗｯｼｭ（ 450mm@以内に格子状桟組構造 ）とする。

5 本体組立て　組立ては、製作工場での木製ﾀﾞﾎﾞ組接合とし、接合部のﾉｯｸﾀﾞｳﾝ金物は使用不可とする。

6 台輪　ﾎﾟﾘ化粧合板仕上げ　F☆☆☆☆（ 塗装不要 ）とする。

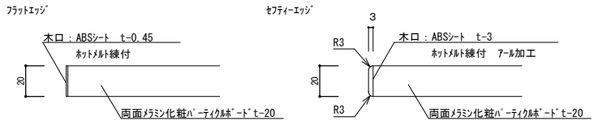
7 建具　板戸はくるいやﾎﾞｽﾞ抜け防止の為、かまち組み等は不可とし1枚物とする。

8 蝶番　蝶番はﾒﾝﾃﾅﾝｽが容易なｷｬｯﾁ機構付110°開きｾﾞﾝｼｽﾋﾝｼﾞ（ｿﾌﾄｸﾛｰｼﾞﾝｸﾞ機構内蔵）を使用する。

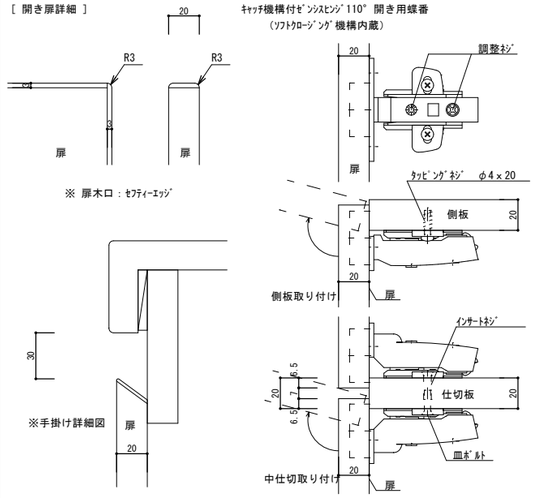
9 特記事項　品質確保の為、製作は ISO 9001取得企業とする。
製作にあたり、事前に製品の品質証明書及び材料と接着剤の安全ﾃﾞｰﾀｼｰﾄを提出し、素材・金物の承認を受ける。

10 施工　家具取付は、安全のため壁や床に耐震固定を施す。

[木口詳細]

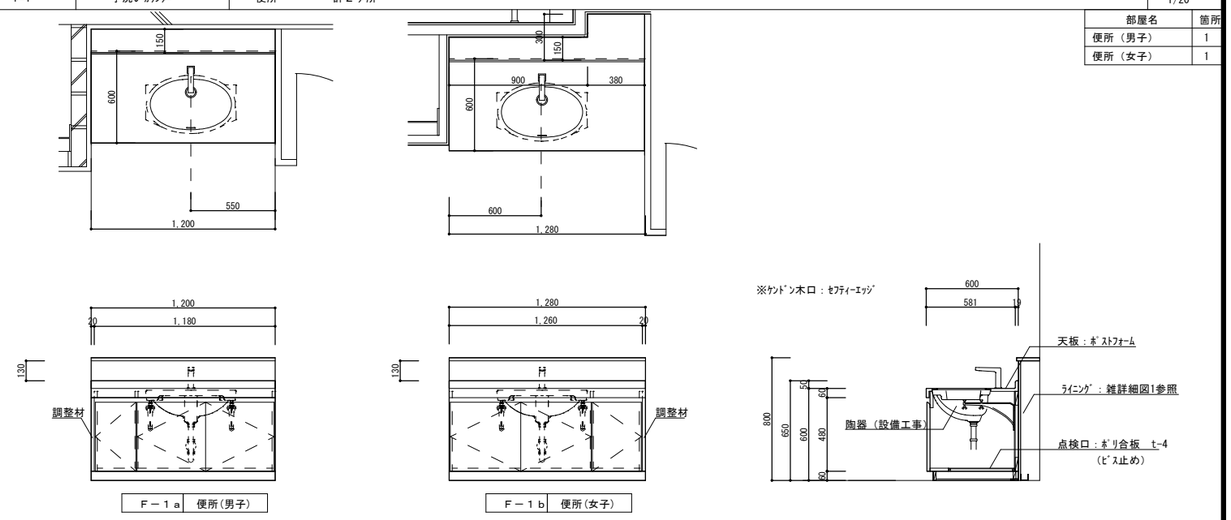


[開き扉詳細]

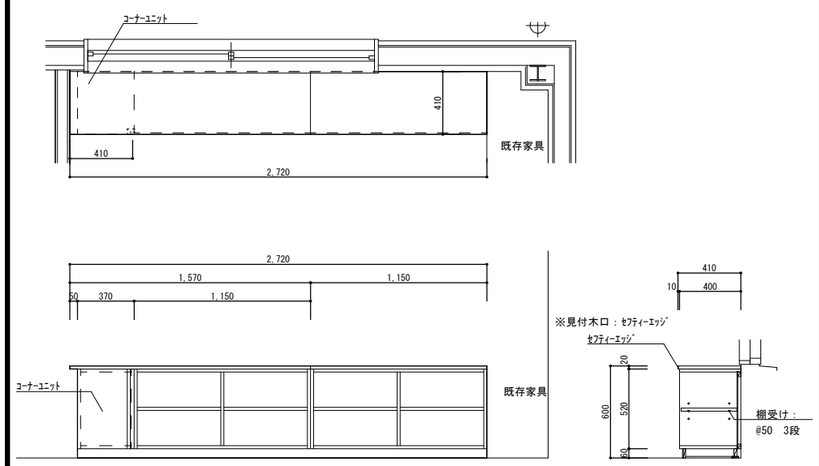


F-1　手洗いｶｳﾝﾀｰ　便所　計２ヶ所　1/20

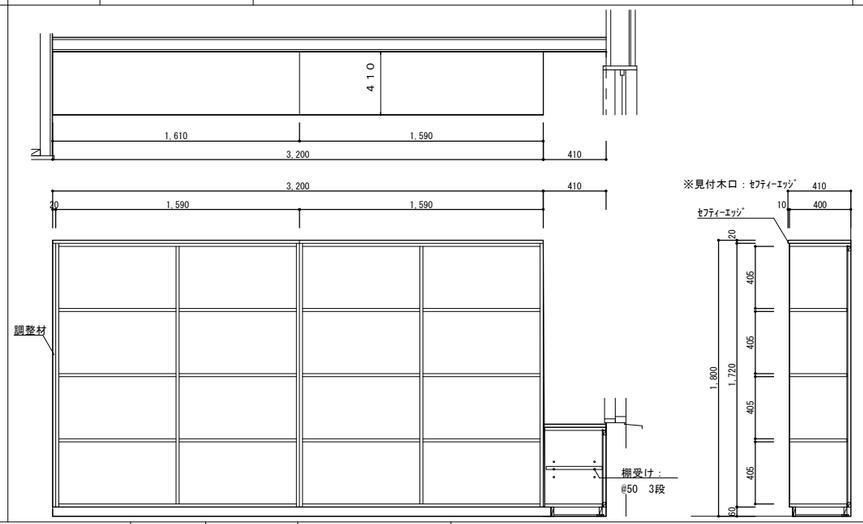
部屋名	箇所
便所（男子）	1
便所（女子）	1



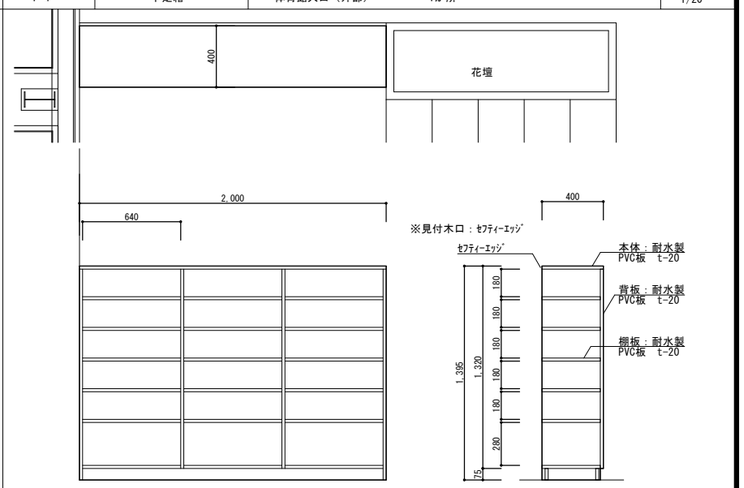
F-2　棚　更衣室（男子）　1か所　1/20



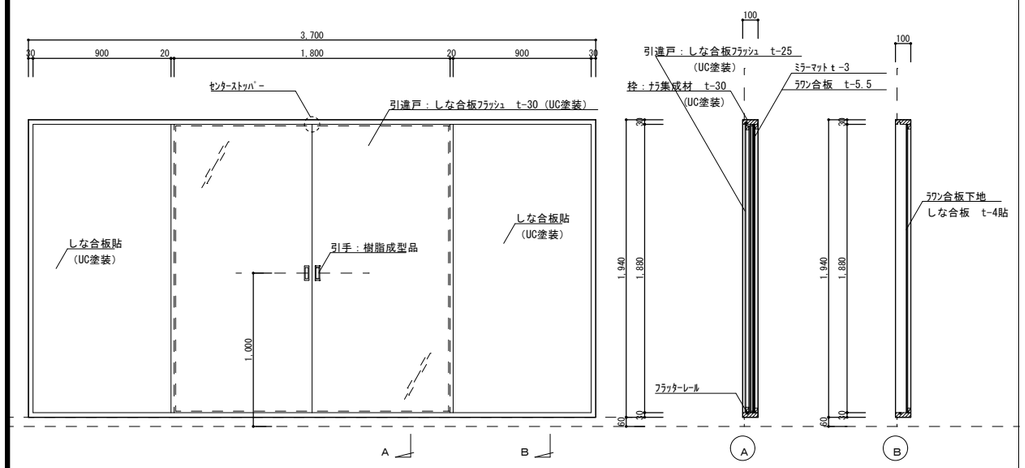
F-3　棚　更衣室（男子）　1か所　1/20



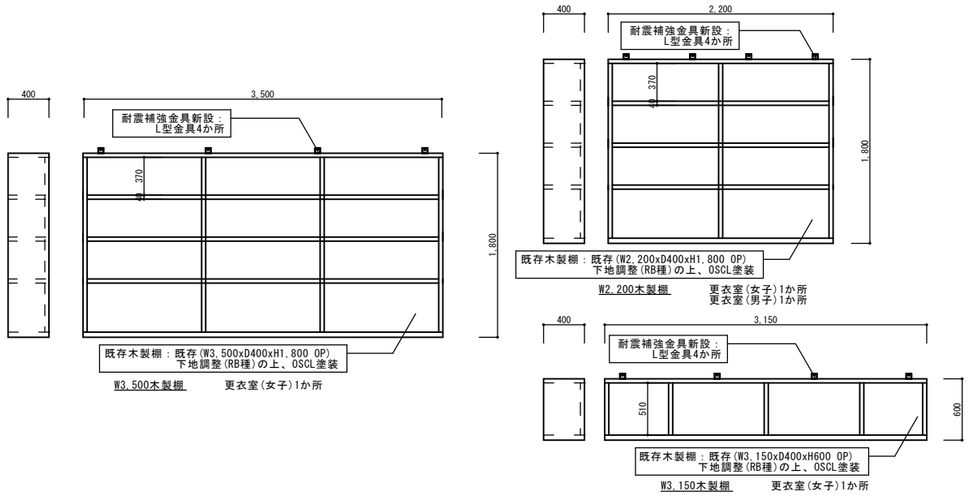
F-4　下足箱　体育館入口（外部）　1か所　1/20



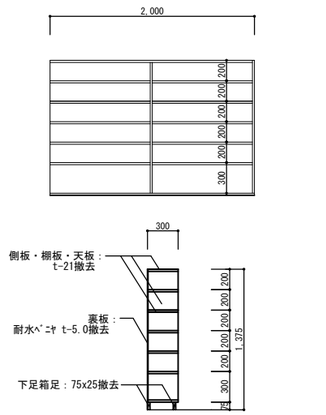
F-5　鏡横　体育館　1か所　1/20



既存撤替家具　木製棚　男子・女子更衣室　1/30



既存撤去家具　木製下足箱　外部　1/30

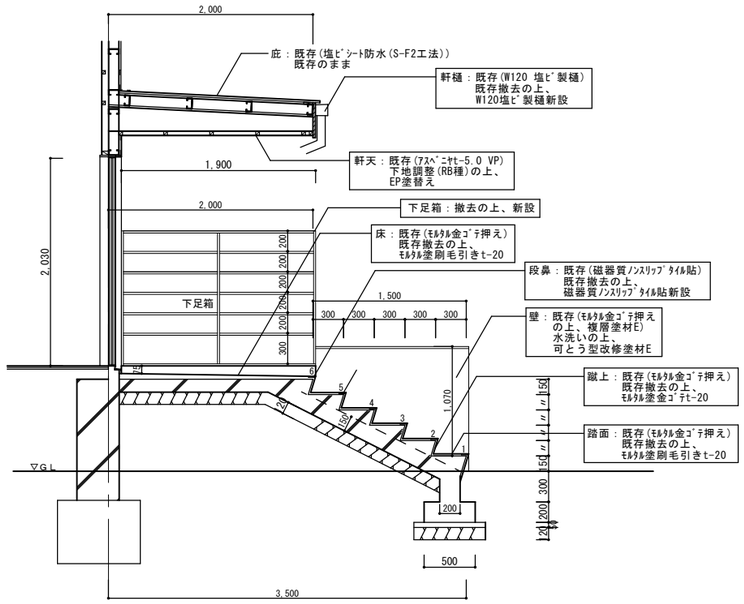


特記事項

設計年月日	年	月	日
管理技術者	担当者	作図	

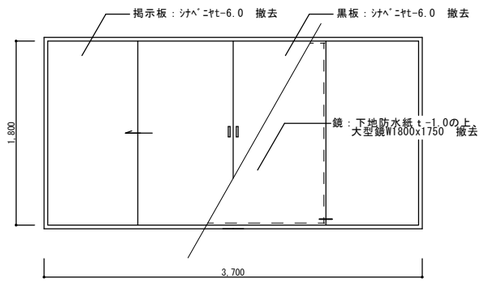
工事名　館矢間小学校体育館長寿命化工事
図面名　【既存・改修】家具図
縮尺　A1: 1/20　A3: 1/40
株式会社　桂設計　一級建築士登録　第324846号　長南　京子
図面番号　A－34

D－1 ﾎﾟｰﾁ詳細図 S=1/30

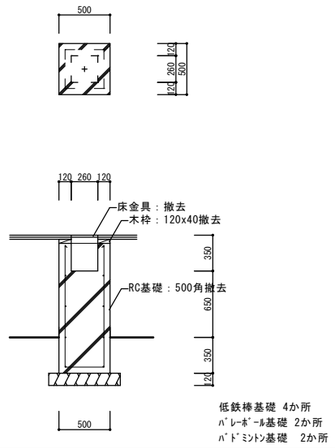


【既存・改修】ﾎﾟｰﾁ詳細図 S=1/30

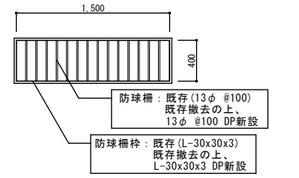
D－2 大型鏡、鏡襖撤去詳細図 S=1/30



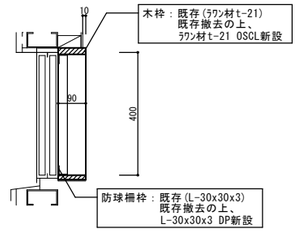
D－3 体育器具支柱床金具・基礎撤去詳細図 S=1/30



D－4 既存SW-5窓枠(防球柵付)撤去・新設詳細図 S=1/10,30

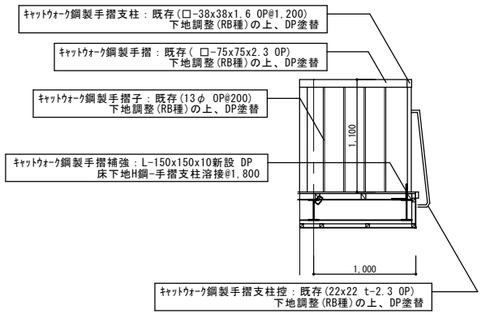


姿図 S=1/30

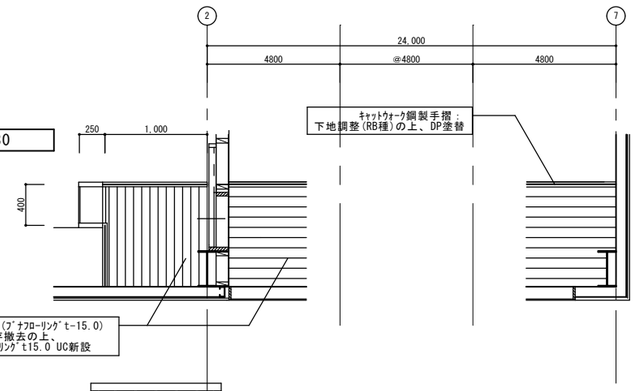


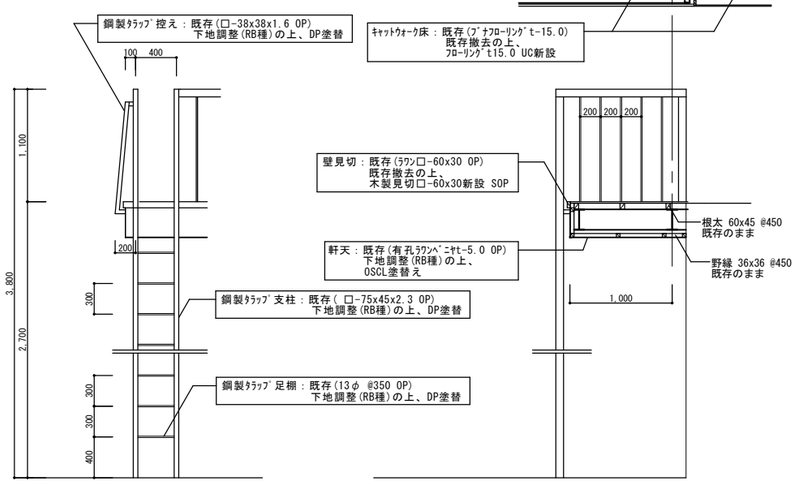
断面図 S=1/10

D－5 控室・物置ﾀﾗｯﾌﾟ改修、ｷｬｯﾄｳｫｰｸ手摺改修詳細図 S=1/30

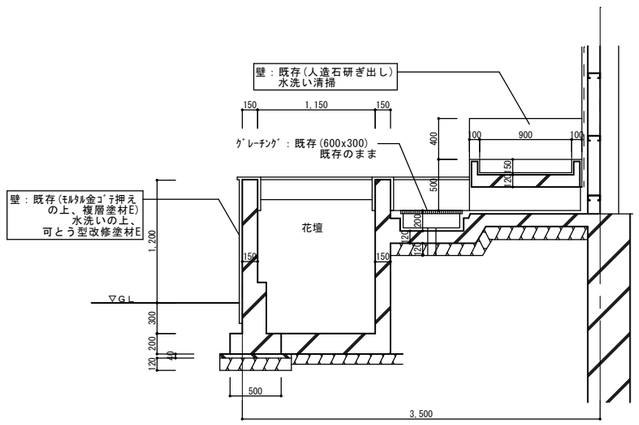


【既存・改修】ｷｬｯﾄｳｫｰｸ手摺改修詳細図 S=1/30





【既存・改修】控室・物置ﾀﾗｯﾌﾟ詳細図 S=1/30



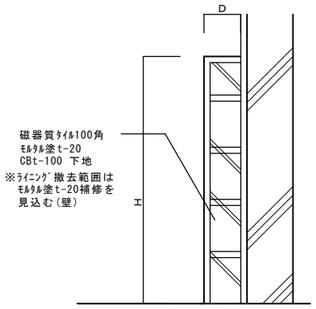
【既存・改修】花壇・靴洗い場・水呑場詳細図 S=1/30

特記事項	設計年月日 年 月 日	工事名	鎧矢間小学校体育館長寿命化工事		図面番号
	管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	雑詳細図1	縮尺 A1: 1/10,30 A3: 1/20,60	A － 35
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子		

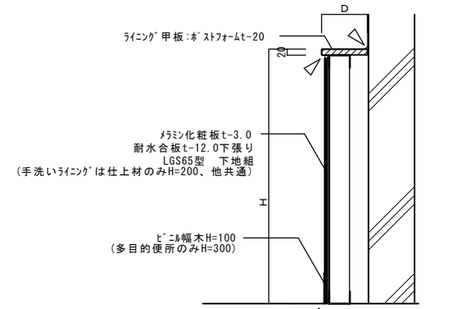
D－6 ﾗｲﾆﾝｸﾞ詳細図 S=1/10

ﾗｲﾆﾝｸﾞ撤去凡例			
室名	項目	寸法	か所
男子便所	ﾗｲﾆﾝｸﾞ	W2,400xD120xH1,200	1か所

ﾗｲﾆﾝｸﾞ新設凡例							
室名	項目	寸法	か所	室名	項目	寸法	か所
男子便所	小便器ﾗｲﾆﾝｸﾞ	W2,500xD150xH1,200	1か所	SK	SKﾗｲﾆﾝｸﾞ	W900xD150xH1,100	1か所
	手洗いﾗｲﾆﾝｸﾞ	W1,200xD150xH800	1か所	女子便所	手洗いﾗｲﾆﾝｸﾞ	W900xD150xH800	1か所
多目的便所	大便器ﾗｲﾆﾝｸﾞ	W1,300xD150xH900	1か所		手洗いﾗｲﾆﾝｸﾞ	W380xD300xH800	1か所
	手摺ﾗｲﾆﾝｸﾞ	W1,250xD150xH1,550	1か所				
	手洗ﾗｲﾆﾝｸﾞ	W800xD150xH900	1か所				

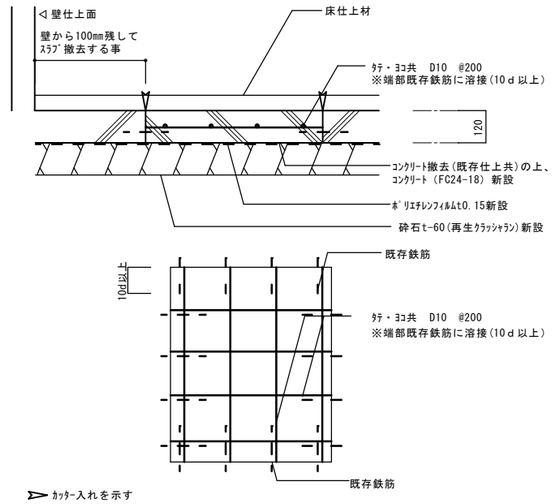


撤去ﾗｲﾆﾝｸﾞ詳細図

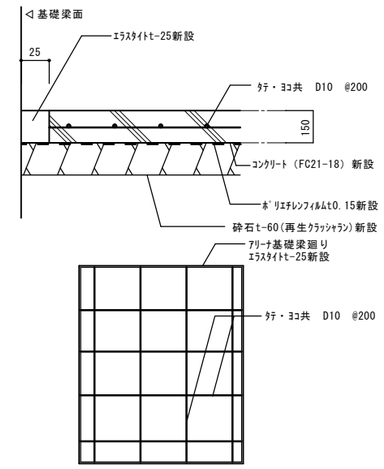


新設ﾗｲﾆﾝｸﾞ詳細図

D－7 ﾄｲﾚ床ｽﾗﾌﾞ撤去・復旧詳細図 S=1/10

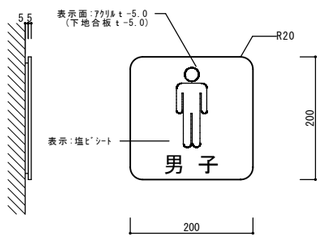


D－8 ｱﾘｰﾅ床新設土間ｽﾗﾌﾞ詳細図 S=1/10



D－9 平付けｻｲﾝ新設詳細図 S=1/5

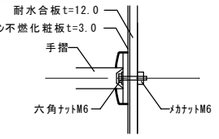
男子x1 女子x1
多目的x1
計 3か所



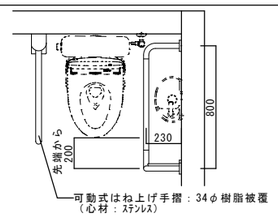
※表示内容及び設置位置は監督員との協議による。

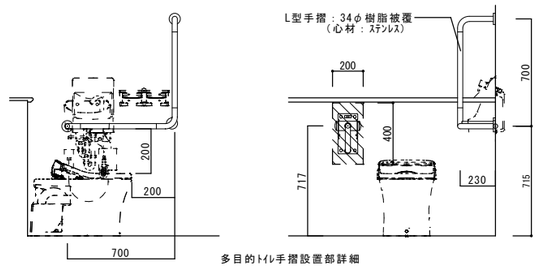
D－10 手摺詳細図 S=1/20

・手摺取付金物は全てｽﾃﾝﾚｽ製とする。
・下地は耐水性合板とする。



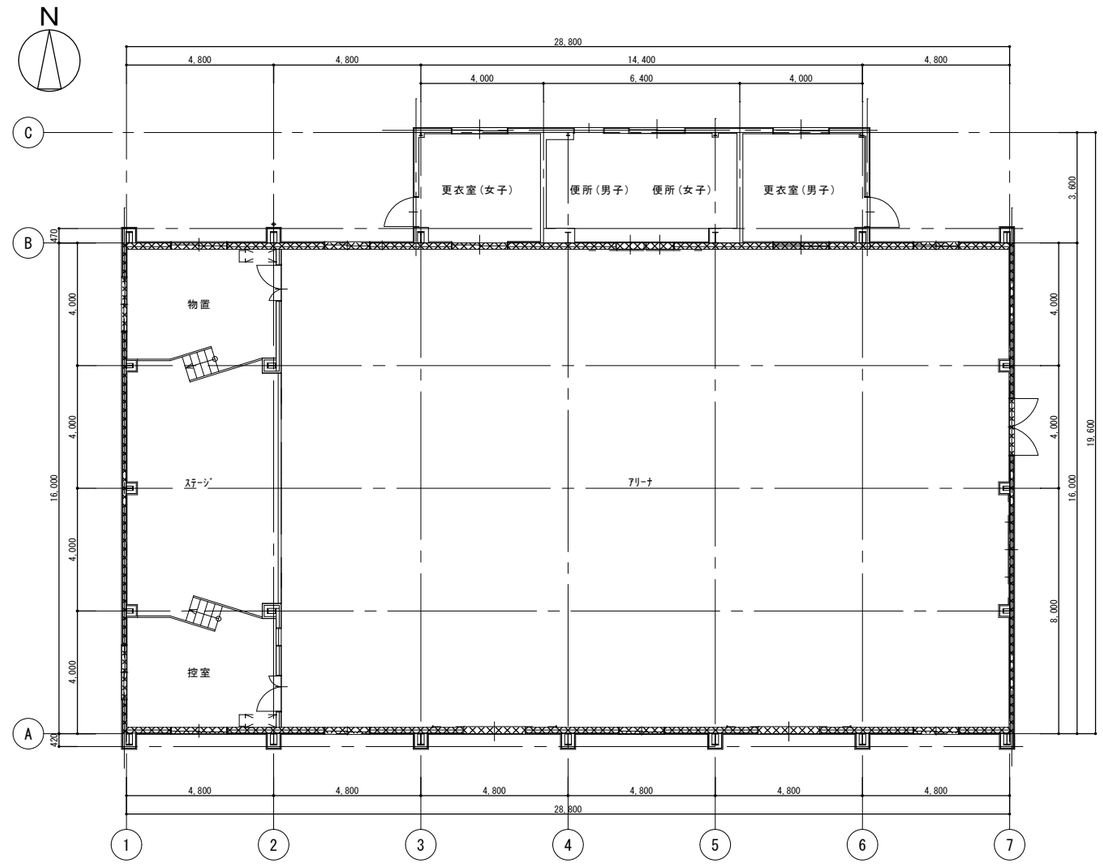
手摺設置部詳細





多目的ﾄｲﾚ手摺設置部詳細

D－13 断熱材範囲詳細図 S=1/20



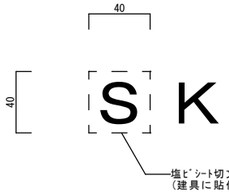
◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ ：断熱範囲を示す

・基礎RC面
ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ板t-40張り

・鉄骨躯体面
硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付t-50

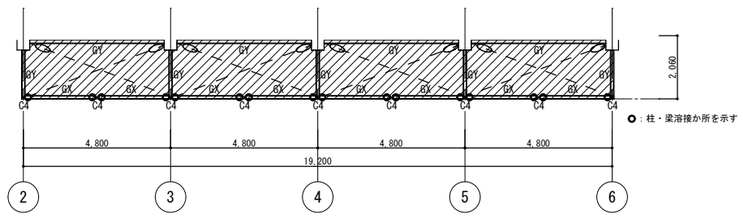
D－11 扉付けｻｲﾝ詳細図 S=1/2

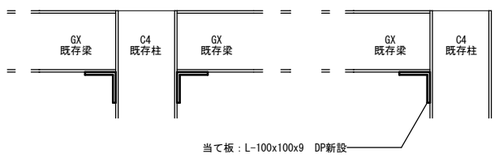
1か所
ＳＫ



※表示内容及び設置位置は監督員との協議による。

D－12 外部通路架台鉄骨補強詳細図 S=1/10





※既存柱・梁との取合は溶接とする
梁8か所

特記事項

設計年月日	年	月	日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事	図面番号
管理技術者	担当者	作図		図面名	雑詳細図2	縮尺 A1: 1/2,5,10,20 A3: 1/4,10,20,40
				株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子	A － 36

電気設備改修工事特記仕様書【令和８年４月版】

Ⅰ．工事概要

１．工事名　宮城県伊具郡丸森町舘矢間舘山玉川

２．工事場所　舘矢間小学校体育館長寿命化工事

３．建物概要

建物名称	構造	階数	延べ面積(㎡)	建築面積(㎡)	消防法施行令別表第一による用途区分	備考
体育館	S造	平屋	562.64㎡	-	7項	

４．工事種目（⊙印のついたものを適用する。）

工事種目 ＼ 建物別及び屋外	工事種別			屋外	備考
⊙電灯設備	改修一式				
・動力設備					
・電熱設備					
・雷保護設備					
・受変電設備					
・電力貯蔵設備					
・発電設備					
⊙構内情報通信網設備	改修一式				
⊙構内交換設備	改修一式				
⊙情報表示設備	改修一式				
⊙映像・音響設備	改修一式				
⊙拡声設備	改修一式				
⊙誘導支援設備	改修一式				
⊙テレビ共同受信設備	改修一式				
・監視カメラ設備					
・駐車場管制設備					
・防犯・入退室管理設備					
⊙自動火災報知設備	改修一式				
・中央監視制御設備					
・構内配電線路					外灯設備を含む
・構内通信線路					
・テレビ電波障害防除					
・その他工事	別紙仕様書による				

５．指定部分　※ なし　・ あり（工　期：令和　年　月　日）（対象部分：　）

６．概成工期　※ なし　・ あり（工事工期より　日前）

Ⅱ．特記仕様書

１．一般事項

（１）特記仕様書及び図面に記載されていない事項は，すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編，令和７年版），公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編，令和７年版），国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修の「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編，令和７年版）」による。

（２）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合，機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事特記仕様書を適用する。なお，機械設備工事の特記仕様書は（　／　）図，建築工事の特記仕様書は（　／　）図による。

２．特記事項

（１）項目は番号に⊙印の付いたものを適用する。

（２）特記事項は，⊙印の付いたものを適用する。⊙印の付かない場合は，※印の付いたものを適用する。

⊙印と※印の付いた場合は，共に適用するものとする。

章	項目	特記事項
一般共通事項	① 適用基準等	※ 建設工事執行規則（昭和３９年３月宮城県規則第９号） ※ 宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱（最新版） ※ 営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和５年版）及び工事写真撮影ガイドブック＜電気設備工事編＞（国土交通省大臣官房庁営繕部監修　令和５年版）
	② 機材等	※ 本工事に使用する機材等は，設計図書に規定するもの，またはこれらと同等のものとする。ただし，これらと同等のものとする場合は，監督職員の承諾を受けるものとする。 ※ 本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては，「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し，揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。 ※ 使用する材料のホルムアルデヒド仕様は，日本産業規格及び日本農林規格のＦ☆☆☆☆規格品，壁装材料協会規格適合品または同等品，化学物質等製品安全データシート等にホルマリン不使用が明示されたものとする。
	③ 機材の品質・性能証明	本工事着手前に機器製作図を提出し，監督職員の承諾を受ける。 また，「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」（(一社)公共建築協会）によって所要の品質・性能を有することの評価を受けた材料・機材等を使用する場合は，評価書の写しを監督職員に提出するものとする。
	④ 保険	本工事着手前に工事目的物及び工事材料等を，本工事完了後引渡し期日まで火災保険及びその他の保険に付し，写しを監督職員に提出する。
	⑤ 雇用	本工事は，公共職業安定所の紹介する者の雇い入れに努める。
	⑥ 施工計画書・施工図等	工事の着手に先立ち，工事の総合的な計画をまとめた施工計画書を作成し，監督職員に提出する。 工事の施工に先立ち，工種別施工要領書及び施工図等を作成し，監督職員の承諾を受ける。
	⑦ 手続き	工事の着手，施工及び完成において，官公署その他関係機関への必要な諸手続き等は監督職員と協議の上，受注者が遅滞なく処理する。なお，当該手続きに係る費用は受注者の負担とする。
	⑧ 施工条件	別添の施工条件明示書による。
	⑨ 工事の一時中止	工事請負契約書第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は，工事の続行に備え中止期間中における工事現場の管理計画書を提出すること。本計画書には，中止時点における工事の出来高，搬入材料及び建設機械器具等の調書，中止期間中の体制及び工事現場の維持管理に関することを記載すること。
	⑩ 工事実績情報の登録（CORINS）	請負額が500万円以上の場合は，工事実績情報を登録する。 受注時，登録内容の変更時及び完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け，契約締結後，配置技術者の変更後，変更契約締結後，工事完成後の10日以内に登録手続きを行い，工事カルテの受領書を監督職員に提出のこと。
	⑪ 事故報告	施工中に事故が発生した場合は，直ちに監督職員に通報するとともに，「事故報告書」を別に指示する期日までに監督職員に提出する。
	⑫ 電気保安技術者	電気工作物に係る工事においては，電気保安技術者を置くものとする。
	⑬ 工事用電力，水，他	本工事に必要な工事用電力，水などの費用は引渡まですべて受注者の負担とする。
	⑭ 工事用仮設物	構内につくることが　※ できる　・ できない
	⑮ 監督職員事務所	※ 設けない　・ 設ける（　号・・・建築工事）
	⑯ 足場，さん橋類	⊙ 別契約の関係請負者が設置したものは，無償で使用できる。　・ 本工事で設置する。 なお，枠組足場を設ける場合は，「手すり先行工法等に関するガイドライン」（厚生労働省令和5年12月改訂）によるものとし，二段手すり及び幅木の機能を有するものでなければならない。
	⑰ 工事表示板	※ 設置する　設置枚数　１枚 営繕工事における工事及びコスト表示要領（平成14年2月6日宮城県土木部営繕課・設備室制定）により設置する。 ・ 設置しない
	⑱ 工事用通路	※ 指定しない　・指定する（図示）
	⑲ 発生材の処理等	発生材の処理 ・ 引渡しを要するもの（　） ・ 特別管理産業廃棄物（・ ＰＣＢ使用機器　・　） 受入施設名・所在地　： ・ 現場において再利用を図るもの（　） ・ 再資源化を図るもの（下表） ・ その他安定型廃棄物（　） 受入施設名・所在地　： ・ その他管理型廃棄物（　） 受入施設名・所在地　： ＰＣＢを含有する機器等については飛散，流出がないように適切な場所に保管し，工事完了後監督職員に引き渡す。

種類	受入施設名	所在地（ｋｍ）	備考

20．残土処理　※ 構内指示の場所に敷き均し　・ 構内指示の場所に堆積　・ 構外搬出

㉑ 耐震施工

耐震施工における設備機器の固定は，「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」（(独) 建築研究所監修）による。本工事の施設分類は（・ 特定の施設　⊙ 一般の施設）で地域係数は１とし，設計用標準水平震度は下表のとおりとする。なお，（　）内の数値は防震支持の機器の場合に適用する。

設置場所 ＼ 設計用標準震度	特定の施設 重要機器	特定の施設 一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器
上層階，屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	1.5 (2.0)	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)
中層階	1.5 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)
一階及び地下層	1.0 (1.0)	0.6 (1.0)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)

重要機器類
・ 配電盤　・ 発電装置　・ ＵＰＳ装置　・ 直流電源装置
・ 交換機　・ 受信機（自立型）　・ 中央監視装置　・ 情報通信ラック

重量が１００kg以下の軽量な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても，耐震を考慮し，据付等を行うものとするが，前記指針の方法によらなくてもよい。

22．風圧加重　※ 風速６０ｍ／ｓ　・ 風圧のＶ ＝　ｍ／ｓ
・ 雷保護設備受雷部　・ 照明ポール・基礎　・ テレビ共同受信装置アンテナ・アンテナマスト
・ 太陽光発電設備

23．他工事との工事区分　他工事との工事区分は図面に特記なき場合，「各工事の工事区分表」による。

㉔ 保温，結露防止　外部に面する壁，天井でＦＰ板（スタイロホーム等）打込み箇所に取付ける位置ボックスなどは，保温，結露防止処理を行う。

㉕ 電線類　本工事では環境配慮の観点から，原則としてＥＭケーブルを使用するものとする。

㉖ 合成樹脂製可とう管　合成樹脂製可とう管は，ＰＦ管(一重管)とし，温度による分類はタイプ－25とする。

㉗ 二種金属製可とう管
露出箇所　・ ビニル被覆あり　・ ビニル被覆なし
いんぺい箇所　・ ビニル被覆あり　・ ビニル被覆なし

㉘ 電線本数，管路など　分電盤，制御盤，端子盤などの２次側以降の配線経路，電線太さ，電線本数，管径などは，監督職員の承諾を受け変更してもさしつかえない。

29．インサート　鋼鉄製とする。なお，床版で保温板打込み部分は，断熱材用インサート（亜鉛めっき製品）を使用する。

30．呼び線　長さ１ｍ以上の通線しない電線管には，１．２㎜以上のビニル被覆鉄線を通線する。

㉛ フラッシュプレート　図面に特記なき場合，（※ 金属製（ステンレス・新金属も含む）　・ 樹脂製）とする。

㉜ フロアプレート･ベース　※ 水平高低調節付（空転防止リング付）　・ 銅合金製　・ アルミ合金製

33．ハンドホール蓋　県章およびチェーン（ステンレス製）付のものとする。

㉞ 支持金物，固定金物　屋外の機器及び配管に使用する支持金物（ボルト類）はステンレス製とし，屋外機器のアンカーボルトのナットには，ナットキャップ（樹脂製）を取り付ける。
また，振動をともなう機器の支持金物のナットは，ダブルナットとする。

㉟ あと施工アンカー
施工方法　・ 接着系（※ 有機系　・ 接着剤）
・ 金属拡張系（※ 本体打込式　・　）
性能・施工確認　※ 行わない　・ 行う

36．接地極の種別・表示等

接地極は図面に特記なき場合，下表による。なお，ＥＢの長さは１，５００㎜とする。
ただし，Ｄ＝１０は１，０００㎜，Ｗ＝３０は１，２００㎜とする。
装柱機器及び屋外灯用接地極の埋設標は不要とする。

	接地の種別	記号	接地抵抗値	接地極の規格，数量
・	雷保護設備用接地	ELA	Ω以下	ＥＰ×２
・	雷保護設備用接地	ELA	Ω以下	ＥＢ(Ｄ=14又はＷ=40)×　連－　組
・	共同接地	EA・ED・ELH	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ=14又はＷ=40)×３連－２組
・	共同接地	EA・EC・ED	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ=14又はＷ=40)×３連－２組
・	Ａ種	EA	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ=14又はＷ=40)×３連－２組
・	Ｂ種	EB	Ω以下	ＥＢ(Ｄ=14又はＷ=40)×２
・	Ｃ種	EC	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ=14又はＷ=40)×３連－２組
・	Ｄ種	ED	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ=14又はＷ=40)×１
・				
・	構内交換機（陽極）用	Et	Ω以下	ＥＢ(Ｄ=14又はＷ=40)×３連－　組
・	本配線盤の保安装置	EAt	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ=14又はＷ=40)×３連－２組
・	電話引込口の保安器	EDt	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ=14又はＷ=40)×１
・	拡声増幅器	EDa	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ=14又はＷ=40)×１
・	防犯装置用	ES	Ω以下	ＥＢ(Ｄ=14又はＷ=40)×３連－　組
・				
・	測定用	Eo	――	ＥＢ(Ｄ=10又はＷ=30)×１
・	避雷器用（低圧用）	ELL	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ=14又はＷ=40)×３連－２組
・	避雷器用（高圧用）	ELH	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ=14又はＷ=40)×３連－２組
・	避雷器用（モデム用）	EMD	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ=14又はＷ=40)×１
・	構造体接地			建築構造体利用（通信用も含む）

㊲ 総合調整　各機器の個別運転後に総合調整を行い，報告書を提出すること。
・ 受変電設備　・ 発電設備　・ 照明装置　・ 構内交換設備　・

㊳ 塗装工事　下記部位に使用する外面めっき電線管の露出配管には塗装を施す。
※ 屋外　※ 居室　・

39．山留め　切取り面にその箇所の土質に見合った勾配を保って掘削できる場合を除き，掘削の深さが1.5mを超える場合には，山留めを行うものとする。

40．舗装工事　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書（建築工事編）２２章（舗装工事）及び建築工事監理指針(下巻)２２章（舗装工事）による。

㊶ はつり　既存コンクリート床，壁などの配管貫通は，原則としてダイヤモンドカッターによる。

㊷ 再使用機器　再使用する機器は，現場内で清掃，絶縁抵抗測定のうえ，取り付ける。

㊸ 撤去後の補修等　機器撤去後の天井，壁及び床等の補修は，既存仕上げと同等とする。なお，施工に際し，既存設備及び施設に損傷を及ぼした場合は，原状に復旧する。

㊹ アスベスト　アスベストについては，労働安全衛生法（石綿障害予防規則）・廃棄物処理法等に則り，事前調査を実施し，調査結果を整理のうえ，監督職員へ報告すること
アスベスト使用状況（　）

㊺ 有害物質の取り扱い　ＰＣＢ（変圧器，コンデンサ，安定器等）、鉛・カドミウム（鉛蓄電池，小形二次電池等）、水銀、放射性物質（イオン化式感知器等）の有害物質の含有を搬出前に確認し、監督職員に報告書を提出するとともに、その処理方法を監督職員と協議し、関係法令に基づき適正に取り扱うこと。

電灯設備

① 工事範囲　⊙ 配管　⊙ 配線　⊙ 分電盤類　⊙ 機器類

② 電気方式
・ 幹線　単相３線式　１００／２００Ｖ　５０Ｈｚ
⊙ 分岐　単相３線式　１００／２００Ｖ
⊙ 分岐　単相２線式　１００Ｖ

③ 施工方法
幹線　・ 金属管配線　・ ケーブル配線
分岐　電灯　⊙ 合成樹脂管配線　⊙ 金属管配線　⊙ ケーブル配線　・ その他（　）
コンセント　⊙ 合成樹脂管配線　⊙ 金属管配線　⊙ ケーブル配線　・ その他（　）
屋外露出　・ 合成樹脂管配線　・ 金属管配線　・ ケーブル配線
ボックス　⊙ 合成樹脂製　⊙ 金属製

④ 照明器具　ＬＥＤ　⊙ 一体型　⊙ ダウンライト　・ その他

5．防災用照明器具
・ 非常用照明器具（※ 電池内蔵形　・ 電源別置形）
・ 誘導灯（※ ＬＥＤ誘導灯　・ 誘導標識）

⑥ 照度測定　照度測定は，原則，本工事範囲全て行うものとするが，これにより難い場合は監督職員との協議による。

7．ハイテンションアウトレット
※ 銅合金製　・ アルミ製
※ 飛び出し形　・ 外部固定形

⑧ 予備配管　埋込形分電盤からの立上り予備配管は，予備の配線用遮断器が４個以下の場合は（ＰＦ２２）を１本，５個以上の場合は（ＰＦ２２）を２本以上，天井裏まで立上げる。
梁下に配管・配線スペースのない梁には，１スパンにＶＥ（３６）２本を予備スリーブとして埋込む。

動力設備

1．工事範囲　・ 配管　・ 配線　・ 制御盤類

2．電気方式
・ 幹線　三相３線式　２００Ｖ　５０Ｈｚ
・ 分岐　三相３線式　２００Ｖ

3．施工方法
幹線　・ 金属管配線　・ ケーブル配線　・ その他
分岐　・ 合成樹脂管配線　・ 金属管配線　・ その他
屋外露出　・ 合成樹脂管配線　・ 金属管配線　・ ケーブル配線
ボックス　・ 合成樹脂製　・ 金属製

4．警報盤　※ 壁掛形（電源装置　※ 内蔵　・ 別置）　・

5．電磁開閉器用押釦（遠方操作用）　※ 埋込連用形配線器具　・

6．機器への接続　電動機などへの接続は本工事とする。

7．電動機等の接地　図示以外は金属管接地とする。

8．進相用コンデンサ　各負荷ごとに適合するコンデンサを取り付ける。

9．電気自動車用充電装置
・ 機器類　・
・ 普通充電装置　電圧　相　Ｖ　・ 屋外型　・ 屋内型
・ 急速充電装置　直流電圧　Ｖ

電熱設備

1．電気方式
幹線　相　線式　Ｖ　５０Hz
分岐　相　線式　Ｖ

2．施工場所及び面積　・（　㎡）　・（　㎡）

雷保護設備

1．工事範囲　・ 受雷部　・ 引下げ導線　・ 接地極埋設

2．受雷部　・ 突針　・ 棟上導体　・ 笠木（別途）など

3．避雷導線　・ 引下げ導線　・ 構造体利用

4．接地極　※ 接地極埋設　・ 構造体利用（測定時期　回数　）

5．測定用補助接地極　・ 設置

受変電設備

1．工事範囲　・ 機器類　・

2．電気方式
・ 高圧　三相３線式　６ｋＶ　５０Ｈｚ
・ 低圧　三相３線式　２００Ｖ　・ 低圧　単相３線式　１００Ｖ／２００Ｖ

3．引込ケーブル
・ ＥＭ－ＣＥＴ３８°　・ ＥＭ－ＣＥＴ６０°
・ ＥＭ－ＣＥ３８°－３Ｃ　・ ＥＭ－ＣＥ６０°－３Ｃ　・

4．配電盤
・ 屋内形　・ 屋外形（防塵処理及び結露対策を施す）
・ キュービクル式配電盤　・ 高圧閉鎖配電盤　・　・

5．主遮断装置
※ 限流ヒューズ及び高圧負荷開閉器（ＰＦ－Ｓ）　・ 高圧交流遮断器（ＣＢ）
定格遮断電流　ｋＡ

6．高圧機器類
・ 油入式　・ モールド
・ 手動　・ 電動　・電磁

7．変圧器
・ 単相変圧器　ｋＶＡ　・ 三相変圧器　ｋＶＡ
（油入式：JIS C 4304-2024適合品 モールド式：JIS C 4306-2024適合品）

8．進相用コンデンサ
・ 低圧　・ 高圧
・ 油入式　・ ガス式

9．リアクトル
・ ６％　・ １３％
・ 油入式　・ モールド

10．自動力率制御装置　・ メーターリレー形　・ 静止形

11．測定用補助接地極　・ 設置

電力貯蔵設備

1．直流電源装置
※ 非常用照明器具電源，受変電設備制御電源供用　・ 受変電設備制御専用　・ 非常用照明器具専用
蓄電池　・ 鉛蓄電池（・ ＨＳ　・ ＣＳ　・ ＭＳＥ　・ 長寿命形ＭＳＥ　・　）
・ アルカリ蓄電池（・ＡＨ　・ＡＭＨ　・　）
・ リチウムイオン電池

2．交流無停電電源装置
用途（　）
容量　ｋＶＡ
蓄電池　・ 鉛蓄電池（・ ＨＳ　・ ＣＳ　・ ＭＳＥ　・ 長寿命形ＭＳＥ　・　）
・ アルカリ蓄電池（・ＡＨ　・ＡＭＨ　・　）
・ リチウムイオン蓄電池

発電設備

1．工事範囲　・ 機器類　・

2．形式
・ 簡易形　・ キュービクル式　・ オープン形　・
・ 屋内形　・ 屋外形

3．発電機　電気方式　相　線式　５０Ｈｚ　電圧　Ｖ　定格出力　ｋＶＡ　運転時間　時間

4．原動機
種類　・ ディーゼル　・ ガスタービン　・
定格出力　ｋW以上（　ＰＳ以上）
始動方式　※ 電気式　・ 空気式
冷却方式　・ ラジエータ式　・ 水冷循環式

5．燃料
種類　・ 軽油　・ 灯油　・ Ａ重油
燃料小出槽　Ｌ
主貯油槽　・ なし　・ あり（・ 別途　・ 本工事：　）

6．太陽光発電装置
太陽電池アレイ公称出力　ｋW
パワーコンディショナ　相　線式　定格電圧　Ｖ　定格出力　ｋW
自立運転　・ 有　・ 無
蓄電池　・ 有（定格容量　ｋＷｈ）　・ 無

7．系統連系　・ 有　・ 無

構内交換設備

① 工事範囲　・ 交換機　⊙ 電話機　・ 配線（・ 全部　・ 端子盤以降）

2．電話交換機
形式　・ ボタン電話装置　・ デジタルＰＢＸ　・ＩＰ－ＰＢＸ　・ＶｏＩＰサーバ
回線数　局線　／　回線　内線　／　回線

3．電話機への配線
電話機１台につき，下記のものを見込む。
・ ＥＭ－ＴＩＥＦ０．６５－２Ｃ（・ ２０ｍ　・　）
・ ＥＭ－ＥＢＴ０．４－２Ｐ（・ ２０ｍ　・　）
・ ワイヤープロテクタ（樹脂製　外形寸法約２０×８）１．５ｍ

4．ローテンションアウトレット（亀甲形）
※ 一般電話用　個（・ 納入する　・ 取り付ける）
※ 銅合金製　・ アルミ製

5．保安器用接地　※ 本工事　・ 別途工事

通信・情報設備

① 工事範囲及び施工方法

項目	工事範囲 配管	工事範囲 配線	工事範囲 機器類	施工方法 合成樹脂管配線	施工方法 金属管配線	施工方法 ケーブル配線
⊙構内情報通信網	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
⊙情報表示	・	・	⊙	・	・	・
⊙映像・音響	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
⊙拡声	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
⊙誘導支援	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
⊙テレビ共同受信	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
・テレビ電波障害防除設備	・	・	・	・	・	・
・監視カメラ	・	・	・	・	・	・
・駐車場管制設備	・	・	・	・	・	・
・防犯・入退室管理	・	・	・	・	・	・

ボックス　⊙ 合成樹脂製　・ 金属製　・

② 構内情報通信網設備
種類　・ １０ＢＡＳＥ－Ｔ　・ １００ＢＡＳＥ－ＴＸ　⊙ １０００ＢＡＳＥ－Ｔ
・ １０ＧＢＡＳＥ－ＳＲ　・

③ 情報表示設備
・ 親時計　回線（※ 壁掛形　・ 自立形）
（・ 電子式チャイム組込　・ プログラムタイマ組込）

④ 映像・音響設備
⊙ 増幅器　Ｗ
・ ＶＴＲ（・ ＤＶＤ　・ ＢＤ　・ Ｓ－ＶＨＳ　・　）
・ プロジェクタ（※ 前面投射式　・ 背面投射式）
・ 音響設備（・ ＣＤ　・ オーディオレコーダー　・　・　）

⑤ 拡声設備
⊙ 一般放送用　・ 非常放送兼用
・ 増幅器　Ｗ（※ 卓上形　・ キャビネットラック形）

⑥ 誘導支援設備　・ インターホン　⊙ トイレ等呼出装置　・ 音声誘導装置

⑦ テレビ共同受信設備
・ テレビアンテナ（・ ＡＵ－　・ ＣＳＢＳＡ－　・ ＣＳＡ－　）
・ 地上波アンテナマスト（※ 壁面取付形　・ 自立形）
・ ＢＳアンテナマスト（・ 壁面取付形　・ 自立形）
・ 電界強度測定及び受信調査（※ 全チャンネル）

8．テレビ電波障害防除設備　・ 事前調査　・ 機器類

9．監視カメラ設備
・ 白黒方式　※ カラー方式
・ 伝送方式（・ アナログ　・ ネットワーク）

10．駐車場管制設備
・ 管制盤　・ 検知器（・ 光線式　・ ループコイル式）
・ 信号灯・警報灯　・ 発券機　・ カーゲート　・ カードリーダー

11．防犯・入退室管理設備　・ 接地工事（※ 本工事　・ 別途）

火災報知設備

① 工事範囲　⊙ 配管　⊙ 配線　⊙ 機器類

② 火災報知装置
・ 壁掛形　・ 自立形
・ 受信機　型　級　回線（　アドレス）
・ 複合盤　型　級　回線（火報　回線，自動閉鎖　回線，ガス漏れ　回線）
・ 副受信機　型　級　回線
⊙ 機器収容箱　⊙ 専用形（⊙ 埋込形　・ 露出形）　・ 屋内消火栓箱に組込み
⊙ 感知器類　型用　総数　個（・ 自動試験機能付）

3．非常警報装置　・ 非常ベル（自動式サイレンを含む）　・ 非常放送装置

4．自動閉鎖装置
・ 連動制御器
・ 自動閉鎖装置（・ 防火戸用　・ 防煙ダンパ用　・ 防火シャッター用）
・ 感知器

5．ガス漏れ火災警報装置
・ 受信機　回線（・ 都市ガス用　・ 液化石油ガス用）
・ 単独（・ 壁掛形　・ 自立形）　・ 火災受信機などとの複合盤
・ 検知器
・ 併設　・ 連動
・ 定格電圧（・ ＡＣ１００Ｖ　・ ＤＣ２４Ｖ）
・ ガス検知出力信号（・ 有電圧出力方式　・ 無電圧接点方式）

6．消火器類
・ 消火器　種別・　数量　本
・ 消火器収納箱　仕様・　材質・　数量　面

中央監視制御設備

1．工事範囲　・ 配管　・ 配線　・ 機器類

2．監視制御対象設備　・ 動力設備　・ 受変電設備　・ 発電設備　・ 火災報知設備

3．表示操作盤
・ 壁掛形　・ 自立形
組込み機器　・　・
・　・

4．監視制御装置
構成機器　・ グラフィックパネル　・内照式液晶ディスプレイ　・ 操作卓
・ 監視操作装置　・ 信号処理装置　・ 伝送装置　・ 分散処理装置
・ 中央処理装置　・ 補助記憶装置　・ 記録装置　・ 電源装置
・ 帳票用印字装置（・ インクジェット式　・ 写真式）

構内配電線路

1．工事範囲　・ 管路　・ 配線　・ 機器類

2．電気方式
・ 高圧　三相３線式　６ｋＶ　５０Hz
・ 低圧　三相３線式　２００Ｖ
・ 低圧　単相３線式　１００／２００Ｖ
・ 低圧　単相２線式　１００Ｖ

3．布設方法　※ 地中埋設式（・ ＦＥＰ　・ 厚鋼電線管　・ ＧＬＴ）　・ 架空線式

4．柱上機器
・ 高圧負荷開閉器　※ 一般用　・ 耐重塩じん用
※ 地絡継電器付き（※ 方向性　・ 無方向性）
・ 避雷器　※ 一般用　・ 耐塩用
・ 高圧カットアウト，がいしなど　※ 一般用　・ 耐塩用

5．高圧ケーブルの端末処理
屋外側　※ 一般用　・ 耐塩用
※ 処理者銘板取付（屋内外共，線名，作業日，氏名を表示）

6．その他
東北電力（株）外線工事基準（架空線編）に準ずる。
地中埋設管路に高圧ケーブルを敷設する際は、原則としてＥＥケーブルを使用する。

7．外灯設備　・ 定格電圧　Ｖ　Ｗ

8．沈下対策　地中線路及びハンドホール等沈下が考慮される場合は，沈下対策を施す。（　）

9．標識シート　・ 高圧ケーブル　・ 低圧ケーブル

10．予備配管
屋外キュービクルから第１ハンドホールまでの予備配管（ＦＥＰ１００：１本）を設ける。
分電盤，動力盤から建物へのハンドホールまでの予備配管（ＦＥＰ８０：２本）を設ける。

構内通信線路

1．工事範囲　・ 管路　・ 配線

2．用途　・ 電話用　・ 時計，拡声用　・ 火災報知用

3．施工方法　※ 地中埋設式（・ ＦＥＰ　・ 厚鋼電線管　・ ＧＬＴ）　・ 架空線式

4．標識シート　※ 弱電用

解体工事

1．特記事項
※建物一式のとりこわし工事に適用とし，機器等の改修工事は適用外

①施工計画書には産業廃棄物処理計画を記載するとともに，解体施工前に事前調査行い，その結果を「指定様式「建設副産物処理表（施工前調査表）」としてあらかじめ監督職員に提出すること
②撤去品の一切については，有害物質等の含有又は含有の可能性の有無について改めて調査を行い，その結果を「指定様式２－２　建設副産物処理表（撤去品調査後）」として監督職員に提出すること
③上記②により新たな有害物質等の含有又は含有の可能性がある撤去品を確認した場合には，速やかに監督職員と協議するとともに，産業廃棄物処理計画の変更を行い，監督職員の確認を得たうえで処理・処分すること
④撤去品の取扱については，関係法令等に従い適切な処理・処分を行うとともに，その結果を「指定様式２－３　建設副産物処理表（最終）」として監督職員に提出すること

表２「機器取付高さ」　図面に特記なき場合は下表による。ただし，これによりがたい場合は監督員と協議する。

電力設備	名称	測点	取付高（㎜）	通信設備	名称	測点	取付高（㎜）
電力共通	取引用計器	地上～窓中心	約　1,800		引込線留め高	地上～引込点	
電力共通	引込開閉器	床上～中心	1,800～2,200	電話	集合保安器箱	天井下～上端	200
電力共通	分電盤	床上～中心	1,500(上端1,900以下)	電話	端子盤(廊下、室内)	床上～下端	300
電力共通				電話	〃（ＥＰＳなど）	床上～中心	1,500
電力共通				電話	壁付アウトレット(一般)	床上～中心	300
電力共通				電話	〃（和室）		150～200
電灯	スイッチ（一般）	床上～中心	1,300	時計・拡声・通信設備	壁掛形親時計	床上～中心	1,500(上端2,000以下)
電灯	〃（和室）	〃	1,200	時計・拡声・通信設備	子時計	〃	2,300
電灯	コンセント(一般)	〃	300	時計・拡声・通信設備	壁掛形スピーカ	〃	2,300
電灯	〃（和室）	〃	150～ 200	時計・拡声・通信設備	壁付アッテネータ	〃	1,300
電灯	〃（台上）	台上～中心	100	時計・拡声・通信設備	壁付インターホン(一般)	床上～中心	1,300
電灯	〃（ファン用）	床上～下端	ファン下端	時計・拡声・通信設備	〃（身体障害者）	〃	1,300
電灯	〃（厨房）	床上～中心	800～1,000	時計・拡声・通信設備	壁付アウトレット(一般)	〃	300
電灯	〃（車庫）	〃	1,300	時計・拡声・通信設備	〃（和室）	〃	150～200
電灯	〃（機械室）	〃	500～1,000	時計・拡声・通信設備	機器収容箱	天井下～上端	200
電灯	〃（土間）	〃	800～1,300	時計・拡声・通信設備	直列ユニット(一般)	床上～中心	300
電灯	ブラケット(一般)	床上～中心	2,100～2,300	時計・拡声・通信設備	〃（和室）	〃	200
電灯	〃（踊場）	〃	2,000～2,500	警報・表示等	表示盤	床上～中心	2,300
電灯	〃（鏡上）	鏡上端～中心	150	警報・表示等	壁付発信機	〃	1,300
電灯	避難口誘導灯	床上～下端	1,500以上	警報・表示等	ベル，ブザー，チャイム	〃	2,300
電灯	廊下通路誘導灯	床上～上端	1,000以下	警報・表示等	壁付押しボタン(一般)	床上～中心	1,300
電灯				警報・表示等	〃（身体障害者玄関）	〃	900
電灯				警報・表示等			
動力	壁掛形制御盤	床上～中心	1,500(上端2,000以下)	火災報知器	受信機	床上～中心	800～1,500
動力	開閉器箱	〃	1,500	火災報知器	副受信機	〃	800～1,500
動力	電磁開閉器用ボタン	〃	1,300	火災報知器	機器収容箱	〃	800～1,500
身障者用	非常ボタン(便所用)	床上～中心	400、900	火災報知器	発信機	〃	800～1,500
身障者用	壁付インターホン(親機)	〃	1,300	火災報知器	表示灯	床上～中心	2,100
身障者用	〃（玄関子機）	〃	1,100	火災報知器	ベル	〃	2,300
身障者用	廊下表示灯(復旧ボタン付)	〃	1,300	火災報知器	液化石油ガス用検知器	床上～上端	250
身障者用	身障表示ランプ	〃	1,500	火災報知器	都市ガス用検知器（軽質）	天井～上端	150
身障者用	スイッチ	〃	1,100	火災報知器	〃（重質）	床上～上端	250

表１「完成書類」　引き渡し時には下記の書類を提出する。

名称	完成書類	部数	名称	完成書類	部数
1　完成調書	営繕工事完成引渡要領（令和７年４月１日版）	１部	6　管理の手引き ①工事概要書 ②機器完成図 ③機器別取扱説明書 ④保守に関する案内書 ⑤緊急連絡先一覧表	Ａ４版：チューブ式ファイル	１部
2　完成図(縮小)	白焼縮小製本 Ａ３版二つ折り うち１部は設備課保管	２部	7　工事写真 ①施工写真	Ａ４版：チューブ式ファイル （着手前，施工状況，完成の各写真）	１部
3　完成図・施工図（電子データ）	JWW又はDXF形式のCADデータ及びPDF形式	ＣＤ２枚	②完成写真	Ａ４版：ペーパーファイル 完成届に添付	１部
4　機器完成図 ①機器別完成図 ②機材材質証明書 ③機材検査成績書 ④工場試験成績書 ⑤工場立会検査成績書 ⑥現場据付試験成績書 ⑦総合試運転成績書	Ａ４版：製本	１部	8　工事に関する書類 ①施工計画書 ②施工要領書 ③承諾書・確認書 ④協議書 ⑤打合せ議事録 ⑥工事週報又は日報 ⑦安全に関する書類 ⑧廃棄物管理票の写し ⑨官公庁への届出書	Ａ４版：チューブ式ファイル	１部
5　取扱説明書 ①保守に関する案内書 ②機器別取扱説明書 ③緊急連絡先一覧 ④各種保証書	Ａ４版：製本	１部	9　工事に関する承諾確認書		

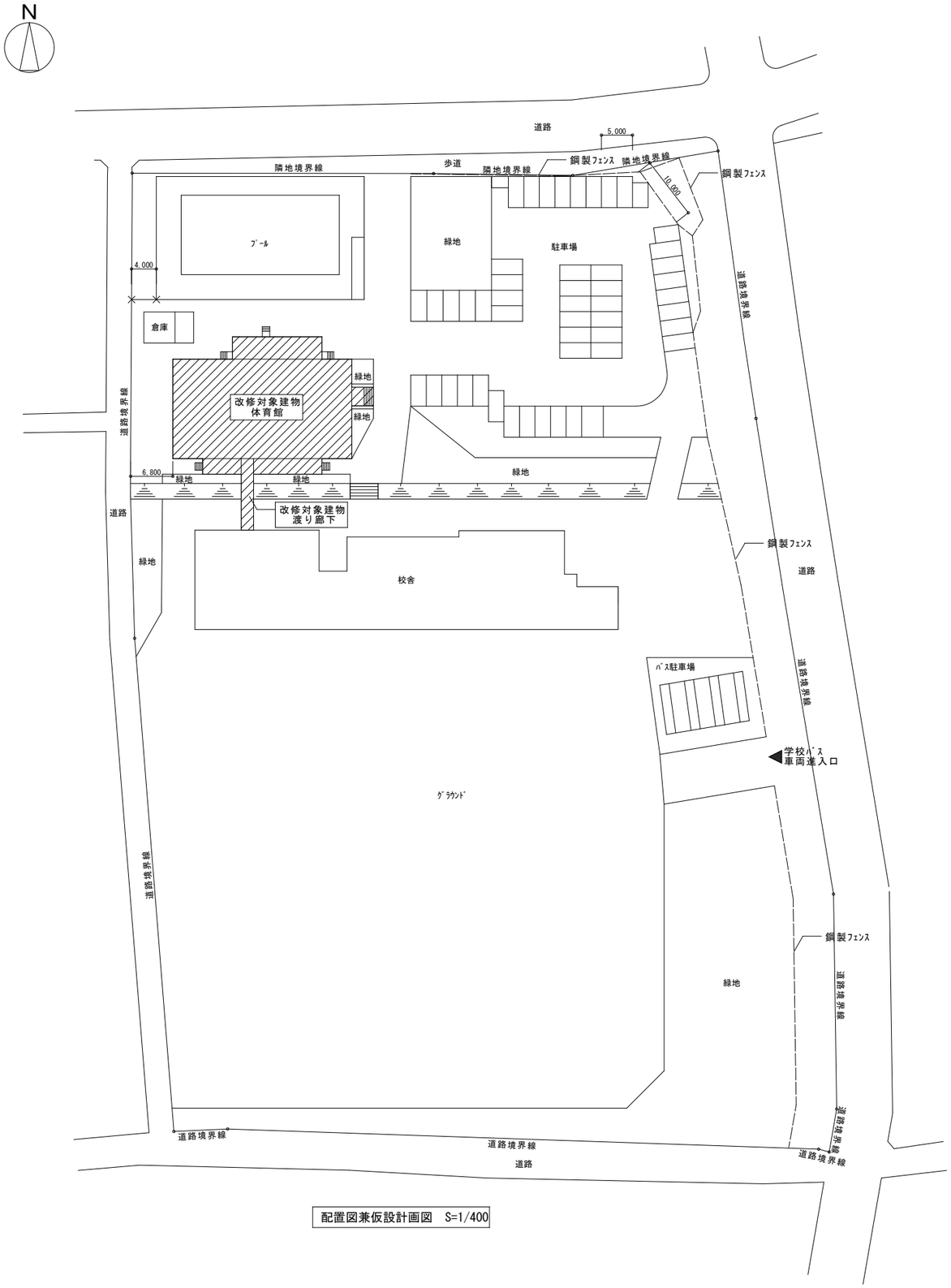
注記：機器参考図について

本図面中で，機器の品質・グレードを規定する目的で機器の寸法形状や諸元を参考図として記載している。

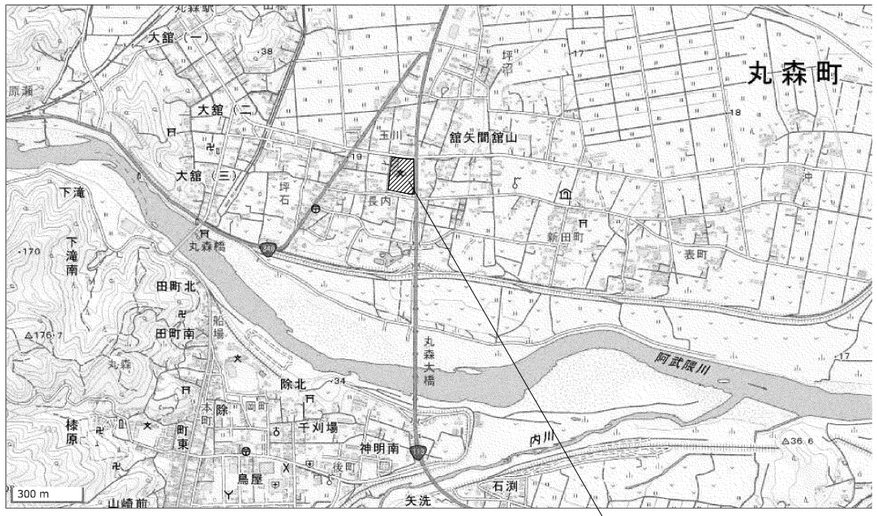
これらのものについては，その品質・性能が図面と同等品もしくはそれ以上のものを使用するものとする。

特記事項

設計年月日	年　月　日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事		図面番号
管理技術者 / 担当者 / 作図		図面名	電気設備改修工事特記仕様書	縮尺 A1: NS A3: NS	E － 01
		株式会社 桂設計		一級建築士登録　第324846号　長南　京子	



配置図兼仮設計画図　S=1/400

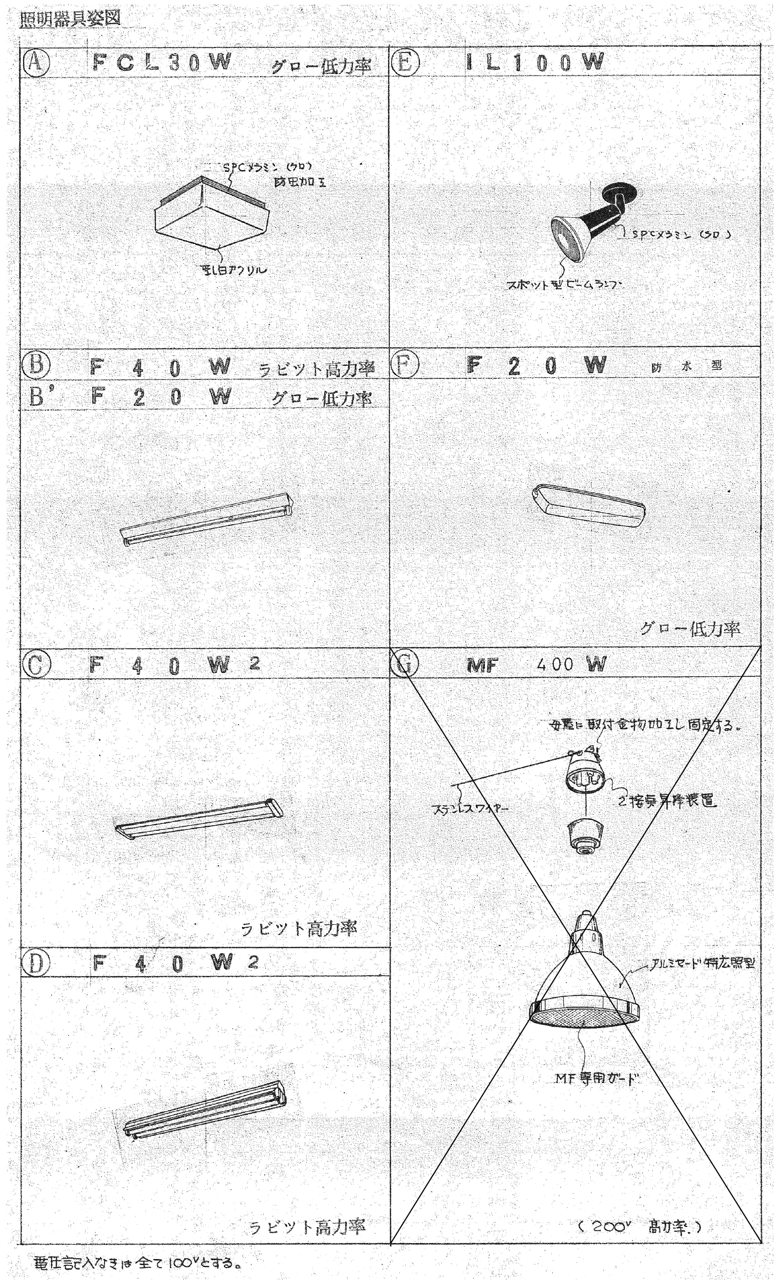


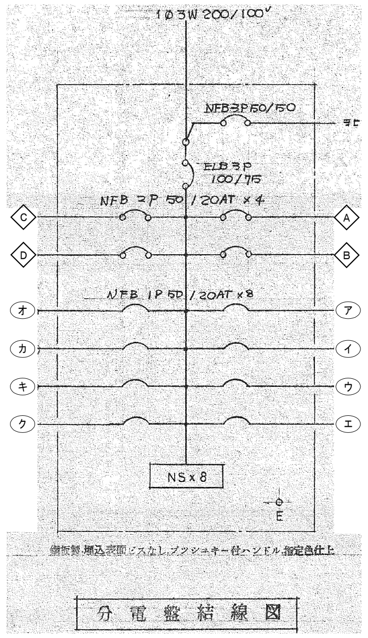
工事場所：丸森町館矢間館山字玉川地内

案内図　S=Non

特記事項	設計年月日　年　月　日	工事名	館矢間小学校体育館長寿命化工事	図面番号
	管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【既存・改修】照明器具姿図・分電盤結線図	縮尺 A1: NS A3: NS
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子	E － 02

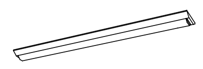
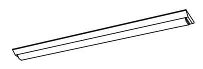
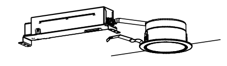
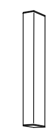
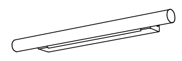
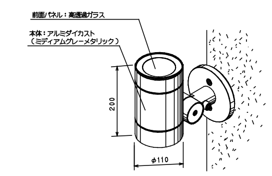
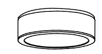
既存照明器具姿図・分電盤結線図





改修照明器具姿図・分電盤結線図

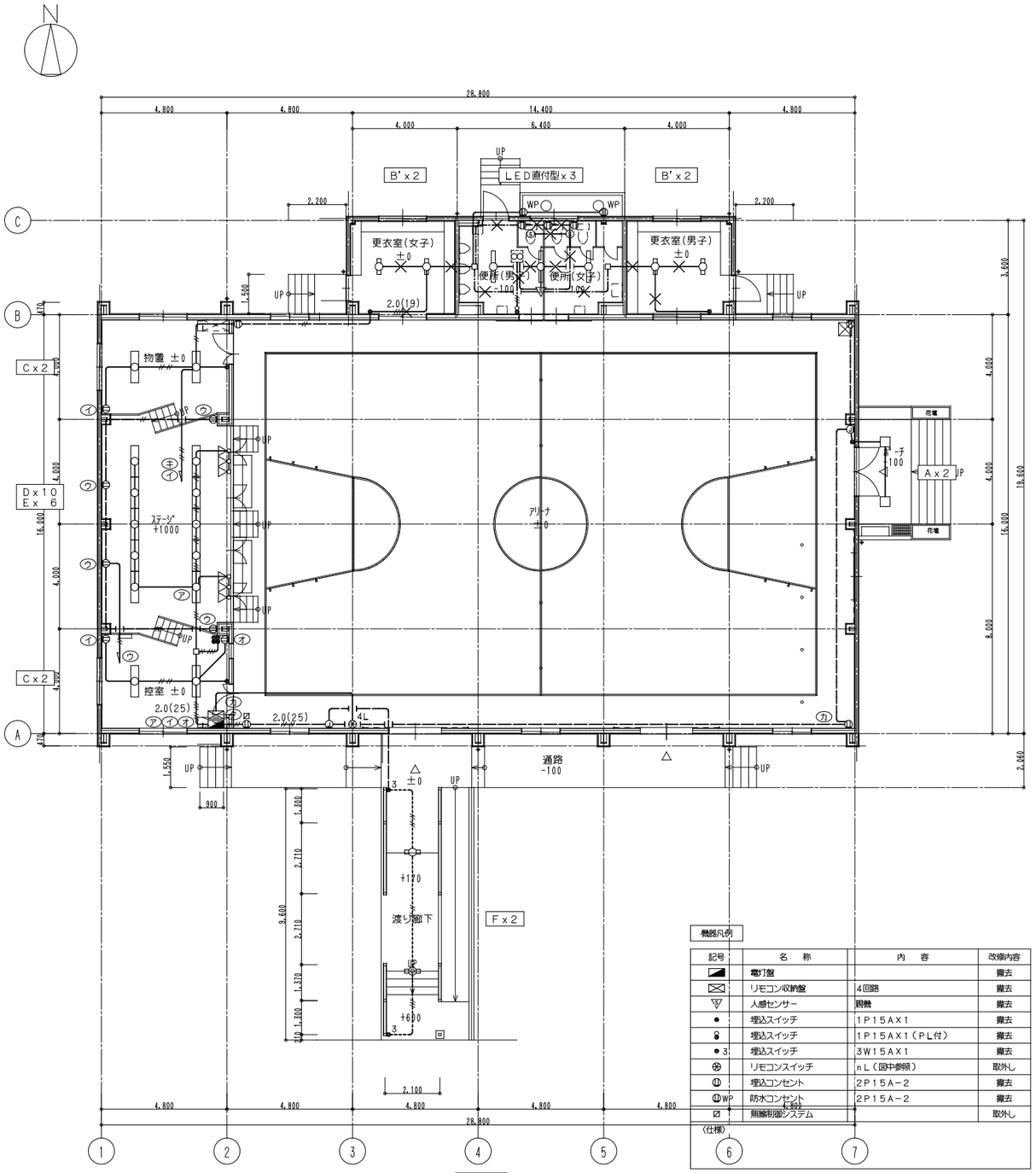
改修後照明器具参考姿図

A iDシリーズ直付型40形 Dスタイル W150	B iDシリーズ直付型40形 Dスタイル W150	C ダウンライト 150形	D LEDウォールライト 20形
 一般タイプ、10000lmタイプ 消費電力56W、定格出力型、電圧100～242V 本体：鋼板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光束維持時間40000時間（光束維持率85%） 昼白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵 パナソニック 直付XFX400AENLE9同等品	 省エネタイプ、6900lmタイプ 消費電力36.3W、定格出力型、電圧100～242V 本体：鋼板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光束維持時間40000時間（光束維持率85%） 昼白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵 パナソニック 直付XFX460AHNLE9同等品	 LED内蔵＜ワンコア（ひと粒）タイプ＞、電源ユニット内蔵、一般光色タイプ LiBecoM無線調光型、調光可能範囲（約5%～100%）、光源遮光角15度 光束維持時間40000時間（光束維持率85%）、3500K、Ra85、拡散タイプ 器具光束1640lm、消費電力12.9W、電圧100～242V 反射板（上部）：プラスチック（ホワイト） 反射板（下部）：鋼板（ホワイトつや消し仕上） 枠：鋼板（ホワイトつや消し仕上）、埋込穴φ100 パナソニック ダウンライトXNN1539WVRS9同等品	 LED内蔵、電源ユニット内蔵 防湿型・防雨型 5000K、Ra83、光束維持時間40000時間（光束維持率85%） 器具光束1480lm、消費電力14.9W、電圧100～242V 本体：ステンレス、カバー：ポリカーボネート（乳白） 天井直付型・壁直付型、保護等級：IP23 パナソニック NNFW21810CLE9同等品
E ブラケット 20形直管蛍光灯1灯器具相当	**F LEDスポットライト**	**G LEDダウンシーリング 100形電球1灯器具相当**	
 昼白色（5000K）、高演色Ra93 器具光束1420lm、消費電力11.2W、電圧100V 拡散タイプ、美ルック、電源ユニット内蔵 両面化粧タイプ、ツマミネジ方式 カバー：プラスチック（乳白） 光源寿命40000時間（光束維持率70%） W=540 H=38 出しろ76 パナソニック LGB85000KLE1	 LED内蔵・電源ユニット内蔵、壁面取付専用 電球色、3000K、Ra84、中角タイプ 光束2140lm、消費電力31W、電圧100V 防雨型、光束維持時間40000時間（光束維持率70%） 本体：アルミダイカスト（ミディアムグレーメタリック） 前面パネル：高透過ガラス パナソニック YYY30224LE1同等品	 電球色（2700K）、Ra83 器具光束810lm、消費電力8W、電圧100V 防雨型、拡散タイプ カバー：プラスチック（ホワイト） パナソニック LGW51501LE1同等品	

盤名称	結線	回路番号	電圧 (V)	MCB	ELB	協約1P形 2P AT	2P AT	3P AT	負荷容量 (VA)	負荷名称	備考
				分岐種別・極数・トリップ容量（100AT以下は、協約形サイズブレーカーとする）		遮断器					
1L-T 電灯盤 鋼板製露出型 指定色塗装 AC 1φ3W 200/100V L/1 計：6,114VA	MCCB 3P 100/100A	A	100	○		20			200	アリーナ照明	RRyX1
		B	100	○		20			200	アリーナ照明	RRyX1
		C	100	○		20			200	アリーナ照明	RRyX1
		D	100	○		20			200	アリーナ照明	RRyX1
		E	100	○		20			102	アリーナ有圧扇	
		F	100	○		20				リモコントランス	RTr,T/UX1
		ア	100	○		20			746	控室・ステージ照明	
		イ	100	○		20			200	控室・ステージコンセント	
		ウ	100	○		20			400	控室・ステージコンセント	
		エ	100	○		20			100	WiFiコンセント	
		オ	100	○		20			150	AMP用コンセント	
		カ	100		○	20			216	アリーナ東側コンセント・ポーチ照明	
		キ	100		○	20			800	物入・便所照明	
		1	100		○	20			800	便所コンセント	
		2	100		○	20			800	便所コンセント	
		3	100		○	20			1000	パネルヒーター	
		4	100	○		20			130	吊りバトン	
		5	100	○		20				予備	
		6	100	○		20				予備	

特記事項

設計年月日	年 月 日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事	図面番号
管理技術者 / 担当者 / 作図		図面名	【既存・改修】照明器具姿図・分電盤結線図 / 縮尺 A1: NS A3: NS	E－03
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子	



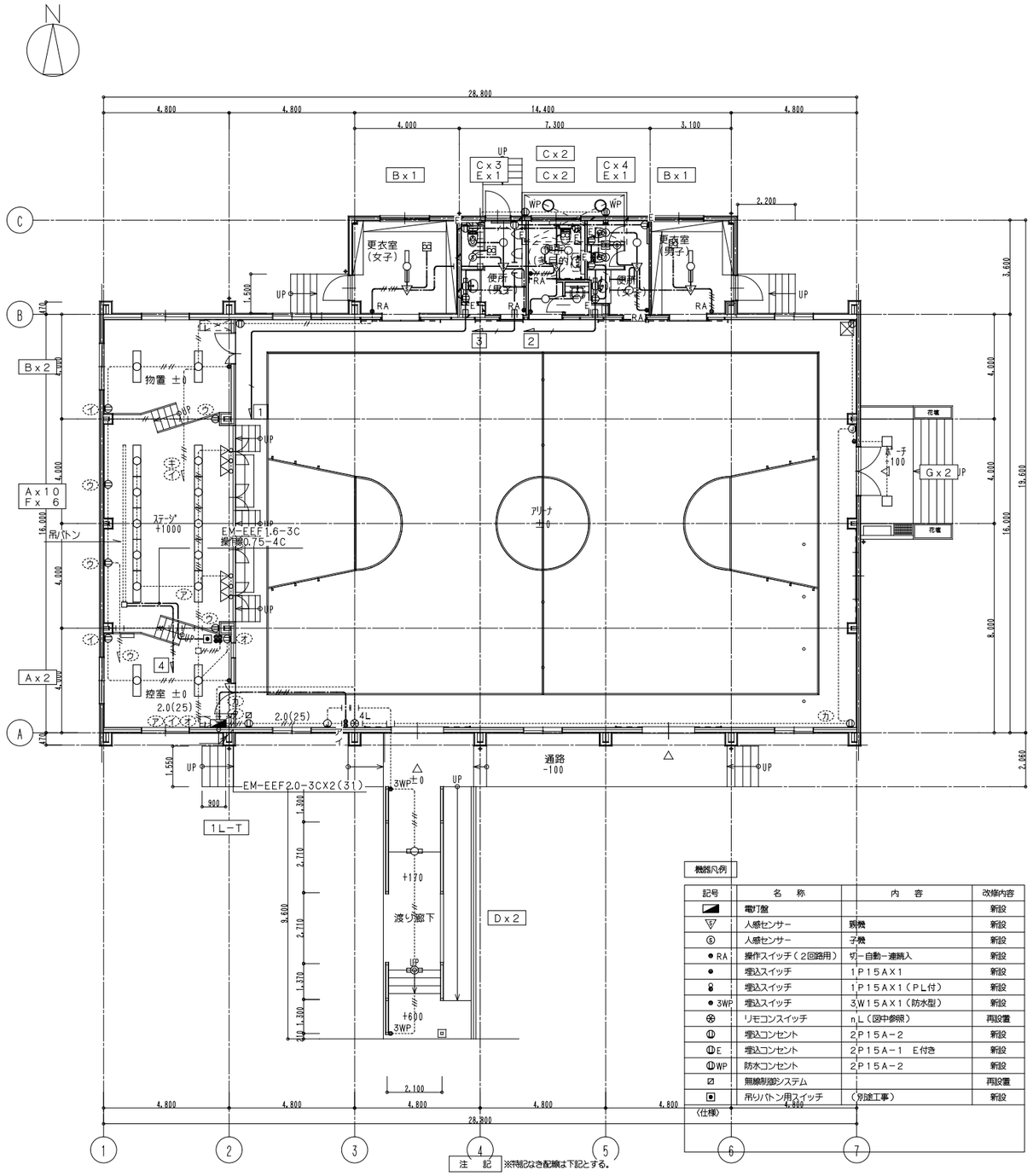
【既存】1階平面図 S=1/100

機器凡例

記号	名　称	内　容	改修内容
	電灯盤		撤去
	リモコン収納盤	4回路	撤去
	人感センサー	親機	撤去
	埋込スイッチ	1P15AX1	撤去
	埋込スイッチ	1P15AX1（PL付）	撤去
3	埋込スイッチ	3W15AX1	撤去
	リモコンスイッチ	nL（図中参照）	取外し
	埋込コンセント	2P15A−2	撤去
WP	防水コンセント	2P15A−2	撤去
	無線制御システム		取外し
〈仕様〉

注　記　※特記なき配線は下記とする。

配線凡例	ケーブル種別	保護管	配線種別		
	IV2.0X2	(19)		天井ころがし配線	
2.0	IV2.0X4	(25)		床隠蔽配管配線	
2.0	IV2.0X6	(25)		隠蔽配管配線	
	IV1.6X2	(19)		露出配管配線	
	IV1.6X3	(19)			
	IV1.6X4	(25)	※　既存配管配線はそのままとするが、╳印部分は撤去すること。		



【改修】1階平面図 S=1/100

機器凡例

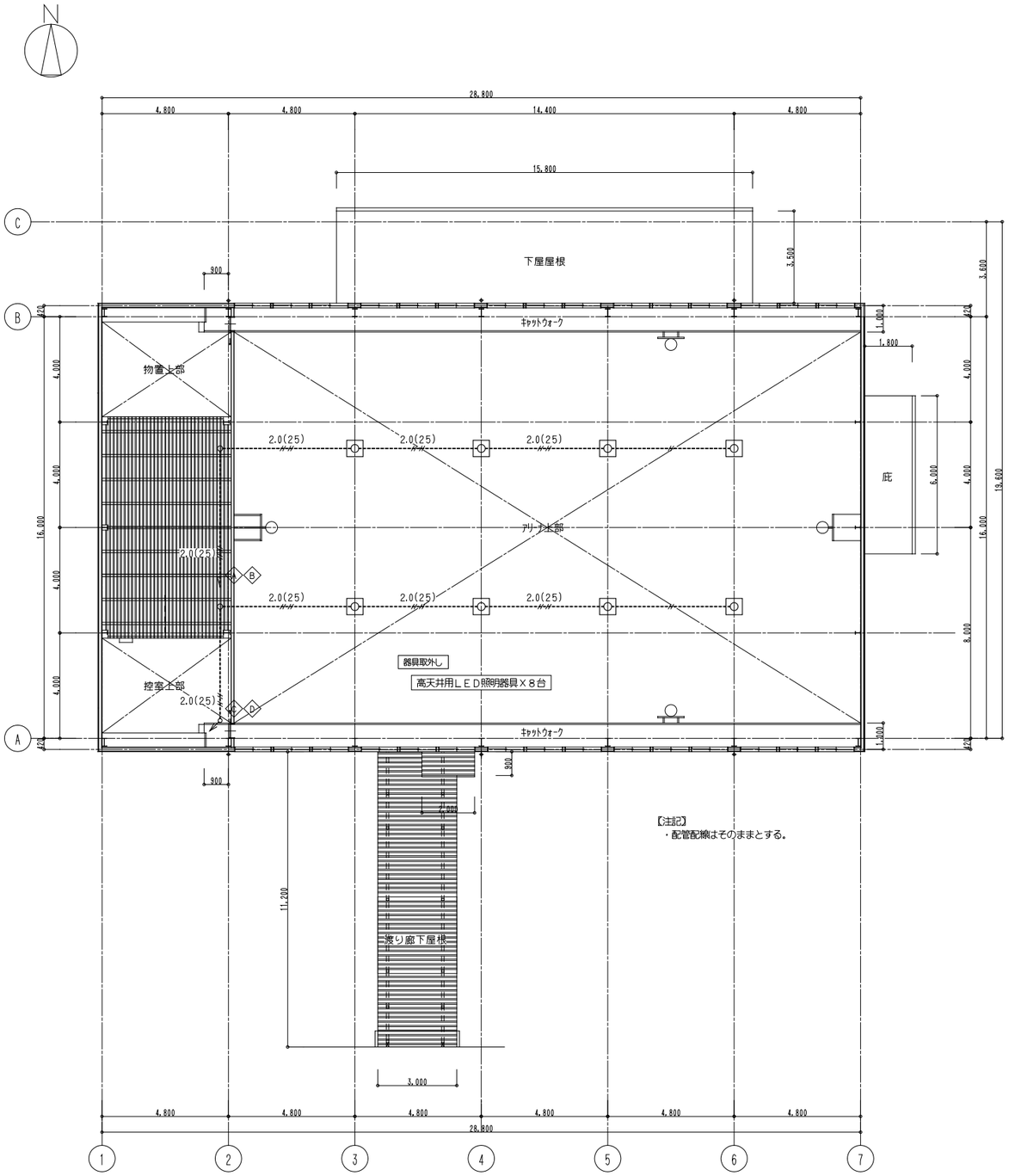
記号	名　称	内　容	改修内容
	電灯盤		新設
	人感センサー	親機	新設
S	人感センサー	子機	新設
RA	操作スイッチ（2回路用）	切−自動−連続入	新設
	埋込スイッチ	1P15AX1	新設
	埋込スイッチ	1P15AX1（PL付）	新設
3WP	埋込スイッチ	3W15AX1（防水型）	新設
	リモコンスイッチ	nL（図中参照）	再設置
	埋込コンセント	2P15A−2	新設
E	埋込コンセント	2P15A−1　E付き	新設
WP	防水コンセント	2P15A−2	新設
	無線制御システム		再設置
	吊りバトン用スイッチ	（別途工事）	新設
〈仕様〉

注　記　※特記なき配線は下記とする。

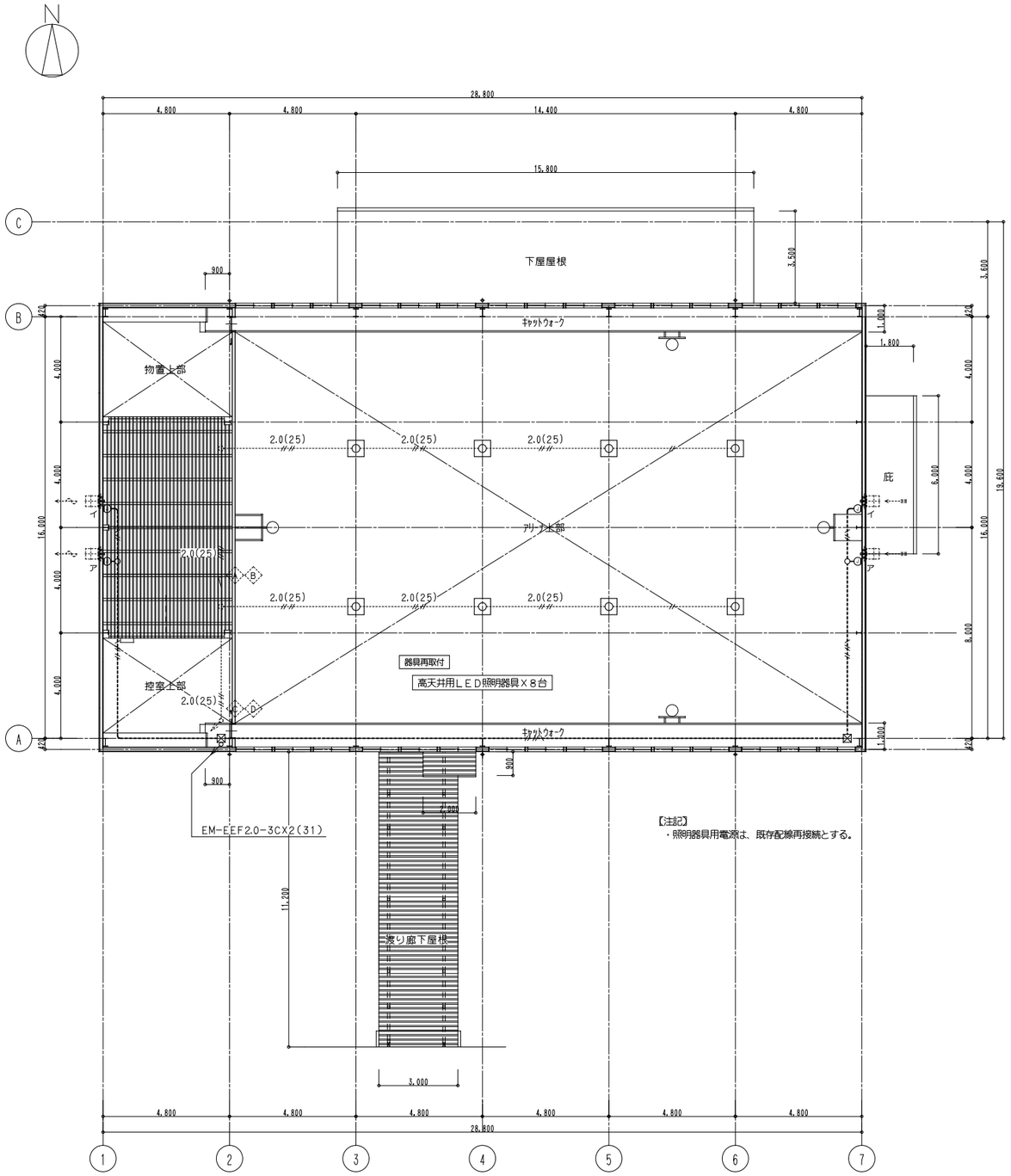
配線凡例	ケーブル種別	保護管	配線種別		
	EM-EE2.0-3C	PF22		天井ころがし配線	
	EM-EE1.6-2C	PF22		床隠蔽配管配線	
	EM-EE1.6-3C+2C	PF22		隠蔽配管配線	
	IV2.0X2	(19)		露出配管配線	
2.0	IV2.0X4	(25)			
2.0	IV2.0X6	(25)	※　図中細点線部分は既存配管配線利用とする。		
	IV1.6X2	(19)			
	IV1.6X3	(19)			
	IV1.6X4	(25)			

特記事項

設計年月日	年	月	日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事		図面番号
管理技術者	担当者	作図		図面名	【既存・改修】電灯設備 1階平面図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	A − 04
				株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子		



【既存】中2階平面図 S=1/100

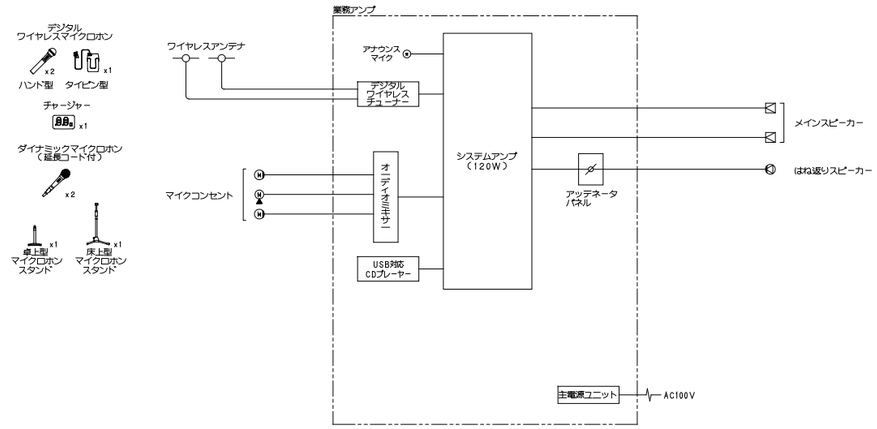


【改修】中2階平面図 S=1/100

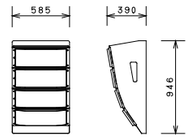
特記事項		設計年月日 年 月 日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事		図面番号
		管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【既存・改修】電灯設備 吹抜け部平面図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	E － 05
			株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子		

誘導支援設備　機器姿図

体育館　音響設備　ブロック図

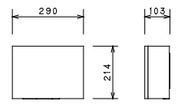


アレイスピーカー



形　式	アレイ方式　2ウェイバスレフ型（防球構造）
スピーカーユニット	高音用：4 cmコーン型 x16、低音用：16 cmコーン型 x8
定格入力	250 W（8 Ω）
出力音圧レベル	98 dB／W（1 m）
周波数特性	70 Hz～20 kHz
水平／垂直指向角度	水平：90°（内向き10°に対し、左右対称）
	垂直：35°（下向き10°に対し、上5°／下30°）
組込カップリングトランス	伝送電力：30 W／15 W／5 W

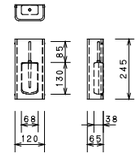
はね返りスピーカー



L級

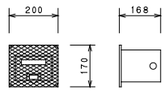
スピーカーユニット	16 cmコーン型
定格入力	6 W／3 W／1 W
出力音圧レベル	92 dB／W（1 m）
周波数特性	120 Hz～13 kHz
入力インピーダンス	1.7 kΩ／3.3 kΩ／10 kΩ
キャビネット	木製

ワイヤレスアンテナ（防球型）



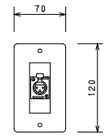
受信周波数範囲	806 MHz～810 MHz
ダイポール相対利得	10 dB（ブースターアンプ含む）
推奨同軸ケーブル	5C－FB（BS用）
防水性	JIS保護等級4級
アッテネーター	3段階切換（広、中、狭）
電　源	DC8 V～15 V（同軸ケーブルに重畳）、10 mA
防球ガード	ポリカーボネート、t＝2.0

マイクコンセント（床埋）



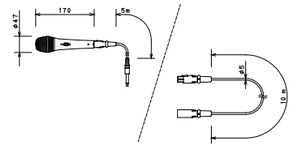
コネクター	XLR－3－31タイプ x1
鋼鈑プレート	FC100、t＝8 mm
函　体	鋼板 1 mm
質　量	2.7 kg

マイクコンセント



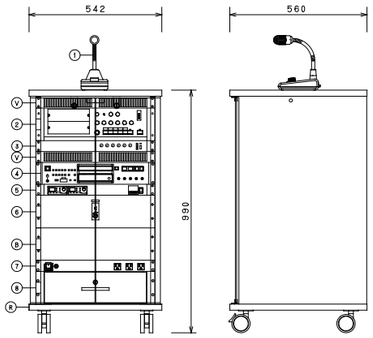
コネクター	XLR－3－31－F77相当 x1
プレート	新金属

ダイナミックマイクロホン



形　式	ムービングコイルマイクロホン（ダイナミック型）
指向性	超単一指向性
周波数特性	50 Hz～18 kHz
出力インピーダンス	600 Ω平衡
感　度	－51 dB（0 dB＝1 V／Pa、1 kHz）
その他	トークスイッチ、マイクコード（5 m）付
延長コード	ビニール被覆2芯シールド線、10m

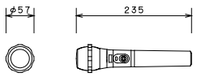
ワゴンアンプ



1	マイクロホン
2	システムアンプ
3	マイクミキサー
4	USB対応CDプレーヤー
5	デジタルワイヤレスチューナー
6	ATTパネル
7	主電源ユニット
8	引き出しユニット
B	ブランクパネル
V	ベンチレートパネル
R	ラック

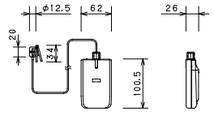
マイクロホン	
形　式	単一指向性ダイナミックマイクロホン
周波数特性	80 Hz～12 kHz
出力インピーダンス	600 Ω不平衡
スイッチ	電源：ON／OFF、チャイム：上り4音／下り4音
電　源	DC7.5 V　付属ACアダプターより供給、34 mA以下（ON時）
システムアンプ	
定格出力	120 W（ハイインピーダンス）
スピーカー制限出力	5回線
入　力	マイク／ライン（切替） x2、ライン x4、 プロコントマイク、外部CD、パワーアンプ
出　力	増設出力、録音、ライン
外部制御	電源起動、非常時音声遮断入力
マイクロホンミキサー	
入　力	マイク x4、マイク／外部入力 x2、AUX
出　力	1回路（0／－50 dBs切換）
付属機能	5素子LEDレベルインジケータ
USB対応CDプレーヤー	
対応メディア	CD／CD－R／CD－RW、USB、SD／SDHC
再生ファイル形式	CD－DA／MP2／MP3／WAV／AAC／WMA
デジタルワイヤレスチューナー	
受信方式	ダイバシティ・ダブルスーパーヘテロダイン
受信周波数	800 MHz帯の30波から最大2波を受信
入　力	アンテナ（α・β各2）、混合
出　力	チューナー x2、混合
機　能	セキュリティ、チャンネルサーチ
ATTパネル	
ATT数量	6 W X1
適合フット数	0.5 W～6 W
入力インピーダンス	20 kΩ～1.7 kΩ
音量調節	5段階（OFF、－18、－12、－6、0 dB）
パネルサイズ	EIA3U
AVラック	キャスター（φ75、ストッパー付X2）
	鏡付ガラス扉、収納ユニット数：EIA19U
	強化ガラス扉（270°開閉）付
仕上色／質量	黒色／35 kg

デジタルワイヤレスマイクロホン（ハンド型）



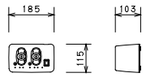
送信周波数	800 MHz帯の30波から1波選択
電波形式	G1E／G1D
マイクロホン形式	単一指向性エレクトレットコンデンサー型
空中線電力	5 mW／1 mW 切換式
電　源	DC1.5 V（単3乾電池 x1）又は専用充電式電池
セキュリティ機能	あり
同時使用本数	10本（標準モード）、15本（多チャンネルモード）
付属品	ストラップ、マイク部用ネックホルダー

デジタルワイヤレスマイクロホン（タイピン型）



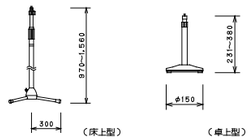
送信周波数	800 MHz帯の30波から1波選択
電波形式	G1E／G1D
マイクロホン形式	単一指向性エレクトレットコンデンサー型
空中線電力	5 mW／1 mW 切換式
電　源	DC1.5 V（単3乾電池 x1）又は専用充電式電池
セキュリティ機能	あり
同時使用本数	10本（標準モード）、15本（多チャンネルモード）
付属品	ストラップ、マイク部用ネックホルダー

チャージャー



充電方式	急速充電（満充電検出式）
標準充電時間	約2時間
電　源	DC6 V（専用ACアダプター付）
質　量	0.8 kg
付属品	専用充電式電池 x2

マイクロホンスタンド



床上型

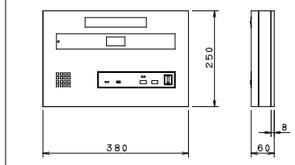
マイク取付高さ	最高1,560 mm～最低970 mm
ロック方式	スリーブ・ロック方式
質　量	約2.6 kg

卓上型

マイク取付高さ	最高380 mm～最低231 mm
ロック方式	スリーブ・ロック方式
質　量	約1.1 kg

1窓用呼出表示器

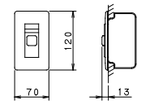
CBN－1C同等品



電源電圧	AC100V　50／60Hz（内部電源DC12V）
形　状	壁取付形
材　質	SPCC t1.2
窓　数	1窓
表示方式	呼出音と表示吸点灯

復旧ボタン

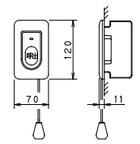
NBR－2A－C同等品



形　状	壁埋込型（JIS1個用スイッチボックス）
材　質	樹脂
備　考	非防水形

呼出ボタン（引きひも付）

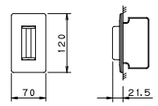
NBR－7HWA同等品



形　状	壁埋込型（JIS1個用スイッチボックス）
材　質	自己消火性樹脂
備　考	引きひも式、押ボタン式両用

廊下灯

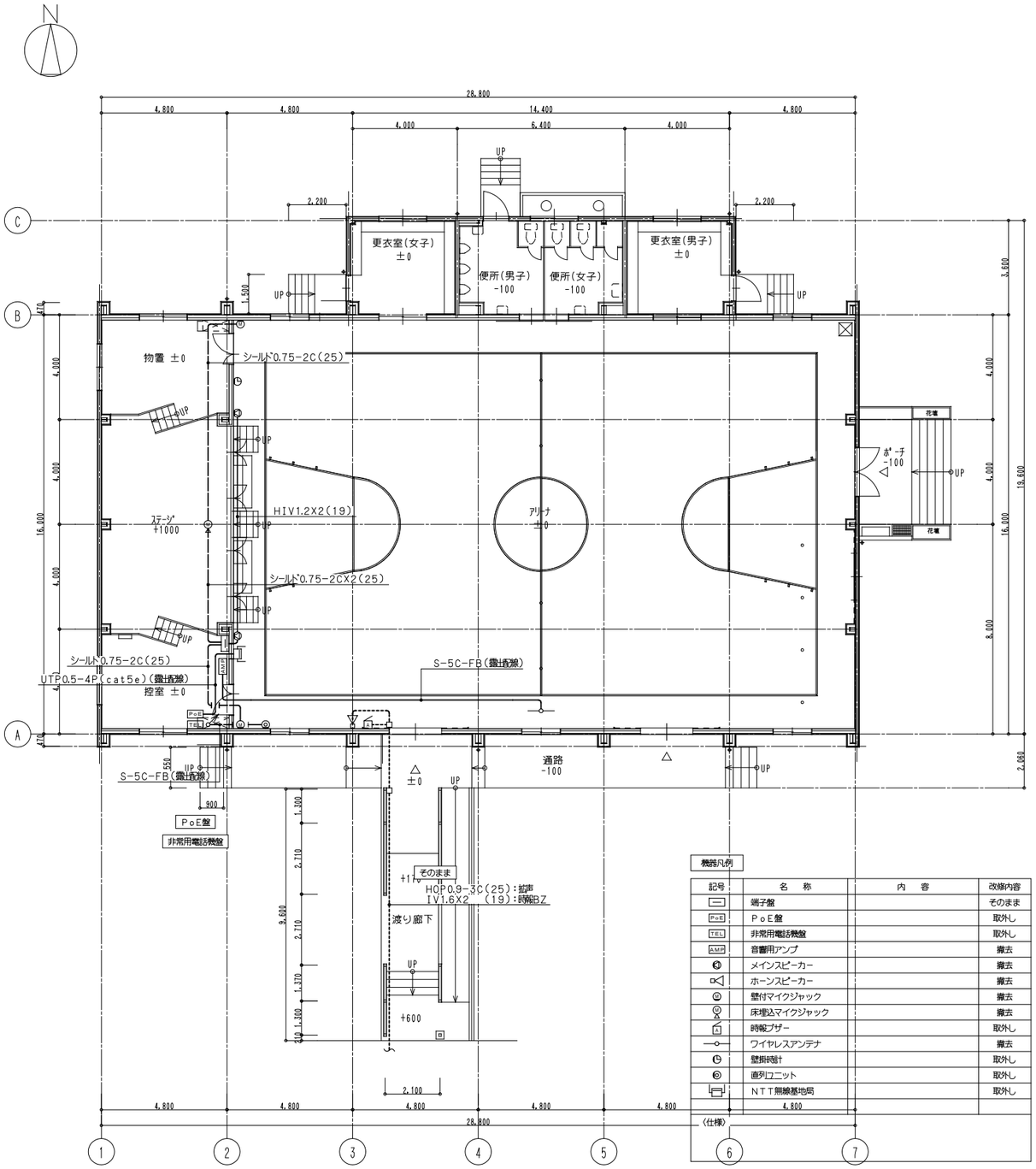
CBR－4B同等品



備　考	壁埋込型（JIS1個用スイッチボックス）
材　質	プレート：自己消火性樹脂 表示灯カバー：ポリカーボネート
備　考	LED方式（赤色）

特記事項

設計年月日　年　月　日		工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事
管理技術者	担当者	作図	図面名　【改修】音響・呼出設備 機器参考姿図
縮尺　A1：NS　A3：NS			図面番号　E－06
株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子		



【既存】1階平面図 S=1/100

機器凡例

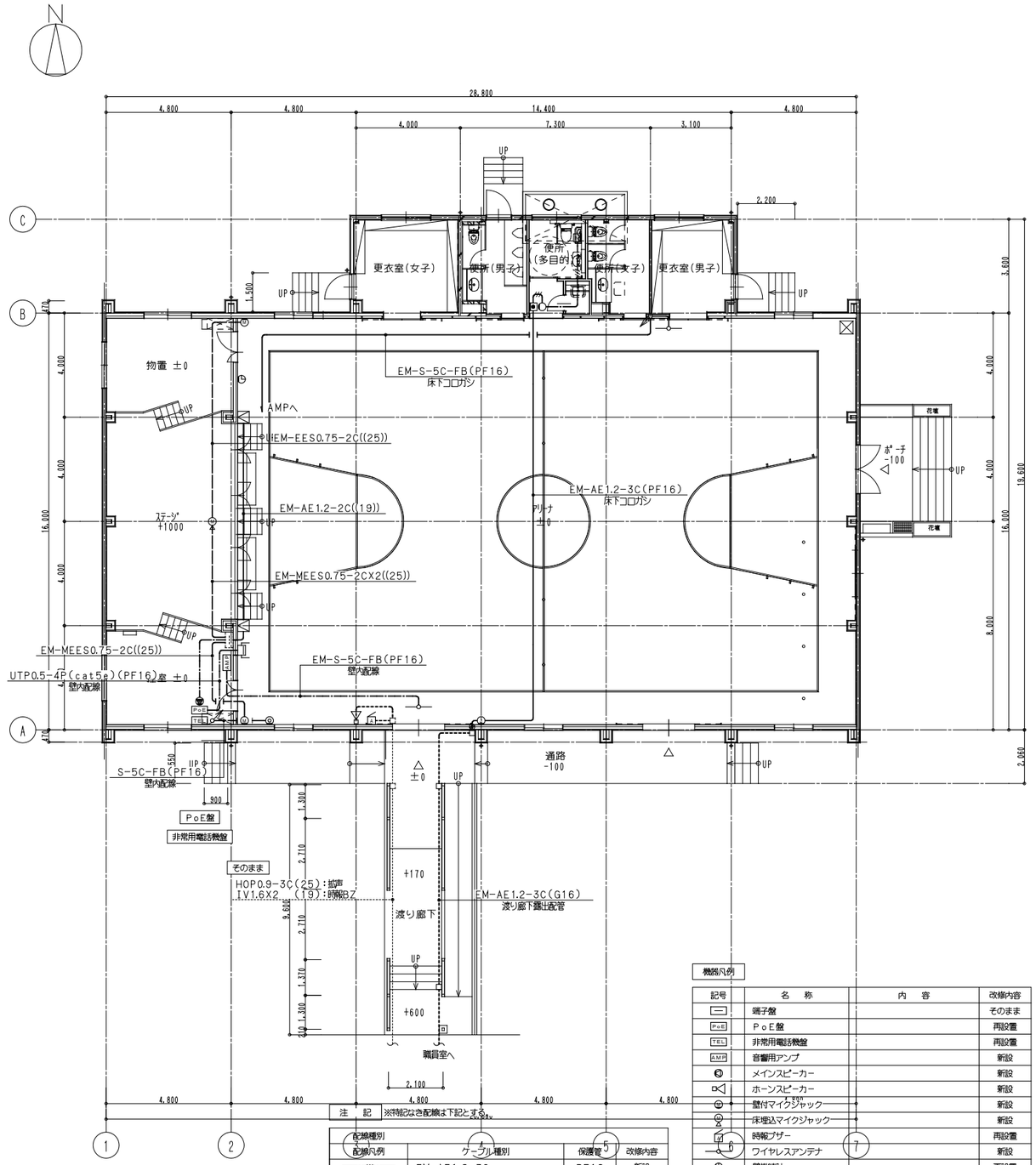
記号	名　称	内　容	改修内容
	端子盤		そのまま
PoE	ＰｏＥ盤		取外し
TEL	非常用電話機盤		取外し
AMP	音響用アンプ		撤去
	メインスピーカー		撤去
	ホーンスピーカー		撤去
	壁付マイクジャック		撤去
	床埋込マイクジャック		撤去
	時報ブザー		取外し
	ワイヤレスアンテナ		撤去
	壁掛時計		取外し
	直列ユニット		取外し
	ＮＴＴ無線基地局		取外し

〈仕様〉

注　記　※特記なき配線は下記とする。

配線種別			
	天井ころがし配線		
	床隠蔽配管配線		
	隠蔽配管配線		
	露出配管配線		

※　図中コメント以外の配線は撤去すること。電線管は再利用すること。



【改修】1階平面図 S=1/100

注　記　※特記なき配線は下記とする。

配線種別			
配線凡例	ケーブル種別	保護管	改修内容
	EM-AE1.2-3C	PF16	新設

配線種別			
	天井ころがし配線		
	床隠蔽配管配線		
	隠蔽配管配線		
	露出配管配線		

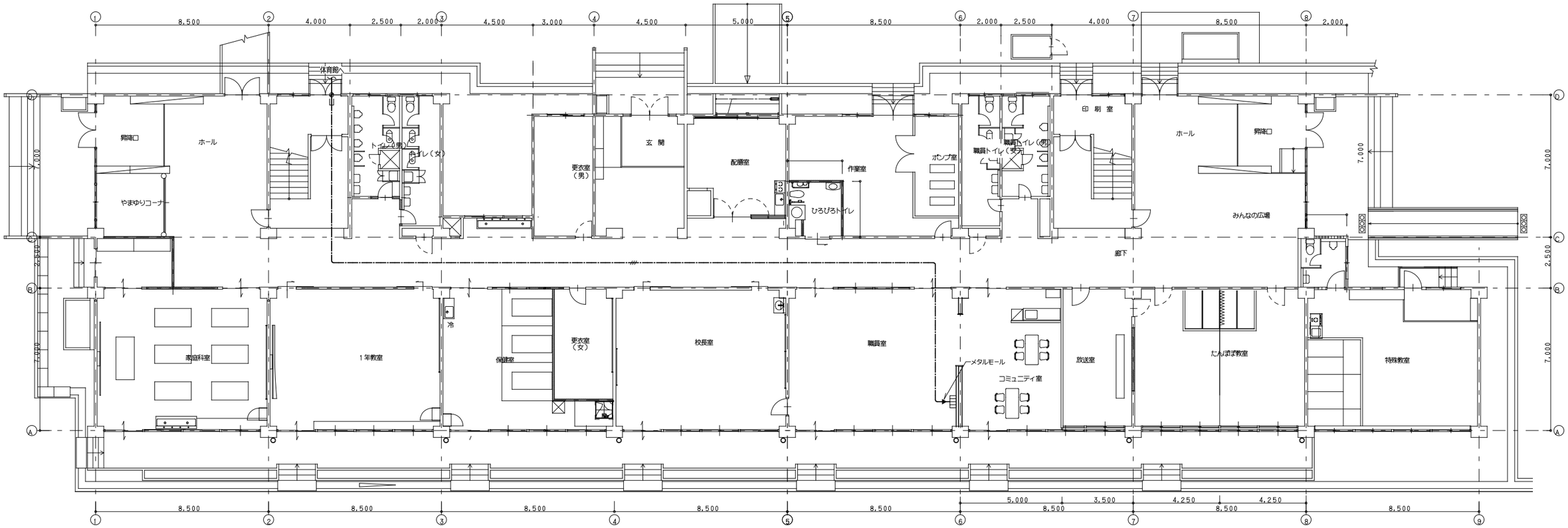
※　細線部分は既存利用とし、太線部分は新設とする。

機器凡例

記号	名　称	内　容	改修内容
	端子盤		そのまま
PoE	ＰｏＥ盤		再設置
TEL	非常用電話機盤		再設置
AMP	音響用アンプ		新設
	メインスピーカー		新設
	ホーンスピーカー		新設
	壁付マイクジャック		新設
	床埋込マイクジャック		新設
	時報ブザー		再設置
	ワイヤレスアンテナ		新設
	壁掛時計		再設置
	直列ユニット		再設置
	ＮＴＴ無線基地局		再設置
	表示装置	１窓用	新設
	呼出し押釦		新設
	御旧釦		新設
	表示ランプ		新設
	壁貫通補修	φ５０	

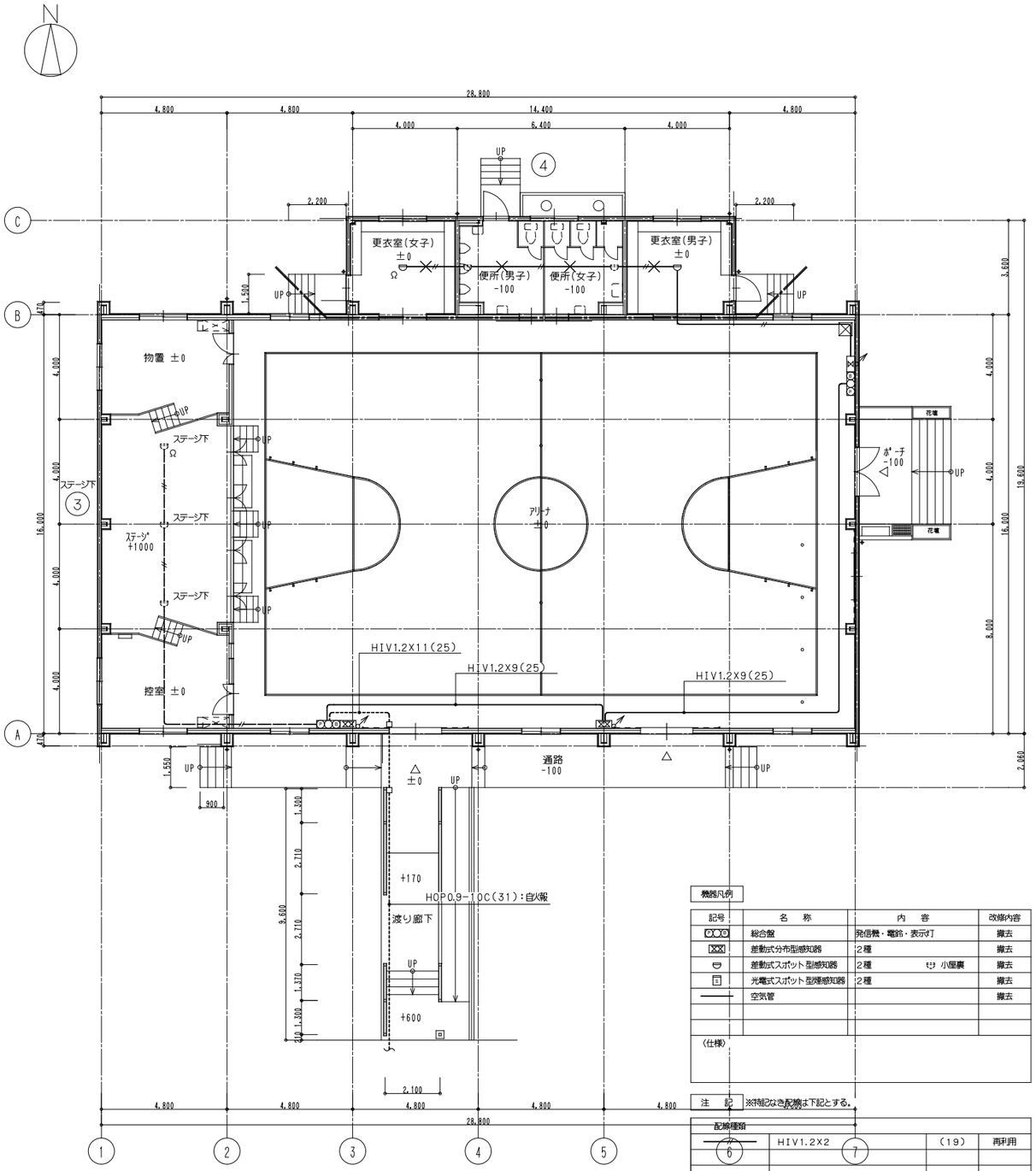
〈仕様〉

特記事項	設計年月日　年　月　日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事
	管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【既存・改修】通信設備 1階平面図
		縮尺	A1: 1/100　A3: 1/200
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子
		図面番号	E － 07



校舎　1階平面図 S=1/100

特記事項	設計年月日　年　月　日	工事名	館矢間小学校体育館長寿命化工事	図面番号
	管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【改修】通信設備 校舎1階平面図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子	E － 08



【既存】1階平面図 S=1/100

機器凡例

記号	名　称	内　容	改修内容
	総合盤	発信機・電鈴・表示灯	撤去
	差動式分布型感知器	2種	撤去
	差動式スポット型感知器	2種　ｾﾞﾂ 小屋裏	撤去
	光電式スポット型煙感知器	2種	撤去
	空気管		撤去

（仕様）

注　記　※特記なき配線は下記とする。

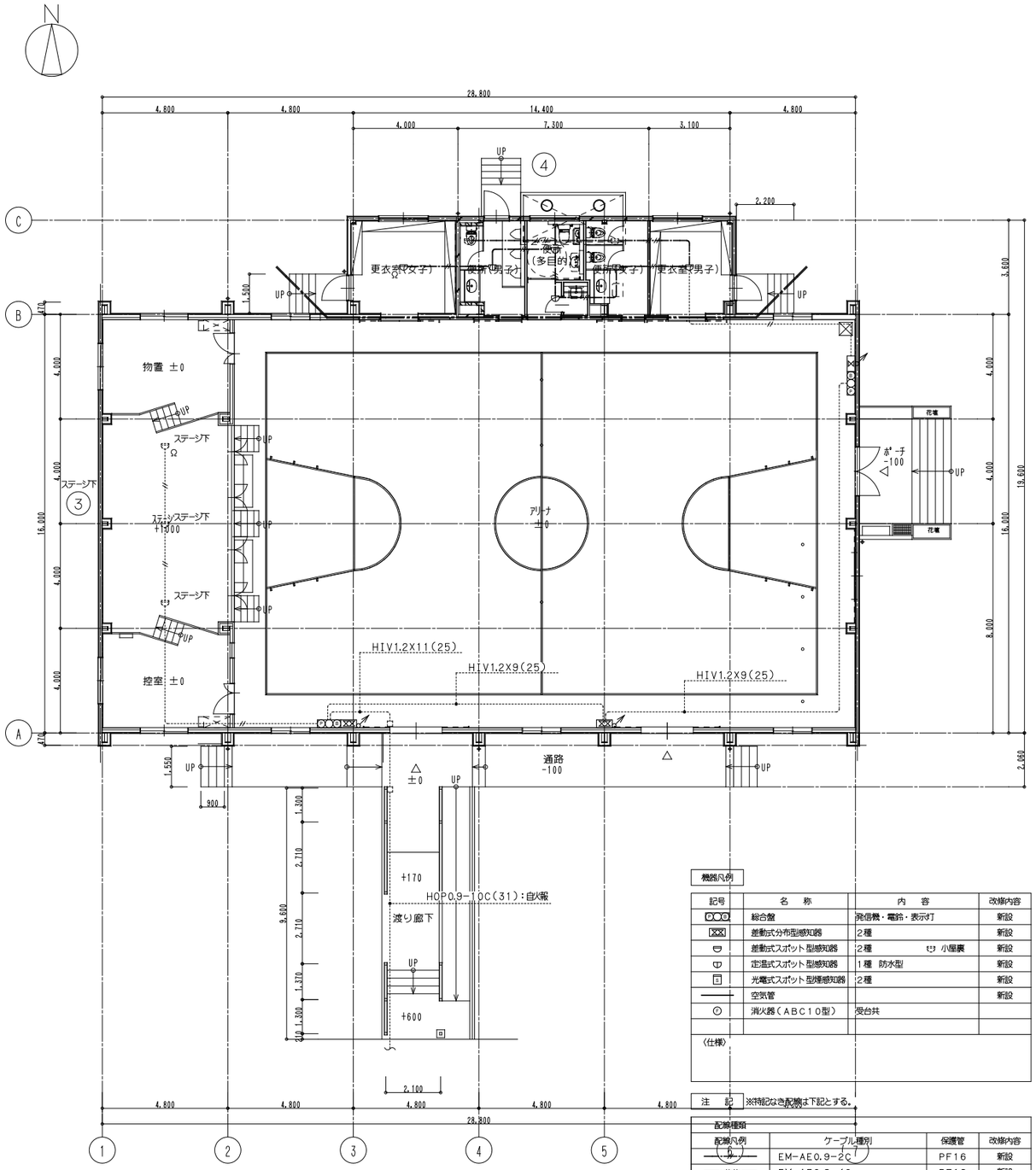
配線種類

6	HIV1.2X2	7 (19)	再利用

配線種別

天井ころがし配線		
床隠蔽配管配線		
隠蔽配管配線		
露出配管配線		

※　既存配管配線はそのままとするが、╳印部分は撤去すること。



【改修】1階平面図 S=1/100

機器凡例

記号	名　称	内　容	改修内容
	総合盤	発信機・電鈴・表示灯	新設
	差動式分布型感知器	2種	新設
	差動式スポット型感知器	2種　ｾﾞﾂ 小屋裏	新設
	定温式スポット型感知器	1種　防水型	新設
	光電式スポット型煙感知器	2種	新設
	空気管		新設
	消火器（ABC10型）	受台共	

（仕様）

注　記　※特記なき配線は下記とする。

配線種類

配線凡例	ケーブル種別	保護管	改修内容
6	EM-AE0.9-2C	PF16	新設
	EM-AE0.9-4C	PF16	新設
5P	EM-HP1.2-5P	E25	新設

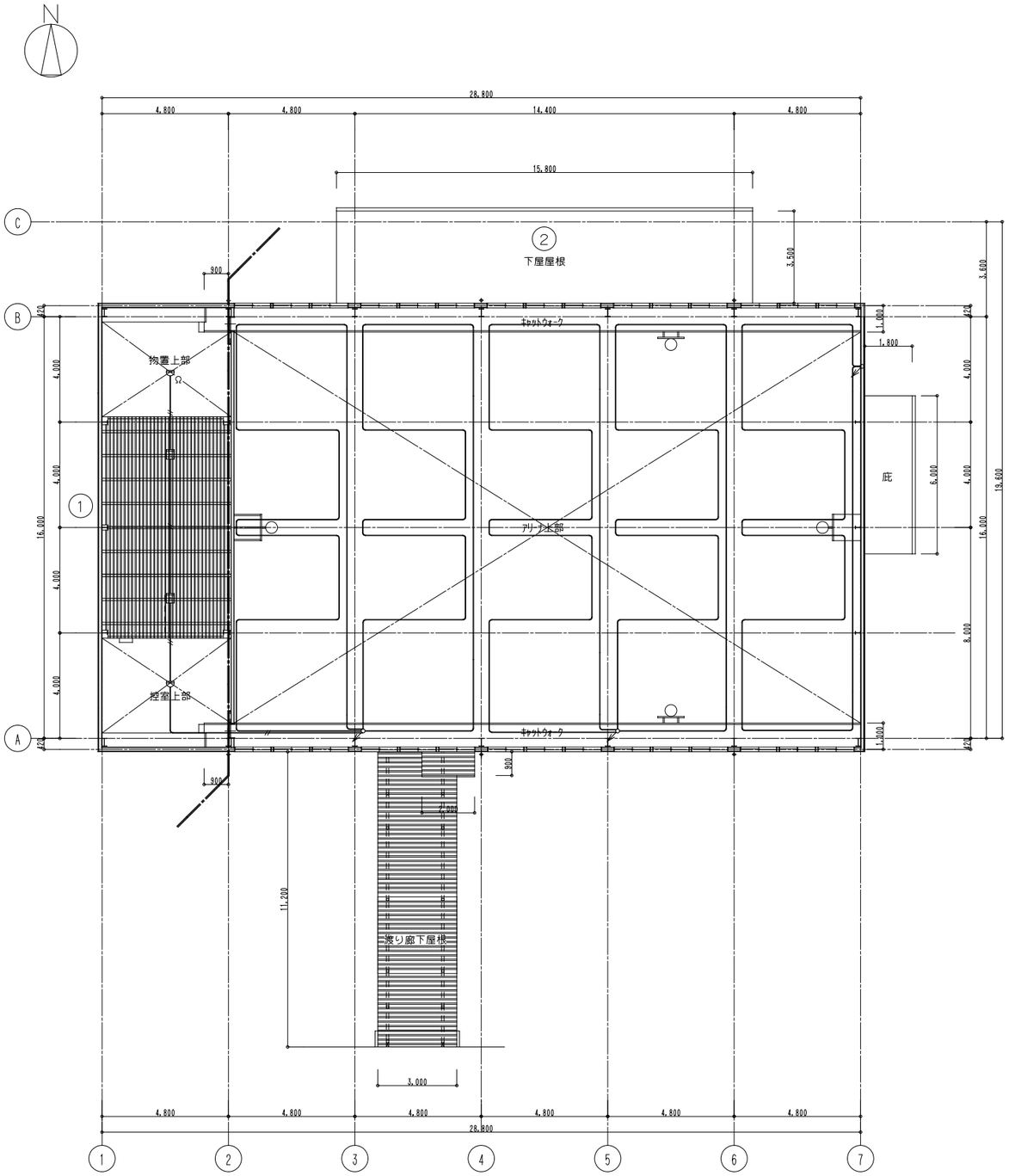
配線種別

天井ころがし配線		
床隠蔽配管配線		
隠蔽配管配線		
露出配管配線		

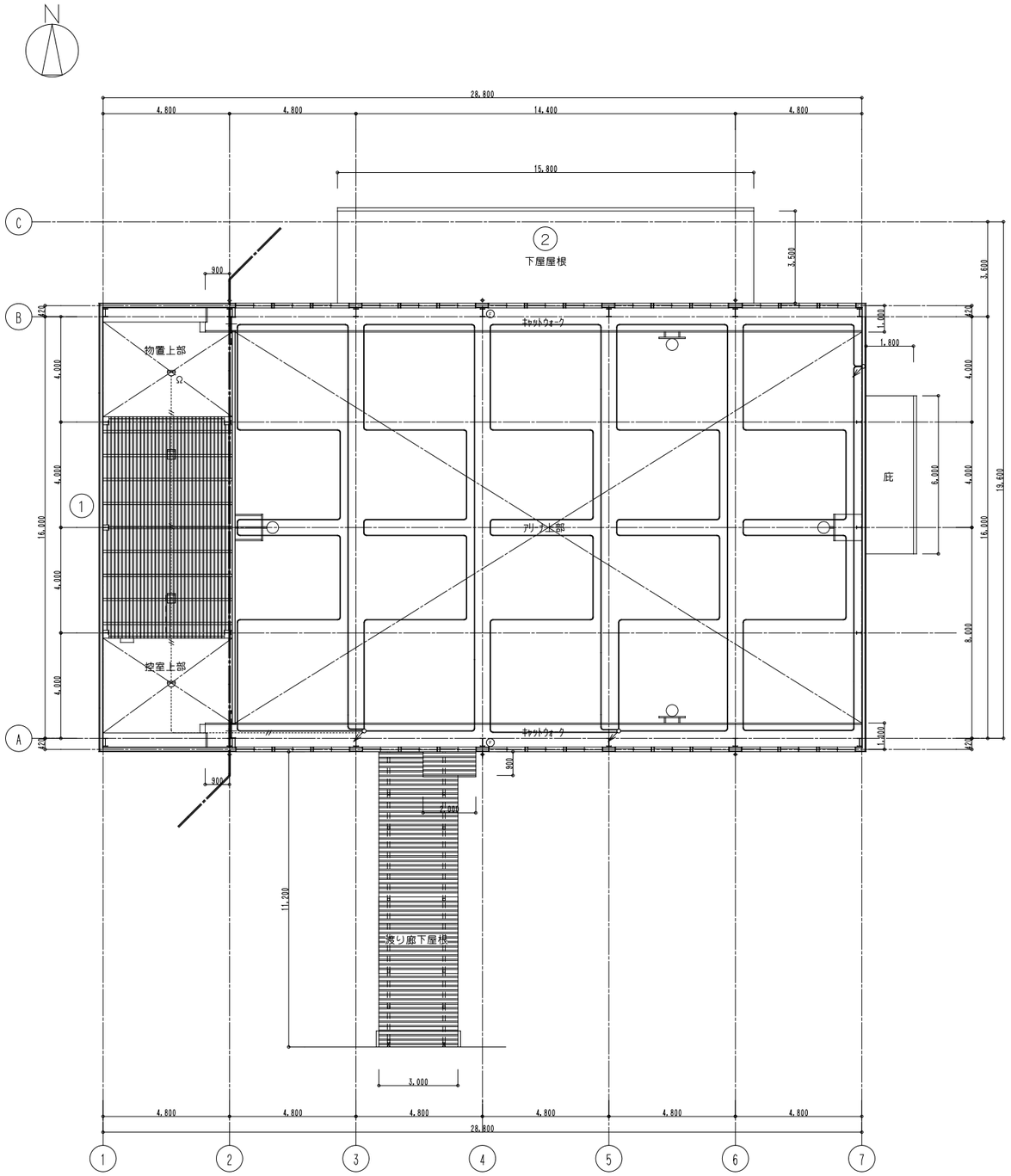
※　細線部分は既存利用とし、太線部分は新設とする。

特記事項

設計年月日	年　月　日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事	図面番号
管理技術者 / 担当者 / 作図		図面名	【既存・改修】自動火災放置設備 1階平面図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子	E － 09



【既存】中2階平面図 S=1/100



【改修】中2階平面図 S=1/100

特記事項			設計年月日 年 月 日	工事名	館矢間小学校体育館長寿命化工事		図面番号
			管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【既存・改修】自動火災報知設備 吹抜け部平面図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	E − 10
				株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子		

機械設備工事特記仕様書【令和８年４月版】

Ⅰ．工事概要

1．工事名称　舘矢間小学校体育館長寿命化工事

2．工事場所　宮城県伊具郡丸森町舘矢間舘山玉川

3．建物概要

建物名称	構造	階数	延床面積(㎡)	建築面積(㎡)	消防法施行令別表第一による用途区分	備考
体育館	S造	平屋	562.64㎡	-	7項	

4．工事種目（・印のついたものを適用する。）

工事種目 ＼ 建設別及び屋外	体育館							屋外
・空気調和設備								
⊙換気設備	改修一式							
・排煙設備								
・自動制御設備								
⊙衛生器具設備	改修一式							
⊙給水設備	改修一式							改修一式
⊙排水設備	改修一式							
・給湯設備								
・消火設備								
・厨房機器設備								
・ガス設備								
・さく井設備								
・浄化槽設備								
・昇降機設備								
⊙その他工事	撤去一式							

5．指定部分　※ なし　・ あり　（工　期：令和　年　月　日）　（対象部分：　）

6．概成工期　※ なし　・ あり　（工事工期より　日前）

6．設備概要（・印のついたものは、主要方式を示す）

方式	設備概要	
空気調和方式等	・ 空気調和	・ 全空気方式　・ ファンコイルユニット，ダクト併用方式　・ パッケージ方式
	・ 温風暖房	・ 全空気方式　・ ファンコンベクター，ダクト併用方式
	・ 直接暖房	・ 温水暖房　・
自動制御方式	・ 電気式　・ 電子式　・ デジタル式　・ 空気式　・ 中央監視制御	
給水方式	・ 水道直結方式　⊙ 高置タンク方式　・ タンクレスブースター方式　・	
排水方式	建物内の汚水及び雑排水（⊙ 分流式　・ 合流式） 建物外の汚水及び雑排水（・ 分流式　⊙ 合流式） 放流先　汚水（⊙ 下水道直放流　・ 浄化槽） 雑排水（⊙ 下水道直放流　・ 浄化槽　・ 側溝　・ 別途桝）	
給湯方式	・ 局所式　・ 中央式	
消火設備方式	・ 屋内消火栓（・ 湿式　・ 乾式）　・ 連結送水管　・ 屋外消火栓 ・ スプリンクラー（・ 湿式　・ 乾式）　・ 不活性ガス消火　・ 泡消火 ・ 粉末消火　・ 連結散水　・ フード等用簡易自動消火　・消火器	
ガス設備方式	・ 都市ガス　種別（　）　kJ／m3（N）（供給圧力　Pa）　・ 液化石油ガス	

Ⅱ．特記仕様書

1．一般事項

（1）特記仕様書及び図面に記載されていない事項は，すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編　令和７年版）」（以下「標準仕様書」という。），同部設備・環境課監修の「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編　令和７年版）」（以下「標準図という。）による。

（2）電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合，電気設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。なお，電気設備工事の工事仕様書は（　／　）図，建築工事の工事仕様書は（　／　）図による。

2．特記事項

（1）項目は番号に・印の付いたものを適用する。
（2）特記事項は，・印の付いたものを適用する。・印の付かない場合は，※印の付いたものを適用する。
⊙印と※印の付いた場合は，共に適用するものとする。

章	項目	特記事項
一般共通事項	①. 適用基準等	⊙ 建設工事執行規則（昭和３９年３月宮城県規則第９号） ⊙ 宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱（最新版） ⊙ 営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和５年版）及び工事写真撮影ガイドブック<機械設備工事編>（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和５年版）
	②. 機材等	※ 本工事に使用する機材等は，設計図書に規定するもの，またはこれらと同等のものとする。ただし，これらと同等のものとする場合は，監督職員の承諾を受けるものとする。 ※ 本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては，「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し，揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。 ※ 使用する材料のホルムアルデヒド仕様は，日本産業規格及び日本農林規格のF☆☆☆☆規格品，壁装材料協会規格適合品または同等品，化学物質等製品安全データシート等にホルマリン不使用が明示されたものとする。
	③. 機材の品質・性能証明	本工事着手前に機器製作図を提出し，監督職員の承諾を受ける。 また，設備機材は，設計図書に定める品質及び性能を有することの証明資料又は外部機関等が発行する資料等のの写しを監督職員に提出して，承諾を受ける。なお，標準仕様書に規定される製作図，試験成績表等を含む。
	④. 保険	本工事着手前に工事目的物及び工事材料等を，本工事完了後引渡し期日まで，火災保険及びその他の保険に付し，写しを監督職員に提出のこと。
	⑤. 雇用	本工事は，公共職業安定所の紹介する者の雇い入れに努めること。
	⑥. 施工計画書および施工図等	工事の着手に先立ち，工事の総合的な計画をまとめた総合施工計画書を作成し，監督職員に提出する。 工事の施工に先立ち，工種別施工要領書および施工図等を作成し，監督職員の承諾を受ける。 また，県が実施する「公共事業環境マネジメントシステム」の対象工事においては，環境配慮計画（実施）書を作成し，監督職員に提出する。
	⑦. 工事実績情報の登録	請負額が５００万円以上の場合は，工事実績情報に登録する。 受注時，登録内容の変更時及び完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け，契約締結後、配置技術者の変更後、変更契約締結後工事完成後の10日以内に登録手続きを行い，工事カルテの受領書を監督職員に提出のこと。
	⑧. 手続	工事の着手，施工，完成にあたり，関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続等を遅滞なく行う。 なお，当該手続きに係わる費用は，受注者の負担とする。
	⑨. 事故報告	施工中に事故が発生した場合には，直ちに監督職員に通報するとともに，別に指示する「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出する。
	10. 電気保安技術者	※ 配置する　・ 配置しない
	⑪. 技能士の適用	本工事に下記の当該職種別技能士（・１級・２級）を適用させる。（資格証の写しを提出する） ・ 配管（配管工事）　・ 建築板金（ダクト製作及び取付け）　・ 熱絶縁施工（保温工事） ・ 冷凍空気調和機器施工（チリングユニット，パッケージ形空気調和機の据付及び調整）
	⑫. 足場等	⊙ 別契約の関係請負者が定置したものは無償で使用できる。　・ 本工事で設置（　図参照） 枠組足場を設ける場合は，「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省令和5年12月改定）」によるものとし，二段手すり及び幅木の機能を有するものでなければならない。
	⑬. 監督職員事務所	※ 設けない　・ 設ける（　号・・・建築工事仕様書）
	⑭. 工事用電力，水，その他	本工事に必要な工事用電力，水及び諸手続などの費用はすべて引渡しまで受注者の負担とする。
	⑮. 工事用仮設物	構内に作ることが　※ できる　・ できない
	⑯. 残土処理	・ 構外搬出　※ 構内指示の場所に敷き均し　・ 構内指示の場所にたい積
	⑰. 発生材の処理	（1）建設リサイクル法の規定に基づく通知義務等の該当　・ なし　・ あり（　） （2）フロンガス回収破壊法の規定に基づく措置の該当　・ なし　・ あり（　） （3）引渡しを要するもの　※ なし　・ あり（　） （4）廃棄物は，「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等の関係法令を遵守し，場外搬出の上，適切に処分すること。 （ア）特別管理産業廃棄物　※ なし　・ あり（　） （イ）特定建設資材廃棄物の再資源化等を行う施設 ・ コンクリート（　） ・ コンクリート及び鉄から成る建設資材（　） ・ 木材（　） ・ アスファルトコンクリート（　） （ウ）その他発生材の処分を行う施設 ・ コンクリートガラ等の安定型の産業廃棄物（　） ・ 木くず等の管理型の産業廃棄物（　） ※アスベストについては，労働安全衛生法（石綿障害予防規則）・廃棄物処理法等に則り，事前調査を実施し，調査結果を整理のうえ，監督職員へ報告すること なお、事前調査については、工作物石綿事前調査者、一般/特定建築物石綿含有建材調査者、令和5年9月までに日本アスベスト調査診断協会に登録された者のいずれかを有する者とする 建設リサイクル法 ・ 対象工事 落札が決定した業者は，分別解体等省令で定める様式第１号別表１～３のうち当該工事に該当する別表及び工程表を作成し，契約締結前に，契約担当者等に説明書を提出するものとする。また，特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは，建設リサイクル法第１８条に基づいて書面により報告すること。 ・ 対象外工事
	⑱. 総合試運転調整等	※ 本工事において下記の項目の総合試運転調整等を行い，報告書を提出する。　・ 別途 総合試運転調整等の項目 ・ 風量調整　⊙ 水量調整　・ 室内外空気の温湿度測定 ・ 室内気流及びじんあいの測定　・ 騒音の測定　・ 初期運転状態の記録 ⊙ 末端水栓の水質測定　・ し尿浄化槽放流水質の測定 ⊙ 機器の絶縁抵抗の測定　⊙ 水圧調整 測定箇所は，監督職員の指示による。
	⑲. 容量等の表示	（1）機器類の能力，容量等は指示された数値以上とする。 （2）電動機出力，燃料消費量及び圧力損失は，原則として表示された数値以下とする。
	20. 耐震措置	機器，配管，ダクト等は耐震を考慮し堅固に据え付け，取付け又は支持を行う。 耐震措置の計算及び施工方法は，次に掲げる事項以外すべて建築設備耐震設計・施工指針（国土交通省国土技術政策総合研究所・独立法人建築研究所監修２０１４年版）による。

設置場所	設計用標準水平震度（Ks）特定の施設 重要機器	特定の施設 一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器
上層階、屋上及び塔屋	２．０（２．０）	１．５（２．０）	１．５（２．０）	１．０（１．５）
中層階	１．５（１．５）	１．０（１．５）	１．０（１．５）	０．６（１．０）
一階及び地下層	１．０（１．０）	０．６（１．０）	０．６（１．０）	０．４（０．６）
	重要水槽(飲料用)	一般水槽	重要水槽(飲料用)	一般水槽
上層階、屋上及び塔屋	２．０	１．５	１．５	１．０
一階及び地下層、中層階	１．５	１．０	１．０	０．６

注（1）設置場所の区分は標準仕様書による。　注（2）（　）内の数値は防震支持の機器の場合に適用する。
（3）本工事の施設は（・ 一般の施設　・ 特定の施設）とする。
（4）地域係数は１．０とする。
（5）１００kg以下の軽量な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても耐震を考慮し，据付又は取付を行うものとするが，前記指針の方法によらなくてもよい。
（6）昇降機のつり合おもりブロックの脱落防止は，十分な強度を有する方法で固定し，水平鉛直方向の地震力に対して，つり合おもりが枠から脱落しないようにした構造とすること。

章	項目	特記事項
一般共通事項	㉑. 弁等のサイズ	特記されていない弁等のサイズは，機器付属品を除き接続配管のサイズと同じとする。
	22. 電線類	本工事では環境配慮の観点から，原則としてEMケーブルを使用するものとする。なお，電気設備工事編標準仕様書第６編通信・情報設備工事による。
	23. 溶接部の非破壊検査	対象配管系統　・ 冷温水　・ 冷却水　・ 消火（水用）　・ 油　・ ガス 検査の種類　・ 浸透探傷検査（PT）又は磁粉探傷検査（MT）　・ 放射線浸透検査（RT）
	㉔. はつり	既存のコンクリート部の床，壁の配管貫通部等の穴明けは原則としてダイヤモンドカッターによる。
	㉕. 支持及び固定	（1）標準仕様書以外の天吊り機器の支持は，標準仕様書第３編２．１．１３（b）に準ずる。 （2）横走り主ダクト・主管の振れ止めは端部も行うこと。
	㉖. 支持金物・固定金具	（1）ポンプ・屋外機器のアンカーボルトのナット及び屋外の配管・ダクトに使用する支持金物はステンレス製（SUS３０４）とし，ポンプ・屋外機器のアンカーボルトのナットにはナットキャップ（樹脂製）を取り付ける。 （2）振動を伴う機器の支持金物のナットはダブルナットとする。 （3）冷水及び冷温水管の吊バンド等の支持部は、合成樹脂製の支持受けを使用する。
	㉗. 埋戻し土	図面に特記のない場合は下記によるほか標準仕様書第２編による。ただし，各工事種目で別に指定されたものは除く。 ・ 根切り土の中の良質土（ただしヒューム管以外の管の周囲は山砂の類）　・ 山砂の類
	㉘. 地中埋設標及び埋設表示用テープ	地中埋設標及び埋設用テープは，下記により屋外埋設部分に布設する。なお，地中埋設標の設置場所は図示によるほか，屋外埋設管の分岐及び曲がり部に設置する。 （1）給水管　・ 地中埋設標　・ 埋設用表示テープ （2）ガス管　・ 地中埋設標　・ 埋設用表示テープ （3）油管　・ 地中埋設標　・ 埋設用表示テープ （4）消火管　・ 地中埋設標　・ 埋設用表示テープ
	㉙. 保温	・ 主機械室は下記の室とし，他は各階機械室とする。 主機械室：

・ ダクトの保温の外装は下記による。内装は（・ ロックウール　・ グラスウール）

	場所	外装
屋内露出	倉庫・書庫	・ アルミガラスクロス　・
屋内露出	各階機械室	・ アルミガラスクロス　・
屋内露出	主機械室	・ アルミガラスクロス　・
屋内露出	居室・廊下など	・ カラー亜鉛鉄板　・
屋内隠ぺい，PS内		・ アルミガラスクロス
屋外露出，多湿箇所（　）		・ ステンレス鋼板

・ 配管の保湿の外装は下記による。内装は（・ ロックウール　・ グラスウール　・ ポリスチレンフォーム）

	場所	外装
屋内露出	倉庫・書庫	・ アルミガラスクロス　・
屋内露出	各階機械室	・ アルミガラスクロス　・
屋内露出	主機械室	・ アルミガラスクロス　・
屋内露出	居室・廊下など	・ 合成樹脂製カバー　・
屋内隠ぺい，PS内		・ アルミガラスクロス
屋外露出，多湿箇所（　）		・ ステンレス鋼板　・着色アスファルトプライマー ・ アスファルトプライマー　・

章	項目	特記事項
一般共通事項	30. 塗装	（1）下記部位に使用する，外面めっき電線管の露出配管には塗装を施す。 ※ 屋外露出　※ 居室 （2）保温を行わない居室・便所・給湯室及び屋外の露出配管（鋼管）には塗装を行う。
	㉛. 防食処理	土中埋設の鋼管（ステンレス鋼管及び外面被覆鋼管は除く）及び金属製継手類（砲金製弁・継手を含む）にはペトロラタム系防食テープ及びプラスチックテープによる防食処理を行う。（埋設配管は原則として，防食処理不要の管材とする。）
	32. 山留め	切取り面にその箇所の土質に見合った勾配を保って掘削できる場合を除き，掘削の深さが１．５mを超える場合には，山留めを行うものとする。
	33. 舗装工事	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の建築工事標準仕様書２２章（舗装工事）による。
	㉞. 他工事との取り合い	図面に特記なき場合は，表「工事区分表」による。
	35. 予備品等	ヒューズ（温度ヒューズも含む）及び表示灯は予備品として，２０%納入する（種別ごと最低１個）。
	36. 施工条件	別添の施工条件明示書による。
	37. 三相誘導電動機	省エネ法の特定機器の対象となる機器はJIS C 4034-30:2011のIE3（プレミアム効率）に相当する機器を導入すること。
	㊳. 再使用品の清掃	再使用する機器類は現場内で可能な洗剤による水洗等の清掃を行う。
	㊴. 火気の使用	建物内での火気の使用は原則として行わない。
	㊵. アスベスト	アスベストについては、労働安全衛生法（石綿障害予防規則）・廃棄物処理法等に則り処理を行うこと。 アスベスト使用状況（　）
	㊶. あと施工アンカー	（1）あと施工アンカー　※接着系アンカー（接着剤は有機系とする） ※金属拡張系アンカー（※本体打込み式） （2）試験等　性能確認試験　※行わない　・行う 施工確認　※行う　・行わない
	㊷. 既設インサート及びアンカーボルト	既設インサート及びアンカーボルトを　※使用しない　・使用する
空気調和設備	1．設計温湿度	（下表）

	外気 温度(DB)	外気 湿度(RH)	屋内（調整目標値）一般系統 温度(DB)	一般系統 湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	コンピューター室系統 温度(DB)	コンピューター室系統 湿度(RH)
夏期	30.6℃(9時) 32.4℃(12時) 32.6℃(14時) 31.8℃(16時)	65.5%(9時) 60.2%(12時) 57.8%(14時) 61.0%(16時)	２６℃	４５%	℃	%	２４℃	４５%
冬季	－２．０℃	６９．２%	２２℃	４０%	℃	%	２４℃	４５%

章	項目	特記事項
空気調和設備	2．ばい煙濃度計	取付箇所は図示による。
	3．煙道	※ 煙道径３００mm以下は鋼板厚３．２mm，３００mmを超えるものは４．５mmとする。　・ 図示による。 （煙道径が４００mmを超えるものには，掃除口に蝶番を取り付ける。）
	4．ダクトの区分	低圧とする（高圧１及び高圧２の部位は図示による。）
	5．長方形ダクトの工法	・ アングルフランジ工法　・ コーナーボルト工法（・ 共板　・ スライド）
	6．風量測定口	取付け場所は図示による。取付面は監督職員の指示による。
	7．チャンバ	（1）内貼りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。 （2）空気調和機に取付けるサプライチャンバー及びレタンチャンバーで消音内貼りしたチャンバーには，点検口を設ける。なお点検口の大きさは図示による。 （3）外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバー及びホッパーは雨水の滞留のないように施工する。
	8．防煙ダンパ	（1）復帰方式　※ 遠隔式（電気式（定格入力DC２４V，０．７A以下） （2）復帰動作　※ 順送り
	9．配管材料	（1）冷温水管　※ 配管用炭素鋼鋼管（白）　・ （2）冷却水管　※ 配管用炭素鋼鋼管（白）　・ （3）蒸気管（給気管）　※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）　・ （還水管）　※ 圧力配管用炭素鋼鋼管（Sch４０） （4）油管，油用通気管（一般）　※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）　・ （土中）　※ ポリエチレン被覆鋼管 （5）膨張管，空気抜き管，膨張タンクよりボイラ等への給水管　※ 配管用炭素鋼鋼管（白）　・ （6）空調用排水管　※ 配管用炭素鋼鋼管（白）　・ 結露防止層付硬質塩化ビニル管 （7）冷媒管　※ 断熱材被覆銅管　・ 銅管
	10. 弁類	※ JIS又はJV5K　・ JIS又はJV10K ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。
	11. 鋼管用伸縮管継手	※ ベローズ形　・ スリーブ形
	12. 温度計	※ 標準仕様書，標準図による他，図示した箇所に取り付ける。（配管用はL形，ダクト用は円形） ・ 空気調和機，温風暖房機まわりの給気ダクト，還気ダクト及び外気ダクト ・ 冷温水ヘッダー（往）及び冷温水ヘッダーの各還り管 ・ パッケージ形空気調和機の冷却水及び温水の出入口
	13. 瞬間流量計	※ 着脱可能形（※ 全数　・ 図示による） 着脱可能形の場合，その指示部（・ ４０A用　個　・ １００A用　個　・ ２５０A用　個）を付属する。 ・ 固定形（止水コック付）　・ 測定用タッピング（３２mmピトー管流量計用）
	14. オイルタンク	（1）オイルタンク本体は図示による。 （2）遠隔油用指示計　※ 取付ける　・ 取付けない （3）計量尺は，青銅製，黄銅製又はアルミ製とし，１００リットル実測目盛刻印とする。計量口は錠付とする。
	15. 積算油量計	図示の箇所に取付ける（熱源機器等）。
	16. 注油口及び指示ボックス	標準図（機材　６　）による。 ・ 単独形　・ 共用形（・ ローリーアース付）
	17. 消音内貼り	（1）施工箇所は図示による。 （2）内貼りチャンバー類の寸法表示は，外形寸法とする。 （3）吹出口に接続するチャンバーの消音内貼りは別図による。
	18. 保温	（1）建物内の空気抜き管の保温は空気抜き弁までとし（空気抜き弁も含む），仕様は冷温水管の項による。 （2）屋外露出配管の保温は，給水設備の項による。 （3）外気取り入れダクト及びチャンバーボックスの保温　※ 要（全熱交換器の給気ダクトを含む）　・ 不要 （4）排気ダクトの外壁開放部より１m程度保温する。（チャンバーボックスを含む） （5）冷媒管（断熱材被覆銅管）の保温外装 屋内露出部　・ 保温化粧ケース（樹脂製）　・ 外装なし　・ 屋外　・ 保温化粧ケース（樹脂製）　・ （6）高圧蒸気管及びヘッダーの保温厚は　mmとする。
	19. 電気工事の範囲	（1）地震感知器の配管配線　※ 別途　・ 本工事 （2）防煙ダンパと連動制御器迄の配管配線及び連動制御盤から煙感知器迄の配線配管は　※ 別途　・ 本工事
	20. 塗装	（1）屋内露出裸ダクトの塗装（居室を除く）は　※ 行わない　・ 行う （2）屋内露出冷却水配管の塗装（居室は除く）は　※ 行わない　・ 行う
換気設備	①. 準拠事項	[空気調和　・ 冷房　・ 暖房設備] の当該事項に準ずる。 ⊙ ５　・ ６　・ ７　・ ８　・ ９ ⊙ １８ ⊙ １９　・ ２１
	2．開放形湯沸器排気フード	※ 別途　・ 本工事　・既設
	3．厨房用排気ダクト	※ 亜鉛鉄板　・ ステンレス鋼版（SUS３０４）（板厚は高圧ダクトによる）
	4．厨房用排気ダクト工法	※ アングルフランジ工法　・ コーナーボルト工法（共板フランジ又はスライドオンフランジ）
	5．厨房用排気フード	（1）フード周囲の天幕（フード面から天井面まで）　※ 取り付ける　・ 取り付けない （2）フードコック　※ 取り付ける　・ 取り付けない （3）材質（天幕とも）　※ ステンレス鋼板（SUS４３０又はSUS３０４）
	6．多湿箇所の排気ダクト	次の系統のダクトのシールは，標準図（施工４５，４６）のNシール＋Aシール＋Bシールとし，水抜き管を設ける。 （　）
	7．保温	空調和設備の当該事項による他、全熱交換ユニットの給気及び排気ダクトの保温を行う。
排煙設備	1．ダクト	・ 亜鉛鉄板製　・ 鋼板製（１．６mm以上）
	2．排煙口の形式	・ 可動羽根（スリット共）　・ 可動パネル
	3．排煙口開放装置	・ ワイヤー式　・ 電気式（遠隔操作機能　・ 要　・ 不要）
	4．排煙風量測定方式	建築設協定期検査業務指導書（（財）日本建築設備・昇降機センター）の排煙風量の検査方式に準ずる。
自動制御設備	1．中央監視制御	中央監視制御装置の構成機能は別紙による。
	2．計装工事の配線	（1）屋外・屋内露出の配線は，図面に特記のない限り金属管配線とする。 （2）天井内隠ぺいの配線は，図示に特記がなければケーブル配線とする。
衛生器具設備	①. 大便器洗浄弁	⊙ 洗浄タンク方式　・ 洗浄弁方式（不凍結節水弁付）
	②. 便器洗浄用タンク	※ 手洗なし　・ 手洗付
	3．小便器自動洗浄	個別感知方式とする。（・ 小便器一体型　・ 小便器分離型）
	④. 器具付属水栓	固定こま式（節水こま式）とする。
	⑤. 自動水栓	※ 電源供給方式（※ AC１００V）　・ 乾電池　・自己給電
	⑥. 温水洗浄便座加熱方式	・ 瞬間式　⊙ 貯湯式
	7．大便器耐火カバー	設ける（ピット内を除く）
給水設備	1．量水器	（1）親メーター　※ 措用　・ 買取り　（隔測メーター　・ 有　・ 無） （2）子メーター　※ 買取り　（隔測メーター　・ 有　・ 無）
	2．量水器桝	（1）親メーター用　※ 水道事業者の指定品　・ 標準図（機材５７） （2）子メーター用　※ 標準図（機材５７）　・ 水道事業者の指定品
	③. 配管材料	（1）一般用 ・ ステンレス鋼管（SUS３０４） ・ 塩ビライニング鋼管（・VA　・VB） ⊙ ポリ粉体鋼管（・PA　・PB） ・ （2）土間配管用（厨房，浴室等のシンダー内含む） ・ ステンレス鋼管（SUS３１６） ・ 塩ビライニング鋼管（VD） ⊙ ポリ粉体鋼管（PD） ・ （3）屋外土中用 ・ ステンレス鋼管（SUS３１６） ・ 塩ビライニング鋼管（VD） ・ ポリ粉体鋼管（PD） ・ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ・ 〃（HIVP） ⊙ ポリエチレン管 ・ 水道用ゴム輪形硬質ポリ塩化ビニル管 ・
	4．不凍水栓柱	化粧ケーシング（・ アルミ合金製　・ 合成樹脂製）
	⑤. 弁類	（1）水道直結部分　※ JIS又はJV10K　・ 水道事業所の規定による　K （2）その他の部分　※ JIS又はJV5K　・ JIS又はJV10K ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。
	⑥. 給水栓	（1）屋内（※ 一般水栓　・ 耐寒水栓）　（2）屋外（※ 耐寒水栓　・ 一般水栓） 湯沸室，台所，厨房用水栓は泡沫式とする。　耐寒水栓はJWWAの認証品とする。
	⑦. 埋設深さ	（1）一般敷地内（　m以上）　（2）敷地内車両道路（　m以上） （3）公道部分（※ 水道事業者及び道路管理者規定による）
	⑧. 保温	（1）量水器桝内の保温を行う。 （2）屋外露出配管（弁フランジを含む）は，標準仕様書第２編（表２．３．６　e２・（ハ））とし厚さは呼び径２５mm以下は５０mm，呼び径３２mm以上は４０mmとする。
	9．埋設弁開閉用ハンドル	本工事に　※ 含む（水道事業者管理用以外の弁操作用）　・ 含まない
	10. 水道加入金等	水道加入金　・ 要（・ 本工事　・ 別途）　・ 不要 ・ その他（　）
	11. ステンレス管の接合方法	（1）呼び径６０SU以下　SAS３２２（一般配管用ステンレス鋼管の管継手性能基準）を満足した継手による接合 （2）呼び径７５SU以上　・ 溶接接合　・ ハウジング形管継手による接合　・ フランジ接合
	⑫. その他	給水管の最小口径は２０mmとする。ただし，器具接続部分を除く。
排水設備	① 配管材料	（1）屋内汚水管 ・ 排水用塩ビライニング鋼管 ⊙ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ （2）屋内雑排水管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 排水用塩ビライニング鋼管 ⊙ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) （3）屋外土中汚水，雑排水管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ⊙ 硬質ポリ塩化ビニル管（VU） ⊙ 排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管（REP－VU） ・ （4）土間配管用 ・ 排水用塩ビライニング鋼管 ⊙ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) （5）通気管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）　・ （6）ポンプアップ排水管 ・ ポリ粉体鋼管（PD） ・ 台所流し等の床上露出部分の排水管は、硬質ポリ塩化ビニル管でもよい。
	2．排水桝	・ 桝リストは図面番号（　） （1）材料　・ RC　・ 硬質塩化ビニル　・ ポリプロピレン　・ SC （2）ふた　・鋳鉄製（・ MHA　・ MHB　・ T8A　） ・樹脂製 ※ 県マーク，流体名入りおよび樹脂製ふたは原則としてSUSチェーン付 （3）規格　・ 日本下水道協会（JSWAS）　・ プラスチック・マスマンホール協会（PMMS） ・ 市町村別基準（・ 有　・ 無）
	3．グリース阻集器	・FRP製（　L）　・SUS製（　L）　詳細は図示。
	4．満水試験継手	図示の箇所に取付け，満水試験を行うこと。
	⑤. 試験	⊙ 衛生器具などの取付完了後，排水試験又は通水試験を行う。 ・ 衛生器具などの取付完了後，煙試験を行う。
	6．放流負担金等	・ 不要　・ 要（・ 別途工事　・ 本工事）
	7．基礎材	※ 再生クラッシャーラン
給湯設備	1．配管材料	・ ステンレス鋼管（SUS３０４）　・ 耐熱性ライニング鋼管　・ 銅管　・ 被覆銅管 ・ 保温付被覆銅管　<膨張管及び補給水タンクよりボイラー等への補給水管を含む。>
	2．弁類	給水設備の当該事項による。
	3．湯沸器の排気筒	厚さ０．５mm以上のステンレス鋼板製とする。
	4．保温	湯沸器の給排気筒（二重管）のいんぺい部保温を行う。標準仕様書第２編３．１．５表２．３．５の（h・(ｲ)・X）
	5．ステンレス管の接合方法	（1）呼び径６０SU以下　SAS３２２（一般配管用ステンレス鋼管の管継手性能基準）を満足した継手による接合 （2）呼び径７５SU以上　・ 溶接接合　・ ハウジング形管継手による接合　・ フランジ接合
消火設備	1．配管材料	（1）一般 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（Sch４０） （2）地中埋設部 ・ 外面被覆鋼管（SGP－VS） ・ ポリエチレン被覆鋼管（SGP－PS） ・ 外面被覆鋼管（STPG－３７０VS） ・ ポリエチレン被覆鋼管（STPG－３７０PS） （3）二酸化炭素用 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（継目無管）（Sch８０）
	2．屋内消火栓種別	・ 易操作性１号消火栓　・ ２号消火栓　・ 広範囲型２号消火栓
	3．消火栓開閉弁	・ JIS１０K　・ JIS２０K
	4．保温	（1）屋外露出管については給水管に準ずる。 （2）充水タンクの保温　・ 施工しない　・ 施工する （3）消火配管の保温　屋内消火栓　・ 施工しない　・ 施工する スプリンクラー　・ 施工しない　・ 施工する
	5．消火器類	（1）消火器　種別　・ 数量（　） （2）消火器収納箱　仕様　・ 材質　・ 数量（　）
厨房機器設備	1．厨房機器類	（1）図示による（材質などは標準仕様書による）。ただし，寸法は参考とする。 （2）厨房機器据付要領は，標準図施工７４による。
ガス設備	1．配管材料	（1）一般 ※ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ ガス事業者の規定による ・ ・ （2）地中埋設部 ※ ポリエチレン被覆鋼管 ・ ガス事業者の規定による ・ ガス用ポリエチレン管 ・
	2．都市ガス	（1）ガスメーター 親メーターはガス事業者の設置，子メーターは本工事 （2）引込み負担金　・ 不要　・ 要（・ 別途工事　・ 本工事）
	3．液化石油ガス	（1）ガスボンベ　※ 借用　・ 買い取り　（・ １０kg　・ ２０kg　・ ５０kg　本） （2）ガスメーター　親メーターはガス事業者の設置，子メーターは本工事とする。 （3）集合装置　・ 標準図（施工７２）による（　本組） （4）転倒防止等　・ 標準図（施工７３）｛・（a）・（b）｝　・ ボルト，チェーン等はSUS製とする。 ・ 容器固定具をGL＋３００に追加設置する。
	4．ガス漏れ警報器	図示の場所に取付ける（・ 分離形　・ 一体形）　・ 別途電気工事 外部出力端子（・ あり　・ なし）
	5．埋設深さ	（1）一般敷地内（　m以上）　（2）敷地内車両道路（　m以上） （3）公道（ガス供給事業者及び道路管理者規定による）
	6．その他	配管工事は，原則としてガス供給事業者の責任施工とする。　供給事業者名（　）
昇降機設備	1．方式　用途	方式（・ロープ式　・油圧式　・　）　用途（・一般乗用　・車いす用　・荷物用　・　）
	2．積載量（kg）　定員（人）	積載量（　kg）　定員（　人）
	3．速度（m/分）　停止箇所	速度（　m/分）　停止箇所（　箇所停止）
	4．管制運転	・ 地震　・ 火災　・ 停電　・ 冠水　・ 自家発
	5．工場検査予定	※ あり　・ なし
	6．無償保守期間	・ あり（　ヶ月）　※ なし

表１「完成書類」　本工事終了後下記の書類を提出すること。

名称	完成書類	部数	名称	完成書類	部数
1　完成調書	営繕工事完成引渡要領（令和７年４月１日版）	１部	6　管理の手引き ①工事概要書 ②機器完成図 ③機器別取扱説明書 ④保守に関する案内書 ⑤緊急連絡先一覧表	A４版：チューブ式ファイル	１部
2　完成図（縮小）	白焼縮小製本 A３版二つ折り うち１部は設備課保管	２部	7　工事写真 ①施工写真 ②完成写真	A４版：チューブ式ファイル（着手前，施工状況，完成の各写真） A４版：ペーパーファイル　完成届に添付	１部
3　完成図・施工図（電子データ）	JWW又はDXF形式CADデータ及びPDF形式	CD ２枚	8　工事に関する書類 ①施工計画書 ②施工要領書 ③承諾書・確認書 ④協議書 ⑤打合せ議事録 ⑥工事週報又は日報 ⑦安全に関する書類 ⑧廃棄物管理票の写し	A４版：チューブ式ファイル	１部
4　機器完成図 ①機器別完成図 ②機材材質証明書 ③機材検査成績書 ④工場試験成績書 ⑤工場立会検査成績書 ⑥現場据付試験成績書 ⑦総合試運転成績書	A４版：製本	１部	9　工事に関する承諾確認書		１部
5　取扱説明書 ①保守に関する案内書 ②機器別取扱説明書 ③緊急連絡先一覧 ④各種保証書	A４版：製本	１部			

注記：機器及びシステム参考図について
本図面中で，機器又はシステムの品質・グレードを規定する目的で，対象品の寸法形状，諸元及びシステム構成等を参考図として記載している。
これらのものについては，その品質・性能が図面と同等品もしくはそれ以上のものを使用するものとする。

特記事項

設計年月日	年　月　日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事		図面番号
管理技術者 / 担当者 / 作図		図面名	機械設改修工事特記仕様書	縮尺 A1: N/S　A3: N/S	M － ０１
		株式会社 桂設計		一級建築士登録　第324846号　長南　京子	

機器表（改修）

	機器名称	台数	仕様	電源 φ	電源 V	電源 W	設置場所	備考
FC-1	換気扇	2	型 式 ： 天井扇	1	100	44	便所（男子）	参考型番
			能 力 ： 150φ × 250 m3/h × 制圧 80 Pa				便所（女子）	三菱電機 VD-20ZLC
			付属品 ： 吊金具、SUS製深型ベントキャップ、他付属品一式					
FC-2	換気扇	1	型 式 ： 天井扇	1	100	26	便所（多目的）	三菱電機 VD-18ZLC
			能 力 ： 150φ × 150 m3/h × 制圧 80 Pa					
			付属品 ： 吊金具、SUS製深型ベントキャップ、他付属品一式					
FC-3	換気扇	2	型 式 ： 天井扇	1	100	44	更衣室（男子）	三菱電機 VD-20ZLC
			能 力 ： 150φ × 250 m3/h × 制圧 80 Pa				更衣室（女子）	
			付属品 ： 吊金具、SUS製深型ベントキャップ、他付属品一式					
EF-1	排風機	2	型 式 ： 有圧扇	1	100	135	体育館	三菱電機 WFW-40DSA
			能 力 ： 40cm × 2100 m3/h × 制圧 80 Pa					
			付属品 ： 取付枠、給排気SUS製フード、防鳥網、バックガード、他付属品一式					
OF-1	給気口	2	型 式 ： 電動式シャッター	1	100	7	体育館	三菱電機 PS-40SMXA
			能 力 ： 40cm × 2100 m3/h × 制圧 10 Pa					
			付属品 ： 取付枠、給排気SUS製フード、防虫網、他付属品一式					
PH-1	パネルヒーター	2	型 式 ： ステンレス製 壁掛形	1	100	500	便所（男子）	参考型番
			能 力 ： 500W				便所（女子）	ｲﾝﾀｰｾﾝﾄﾗﾙ NXS-500
			付属品 ： いたずら防止カバー、保護ガード、取付金具、他付属品１式					

・電気容量は参考とする。

器具表（改修）

名称	形式 ・ 参考型番	摘 要	電源 φ-V	電源 W	合計	便所（女子）	便所（多目的）	便所（男子）	SK	
洋風便器 【再取付】	既存トイレ再設置	ロータンク式			3	2		1		
洋風便器	CFS498BCK TOTO	掃除口付床置床排水、フラッシュタンク式、温水洗浄便座(TCF5834AUP)、エコリモコン、 紙巻器(ワンタッチ、ワンハンド）、他付属品１式	1-100	314	1		1			
小便器	UFS-900JS TOTO	壁掛壁排水自動洗浄小便器（低リップ） 他付属品一式	1-100	0.5	3			3		
洗面器	L531 TOTO REAH03B1RS28SK	アンダーカウンター式洗面器、自動水栓一体形電気温水器、排水金具、止水栓、他付属品１式 カウンターは建築工事	1-100	600	2	1		1		
洗面器	L270C TOTO REAH03B1RS28SK	壁掛洗面器、自動水栓一体形電気温水器、排水金具、止水栓、他付属品１式	1-100	600	1		1			
手洗器	LSL570APR TOTO	埋込形手洗器、ハンドル式レバー水栓、排水金具、止水栓、他付属品１式			1		1			
掃除流し	SK22A TOTO	バック付き掃除流し、横水栓、止水栓、リムカバー、鎖付きゴム栓、フランジ、他付属品１式			1				1	
紙巻器	YH702 TOTO	棚付２連、ステンレス製、			3	2		1		
鏡	YM6090F TOTO	600 900、取付金具、他付属品１式			1		1			
鏡	YM3560F TOTO	350 600、取付金具、他付属品１式			2	1		1		

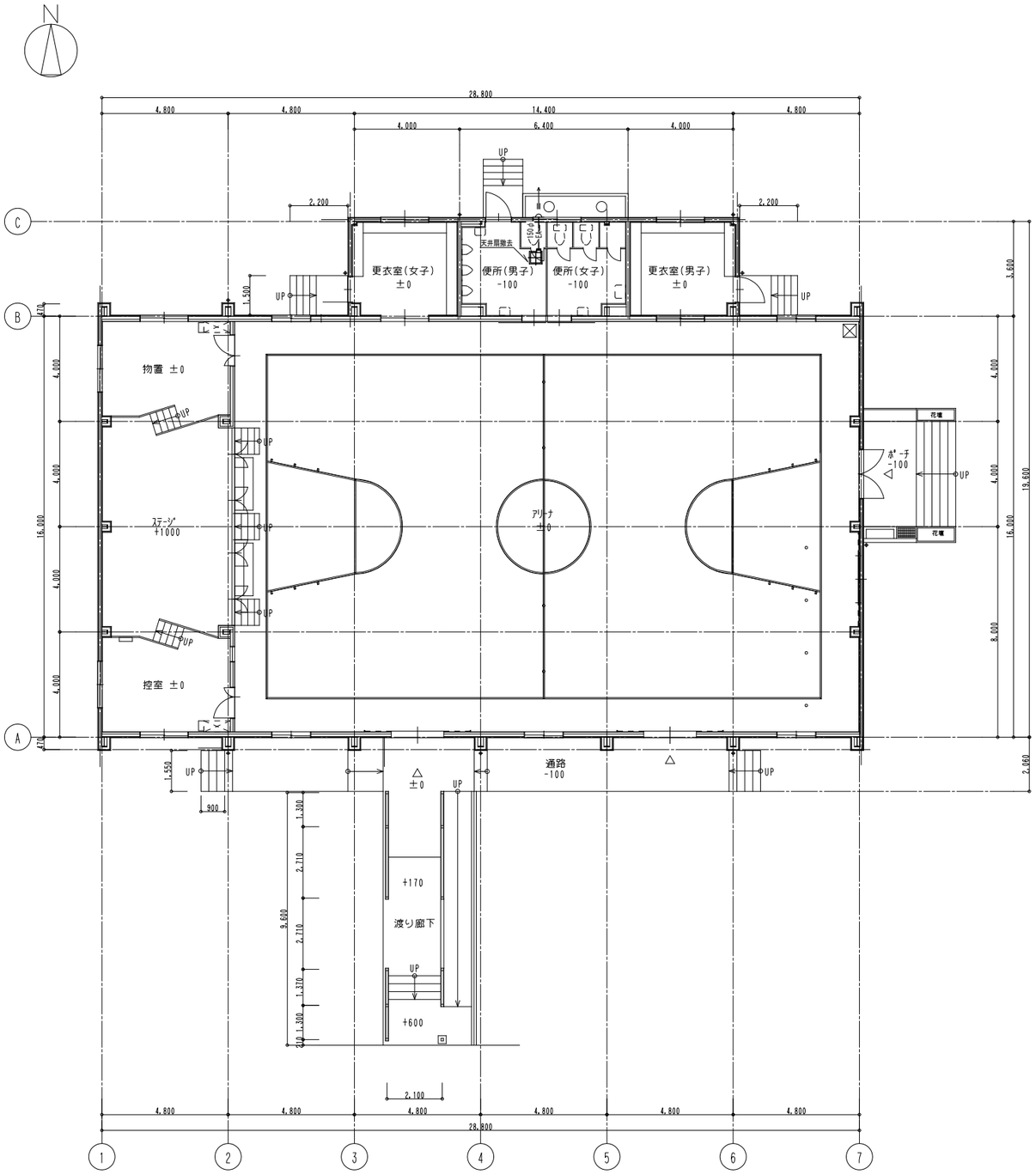
・電気容量は参考とする。

器具表（既存）

名称	形式 ・ 参考型番	摘 要	電源 φ-V	電源 W	合計	便所（女子）	便所（多目的）	便所（男子）	SK	
洋風便器【取り外し】		ロータンク式			3	2		1		
小便器【撤去】		壁掛			3			3		
仕切板【撤去】					3			3		
洗面器【撤去】					3	1		2		
掃除流し【撤去】					1	1				
鏡【撤去】					3	1		2		
化粧棚【撤去】					3	1		2		

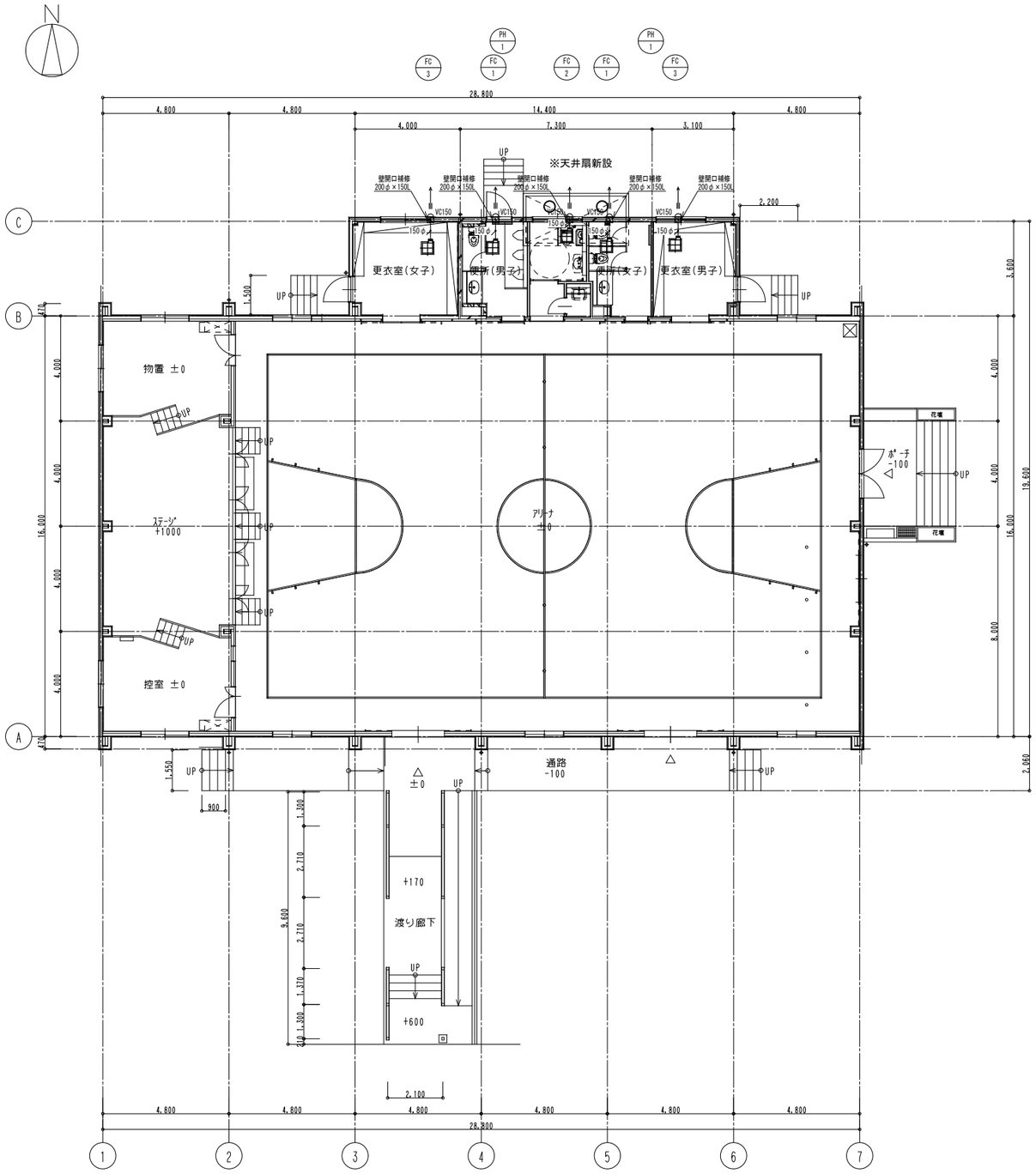
特記事項

設計年月日	年 月 日	工 事 名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事	図 面 番 号
管理技術者 / 担当者 / 作 図		図 面 名	【既存・改修】機器表・器具表	縮 尺 A1: N/S A3: N/S
		株式会社 桂 設 計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子	M － 02



【既存】1階平面図 S=1/100

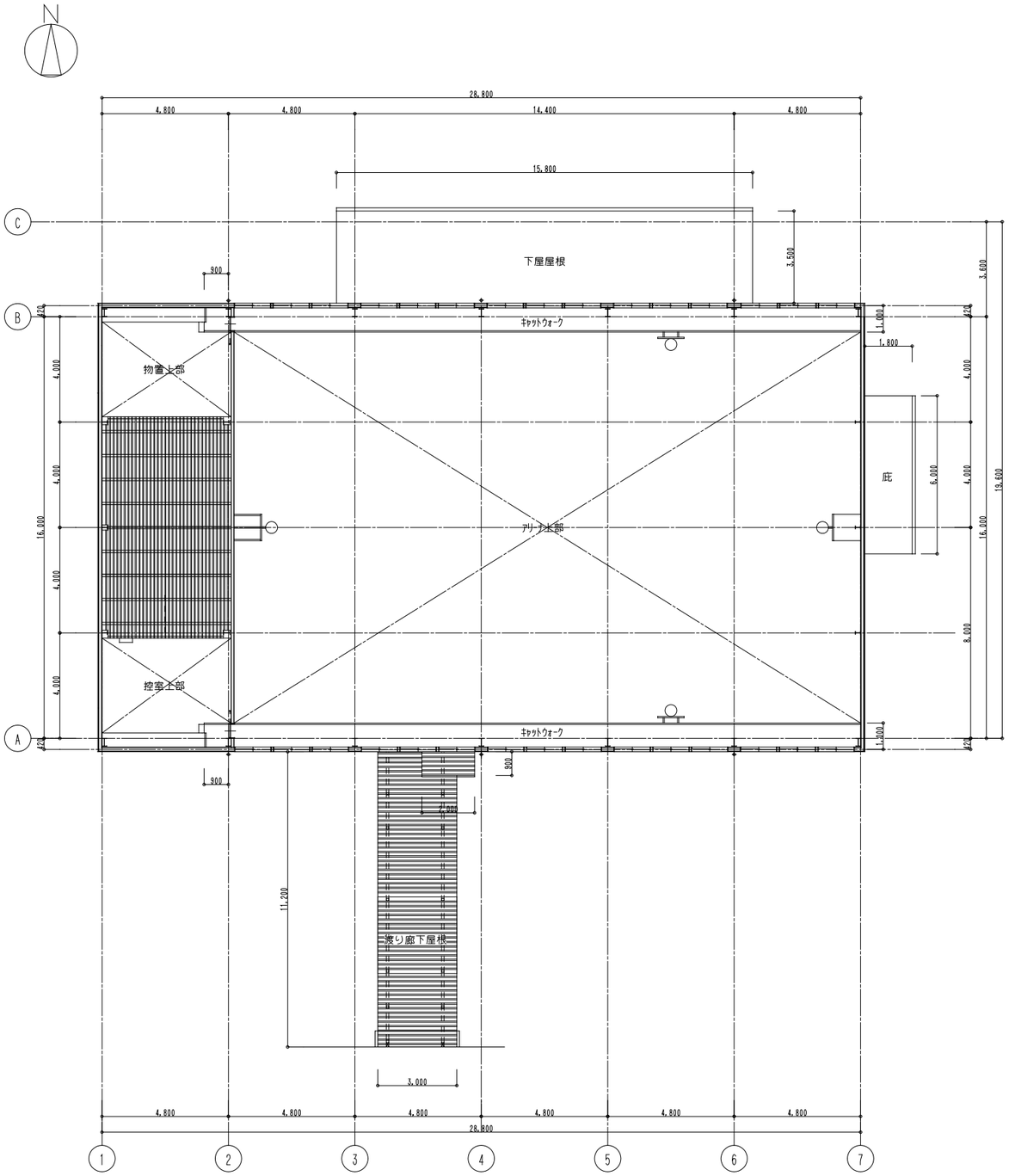
注記
・太線は撤去、細破線は既存を示す。



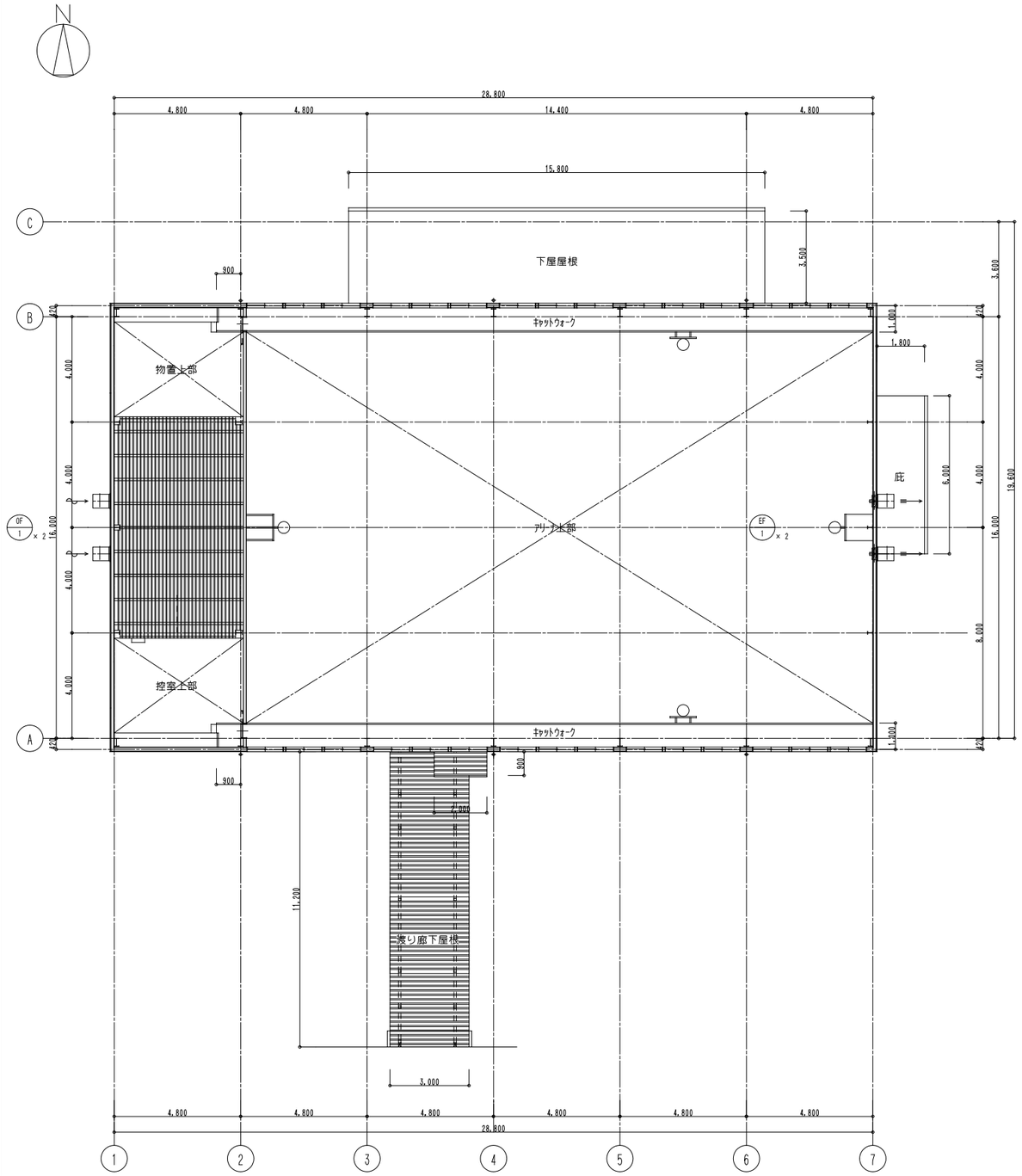
【改修】1階平面図 S=1/100

注記
・太線は新設、細破線は既存を示す。

特記事項	設計年月日 年 月 日	工事名	館矢間小学校体育館長寿命化工事		図面番号
	管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【既存・改修】換気設備 1階平面図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	M － 03
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子		



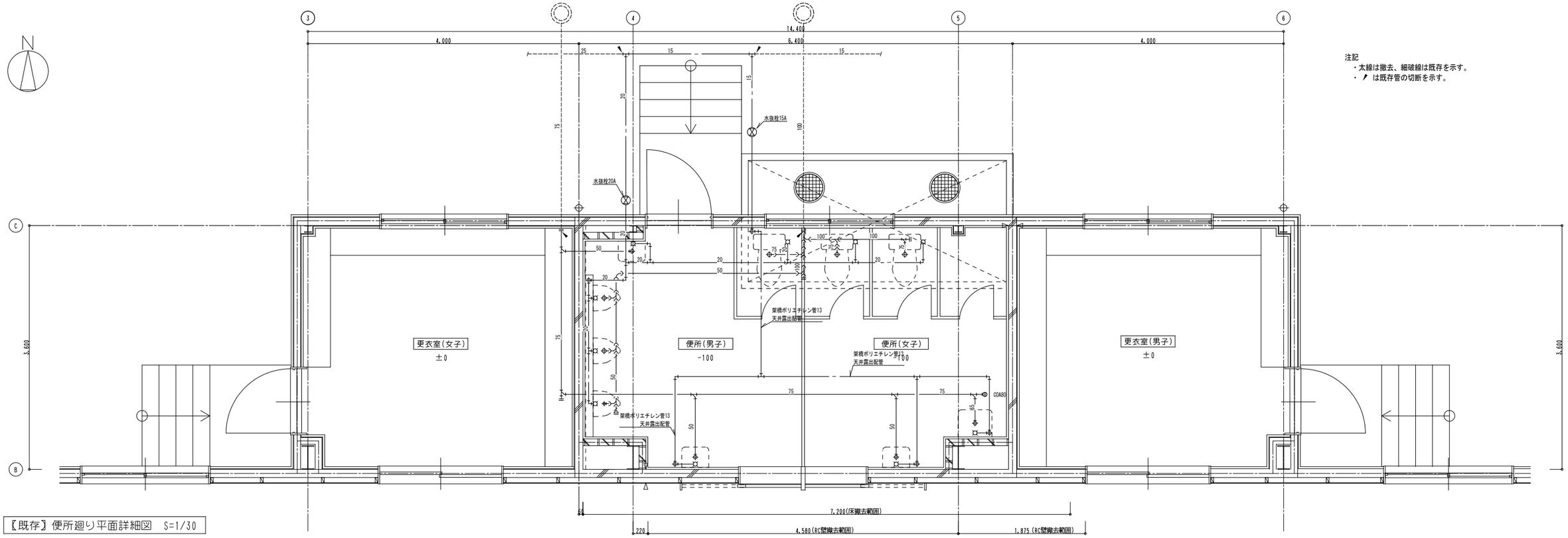
【既存】中2階平面図 S=1/100



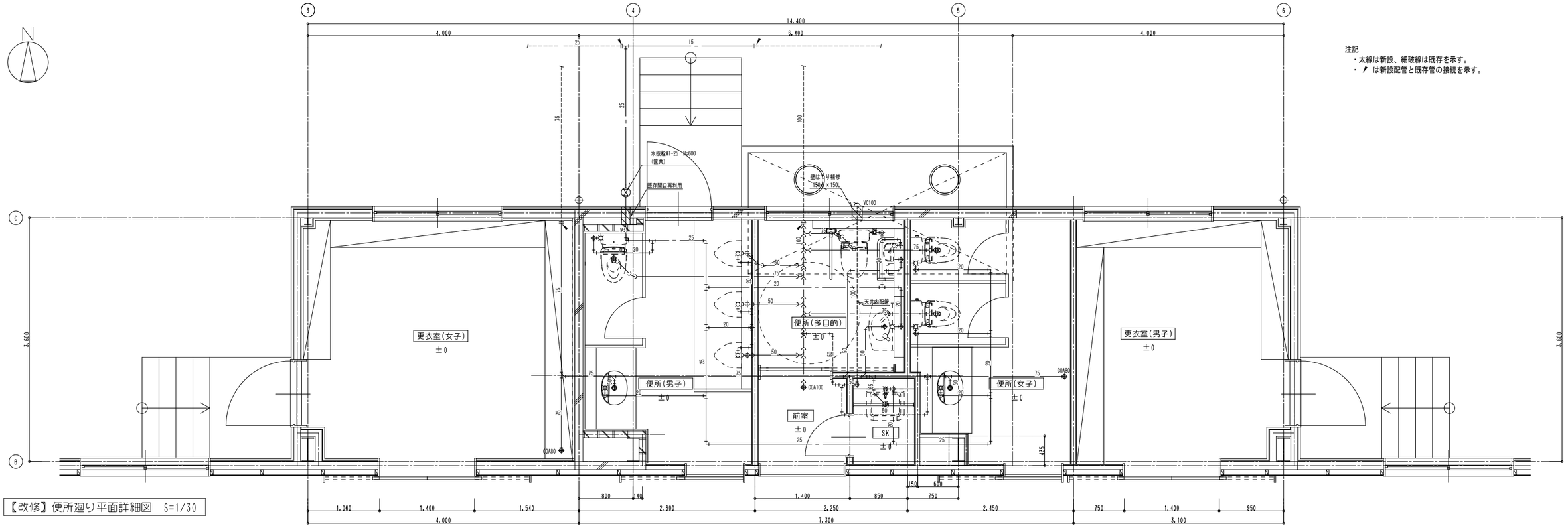
【改修】中2階平面図 S=1/100

注記
・太線は新設、細破線は既存を示す。
・壁開口は建築工事とする。

特記事項			設計年月日 年 月 日	工事名	舘矢間小学校体育館長寿命化工事	図面番号
			管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【既存・改修】吹抜け部 換気設備平面図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200
				株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子	M － 04



【既存】便所廻り平面詳細図　S=1/30



【改修】便所廻り平面詳細図　S=1/30

特記事項	設計年月日 年 月 日	工事名	館矢間小学校体育館長寿命化工事	図面番号
	管理技術者 / 担当者 / 作図	図面名	【既存・改修】給排水衛生設備　便所廻り詳細図	縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60
		株式会社 桂設計	一級建築士登録 第324846号 長南 京子	M － 05